

# 京丹後市農村環境計画

## 素案

平成19年3月

京丹後市

# 目 次

---

1. 総論 1	
1.1 計画策定の背景と目的 .....	1
1.1.1 背景 .....	1
1.1.2 位置づけ .....	1
1.1.3 本計画の対象 .....	2
1.2 農村環境計画策定手順 .....	3
2. 地域の環境評価 .....	4
2.1 現況調査 .....	4
2.1.1 地域概要 .....	4
2.1.2 自然環境 .....	5
2.1.3 社会環境 .....	44
2.1.4 生産環境 .....	63
2.1.5 既存アンケート結果（20歳以上）の整理・分析 .....	96
2.1.6 既存アンケート結果（高校生）の整理・分析 .....	102
2.2 環境評価 .....	109
2.3 自然環境の特徴と問題点 .....	109
2.4 社会環境の特徴と問題点 .....	112
2.5 生産環境の特徴と問題点 .....	114
2.6 特徴と問題点の整理 .....	116
3. 上位・関連計画における位置付け .....	117
3.1 上位計画における位置付け .....	117
3.1.1 新京都府総合計画（平成13年1月） .....	118
3.1.2 京都府環境基本計画（平成10年9月） .....	119
3.1.3 新京都府農林水産振興構想ふるさとビジョン（平成14年） .....	120
3.1.4 京丹後市総合計画（平成18年3月） .....	122
3.2 関連計画 .....	123
3.2.1 『環（わ）』の公共事業行動計画～自然と環境に優しい公共事業の推進方策～ .....	123
4. 環境特性の把握 .....	124
4.1 環境特性の把握 .....	124
4.2 環境に関する専門家への聞き取り .....	127
5. 環境保全の基本方針 .....	129
5.1 環境保全の基本的考え方 .....	129

6. 広域的整備方針 .....	132
7. 地域別整備方針 .....	138
7.1 平地ゾーン .....	138
7.1.1 特徴.....	138
7.1.2 課題.....	139
7.1.3 今後の主要事業（予定） .....	139
7.1.4 事業実施により想定される生物への一般的な影響例.....	140
7.1.5 整備方針 .....	140
7.2 里山ゾーン .....	143
7.2.1 特徴.....	143
7.2.2 課題.....	145
7.2.3 今後の主要事業（予定） .....	145
7.2.4 事業実施により想定される生物への一般的な影響例.....	145
7.2.5 整備方針 .....	146
7.3 山地ゾーン .....	150
7.3.1 特徴.....	150
7.3.2 弥栄・五十河山地ゾーン課題.....	150
7.3.3 今後の主要事業（予定） .....	150
7.3.4 整備方針 .....	151
7.3.5 地域での取り組み .....	152
8. 農業農村整備事業における環境への対応方策 .....	157
8.1 環境に配慮した調査・計画の留意点.....	157
8.1.1 農業農村整備事業における環境配慮の基本的な考え方 .....	157
8.1.2 環境配慮事項の反映手順 .....	158
8.1.3 環境配慮対策の考え方 .....	159
8.2 住民参加による事業推進.....	160
8.2.1 構想段階からの住民参加 .....	160
8.2.2 住民参加のための協力体制 .....	161
8.3 農業農村整備事業の工種別対策 .....	162
8.3.1 保全対象生物の生活史・設計条件を踏まえた設計の流れのイメージ .....	162
8.3.2 ほ場整備 .....	163
8.3.3 ため池整備 .....	165
8.3.4 農道整備 .....	167
8.3.5 水路整備 .....	168
8.3.6 歴史・文化・景観への配慮 .....	170

## 1. 総論

### 1.1 計画策定の背景と目的

#### 1.1.1 背景

京丹後市は、面積 501.84km<sup>2</sup> の広がりを持ち、標高 700m 以下の山々から流れる河川流域により盆地が形成され、海岸は岩礁帯から砂丘、湾や入江など多様な形態を見せていている。丹後の人々の努力によって、古くから自然と一体的に発展してきたこの地域は、平成の合併における京都府最初の市として、峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町の 6 町が合併し「京丹後市」が平成 16 年 4 月 1 日に誕生となった。

本市には 5,160ha の耕地 (H16) が存在し、地域の風土を形成するとともに、市民の食生活を支える重要な産業の一つとなっている。

近年、環境への関心の高まりにより、農業・農地により発揮される多面的機能の重要性が認識されるようになり、本市においても、農業の多面的機能の発揮に配慮した農業振興の展開が求められている。

平成 11 年に改正された食料・農業・農村基本法では、農業・農村の多面的機能の発揮が重要と位置づけられ、また、平成 13 年の土地改良法改正において、「環境との調和への配慮」が農業農村整備事業の基本原則となった。さらに、平成 17 年の新食料・農業・農村基本計画の見直しでは、環境保全を重視した農業施策の展開が改革の視点に盛り込まれ、環境に配慮するための各種手引きも刊行されてきた。

このような背景を踏まえて、今後市内で行われる農業農村整備事業における環境への配慮の基本的な考え方や整備方針を定める農村環境計画を策定する。

#### 1.1.2 位置づけ

本農村環境計画では、自然的、社会的因素を総合的に考慮し、農村地域における市の基本的な環境対策を立案するものである。

この農村環境計画は、環境との調和に配慮した農業農村整備事業の進め方を示す基本構想として位置づけられる。また、事業地区の個性に対応しながらも事業地区外との広域的なつながりも視野に入れ、地域全体として一定の環境水準を確保できるような、適切な環境配慮を行った農業農村整備事業の推進を目指し、これにより農村地域の環境保全を総合的・効率的に進めるものである。

### 1.1.3 本計画の対象

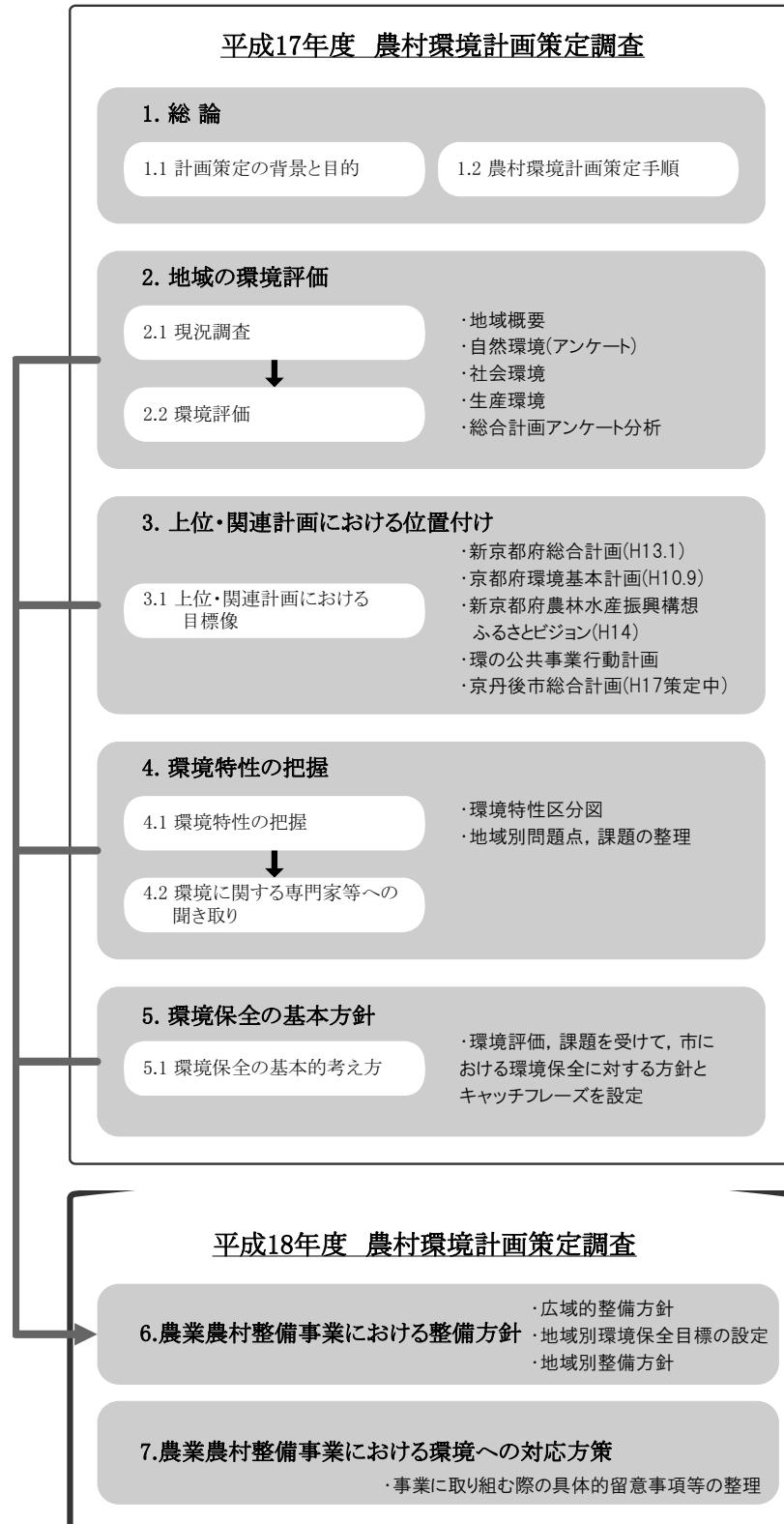
本計画の対象地域は、市全体を調査エリアとするが、対応方策等の検討においては農業農村振興地域を中心とした農村及び里山を主な対象とする。

また、本計画は、市における農業農村整備事業の推進において、該当地域の現状確認や環境配慮の方針設定の判断に資することを想定している。

このため、奥山の原生的自然の保護や、市街地のまちなみ景観などの都市的な課題及び商工業に起因する環境問題については取り扱わないこととする。

## 1.2 農村環境計画策定手順

本計画では、既存資料や地域代表者へのアンケート調査、専門家への聞き取り等をもとに、地域の環境評価や関連計画を整理する。次に、これらから環境保全の基本的考え方を設定し、これに基づき、市全体及び地域別の整備方針や農業農村整備事業における環境への対応方策を作成する。



## 2. 地域の環境評価

### 2.1 現況調査

#### 2.1.1 地域概要

京丹後市は、京都府の北西部、京都市から直線距離で約 90km に位置している。東西に約 35km、南北に約 30km、面積 501.84km<sup>2</sup> の広がりをもっている。

本市の地形は標高 700m 以下の山々から流れる竹野川などの流域に盆地が形成され、海岸は岩礁帯から砂丘、湾や入江など多様な形態を見せている。

丹後地方は、この海を通して古代より大陸・朝鮮半島との交流が活発で、丹後の海辺と川の流域を結び、独自の経済文化圏を形成していたといえる。中世を経て近世に入ってからは、海を舞台にした廻船業や丹後の気候と先人の努力が生んだちりめんの活況などによって、この地域は発展を続けてきた。



図2-1 京丹後市位置図



図2-2 京丹後市旧町位置図

## 2.1.2 自然環境

### (1) 気象

京丹後市（間人観測地点）の1979年～2000年の気象概況を以下にまとめる。

平均気温は15.0°Cであり、京都市の平均気温15.6°Cとあまり差はないが、京都市の最高気温の20.5°Cと比較すると京丹後市は3°C近く低い。11月から1月の気温は京都よりも若干高く、2月は同じとなっている。また、6月から9月は、京都よりも気温が低い。

風速については、本市の平均風速は2.8m/sであり、京都市の1.6m/sよりも強い。降水量は1849.9mm、日照時間は1456.3時間であり、京都市よりも降水量が多く、日照時間が少ない。

本市の気候は、冬は季節風が強く降雪も多く、日本海型の気候であるが、京都市と比較すると夏は気温が低く、冬は気温が高い。

表 2-1 気象概況

単位 統計期間 資料年数	平均気温 ℃ 1979～2000	参考：京都市 平均気温 ℃ 1979～2000	最高気温 ℃ 1979～2000	最低気温 ℃ 1979～2000	平均風速 m/s 1979～2000	日照時間 時間 1987～2000	降水量 mm 1979～2000	※峰山観測所データ 積雪の深さ最大 cm 1981～2000
1月	5.0	4.6	7.2	2.8	3.9	52.0	212.8	
2月	4.8	4.8	7.1	2.5	3.9	70.3	137.1	46
3月	7.6	8.1	10.4	5.0	3.4	122.0	117.6	14
4月	12.8	14.1	16.4	9.5	2.6	165.9	101.8	0
5月	17.1	18.8	20.7	13.8	2.1	168.1	140.9	0
6月	20.7	22.7	23.8	18.1	1.9	108.3	156.0	0
7月	24.6	26.7	27.5	22.3	1.7	135.7	163.7	0
8月	26.3	27.8	29.5	23.9	1.9	196.3	106.2	0
9月	22.6	23.6	25.2	20.4	2.5	131.1	194.0	0
10月	17.5	17.5	20.0	15.1	2.9	138.3	132.3	0
11月	12.7	11.9	15.1	10.2	3.2	96.5	154.3	0
12月	7.8	6.9	10.2	5.4	3.6	74.0	213.3	17
全年	15.0	15.6	17.8	12.5	2.8	1456.3	1849.9	
参考：京都市	15.6	-	20.5	11.5	1.6	1734.3	1545.5	6

資料：気象庁ホームページhttp://www.data.kishou.go.jp/etrn/index.html  
 間人(京都府) 峰山(京都府)  
 緯度：北緯35度44.2分／経度：東経135度05.2分 緯度：北緯35度37.1分／経度：東経135度04.3分  
 アメダス 年平均値 (月・年) アメダス 極値  
 京都(京都府)  
 緯度：北緯35度00.9分／経度：東経135度43.9分  
 アメダス 年平均値 (月・年)

## (2) 地形

本市の平野部は、竹野川及び久美浜湾に流入する水系等により形成されている。

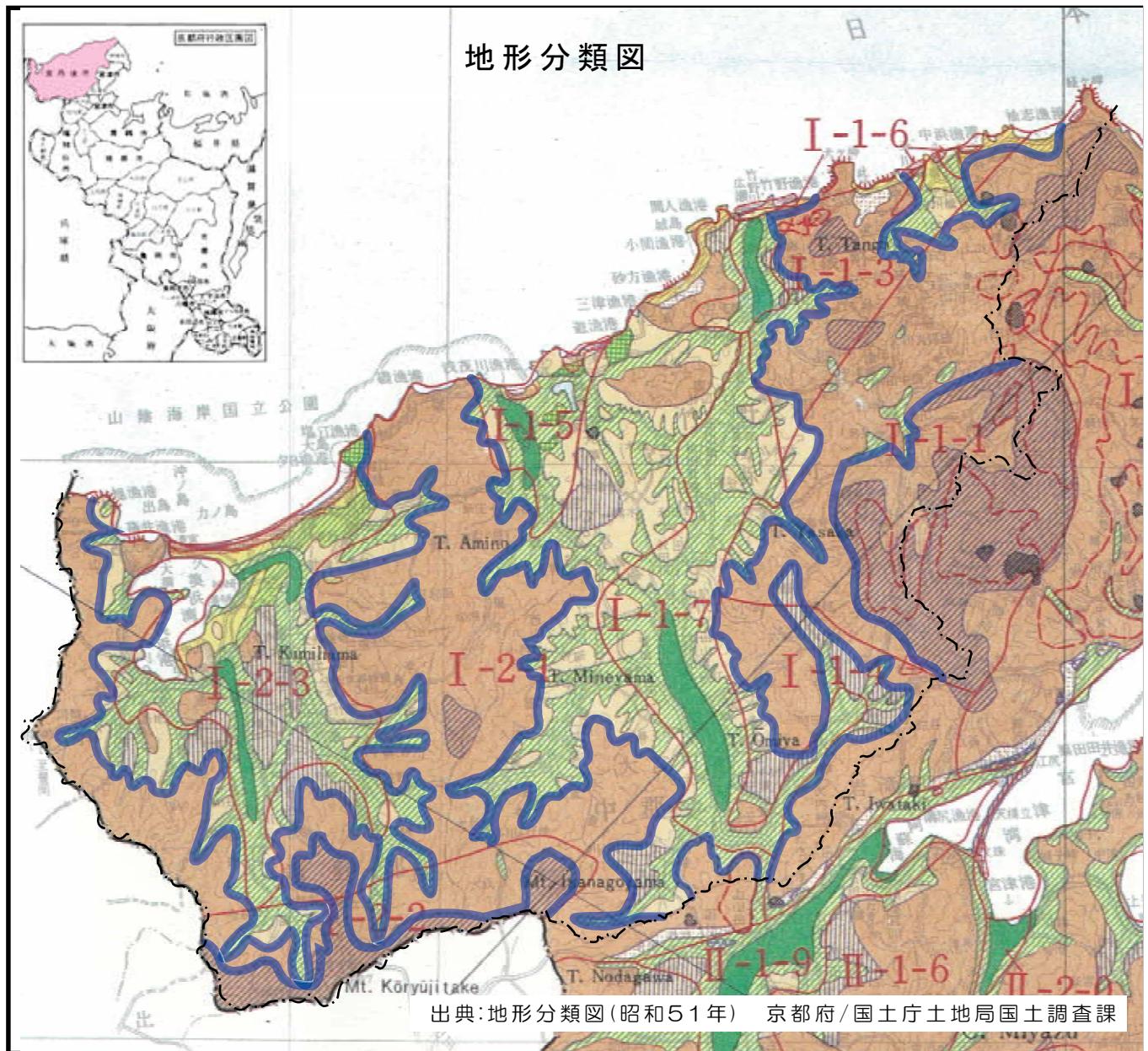
竹野川は上流から峰山盆地、間人低地を形成している。また、福田川、新庄川が網野低地を形成し、佐濃谷川、川上谷川沿いに久美浜湾低地が分布している。それぞれ盆地や低地部は扇状地性低地と三角州性低地に分類され、内部と周辺に一部丘陵地を形成している。

竹野川流域の東側は北から弥栄山地、太鼓山山地、五十河山地が分布し、小起伏山地に分類される地域が多いが、太鼓山山地では中起伏山地を含む。峰山盆地と久美浜湾低地の間に比治山峠山地が、久美浜湾低地の南側には高竜寺山山地があり、前者は小起伏山地、後者は小起伏山地と中起伏山地により構成されている。

表2-2 地形分類概要

地形分類	概 要
大起伏山地	起伏量 600m 以上(約 4km <sup>2</sup> のメッシュの中での最高点と谷底の最底点との標高差を起伏量とする)の山地を言う。
中起伏山地	起伏量 400~600m の山地を言う。標高 400~600m の定高性をもつ山地が広くひろがっていて、その谷底の標高は 100~200~300m であるから、定高性を示す山地の中でも高い部分は中起伏を示している。
小起伏山地	起伏量 200~400m の山地を言い、京都府の山地の大部分はこれに属している。
大起伏丘陵地	起伏量 100~200m の非火山性丘陵は盆地などの低地の周辺部に部分的にみられる。基盤岩石よりなる山地の周辺部が谷より開析されて低下するとともに、小起伏に解体していく、下位の段丘面より一段高い地形地域を形成しているものである。
小起伏丘陵地	起伏量 100m 以下の非火山性丘陵地で、峰山盆地、久美浜湾盆地にみられる。峰山盆地の縁では花崗岩を切って、鮮やかな浸食面地形を呈し、開析されて、樹枝状の浅い谷が発達している。
砂礫台地・段丘 (上位)	上位段丘の分布は局限されていて、砂礫層をのせている。
砂礫台地・段丘 (中位)	最も典型的な段丘であって、丹後半島の西岸では岩石段丘となっている。由良川水系沿いにとくによく発達している段丘であって、上流から下流までよく連続し、砂礫層をのせている。
砂礫台地・段丘 (下位)	丘陵を開析して運び出された土砂の二次堆積として、扇状地をなしている。扇状地は互いに類似の高度を示し、一部分では、段丘崖をともなっている。由良川水系では中位段丘が発達しているのに対して、淀川水系では下位段丘がやや発達しているようである。
扇状地性低地	丹後半島では、山地の中に細長く入り込んだ谷底平野は、粗粒土砂よりなり、扇状地性を呈していて、勾配もやや急となっている。
三角州性低地	盆地の水の排水難により、洪水時に、湛水、逆流氾濫しやすい地域に三角州性の低湿地が発達する。日本海に注ぐ河川の河口などにも三角州性低地がみられる。久美浜湾岸、峰山盆地、野田川、由良川下流、舞鶴湾岸などがそれである。

資料：土地分類図（昭和 50 年）/国土庁土地局国土調査課



### 凡 例

山地	大起伏山地	台地	砂礫台地・段丘(下位)	付 加 記 号	大崩壊地形	地形地域区分
	中起伏山地		岩石台地・段丘(上位)		主要断層線 構造性急斜面	
	小起伏山地		岩石台地・段丘(中位)		顕著な浸食崖	
火山地	山麓地	扇状地性低地	付 加 記 号	構造性線上凹地		
	中起伏火山地	三角州性低地		砂質裸地		
	小起伏火山地	砂丘・砂州		礫質裸地		
丘陵地	大起伏丘陵地	自然堤防・天井川	付 加 記 号	人工改変地		
	小起伏丘陵地			埋立地		
	火山性丘陵地	山麓堆積面		干拓地		
台地	砂礫台地・段丘(上位)	山頂緩斜面		悪地地形		
	砂礫台地・段丘(中位)	地氷り地形				

### (3) 地質

本市東端の伊根町・宮津市との境界部の山地及び市の南西部に、火山性岩石である流紋岩質岩石や安山岩質岩石が分布している。

旧丹後町の海岸沿い及び旧網野町の河川沿いの低地を除いた部分など、市の北側に固結堆積物である礫岩・砂岩・泥岩互層が分布している。

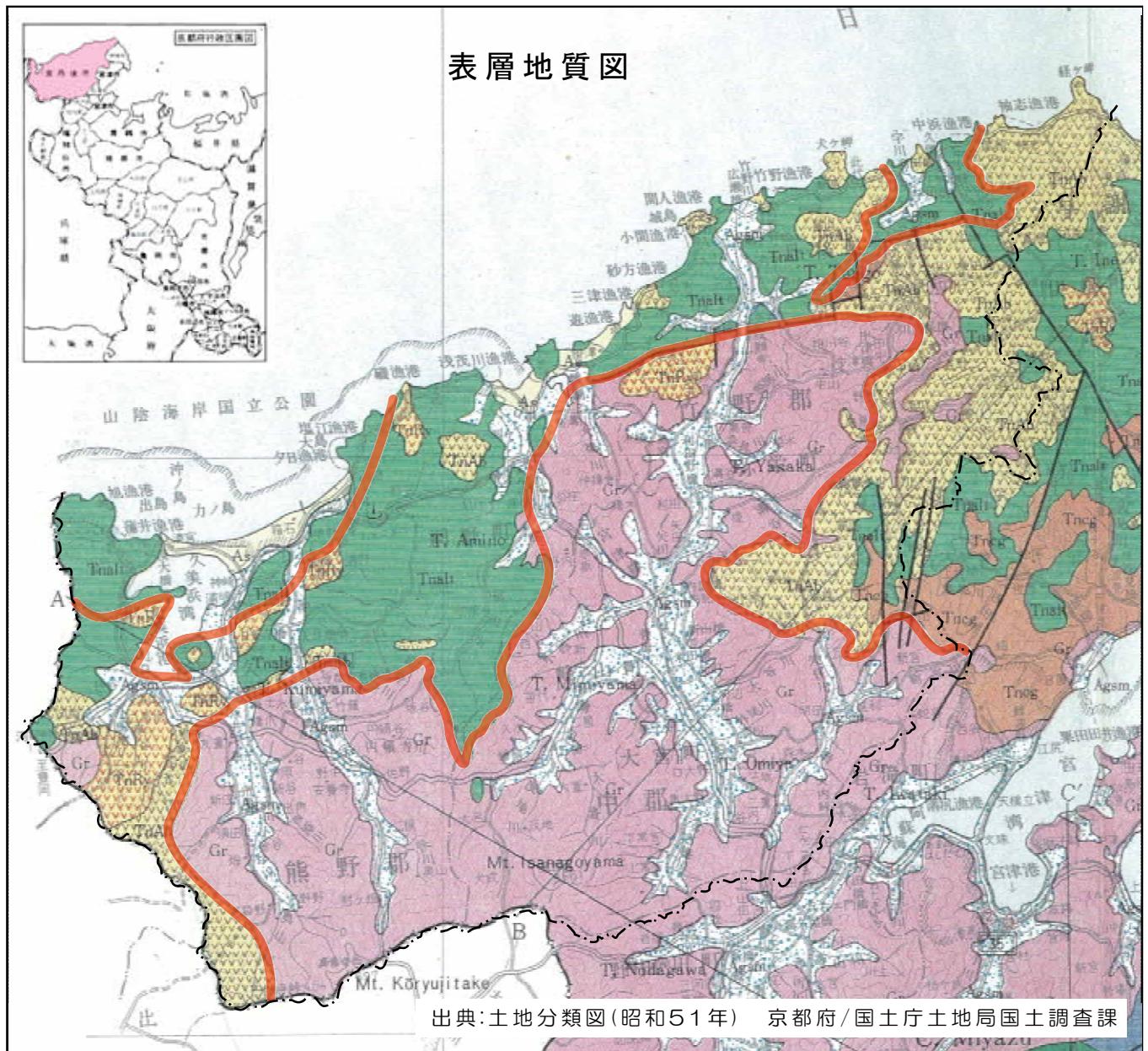
河川の流れる低地部には未固結堆積物の礫・砂・泥が分布し、本市の農地も主にここに分布する。市の中央から南側の大部分は深成岩類である花崗岩質岩石が分布し、市全域の半分以上を構成している。

本市の表層地質の概要を以下にまとめる。

表2-3 表層地質分類概要

表層地質分類	概 要
礫・砂・泥	主要河川の流域の谷底平野部や盆地を構成する。主として河成堆積物からなるが、一部に湖成堆積物を含む。
砂	日本海沿岸に発達する砂丘砂・一部に砂州・砂嘴を構成している。珪質で淘汰が良く、鋳型用砂として採取されている。
礫岩	新第三系北丹層群豊岡累層に属する礫層を示す。丹後半島南東部の礫層は松尾礫岩層とよばれ、花崗岩類、夜久野複合岩類、片状ホルンフェルスなどの巨礫を含む。厚さ 500m。
礫岩・砂岩 ・泥岩互層	北丹層群および綴喜層群に属する碎屑岩層を一括して示している。北丹層群の本層は主として、久美浜町、網野町、丹後町および伊根町に分布する。
流紋岩質岩石	丹後半島の北西部と北東部に分布する北丹層群網野累層に含まれるものと、舞鶴市東方に分布するものを一括して示す。主として流紋岩質火碎岩からなる。
安山岩質岩石	丹後半島の北丹層群を構成するもの、舞鶴市東方青葉山西麓に分布するものを一括している。主として輝石安山岩、角閃石安山岩、墨雲母安山岩および同質の火碎岩からなる。
花崗岩質岩石	舞鶴地帯に分布する舞鶴花崗岩、丹後半島に分布する宮津花崗岩、領家帶に属する木屋花崗岩などに代表される。ほかに丹波層群を貫く岩株が随所にみられる(例えば行者山花崗岩、北白川花崗岩など)。いずれも黒雲母花崗岩を主とするが、花崗閃緑岩～石英閃緑岩の範囲で変化する。また一部に花崗斑岩～石英斑岩も認められる。舞鶴花崗岩は古生代、他はいずれも後期中生代に貫入したとされている。

資料：土地分類図（昭和 50 年）/国土庁土地局国土調査課



### 凡 例

未 固 結 堆 積 物	Agnm	礫・砂・泥	Pms	泥質岩	Ho	ホルンフェルス	Cu	銅
	Agm	礫・砂	Pch	チャート	Gs	角閃岩～緑色片岩	Mn	マンガン
	Aum	砂・泥	Palt	泥質岩・砂岩 チャート互層	Gm	片麻岩(准片麻岩)	W	タングステン
	As	砂	Psch	輝綠凝灰岩			Si	珪石
固 結 堆 積 物	Acl	砂屑物		玄武岩質岩石				
	Ds	礫・砂		流紋岩質岩石				
	Dogn	礫・砂・泥		安山岩質岩石				
	Tnog	礫岩	MRy	流紋岩質岩石				
固 結 堆 積 物	Thalt	礫岩・砂岩・泥岩互層	Gr	花崗岩質岩石				
	Malt	礫岩・砂岩・泥岩互層	Gb	斑 岩質岩石				
	Pn	砂岩	Sp	蛇紋岩質岩石				
地質境界線								
背斜軸								
向斜軸								
断層								
一般走向・傾斜								
鉱山								
温泉・鉱泉								
井戸の位置および番号								
0 1 2 3 4km								

#### (4) 土壌

本市の大部分を占める山林は乾性褐色森林土壌より形成されている。

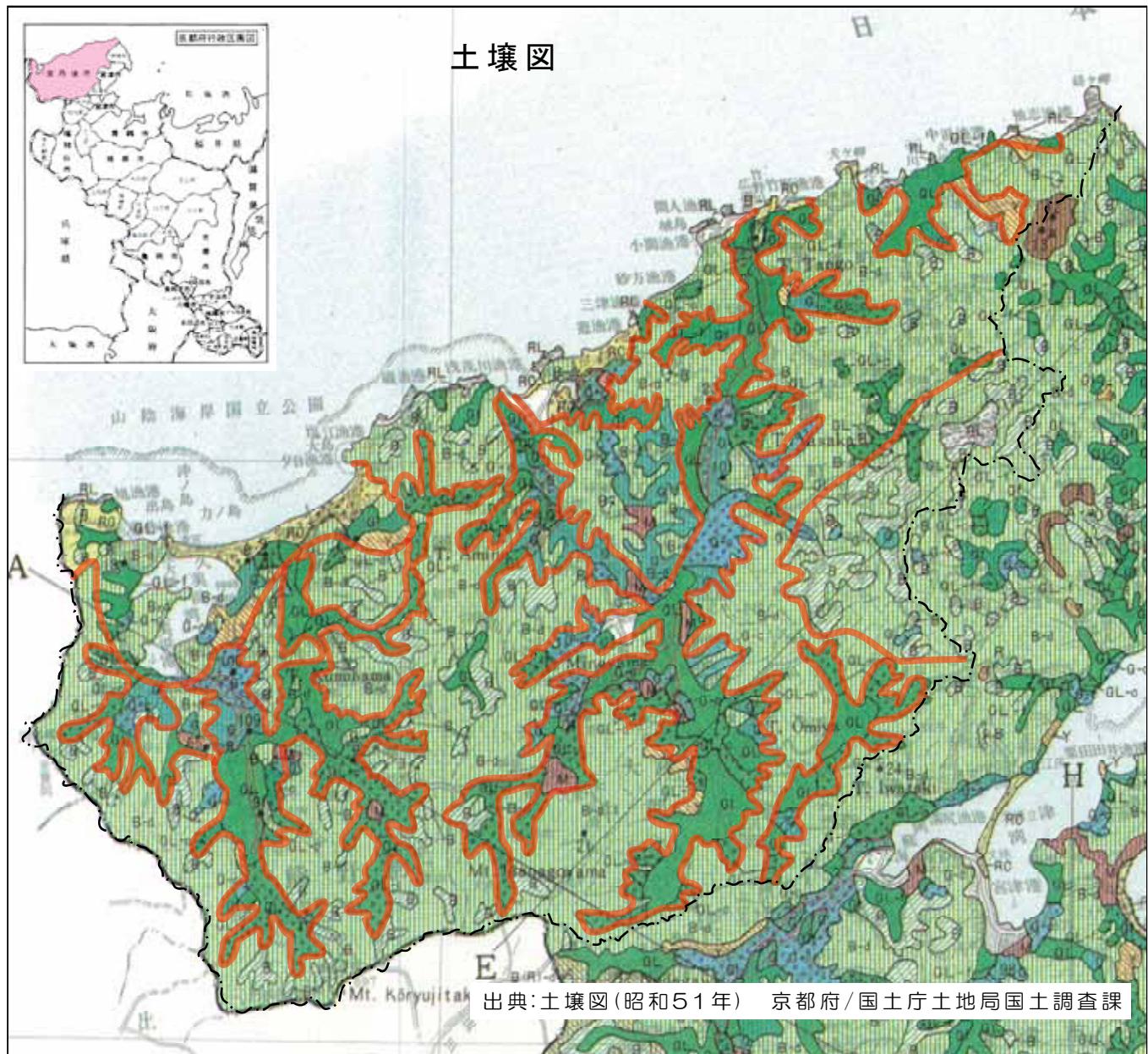
また、多くの農地が分布する河川沿いには灰色低地土壌やグライ土壌が分布し、上流部や支流部の多くでは礫層を含むグライ土壌となっている。

以下に本市の土壌分類の概要をまとめる。

表2-4 土壌分類概要

土壌分類	概 要
砂丘未熟土壌	砂丘地及び砂州に分布している粗粒質（砂質）の土壌である。表層における腐植含量は低く、土層の分化はきわめて弱い。下層土は一般に彩度の低い黄褐色から灰褐色、ときには灰色を呈していることがある。保水力及び保肥力は著しく劣っている。丹後半島の北岸ないし北西岸・宮津湾の北西岸・栗田湾の南岸・由良川河口などに、帯状に分布している。おもにクロマツの防風腐林が造成され、後背地は畑地として利用されている。
乾性褐色森林土壌	府下全域にわたって広く分布している。山腹上部から尾根筋にかけて出現しているが、Ao層及び粉状・粒状・堅果状などの土壤構造がよく発達し、乾性型土壌としての整った性状を示している。A層はうすく、B層との境界は明瞭である。一般に酸性が強く、養分は欠乏しており、土壤生産力は低い。
褐色森林土壌	最も標準的な森林土壌で、府下全域にわたって広く分布している。一般に斜面の中下部や谷筋に出現しているが、Ao層はとくに発達しない。A層は厚く、土壤構造は団粒状構造がよく発達している。B層の土色は7.5YRの色相をもっており、A層からB層への推移状態は漸変的である。一般に土壤生産力は高い。
黄色土壌	表層から、または次層（作土下）が黄褐色の色調を持つ、細粒～粗粒質の未発達な台地土壌。色相はYR～Y、彩度、明度はともに3以上である。府下各地の山麓地、洪積台地およびその開析谷底に分布している。南丹地域の由良川沿岸の河岸段丘上に多い。土地利用は水の有無によって分かれ、水があれば水田、なければ畑地となっている。また、府下の畑地（樹園地を含む）の大半がこの土壌である。
灰色低地土壌	表層および次層、または次層が灰色～灰褐色の色調を呈し、次層（作土下）の土性が中粒質の土壌。色相はおおむねYR～Y、彩度3未満、明度3以上の各種形状の斑紋が出現し、また地表下80cm以内にグライ層が出現しない土壌。府下各地の沖積地に広く分布し、南丹地域の亀岡盆地に多い。ほとんどが水田（乾田）として利用されている。
グライ土壌	表層下80cm以内にグライ層が出現し、次層（作土下）の土性が中粒質の土壌。丹後地域の峰山盆地周辺の谷底沖積地および京都・山城地域の木津川流域の低湿地に分布し、また各地の谷底の湿地にも散在している。ほとんどが水田として利用されている。
粗粒グライ土壌	表層下80cm以内にグライ層が出現し、次層（作土下）の土性が粗粒質の土壌。丹後地域の峰山、加悦谷盆地および京都・山城地域の木津川流域の低湿地に分布し、また各地の谷底の湿地にも散在している。ほとんどが水田として利用されている。
黒泥土壌	表層下80cm以内に厚さ30cm以上の黒色あるいは黒褐色の有機物に富み、その分解が進み植物遺体のこん跡がほとんど認められない黒泥層を有し、作土下の土層は一般に灰色～灰褐色を呈している湿潤な土壌。丹後地域の低地の周辺部に小面積ではあるが、散在している。ほとんどが水田として利用され、生産力はやや低い。

資料：土地分類図（昭和50年）/国土庁土地局国土調査課



凡例

**岩地**

- 岩石地

**岩屑土**

- L 岩屑性土壤

**未熟土**

- RG 残積性未熟土壤
- RG+ 粗粒残積性未熟土壤
- RD 砂丘未熟土壤
- RB 人工未熟土壤

**黒ボク土**

- A 黒ボク土壤
- B 多湿黒ボク土壤

**褐色森林土**

- B-E 乾性褐色森林土壤
- B-Y-Hd 乾性褐色森林土壤（黄褐系）
- B-Y-Hc 乾性褐色森林土壤（赤褐系）

**褐色森林土壤**

- B 褐色森林土壤
- B-W 湿性褐色森林土壤
- B-Po 乾性ポドゾル化土壤
- B-R 赤色土壤
- B-Y 黄色土壤
- B-F 暗褐色土壤
- SL 褐色低地土壤
- BL-F 粗粒褐色低地土壤
- OL-F 細粒灰色低地土壤
- OL 灰色低地土壤
- OL-H 粗粒灰色低地土壤

**細粒グライ土壤**

- B-G 細粒グライ土壤
- G グライ土壤
- B-G+ 粗粒グライ土壤
- M 黑泥土壤

**付加記号**

- 老朽化水田
- 湛水田または強湿田
- \* 地表か80cm以内に砂、砂礫または礫層あり
- \* 10 土壤断面位置及び番号

**A—B 断面線**

0 1 2 3 4km  
1:200,000

N

## (5) 水環境

### ① 河川

本市の主な河川としては、東から宇川、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川があり、すべての河川は北流し、日本海へ流れている。最も流域が大きいのは、竹野川である。また、比較的低地を多く形成し、農地が多く分布するのは川上谷川である。

### ② ため池

市内にため池は約 200 箇所存在し、主に竹野川流域に多く分布している。築造位置は低地から丘陵地への遷移部にあるものが多い。

### ③ 水質

環境基準とは、環境基本法で、「人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と規定されており、人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、その確保を図っていこうとするものである。

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境項目については、水域の利用目的に応じた類型ごとに基準値が定められている。現在、河川は 6 類型、湖沼は 4 類型（全窒素及び全燐については 5 類型）、海域は 3 類型（全窒素及び全燐については 4 類型）に区分されている。このため、ある水域がどの類型に該当するかを個別に指定する必要があり、このことを類型指定という。

生活環境の保全に関する環境基準について、以下にまとめる。

表 2-5 生活環境の保全に関する環境基準（河川）

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値					該 当 水 域
		水素イオ ン濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道 1 級、自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	50MPN/ 100ml 以下	環境庁長官および都道府県知事等が水域類型ごとに指定する水域
A	水道 2 級、水産 1 級水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	1000MPN/ 100ml 以下	
B	水道 3 級、水産 2 級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/l 以下	25mg/l 以下	5mg/l 以上	5000MPN/ 100ml 以下	
C	水道 3 級、工業用水 1 級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/l 以下	50mg/l 以下	5mg/l 以上	—	
D	工業用水 2 級、農業用水及びEの欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/l 以下	100mg/l 以下	2mg/l 以上	—	
E	工業用水 3 級 環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/l 以下	ゴミ等の浮遊が認められないこと	2mg/l 以上	—	

資料： 環境基本法の第 16 条第 1 項の規定に基づく水質汚濁に係わる環境基準

- 注) 1. 基準値は、日間平均値とする  
 2. 自然環境保全：自然探勝の環境保全  
 3. 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの  
     水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの  
     水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの  
 4. 水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用ならびに水産 2 級及び水産 3 級の水産生物用  
     水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用および水産 3 級の水産生物用  
     水産 3 級：コイ、フナ等、β 中貧腐水性水域の水産生物用  
 5. 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄化操作を行うもの  
     工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの  
     工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの  
 6. 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

京都府の水質汚濁に係る環境基準の類型指定では竹野川が類型指定Bに、宇川、福田川、佐濃谷川が類型指定Aに指定されている。これらの河川における平成15年度のBODの測定試験結果はいずれも指定類型の値を満たし、良好な水質を示している。

表 2-6 河川別 BOD の測定結果（平成15年度）

河川名	地点名	類型	平均値 (mg/l)
竹野川	新橋	B	1.6
竹野川	内記橋	B	1.7
竹野川	荒木野橋	B	1.6
宇川	宇川橋	A	1.1
福田川	新川橋	A	1.6
佐濃谷川	高橋橋	A	1.4

資料：平成16年度版 京都府環境白書

久美浜湾の水質データは以下の通りであり、全燐についてのみ湾奥部で指定類型の値を満たしていないが、その他については、指定類型の値を満たしている。

表 2-7 久美浜湾の測定結果（平成15年度）

地点名	類型	COD平均値 (mg/l) 環境基準値 2mg/l以下	類型	全窒素平均値 (mg/l) 環境基準値 0.3mg/l以下	全燐平均値 (mg/l) 環境基準値 0.03mg/l以下
湾口部	A	1.9	II	0.25	0.019
佐濃谷川流入点	A	1.8	II	0.19	0.025
神崎地先	A	2.0	II	0.18	0.025
湾奥部	A	2.0	II	0.24	0.039

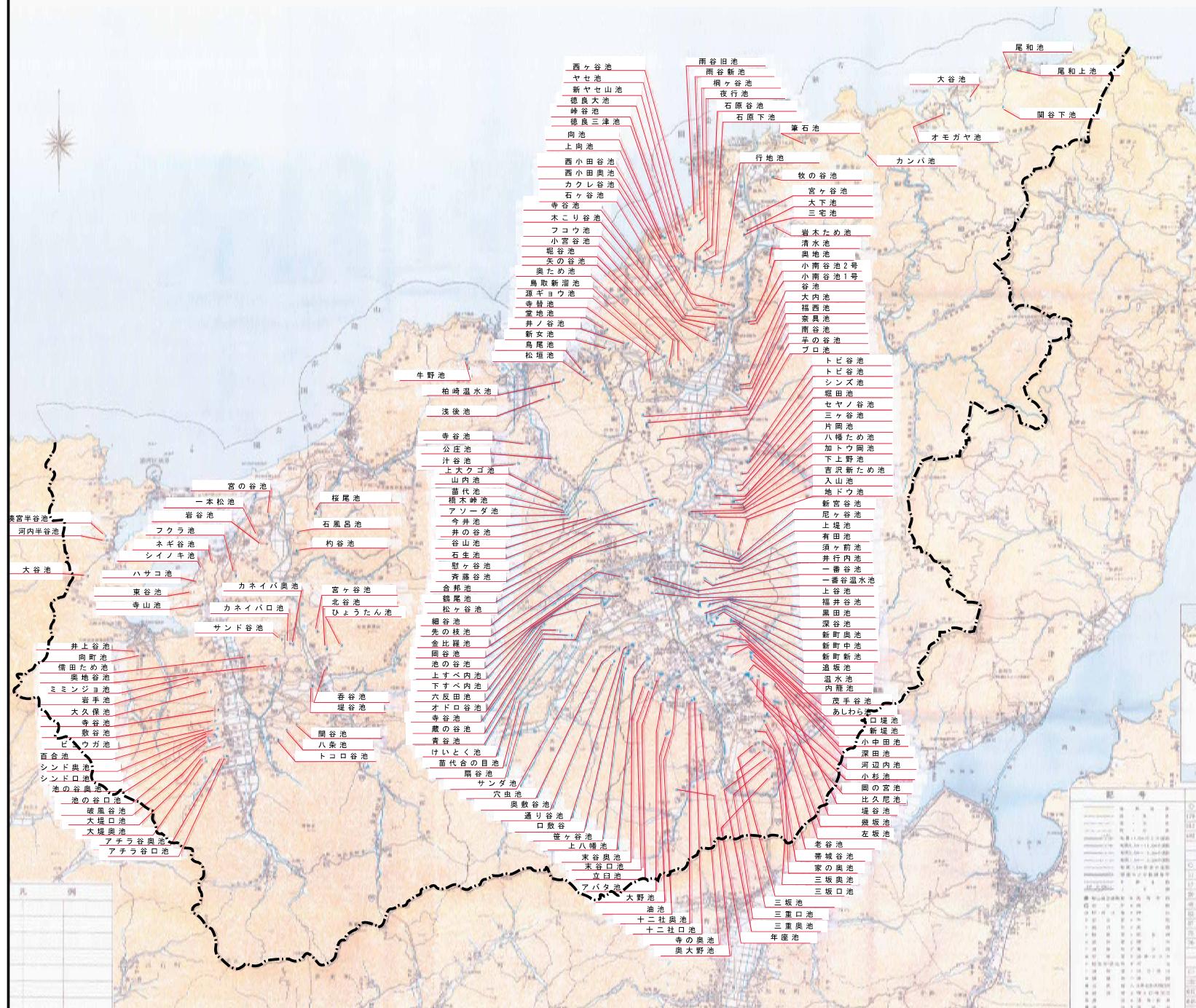
資料：平成16年度版 京都府環境白書

河川位置図



A scale bar with tick marks at 0, 1, 2, 3, and 4 km. A vertical arrow points downwards above the scale bar.

ため池位置図



0 1 2 3 4km  
1:120,000

## (6) 植物

既存資料より、本市でみられる植物についてまとめる。

### ① 現存植生図

「第2回自然環境保全基礎調査（昭和57年） 京都府現存植生図」によると、河川沿いには水田雑草群落が分布し、河川沿いの低地から山地にかけての丘陵部には主にアカマツ群落が分布し、さらに比較的標高の低い山地にはコナラ群落が分布している。

市東部の標高の高い山地にはアカシデ・ミズナラ群落が分布し、比治山峠山地から市の南西端にかけてはスギ・ヒノキ・サワラ植林が分布している。旧久美浜町の海岸沿いには畠地雑草群落が分布しており、砂丘農業が行われている。

なお、第6回自然環境保全基礎調査 植生調査が平成16年に実施され、現在随時結果が見直されており、今後はこの調査結果を参考することが重要である。

以下に、本市の主な植生概要をまとめる。

表 2-8 京丹後市の植生概要

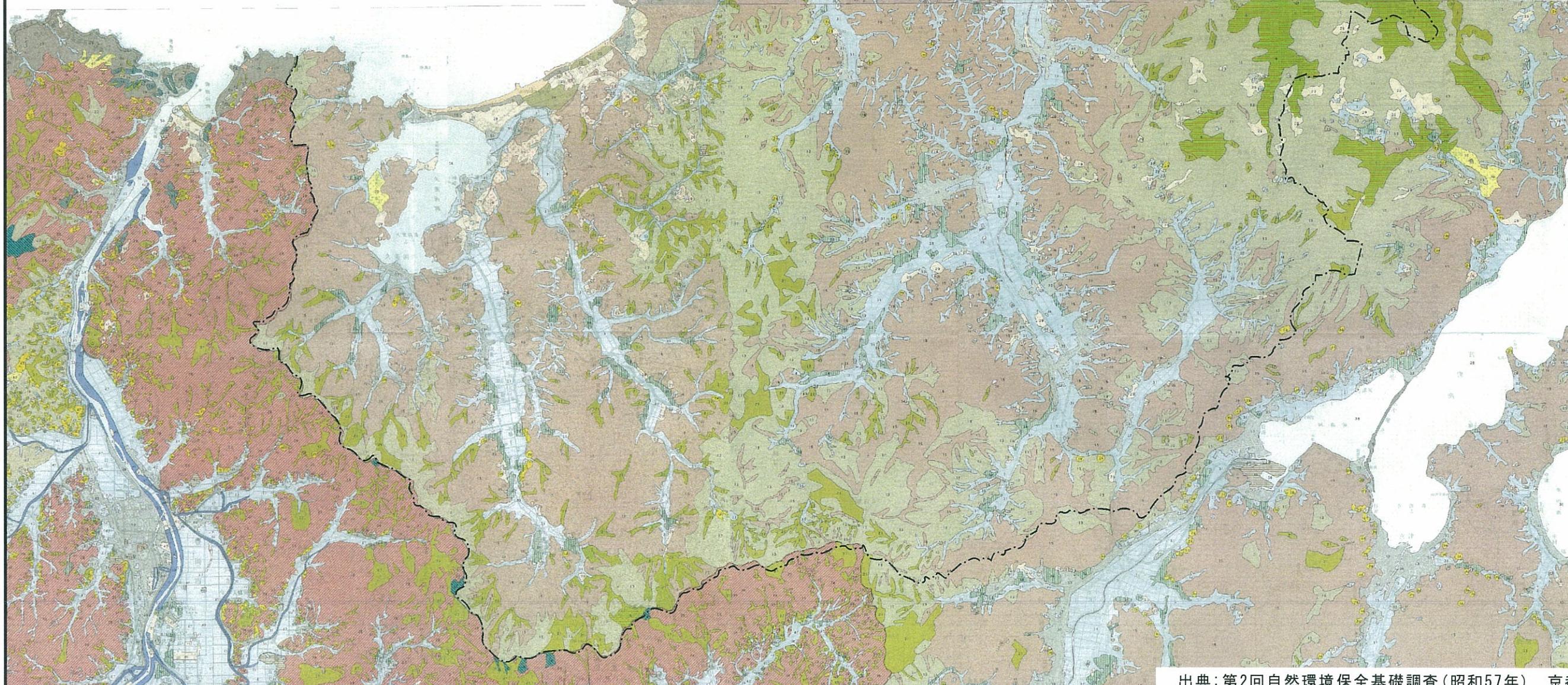
植生分類	概 要
アカマツ群落	(相観－暖温帯常緑針葉高木林) アカマツ群落は、コナラ林とともに広く分布する典型的な里山で、薪炭林として利用されてきた。特に京都府中部（丹波地方）の丹波古生層の西部ではアカマツの美林が大規模に分布していたが、近年マツクイムシの被害が目立っている。南部では、洪積丘陵、洪積段丘の礫層の上では組成的にも単純なアカマツ林がみられる。しかし、砂礫層が広く分布するため、アカマツ－コナラ林が最も広くみられる形である。 放置され遷移の進行にともない、シイ林へ移行することが予想される。
コナラ群落	(相観－暖温帯落葉広葉高木林) コナラ群落は、暖帯から温帯下部にかけて発達し、アカマツ群落、スギ・ヒノキの植栽林とならんで広く分布する。いわゆる里山の落葉広葉樹林で、薪炭林、柴山として人間の生活との関連が最も深かった林であるが、近年薪炭林としての利用がなくなったためにその価値が明確でなくなり開発の波にさらされているが、評価を明確にして開発から守る必要がある。丹後半島の安山岩地帯、舞鶴帶の広範なコナラ林に代表される落葉広葉樹林、南部の花崗岩地域のコナラ林は学術的価値も高い。
スギ・ヒノキ・サワラ植林	(相観－常緑針葉高木林) 京都府は、古くから宮近郊として高度な森林経営に基づき林産物を宮に供給してきたため、所有形態も複雑であり小規模な植栽地が多い。

資料：第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書 京都府

凡 例

現存植生図

4 ブナ-ミズナラ群落	16 クロマツ群落	30 牧草地(人工草地)
5 クリ-ミズナラ群落	28 アカマツ-サイゴク ミツバツツジ群集	31 水田雑草群落
6 アカシデ-ミズナラ群落	29 クズ群落	32 休耕田雑草群落
12 ススキ- ホクチアザミ群落	17 砂丘植生	44 落葉果樹園
12 サカキ-コジイ群落	33 ヨシクラス	25 常緑果樹園
14 ヒメアオキ- ウラジロガシ群落	35 ハマグルマ- ハマゴウ群落	33 市街地
18 シイ- トキワイカリソウ群落	19 アカマツ植林	34 緑の多い住宅地
クロマツ群落	20 クロマツ植林	36 造成地
13 コナラ群落	21 スギ・ヒノキ・ サワラ植林	38 開放水域
14 ススキ群落	24 竹林	51 工場地帯
15 アカマツ群落	29 畑地雑草群落	



0 1 2 3 4km  
1:120,000

出典:第2回自然環境保全基礎調査(昭和57年) 京都府現存植生図 環境庁

## ② 丹後の野生の花

文献「丹後の野生の花 145 選/小規模企業広域活性化事業推進委員会（弥栄町・丹後町商工会）」より、本市に生育する野生の植物について、以下にまとめる。

市内でみられる野生の植物は、人里地帯で見られるもので 24 種、丘陵地帯で 25 種、山間地帯で 49 種、湿原・湿地で 19 種、海岸地帯で 28 種となっている。

表 2-9 市内の野生の植物

人里地帯の野生の花		山間地帯の野生の花		湿原・湿地の野生の花	
和名	科名	和名	科名	和名	科名
アサツキ	ゆり	アキチヨウジ	しそ	アケボノソウ	りんどう
アセビ	つつじ	イチリンソウ	きんぼうげ	アゼムシロ	ききょう
オオイヌノフグリ	ごまのはぐさ	イワガラミ	ゆきのした	イボクサ	つゆくさ
オオブタクサ	きく	ウコンバナ	くすのき	エゾミソハギ	みそはぎ
オキナグサ	きんぼうげ	エビネ	らん	オオカナダモ	とちかがみ
カタバミ	かたばみ	エンレイソウ	ゆり	オモダカ	おもだか
カラスノエンドウ	まめ	オオキツネノカミソリ	ひがんばな	コチャルメルソウ	ゆきのした
コバノミツバツツジ	つつじ	オトコエシ	おみなえし	サクラタデ	たで
ササユリ	ゆり	オニシバリ	じんちょううげ	サワオグルマ	きく
スギナ・ツクシ	とくさ	カンアオイ	うまのすずくさ	ダイモンジソウ	ゆきのした
センニンソウ	きんぼうげ	キクザキイチゲ	きんぼうげ	タネツケバナ	あぶらな
ニリンソウ	きんぼうげ	キツリフネ	つりふねそう	チャルメルソウ	ゆきのした
ニワフジ	まめ	ギンリョウソウ	いちやくそう	ツリフネソウ	つりふねそう
ニワゼキショウ	あやめ	キブシ	きぶし	ノハナショウブ	あやめ
ノゲシ	きく	クサアジサイ	ゆきのした	ハルユキノシタ	ゆきのした
ヒメオドリコソウ	しそ	クサボタン	きんぼうげ	ハンゲショウ	どくだみ
ヒルガオ	ひるがお	コオニユリ	ゆり	ヒトモトスキ	かやつりぐさ
ヘクソカズラ	あかね	コケイラン	らん	ミゾソバ	たで
ホトケノザ	しそ	ゴンズイ	みつばうつぎ	ムラサキサギゴケ	ごまのはぐさ
ママコノシリヌグイ	たで	サツマイナモリ	あかね	19種	15科
ミヤコグサ	まめ	サンインシロガネソウ	きんぼうげ		
ヤブデマリ	すいかずら	ショウジョウバカマ	ゆり		
ヤマブキ	ばら	ソバナ	ききょう		
24種	15科	タジマタムラソウ	しそ		
		タムシバ カムシバ	もくれん		
		ツクバネソウ	ゆり		
		ツルアリドウシ	あかね		
		ツルカルノコソウ	おみなえし		
		ツルニンジン	ききょう		
		ナツエビネ	らん		
		ナツツバキ	つばき		
		ノヤマトンボソウ	らん		
		ハイナカダ	みずき		
		ハニショウヅル	きんぼうげ		
		ヒュウガミズキ	まんさく		
		フウラン	らん		
		フクジュソウ	きんぼうげ		
		フナバラソウ	ががいも		
		ホンシャクナゲ	つつじ		
		ミズヒキ	たで		
		ミスミソウ	きんぼうげ		
		ミヤマカタバミ	かたばみ		
		ミヤマシキミ	みかん		
		ヤツツバキ	つばき		
		ヤブミョウガ	つゆくさ		
		ヤマアマドコロ	ゆり		
		ヤマシャクヤク	きんぼうげ		
		ヤマルリソウ	むらさき		
		ラショウモンカズラ	しそ		
		49種	27科		
丘陵地帯の野生の花		海岸地帯の野生の花		湿原・湿地の野生の花	
和名	科名	和名	科名	和名	科名
イチヤクソウ	いちやくそう	アナマスミレ	すみれ		
イワナシ	つつじ	イソギク	きく		
ウマノスズクサ	うまのすずくさ	イボタノキ	もくせい		
オカオグルマ	きく	カセンソウ	きく		
オカトラノオ	さくらそう	カワラサイコ	ばら		
コシオガマ	ごまのはぐさ	コウボウシバ	かやつりぐさ		
コバノガマズミ	すいかずら	コウボウムギ	かやつりぐさ		
コマユミ	にしきぎ	コパンソウ	いね		
シソバタツナミソウ	しそ	コマツナギ	まめ		
シャガ	あやめ	スナビキソウ	むらさき		
シュンラン	らん	タイトゴメ	べんけいそう		
タツナミソウ	しそ	タンゴイワガサ	ばら		
タニウツギ	すいかずら	テリハノイバラ	ばら		
ツリガネニンジン	ききょう	トウテイラン	ごまのはぐさ		
ツルボ	ゆり	トベラ	とべら		
ニシキゴロモ	しそ	ナミキソウ	しそ		
ヒメハギ	ひめはぎ	ネコノシタ	きく		
ヒロハアマナ	ゆり	ハマウツボ	はまうつぼ		
フタリシズカ	せんりょう	ハマエンドウ	まめ		
ベニバナボロギク	きく	ハマダイコン	あぶらな		
ホタルブクロ	ききょう	ハマニガナ	きく		
モジズリ	らん	ハマニニク	いね		
ヤブラン	ゆり	ハマハタザオ	あぶらな		
ヨメナ	きく	ハマヒルガオ	ひるがお		
レンゲツツジ	つつじ	ハマベノギク	きく		
25種	15科	ハマボッス	さくらそう		
		マルバシャリンバイ	ばら		
		ユウスゲ	ゆり		
		28種	17科		

出典) 丹後の野生の花 145 選/小規模企業広域活性化事業推進委員会(弥栄町・丹後町商工会)

## (7) 動物

既存資料より、本市でみられる動物についてまとめる。

### ① 自然環境保全基礎調査

「第2回自然環境保全基礎調査（昭和56年） 動植物分布」より、京都府レッドデータブック、および環境省レッドデータブックに記載されている希少種について以下にまとめる。

自然環境保全基礎調査は、全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備するために、環境省が昭和48年度より自然環境保全法第4条の規定に基づきおおむね5年ごとに実施している調査である。（出典：生物多様性情報システム [http://www.biodic.go.jp/area/area\\_frm.html](http://www.biodic.go.jp/area/area_frm.html)）

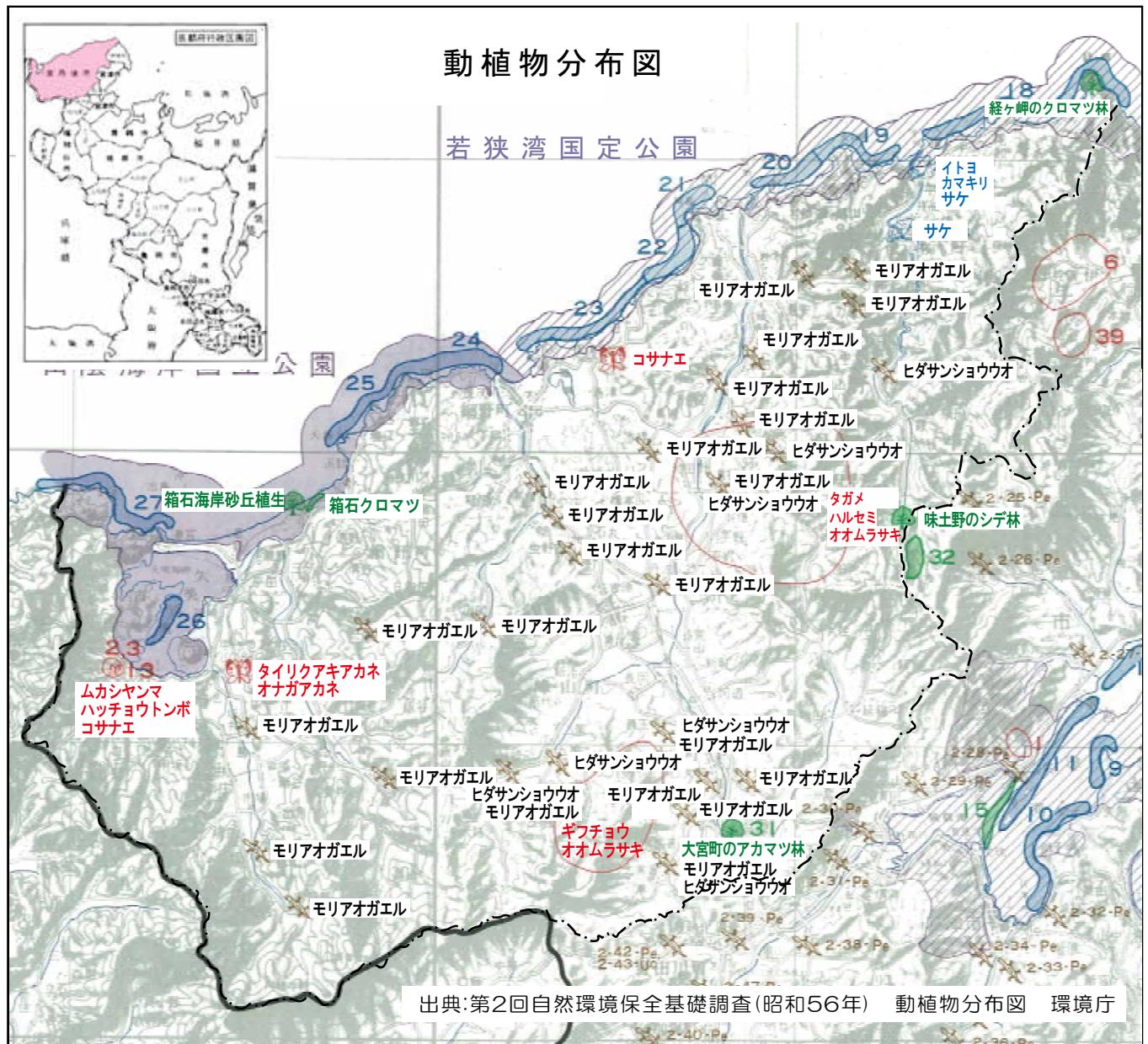
なお、この調査については調査年次が古いため、利用の際には経年変化に留意する必要がある。

表 2-10 京丹後市でみられる希少種

名 称	レッドデータ	
	京都府カテゴリー	環境省カテゴリー
<b>魚類</b>		
カマキリ	絶滅危惧種	—
サケ	要注目種	—
<b>両生類</b>		
ヒダサンショウウオ	準絶滅危惧種	—
<b>昆虫</b>		
ムカシヤンマ	準絶滅危惧種	—
ハッチョウトンボ	準絶滅危惧種	—
タガメ	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)
オオムラサキ	準絶滅危惧種	準絶滅危惧 (NT)
ギフチョウ	準絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類 (VU)

資料：第2回自然環境保全基礎調査（昭和56年） 動植物分布図 環境庁

## 動植物分布図



凡例

	特定植物群落 Specific plant communities
	両生類・は虫類 Reptiles and Amphibians
	淡水魚類 Fresh water fishes
	昆虫類 Insects
	藻場 Sea weed beds
	(現存) (exist) (消滅) (extinction)
	国立公園 National parks
	国定公園 Quasi-national parks



A horizontal scale bar with tick marks at 0, 1, 2, 3, and 4 km. Below the bar, the text "1:200,000" is written.

② 自然環境保全基礎調査 動植物分布調査

以下は第3回（昭和59年度）及び第4回（平成元～3年度）動植物分布調査で専門家調査員より寄せられた報告を基に作成されたもので、これらの資料から旧6町で見られる希少種についてまとめる。ただし、弥栄町については、希少種は確認されなかった。

表 2-11 京丹後市でみられる希少種

町名	種名	京都府RDB	環境庁RDB
久美浜町	<b>昆虫</b>		
	ギフチョウ	準絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)
	<b>魚類</b>		
	メダカ	絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)
	<b>両生類</b>		
	トノサマガエル	要注目種	-
	<b>ほ乳類</b>		
	ニホンカモシカ	準絶滅危惧種	-
	ニホンザル	要注目種	-
	ツキノワグマ	絶滅寸前種	-
網野町	<b>貝類</b>		
	コウベマイマイ	準絶滅危惧種	-
	ナミマイマイ	要注目種	-
	<b>魚類</b>		
	メダカ	絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)
	<b>両生類</b>		
	ヤマアカガエル	要注目種	-
	イモリ	要注目種	-
	<b>ほ乳類</b>		
	ニホンザル	要注目種	-
峰山町	ツキノワグマ	絶滅寸前種	-
	<b>魚類</b>		
	メダカ	絶滅危惧種	絶滅危惧II類 (VU)
	<b>両生類</b>		
	シュレーゲルアオガエル	要注目種	-
	モリアオガエル	要注目種	-
	トノサマガエル	要注目種	-
	ニホンアカガエル	要注目種	-
	ヤマアカガエル	要注目種	-
	イモリ	要注目種	-
大宮町	<b>は虫類</b>		
	トカゲ(ニホントカゲ)	要注目種	-
	シマヘビ	要注目種	-
	ヒバカリ	要注目種	-
	ヤマカガシ	要注目種	-
	<b>ほ乳類</b>		
	ツキノワグマ	絶滅寸前種	-
	<b>貝類</b>		
	ニホンザル	要注目種	-
	<b>両生類</b>		
丹後町	トノサマガエル	要注目種	-
	<b>ほ乳類</b>		
	ニホンザル	要注目種	-
	ツキノワグマ	絶滅寸前種	-
	該当無し		
弥栄町			

### ③ 河川水辺の国勢調査

国土交通省では、河川について全国 109 の 1 級水系の河川および主要な 2 級水系の河川について、また、ダム湖については直轄・水資源開発公団管理のダムおよび補助ダムについて「河川水辺の国勢調査」を実施している。このうち河川の調査は、「魚介類調査」、「底生動物調査」、「植物調査」、「鳥類調査」、「両生類・は虫類・ほ乳類調査」、「陸生昆虫類等調査」という 6 つの生物調査が行われており、ここでは竹野川、福田川、新庄川の結果を整理する。

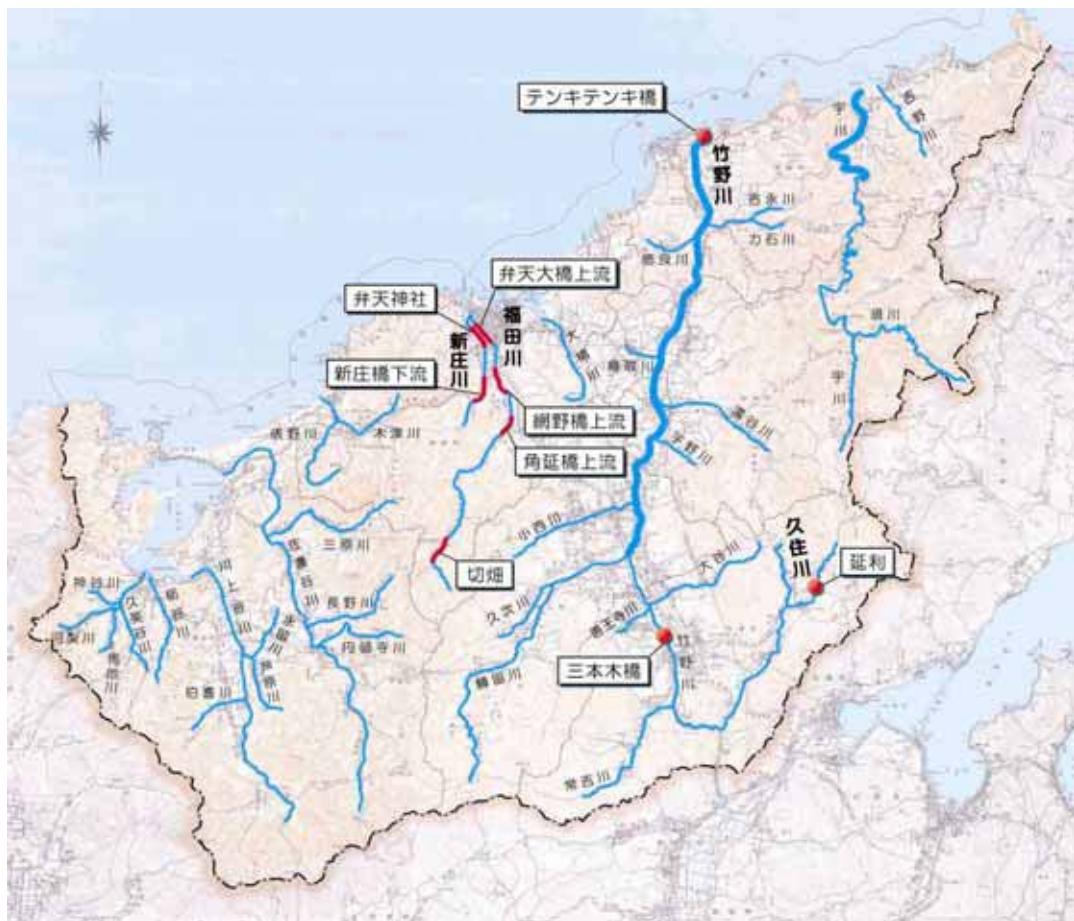


図2-3 河川水辺の国勢調査位置図

表 2-12 河川水辺の国勢調査結果一覧表（魚類）

No.	種名	生活型				竹野川				福田川								京都府 RDB	環境省 RDB					
		淡水	回遊	汽海	不明	テンキ テンキ 橋		三本木 橋		延利		弁天 大橋 上流		網野橋 上流		角延橋 上流		切畠		弁天 神社				
						夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋			
1	アンシリハゼ*			○										○								-	-	
2	アユ	○			○						○		○								○	-	-	
3	ウキゴリ	○			○															○		-	-	
4	ウグイ	○			○					○												-	-	
5	ウナギ*	○			○																	-	-	
6	オイカワ	○			○	○	○				○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	-	-
7	オオクチバス(ブラックバス)	○					○															要注目種－ 外来種 (国外外来魚)	-	
8	オオヨシノボリ	○						○			○		○									-	-	
9	カジカ	○						○	○								○	○				-	-	
10	カワムツA型	○					○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	準絶滅危惧種	-	
11	カワムツB型	○						○	○	○	○											-	-	
12	カワヨシノボリ	○						○	○	○	○		○		○							-	-	
13	ギギ*	○			○																	-	-	
14	キンブナ	○			○	○	○	○			○	○	○	○				○	○	○	○	-	-	
15	クサフグ		○	○	○					○	○						○				-	-		
16	クロダイ		○		○					○	○										-	-		
17	コイ	○			○	○	○	○		○	○	○					○	○	○	○	-	-		
18	ゴクラクハゼ*	○			○	○				○	○						○	○			絶滅危惧種	-		
19	コノシロ		○	○					○												-	-		
20	シマイサキ		○		○																-	-		
21	シマトジショウ	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-		
22	シマヨシノボリ	○		○						○	○	○	○				○	○			-	-		
23	ススキ		○	○	○				○	○							○				-	-		
24	スミウキゴリ*	○									○	○	○							○	-	-		
25	タカハヤ	○					○		○	○		○	○			○	○					-	-	
26	タモロコ	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-		
27	チチブ	○								○	○							○			-	-		
28	トヨシノボリ	○						○													-	-		
29	トヅヨウ	○					○	○	○	○		○		○	○		○	○	○	○	○	-	-	
30	トンコ	○						○	○	○	○			○	○	○	○					-	-	
31	ナマズ*	○			○	○	○	○			○		○				○	○	○	○	○	-	-	
32	ヌマチチブ*		○		○	○					○										要注目種－ 外来種 (国内外来魚)	-		
33	ヒガソフグ		○							○											-	-		
34	ヒメハゼ*		○	○	○																-	-		
35	ヒラメ		○	○																	-	-		
36	ヒーリンゴ	○								○							○				-	-		
37	ホラ		○	○	○					○	○						○	○			-	-		
38	マハゼ*		○	○	○					○	○					○	○				-	-		
39	メダマ		○	○	○					○	○										-	-		
40	モソゴ	○				○															-	-		

表 2-13 河川水辺の国勢調査結果一覧表（甲殻類）

No.	種名	竹野川						福田川										京都府 RDB	環境省 RDB		
		テンキ 橋		三本木 橋		延利		弁天 大橋 上流		網野橋 上流		角延橋 上流		切畑		弁天 神社		新庄橋 下流			
		夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋	夏	秋		
1	アメリカザリガニ	○	○	○				○	○					○		○		○	-		
2	インマキガイ							○	○										-		
3	カワニナ				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-		
4	クロベンケイガニ	○					○	○						○					-		
5	サカマキガイ			○	○			○											-		
6	サワガニ				○	○				○		○	○						要注目種		
7	スジエビ			○	○			○											-		
8	テナガエビ	○	○				○		○	○				○	○				-		
9	ヌマエビ							○											準絶滅危惧種		
10	マジミ	○		○											○				-		
11	ミゾレヌマエビ							○	○	○	○			○	○	○			-		
12	ミナミヌマエビ	○																	-		
13	モクズガニ	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		準絶滅危惧種		

京都府における生物の絶滅の危険性ランクは以下のとおりである。

表 2-14 京都府レッドデータカテゴリー

カテゴリー	内 容
絶滅種	京都府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅寸前種	京都府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧種	京都府内において絶滅の危機が増大している種
準絶滅危惧種	京都府内において存続基盤が脆弱な種
要注目種	京都府内の生息・生育状況について、今後の動向を注目すべき種および情報が不足している種
要注目種－外来種	京都府内において生態系に特に悪影響を及ぼしていると考えられる種で、今後の動向を注目すべき外来種

資料：京都府レッドデータブック

なお、環境省が策定した、絶滅の恐れのある野生生物のカテゴリーは以下のとおりである。

表 2-15 絶滅の危険性ランク

カテゴリー	内 容
絶滅 (EX)	日本ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種 ・ 絶滅危惧 IA 類 (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性がきわめて高いもの ・ 絶滅危惧 IB 類 (EN) IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

資料：環境省 (<http://www.biodic.go.jp/rdb/> より)

注) なお、上記の表はカテゴリー定義の基本概念のみをまとめている。

## (8) 京都の自然 200 選

京丹後市の植物、動物について既存文献「特集京都の自然 200 選/京都府」のなかで指定されているものについて以下にまとめる。

京都の自然 200 選選定事業は、平成 2 年 7 月に設置された「京都府緑と文化の基金」推進事業の一環として京都府内に所在する優れた自然環境の保全について府民の関心を高めるために取り組まれたものである。平成 3 年 6 月に植物部門 50 点を選定し、平成 4 年 9 月に動物部門 45 点、植物部門（植物群落）5 点、平成 5 年 8 月に地形・地質部門 46 点、平成 7 年 3 月に歴史的自然環境部門 56 点の計 202 点が選定されている。

表 2-16 京都の自然 200 選（京丹後市）

町名	植物部門	動物部門
峰山町	• 縁城寺の「シイ林」	• ヒダサンショウウオ等の生息する磯砂山系の河川上流及びその周辺の湿地帯 • アベサンショウウオの生息する丹後半島
大宮町	• 五十河の「内山ブナ林」	• クマタカの生息する内山山系 • アベサンショウウオの生息する丹後半島
網野町	• 生王部神社の「スダジイ」	• チドリ類が飛来し、微小貝類の生息する琴引浜 • アベサンショウウオの生息する丹後半島
丹後町	• 萬福寺の「文殊のマツ」	• アユ、ヤマメ、アユカケ、カジカガエルなどの生息する宇川流域
弥栄町	• 木橋の「スダジイ（荒神さん）」	• アユ、ヤマメ、アユカケ、カジカガエルなどの生息する宇川流域 • 小動物（トンボ類、カジカガエル等）や野鳥（カッコウ、オオルリ等）の生息する味土野（ガラシャの里）
久美浜町	• 甲山の「ヒシ（おーくのフシ）」 • トウテイラン、ハイネズ群落（箱石砂丘）	• オオハクチョウやコハクチョウの飛来する久美浜湾

出典) 特選京都の自然 200 選/京都府

## (9) 田んぼの生き物調査

2001年から環境省と農林水産省が連携して、田んぼまわりの生物調査（略称「田んぼの生きもの調査」）を実施している。調査内容は、魚類、カエル、水質や水系のつながりなどで、国営農地開発造成地において、整備後3年～20年の団地を対象に行われている。

以下にその調査結果をまとめます。

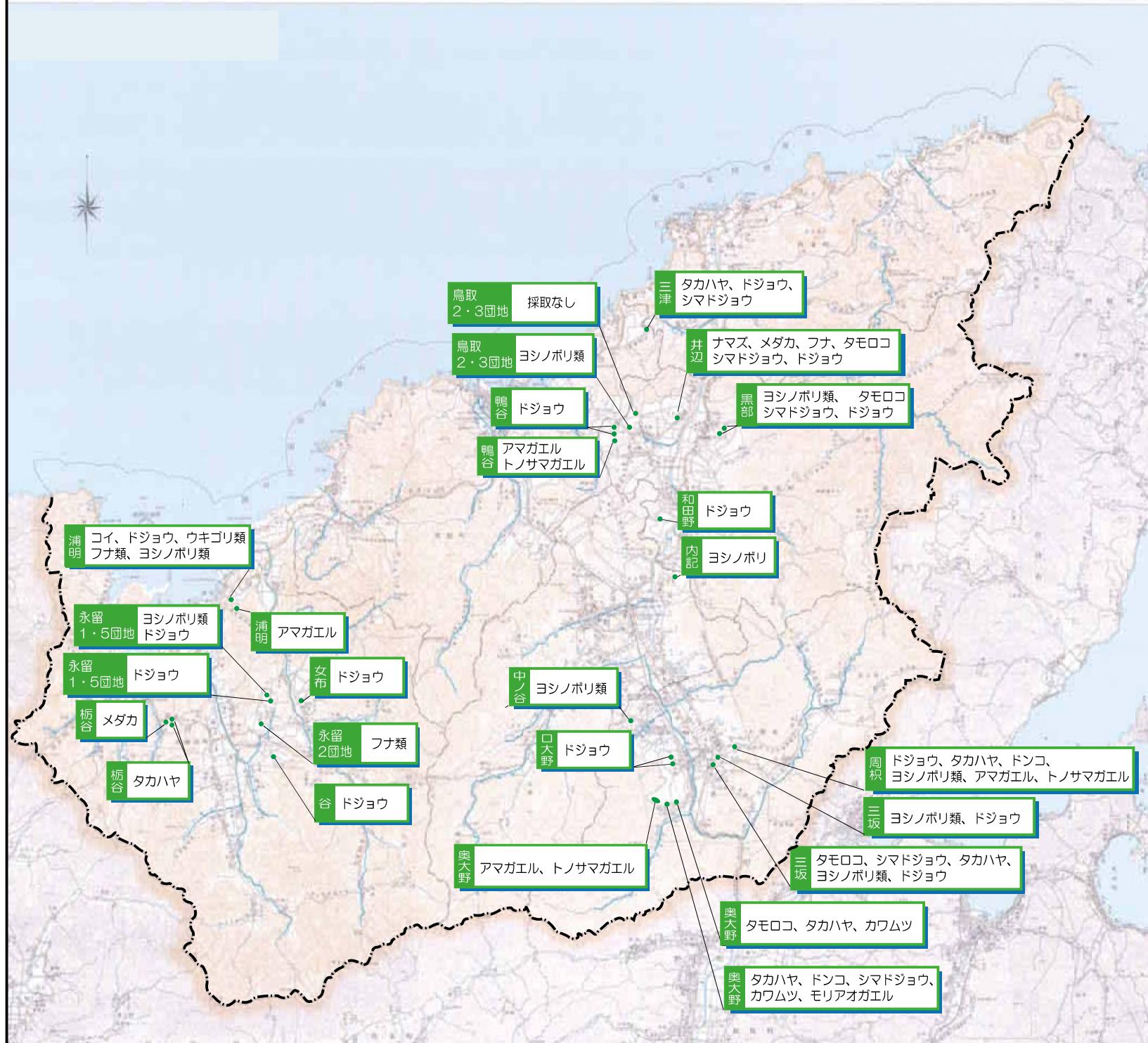
表 2-17 田んぼの生き物調査結果（魚類）

団地名	調査月日	整備経過年数	取水源	調査水路系統	調査道具	水路構造	調査結果
三坂	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	ヨシノボリ類、ドジョウ
周枳	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	ドンコ、ドジョウ
中ノ谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	ヨシノボリ類
口大野	7月上旬	7～9年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
奥大野	7月上旬	7～9年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	タカハヤ
奥大野	7月上旬	7～9年	ダム・ため池	幹線排水路	定置網	コンクリート	タモロコ
三坂	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	幹線排水路	定置網	コンクリート	ドジョウ、ヨシノボリ類、タモロコ、シマドジョウ、タカハヤ
三津	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	タカハヤ、ドジョウ、シマドジョウ
鴨谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
鴨谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
鳥取2・3団地	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	採捕なし
鳥取2・3団地	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	用排兼用水路	タモ網	コンクリート	ヨシノボリ類
井辺	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	幹線排水路	タモ網	コンクリート	ナマズ、メダカ、フナ、タモロコ、シマドジョウ、ドジョウ
黒部	7月上旬	7～9年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ、タモロコ、シマドジョウ、ヨシノボリ類
和田野	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
内記	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	幹線排水路	タモ網	コンクリート	ヨシノボリ
奥大野	6月上旬	7～9年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	タカハヤ、カワムツ
奥大野	6月上旬	7～9年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	タカハヤ、ドンコ、シマドジョウ、カワムツ
周枳	6月上旬	10～20年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	タカハヤ、ドンコ
浦明	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	幹線排水路	タモ網	コンクリート	コイ、ドジョウ、ウキゴリ類、フナ類、ヨシノボリ類
柄谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	支線排水路	カゴ網	コンクリート	タカハヤ
谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
柄谷	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	メダカ
永留2	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	幹線排水路	タモ網	コンクリート	採捕なし
永留1・5	7月上旬	3～6年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
永留1・5	7月上旬	3～6年	ダム・ため池	支線排水路	タモ網	コンクリート	ヨシノボリ類、ドジョウ
女布	7月上旬	10～20年	ダム・ため池	小用水路	タモ網	コンクリート	ドジョウ
永留2	6月上旬	10～20年	ダム・ため池	小排水路	タモ網	コンクリート	フナ類

表 2-18 田んぼの生き物調査結果（両性類）

団地名	調査月日	整備経過年数	非灌漑期の田面状況	採捕された環境	調査結果
鴨谷	7月上旬	10~20年	乾いている	畔	アマガエル、トノサマガエル
奥大野	7月上旬	7~9年	乾いている	畔	アマガエル、トノサマガエル、不明種A
奥大野	6月上旬	7~9年	乾いている	小水路内	モリアオガエル
	6月上旬	10~20年	乾いている	小水路内	トノサマガエル
周枳	6月上旬	10~20年	乾いている	小水路内	アマガエル、トノサマガエル
浦明	7月上旬	10~20年	乾いている	農道(舗装無し)	アマガエル

## 田んぼの生き物調査結果



N  
0 1 2 3 4km  
1:120,000

田んぼの生き物調査とは、環境省と農林省が連携して、2001年から田んぼまわりの生物調査を行っているもの。

調査内容は、魚類、カエル、水質や水系のつながりなどで、本市では国営農地開発造成地において、整備後3~20年の団地を対象に行われている。

## (10) 身近な資源に関するアンケート調査

### ① アンケート内容

身近に見られる生物について、市内の全集落の農会役員等に対してアンケート調査を実施した。

アンケート調査の結果により本市の動物相を把握することは、生物調査として完全なものとはいえないが、住民が身近にいると感じる動物や、現在と過去の傾向の把握に視点を置き、これを整理する。

#### ○ 調査方法および内容

##### ■ アンケート調査

市内の全集落の農会役員等に郵送にて配布。1集落あたり1～3部配布。

配布数：187部 回収数：121部 回収率：64.7%

##### ■ アンケート内容

- ・現在みられる生物（メダカ、トノサマガエル、ホタル類、イノシシ、フクロウ）
- ・子供のころ見られた生物（メダカ、トノサマガエル、ホタル類、イノシシ、フクロウ）
- ・地域で自慢できること、地域おこしに使えそうなこと

## ② アンケート結果（身近な生物）

アンケート調査の結果判明した、本市の身近な生物の特徴を以下に整理する。

表 2-19 アンケート結果（身近な生物）

動物名	結果概要
メダカ	<p>河川敷内の緩やかな流れや池、水田や灌漑用水路に生息する。全国的に減少が著しく、京都府のレッドデータブックでは絶滅危惧種に指定されている。本来どこにでもみられる普通種であったが、全国的に減少し、現在の府内生息地もきわめて限られる。</p> <p>本市では過去には平地部のほとんどで見られていたが、現在では見られる場所が減少している。特に久美浜町の川上谷川や佐濃谷川流域でその減少が顕著にみられる。その他の地域においても、網野町の離湖近辺や大宮町の常吉川、久住川流域の周辺で過去と比較すると減少がみられる。</p>
トノサマガエル	<p>かつては京都府内外で普通に見られたが、環境変化により近年著しく減少している。平地、丘陵地に生息し、4~6月に水田、浅い池などで繁殖するが、近年の水田の減少、水質汚濁などが生存を脅かしている。</p> <p>本市では、市街地以外の主な平地でトノサマガエルが見られており、現在と過去では一部減少がみられるものの、特に大きな変化はみられない結果となっている。</p>
フクロウ	<p>京都府内では個体数は少なくはないが、近年減少している。樹洞のある老木が減少し、また営巣条件として重要なネズミの多い農耕地と営巣木のある社寺林等のセットが、住宅地建設などにより分断されることも繁殖環境の悪化につながっている。</p> <p>本市では過去には平地から山地にかけてフクロウが見られていたが、過去に平地部で見られていたものが現在では減少しており、これは農地や社寺林等の減少によるものではないかと考えられる。</p>
イノシシ	<p>近年農作物への被害が増加し、深刻な問題となっている。</p> <p>過去では市内でも山地部の一部などで見られていたが、現在では山地から市街地に近い平地部にかけての広範囲に渡って見られ、その増加は顕著である。</p>
ホタル類	<p>現在、過去ともに市の広範囲でみられており、特に変化が見られない結果となっている。過去と比較して網野町の海岸部近くで一部減少が見られるが、過去に見られた場所では現在もホタルが見られるところが多い。これは、現在と過去で全く変化がないというよりも、ほ場整備や開発などでいったん減少し、最近になり再び増加してきたため、昔と同じ状況に戻ってきたことが推察される。</p>

## ◇アンケート結果（メダカ）

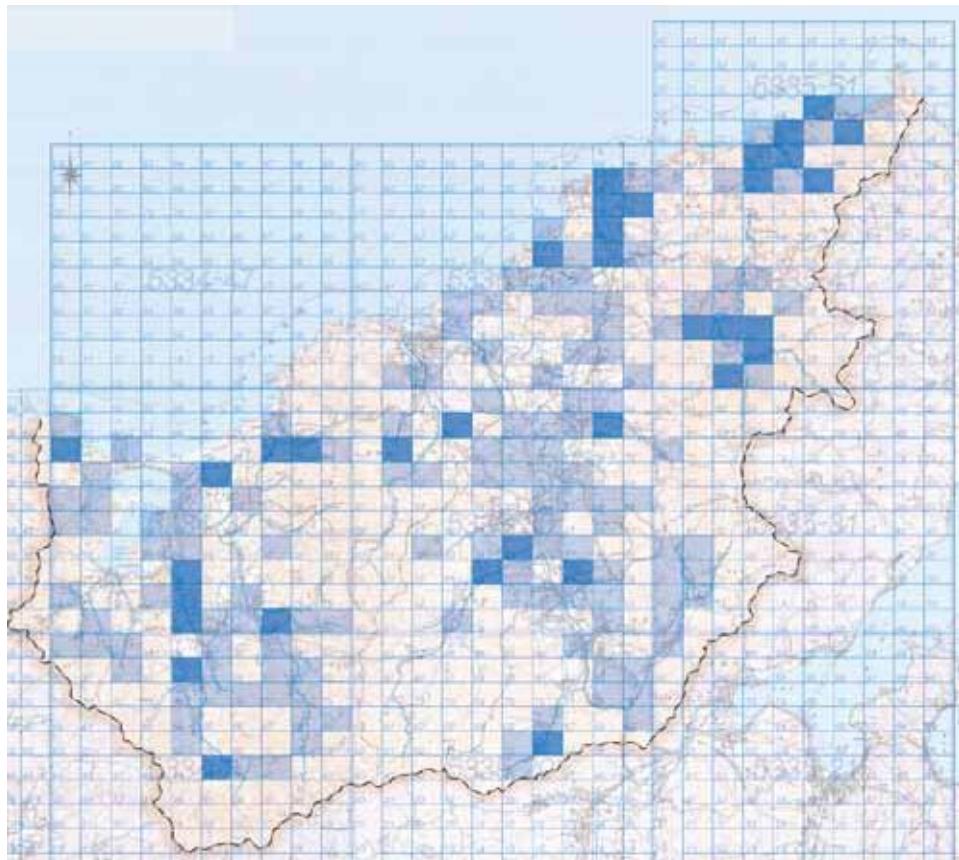


図2-4 メダカ過去

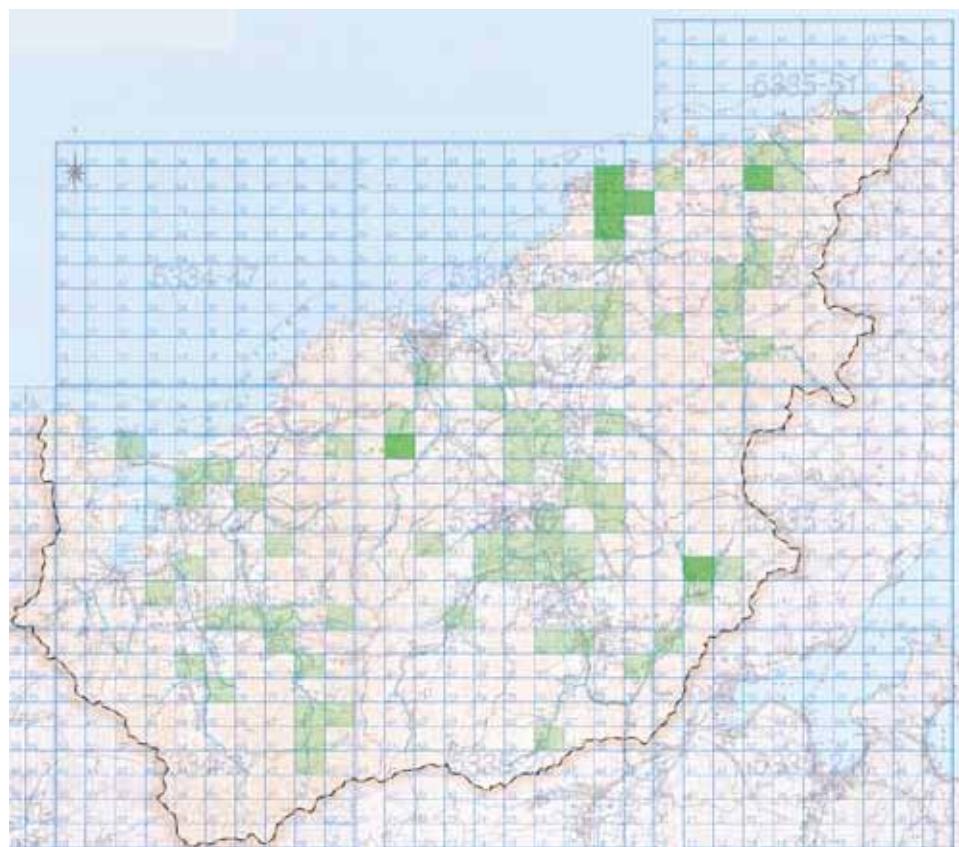


図2-5 メダカ現在

## ◇アンケート結果（トノサマガエル）

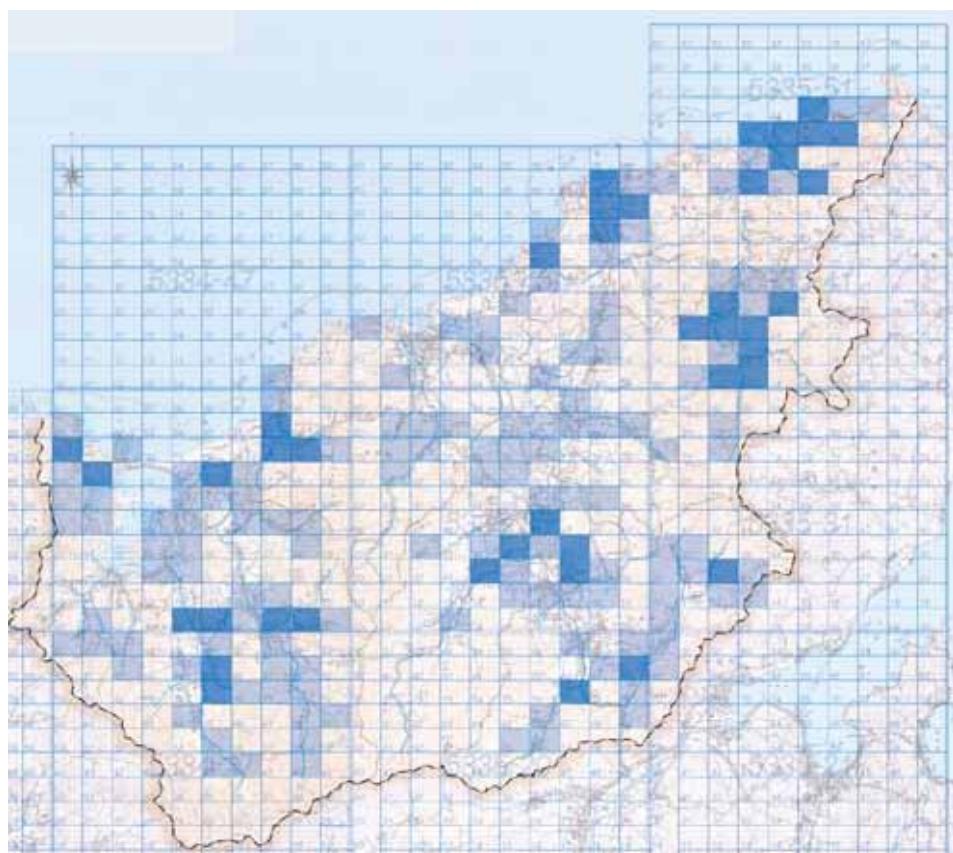


図2-6 トノサマガエル過去

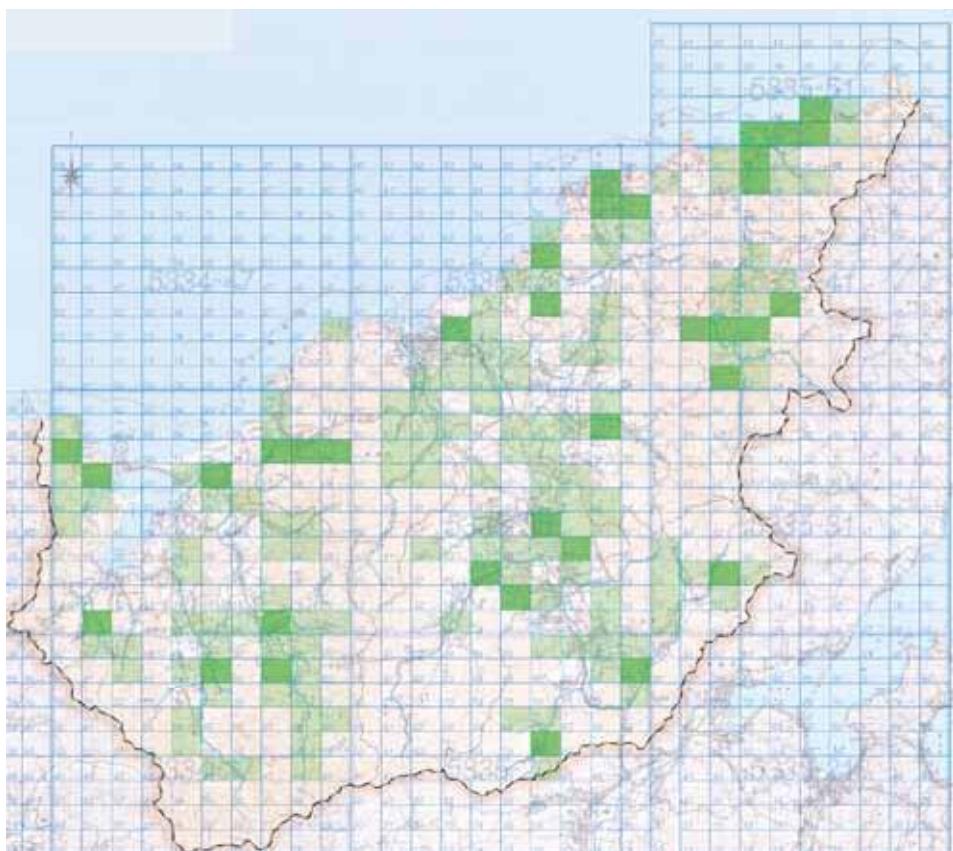


図2-7 トノサマガエル現在

## ◇アンケート結果（フクロウ）

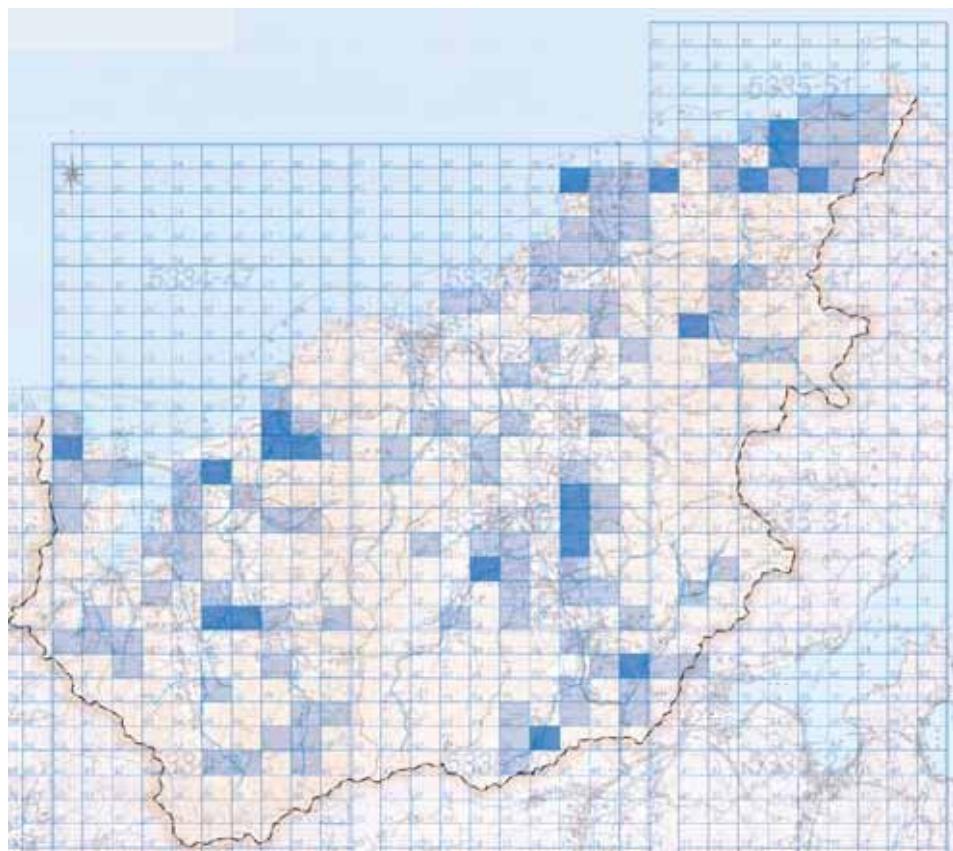


図2-8 フクロウ過去

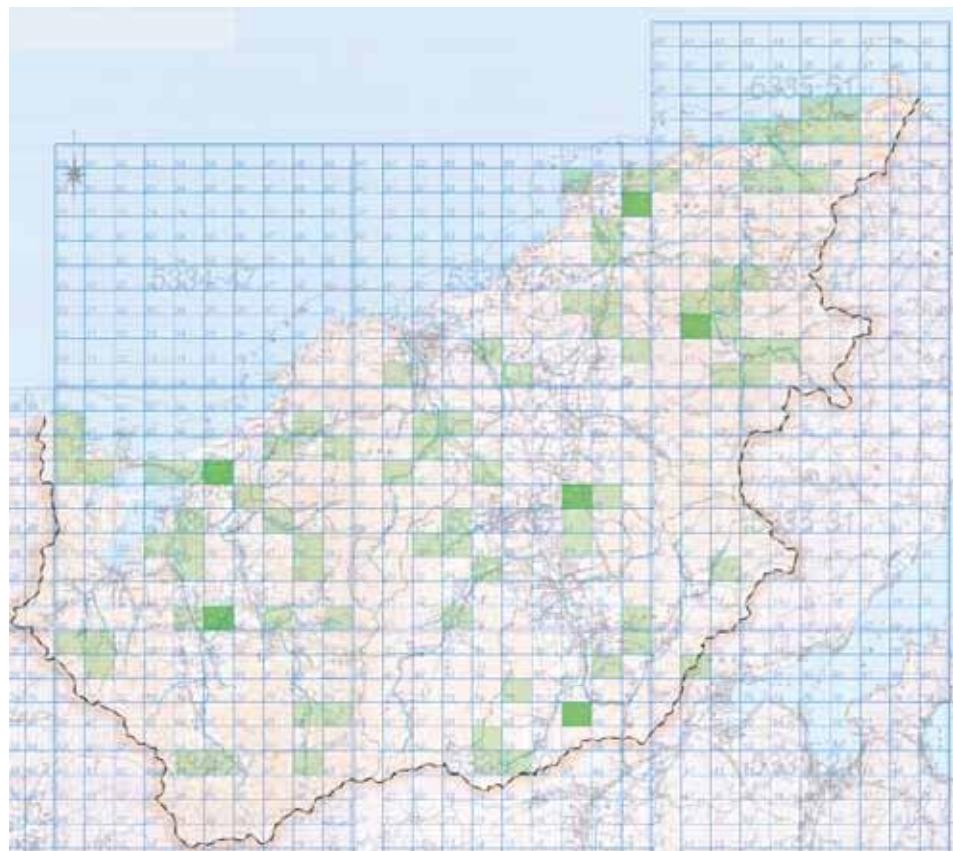


図2-9 フクロウ現在

## ◇アンケート結果（イノシシ）

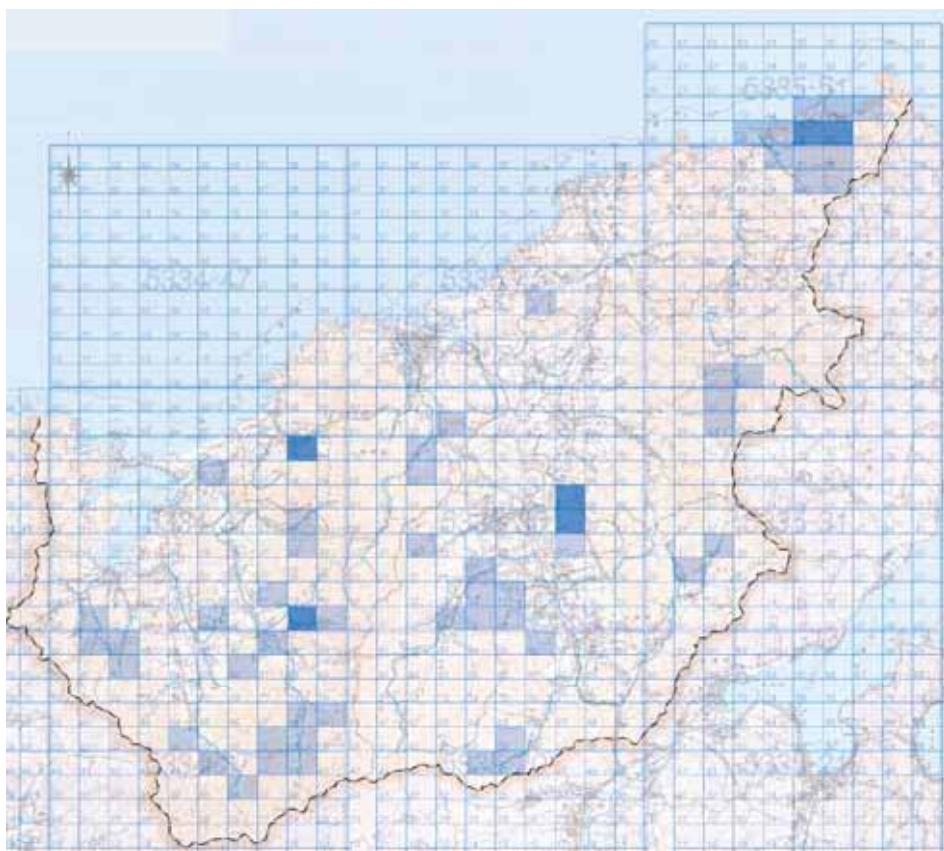


図2-10 イノシシ過去

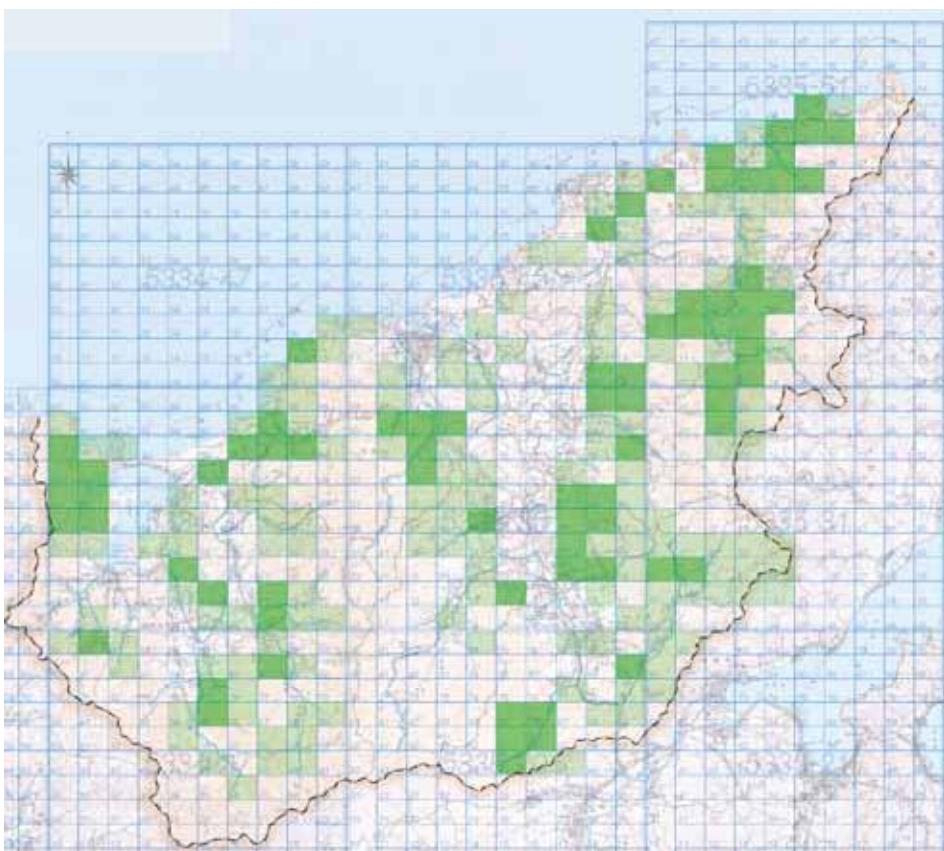


図2-11 イノシシ現在

## ◇アンケート結果（ホタル）

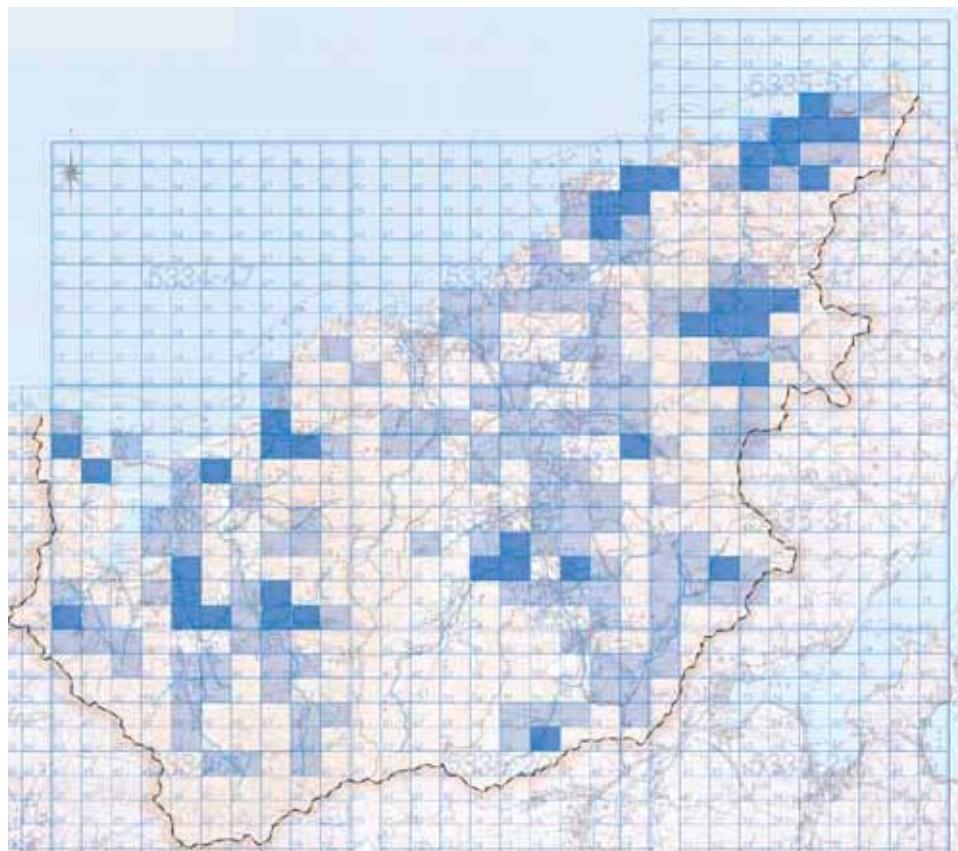


図2-12 ホタル過去

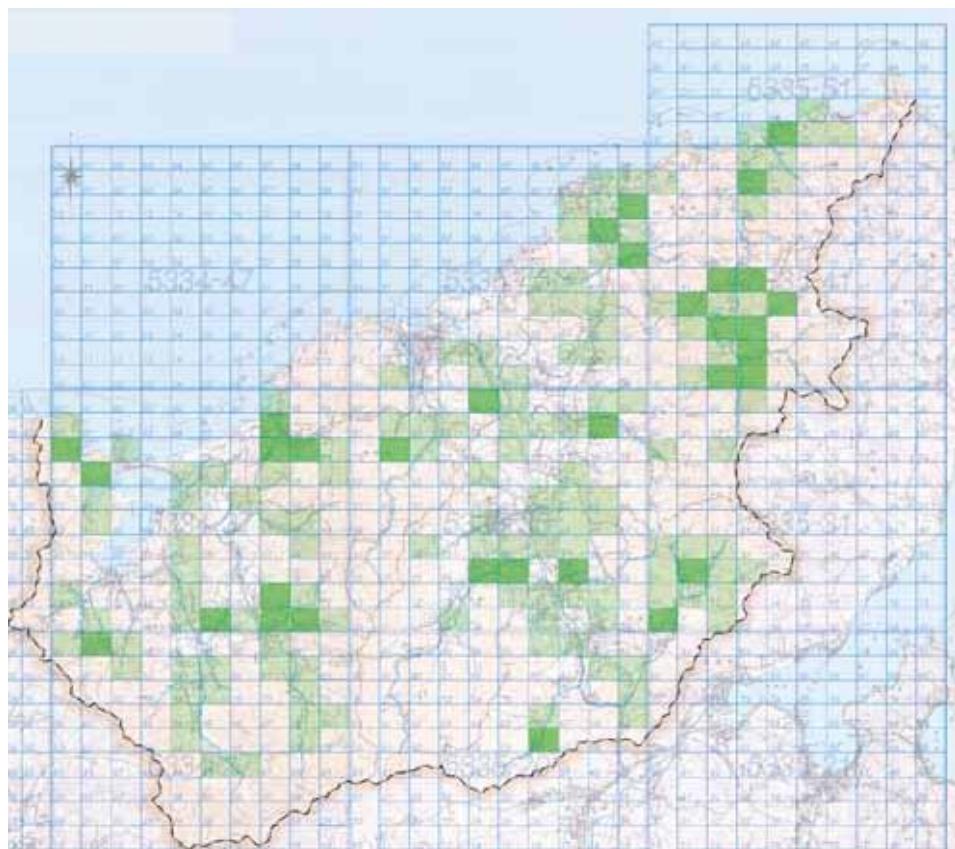


図2-13 ホタル現在

### ③ アンケート結果（地域資源）

アンケート調査の結果判明した、住民が地域で自慢できること、地域おこしに使えそうなことを以下に整理する。

表 2-20 アンケート結果（身近な生物）

分類	結果概要
自然環境・生物・景観等	自然環境では、郷村断層や滝などの資源があげられている。 生物では、ホタルやアベサンショウウオなどの動物、トウテイランや大木などの植物があげられている。 景観では、山などからの眺めや海の眺めなど眺望が多くあげられている。また、丹後松島や公園などの場所も多くあげられている。
歴史・文化財・史跡・祭り・暮らし等	歴史・文化財・史跡については、古墳や寺社などの資源が数多くあげられており、地域住民の歴史・文化財等への関心が高いことが伺える。 また、地域の祭りも多く挙げられており、地域に密着した活動が盛んであることも推察できる。
業・農作物・特産品・加工品・郷土料理等	農産物で最も多く挙げられていたのが、米（コシヒカリ）であり、大変おいしいと自慢出来るものとしてあげられている。野菜では、水菜や里芋、たけのこ、果物ではメロンや桃、梨、加工品ではこんにゃくなどがあげられていた。 自慢できるもの、地域おこしに使えそうなこととして、国営造成農地があげられているのも本市の特徴であると言える。
組織・人・技術等	地域に密着した婦人会や青年会、営農組合等の組織が挙げられている。

## 地域資源に関するアンケート結果



問：自慢出来ること、地域おこしにつかえそうなこと

凡例

- 自然環境・生物・景観等
- 歴史・文化財・史跡  
祭り・暮らし等
- 農業・農産物・特産品  
加工品・郷土料理
- 組織・人・技術等

## (11) 景観

### ① 京丹後市の景観資源

本市は、海に面している地形ゆえに、立岩の自然岩や夕日ヶ浦など、美しい景観資源がある。以下に本市の主な景観資源の概要をまとめる。

表 2-21 京丹後市の景観資源

名 称	概 要
丹後松島	比代から東方、経ヶ岬の方を見る眺めが日本三景の一つ「松島」に似ているので、丹後半島と呼ばれている。「京都百景」のひとつ。
屏風岩	筆石地区の海岸に屏風のようにそびえる高さ 13m もある奇岩で、北西の方にかけて、小さい岩が 5 つほど海に浮かんでいる。
立岩	麻呂子親王の鬼退治伝説のある立岩。周囲が約 1km もあるといわれる、日本でも数少ない自然岩のひとつであり、リアス式海岸で奇岩の多い丹後町でもシンボル的存在である。
袖志の棚田	棚田の枚数は約 400 枚。そこからは青い海を見渡すことができる。海と里山と集落が調和した美しい景観が評価され、「日本の棚田百選」にも選ばれている。
夕日ヶ浦	網野町で最も美しい夕日を見ることができる。水平線の彼方に沈む夕日は奇岩のシルエットと打ち寄せる波とのコントラストを美しく演出してくれる。
磯砂山	標高 661m、峰山の最高峰で、大江山・天橋立・小天橋が一望できる。頂上には、天女モニュメントが設置されている展望台「てんてん広場」があり、すばらしい景色が疲れを癒してくれる。
経ヶ岬灯台	丹後半島の先端、海拔 140m の断崖に立つ経ヶ岬灯台は「京都百景」に選ばれた景勝地。明治 31 (1898) 年 12 月 25 日に初点灯。レンズは全国で 6 灯台しかない最高級の第 1 等レンズを使用している。

資料：海・山・憩 京丹後市観光パンフレット 旅の達人



図2-14 丹後松島



図2-15 屏風岩



図2-16 立岩



図2-17 磯砂山



図2-18 経ヶ岬

写真引用) 特集京都の自然 200 選/京都府

## ② 農村景観

市内には、「日本の棚田百選」（平成 11 年）に選ばれた袖志の棚田（丹後町）や、平野部一面に広がる田や砂丘農業など、農業地域特有の景観がある。

袖志の棚田は、丹後半島突端の経ヶ岬から国道 482 号線から 3km ほど西方に位置し、棚田枚数は約 400 枚である。棚田からは、青い海を見渡すことができる。



図2-19 袖志の棚田



図2-20 袖志の棚田の稲刈り後の風景



図2-21 平野部に広がる田（弥栄町）



図2-22 砂丘農業（久美浜町秦宮町付近）

市内の集落は、住宅前に水路が流れ、住宅の基礎部分が石積みで築造されている景観が見られる。



図2-23 住宅前の水路（峰山町長岡付近）



図2-24 住宅の石積みと植栽（峰山町長岡付近）

## 景観写真位置図



### 2.1.3 社会環境

#### (1) 地域指定

##### ① 都市計画区域の指定

本市は総面積が 50,183ha であり、うち都市計画区域面積はその約 16%の 8,058ha が指定されている。なお、都市計画区域は合併以前の旧町の合計であり、現在見直し中である。

##### ② 環境に関する地域指定

本市の海岸線一帯は、丹後町の海岸線が若狭湾国定公園に、久美浜町、網野町の海岸線が山陰海岸国立公園の指定を受けている。

なお、国立公園とは、日本のすぐれた自然の風景地を保護するとともに（美しく特色のある海中の景観を含む）、その利用の増進を図り、国民の保健・休養・教化に資することを目的としている。国立公園は自然公園制度という体系の中に含まれる制度で、自然公園には国定公園と都道府県立自然公園も含まれる。国立公園の行政的管理責任者は環境省であり、国定公園は都道府県である。自然公園の概要を以下にまとめる。

表2-22 自然公園の概要

自然公園名	概 要
若狭湾 国定公園	<p>福井県と京都府にまたがり、福井県敦賀市（気比の松原）から丹後半島つけ根の京都府岩滝町に至る 75 km の海岸と、京都府の伊根町（青島）から網野町（小浜 海岸）に至る 45 km の海岸からなる公園。</p> <p>若狭湾は、複雑な入り江を有する沈降海岸が発達した典型的なリアス式海岸で、屈曲が多く、断崖、洞門、洞窟、岩礁などの風景要素に加えて、御神島、蒼島、冠島などの原始的な島嶼も点在させ、優れた海の景勝地ということができる。</p> <p>天ノ橋立は日本三景の一つ、延長 3 km、幅 150m の白砂青松の砂洲である。内浦湾の先端の音海の海食崖は、高さ 260m および、この公園の一つの呼びものとなっている。</p> <p>内外海半島の蘇洞門は花崗岩の岩壁で、洞門、洞窟が続き、これもまた、この公園のハイライトになっている。</p> <p>三方五湖は沈水したかっての溺れ谷で、現在は砂嘴や砂丘の発達によって潟湖と変じ、浦見川、嵯峨暗渠の開削によって五つの湖がつながっており、近くの梅丈岳（395m）は絶好の展望台となっている。</p>
山陰海岸 国立公園	<p>本公園は、東は京都府の網野海岸から西は鳥取県の鳥取砂丘までの延長 75km に及ぶ海岸線を中心に指定された公園である。海岸の大部分は山地が直接海に接する沈降海岸で海食崖・海食洞・岩礁などが著しく発達し、一部には海食で生じた砂や河口から運ばれた砂が砂質海岸を形成している。</p> <p>植生は大部分が二次林で自然林は島や岬の先端部などに限られるが、砂丘では飛砂・酷暑に耐えられる特有な植物も見られる。動物では海鳥類がよく観察できる。</p> <p>また、海中公園地区では起伏に富む海中地形や海藻類の群落が特筆される。</p> <p>利用形態は、ドライブ・遊覧船による海岸景観の観賞・海水浴・味覚探訪などが主なものである。</p>

資料：「生物多様性情報システムホームページ 日本の自然保護地域」より

<http://www.biodic.go.jp/jpark/jpark2R.html>

自然公園については、さまざまな行為を規制し、その風致景観を保護するため、各種の許可・届出が必要となっている。

③ 国際的な措置

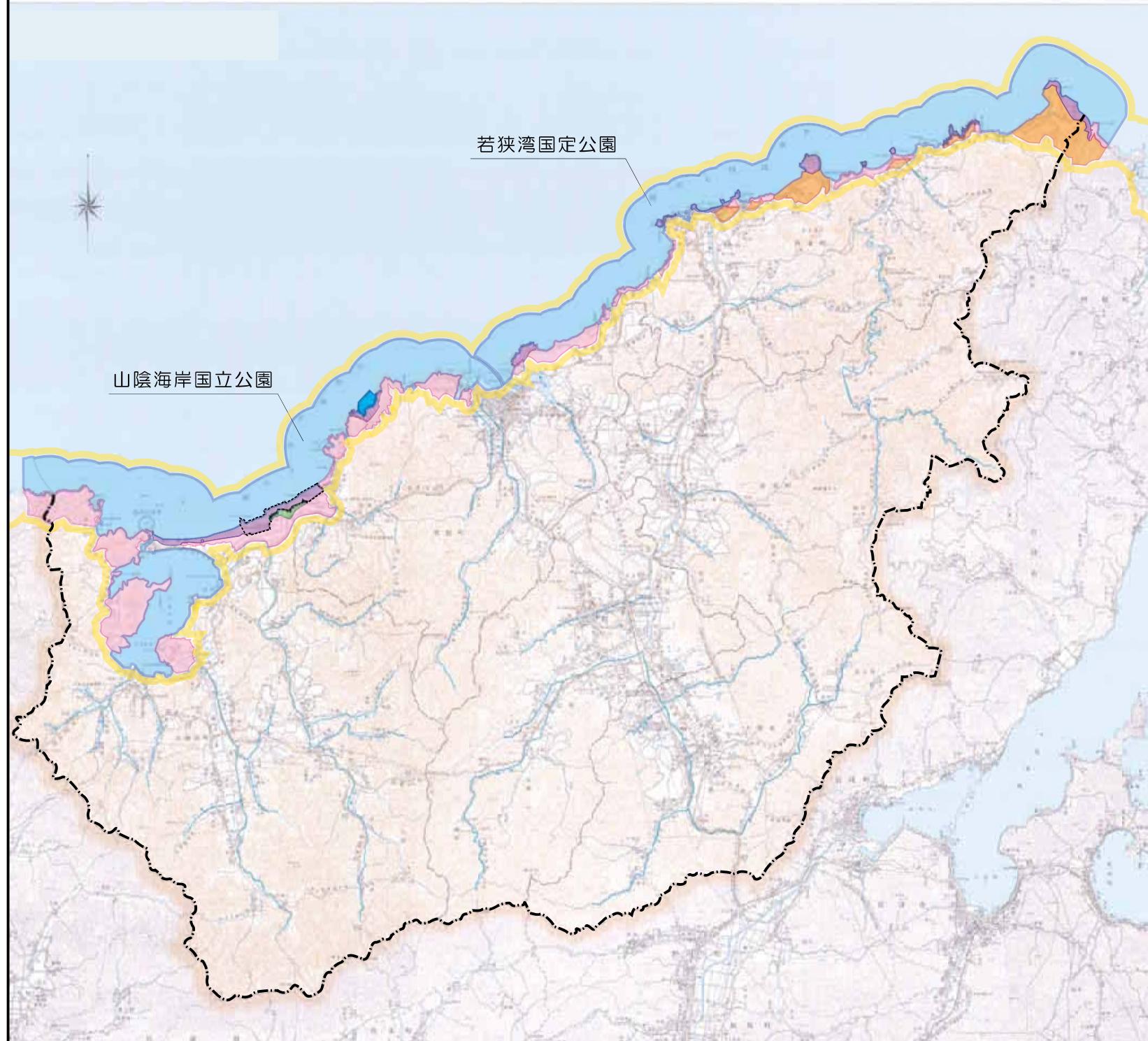
ラムサール条約等、環境に関する国際的な措置には該当していない。

④ 鳥獣保護区指定

市内の久美浜湾、兜山、網野離湖、丹後あじわいの郷、権現山、碇高原、弥栄町スイス村が鳥獣保護区に指定されている。

如意寺山、網野町網野、丹後町竹野川、峰山町杉谷、京丹後市中部などが銃猟禁止区域に指定されている。なお、久美浜町のほぼ一体がメスジカ狩猟可能地域に指定されている。

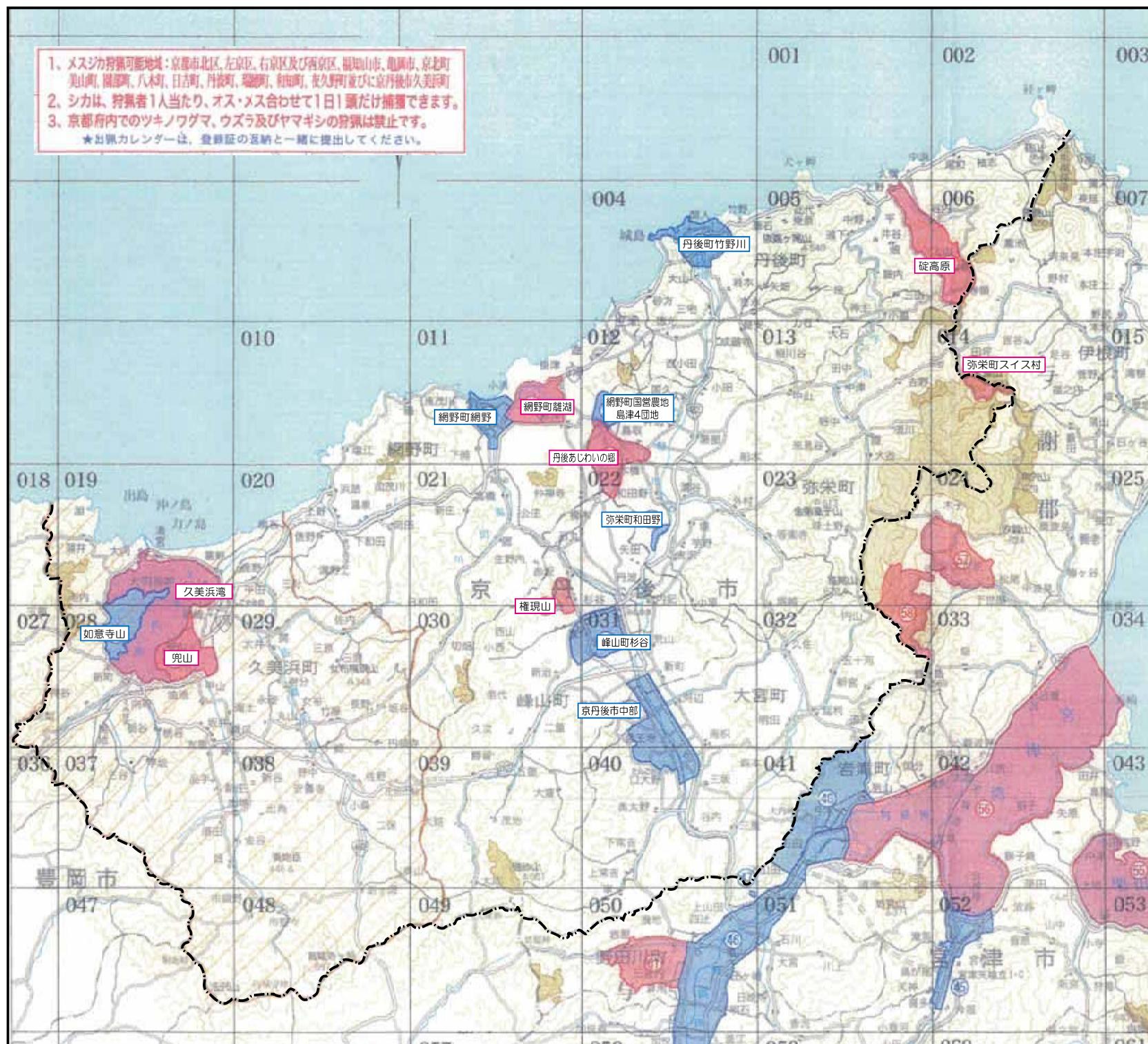
## 指定公園位置図



凡例

- 市町村界
  - 公園区域
  - 第一種特別地域
  - 第二種特別地域
  - 第三種特別地域
  - 海中公園地区
  - 普通地域
  - 車馬の使用等が制限される区域

## 鳥獣保護区等位置図



N  
 0 1 2 3 4km  
 1:120,000

### 凡例

	鳥獣保護区
	特別保護地区
	休耕区
	競獵解禁区域
	船釣弾規制区域
	天然記念物指定地
	オリエンテーリングパーマネントコース区域
	メスジカ狩猟可能地域
	国有材
	官行造林地

## (2) 地域指標

京丹後市の総人口は減少傾向にあり、平成 17 年現在（国勢調査速報値）で 62,724 人となっている。世帯数は、20,965 世帯で年々増加傾向にあるが、これは核家族化や単身世帯の増加などにより一世帯当たりの人員が減少しているためと考えられる。

表 2-23 人口の推移

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年 (国勢調査 速報)	将来人口推計		
					平成22年	平成27年	平成32年
峰山町	14,387	14,026	13,564	13,259	12,743	12,289	11,703
大宮町	10,291	10,416	10,805	10,757	11,022	10,813	10,525
網野町	17,269	16,696	16,056	15,361	14,481	13,586	12,611
丹後町	8,042	7,607	7,164	6,545	6,286	5,873	5,453
弥栄町	6,275	6,125	6,132	5,705	5,807	5,494	5,146
久美浜町	12,821	12,338	11,857	11,097	10,849	10,251	9,665
計	69,085 (100%)	67,208 (97.3%)	65,578 (94.9%)	62,724 (90.8%)	61,188 (88.6%)	58,306 (84.4%)	55,103 (79.8%)

資料：国勢調査・市資料、将来人口推計：国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部  
平成 15 年 12 月推計（速報値・確定値は未発表）

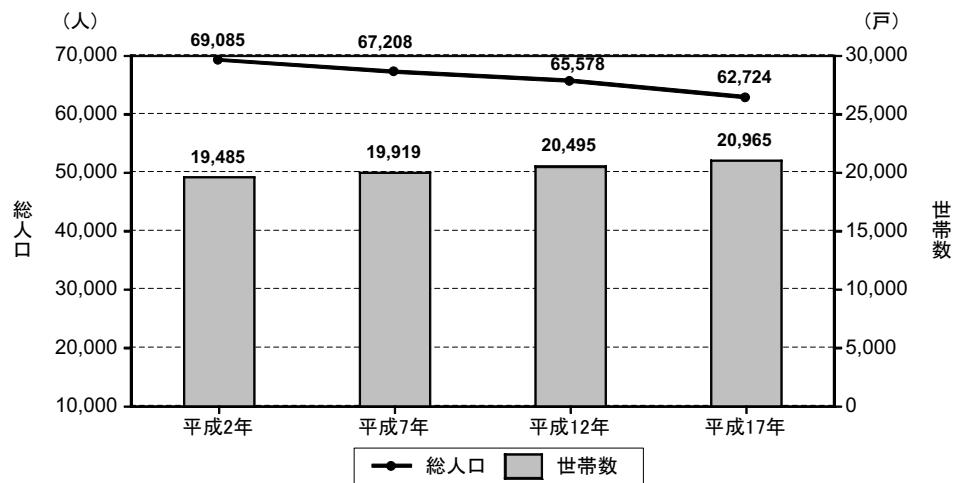


図2-25 人口と世帯数の推移

### (3) 交通網

本市は、市中心部の峰山町から首都圏まで電車・新幹線を利用しても 5 時間以上、京都市までは車でも 2 時間半以上かかり、アクセスの強化が大きな課題の一つとなっている。

広域道路としては、京都縦貫自動車道と連絡する鳥取豊岡宮津自動車道（宮津網野道路（仮称）の整備計画があるが、現在、宮津野田川道路の計画が進められており、本市での早期着手が望まれている。

主要幹線としては、国道 178 号、312 号、482 号が市内を環状に走り、これを補完する形で、主要地方道及び府道が連絡している。

公共交通機関については、京阪神方面への主要なアクセスとなっている北近畿タンゴ鉄道が整備されており、JR線に接続の上、京都・大阪方面へ直通特急が運行されているが、利用者数（乗車人員）は減少する傾向にある。

また、路線バスについては、民間の丹後海陸交通が定期路線バスを運行しており、久美浜及び弥栄の一部地域は、市営バスを運行している。



#### (4) 地域資源

本市には数多くの地域資源があり、以下にその概要をまとめる。

表 2-24 京丹後市の地域資源(1/3)

町名	名称	内容
峰山町	ヒダサンショウウオ等の生息する磯砂山系の河川上流やその周辺の湿地帯	磯砂山系の河川上流の渓流及び湿地帯は、ヒダサンショウウオやアマゴが生息し、豊かな自然が残っている貴重な地域である。
	權現山	權現山は、古くから丹後地域一帯の人々に農耕の神としてあがめられてきた。室町時代には一色家、細川家などの武将の山城が築城されるとともに藏王權現がまつられたため、權現山と呼ばれている。山頂には曲輪の跡や金峰神社奥宮があり、府歴史的自然環境保全地域として人々に親しまれている。
	縁城寺の「シイ林」	縁城寺の境内地に広がる樹林には、シイの古木、巨木が群生している。地上 1.3m の高さにおいて幹周 5.8m のものが最大で、多数の巨樹が生育。地域の象徴として人々に愛され、自慢の樹林となっている。
大宮町	五十河の「内山ブナ林」	丹後半島最高峰の高山を含む内山山系の府内有数のブナ林。幹周 3.6m というブナの大木がある自然林は、自然愛好会や緑の少年団の自然観察などにも利用されており、このほか 100 種を超す樹木、それに倍する山野草、そして 89 種の野鳥も確認されている。
	クマタカの生息する内山山系	内山山系には数少ない大型猛禽類として貴重なクマタカが生息しており、ブナ林の分布域であることと併せ、その豊かな自然を象徴している。
	大野城趾（大野神社）	大野神社は、明治時代に、豊臣家の家臣であった大野道犬居城跡（大野城趾）に遷宮されたものである。 境内は、シイの巨樹をはじめ、タブノキ等の常緑広葉樹に、ケヤキ、ナラ、シデなどの落葉広葉樹が混交する林となっており、人々が心ゆくまで自然とふれあうことのできる憩いの場所である。
	アベサンショウウオの生息する丹後半島	アベサンショウウオは丹後半島の固有種であり、しかも浅い溜水に産卵するためその分布域が限定され、府の天然記念物にも登録されている貴重なものである。
網野町	生王部神社の「スダジイ」	網野町の生王部神社境内に生育するスダジイ。樹齢 300 年、幹周 6.9m、樹高は 8m と町内では他に類をみない巨樹老木である。森を背後にする神殿脇にどっしりとたたずみ、古くから神木として崇拝してきた。
	離湖	離湖は湾や入江が長年にわたる沿岸流（潮の流れ）や風の作用等により土砂で外海と分離された湖で、潟湖または潟と呼ばれるものである。平水時面積は 0.36km <sup>2</sup> で、府内最大の淡水湖である。湖底には大型の淡水貝が生息し、湖岸にはヤナギ類が繁茂し、冬季にはカモ類が飛来する等自然豊かな湖である。
	郷村断層	郷村断層は昭和 2 年 3 月 7 日、丹後地域北西部に発生したマグニチュード 7.4 の北丹後地震の際に生じ、落差約 60cm、横ずれ約 2.6m の断層が約 18km にわたって発生した。被災箇所はその後復興されたが、この断層は垂直及び水平のずれが顕著であるだけでなく、花崗岩を切断し、岩盤に鏡肌や擦痕をつくっていることから、地質学上大変珍しく貴重なもので、地震の記憶をとどめる記念碑として、今も町内の郷や生野内の集落内に当時のまま残され、国の天然記念物にも指定されている。

出典) 特集京都の自然 200 選/京都府

表 2-25 京丹後の地域資源(2/3)

町名	名称	内容
網野町	琴引浜	琴引浜は、若狭湾国定公園に含まれる全長 1.8km の美しい砂浜である。網野砂丘の一部で、浜を歩くとキュッキュッと音がする「鳴き砂」で良く知られている。 また琴引浜はシロチドリやコチドリ等チドリ類が飛来し、約 900 種類の微小貝や有孔虫が生息しており、後背地には砂丘植物が帶状に分布するなど、貴重な自然が残されている。
丹後町	丹後の海岸地形（城島、立岩、筆石海岸段丘、屏風岩、犬ヶ岬、丹後松島）	小間港の入り口に浮かぶ小島「城島」、周囲が約 1km あるといわれる柱状節理の玄武岩の岩塊「立岩」、日本海が迫る断崖上に棚状の田畠が広がる「筆石海岸段丘」、屏風を立てたような「屏風岩」、犬が寝そべっているように見える「犬ヶ岬」、多数の海蝕島からなる「丹後松島」など丹後半島の沿岸一体は長い年月にわたる風雨と波浪に浸食され、変化に富んだ美しい海岸地形を形成している。
	萬福寺の「文殊のマツ」	丹後町の袖志地区と尾和地区の中間の日本海に面した安山岩の 10m あまりの絶壁の上に、通称穴文殊と言われる萬福寺の境外仏堂がたたずみ、その参道に見事なクロマツの古木がざらりと生い茂っている。近年、丹後半島一帯のクロマツは松食い虫の被害がひどく、地元では薬剤散布や土質改良など並木の保全活動に努めている。
	上山寺	上山寺は、町の東部山間に位置しており、奈良時代に創建されたといわれる、町を代表する古寺のひとつである。境内には、宝篋印塔や多数の石塔、石仏を有している。また、28坊あるといわれた寺の周辺の坊跡や門の跡と伝えられる地にも、優れた石造物が多数あり、自然と歴史が溶けあつた空間として、人々に親しまれている。
	アユ、ヤマメ、アユカケ、カジカガエルなどの生息する宇川流域	宇川はアユ、ヤマメ、カジカガエルや府登録天然記念物のアユカケ等の清流に生息する魚類、両生類が生息している自然豊かな流域である。
弥栄町	野間谷峡谷	丹後半島の中央部に広がる標高 400～600m の山岳地帯にある野間谷峡谷は、日本海へ流れる竹野川流域の平坦部とは急峻な断層崖で分断されている。丹後半島森林公園（スイス村）のある頂上部や、味土野大滝をはじめとする浸食地形で構成される山腹部などはすばらしい自然景観を呈するとともに、小動物の生息地としても豊かな自然を残している地域である。
	小動物（トンボ類、カジカガエル等）や野鳥（カッコウ、オオルリ等）の生息する味土野（ガラシヤの里）	本地域には、アキアカネ、オニヤンマ等 40 種を数えるトンボ類やカジカガエル、モリアオガエル等の両生類も数多く生息している。また、広範囲にわたって自然林が残され、カッコウ、オオルリ、ウグイス等多種類の鳥類が生息するなど豊かな自然に恵まれた地域である。
	木橋の「スダジイ（荒神さん）」	弥栄町木橋におよそ 500 年の歳月を生きてきたスダジイ。幹周 7.9m でシイの木としては府内第 1 位の巨木である。集落を見渡す高台にあり、古来より荒神さん（かまどの神様）の神木として地域信仰の対象となり大切にされてきた。今や台所からかまどはなくなり、巨樹や古木が次々と姿を消すが、地域の守護神としてこの古木は、現在も自然の大切さを語り継いでいる。

出典) 特集京都の自然 200 選/京都府

表 2-26 京丹後市の地域資源(3/3)

町名	名称	内容
久美浜町	大明神岬	大明神岬は、久美浜湾の中央部に突き出た岬で、丘に抱かれた円塚は、丹波道主命の古墳と伝えられ、多数の陪塚を伴っている。標高 20m 程度の海岸段丘地形が広く発達し、湾景の中では最も美しく、古来からその風光の美をたたえられてきた。
	オオハクチョウ、コハクチョウの飛来する久美浜湾	久美浜湾は砂州（小天橋）により日本海と隔てられており、冬場でもおだやかな水面を保っている。また、比較的水深も浅くエサとなる水草も多いため、オオハクチョウやコハクチョウをはじめ多くの冬鳥が飛来し、冬の風物詩となっている。
	小天橋	久美浜町の湊宮から箱石、網野町の浜詰にかけては日本海に面して延長 7km の砂浜が続き、日本海と久美浜湾を分ける砂州となっている。美しい砂浜は多種類の海浜植物の宝庫であり、また、葛野浜を中心に久美浜湾の成因（古砂丘と火山灰と新砂丘で構成されている）を示す堆積物が分布しており、層序の良く分かる露頭を見ることができる。
	トウテイラン、ハイネズ群落	貴重な海浜植物が自生する山陰海岸国立公園の中にあって、箱石浜の砂丘に群生するトウテイランは、全国的にも珍しく貴重なものであり、地元の人々の誇りとなっている。また、クロマツ林の中に広がるハイネズの群落は、府内の他地域では見られない程の規模であり、学術的にも貴重なものである。
	兜山	兜山は府内では珍しい流紋岩の溶岩からできている溶岩円頂丘（トロイデ）で、その特徴である鐘型（兜状）の形を良くあらわしている。山中からはそろばん玉石と呼ばれる玉ずい、石英、たんぱく石から成る白いそろばん玉の形をした鉱物（直径 1~5cm）を産出する。山頂には熊野郡の名の起源である熊野神社がまつられ、古来、兜山は御神体として崇められている。山の中腹や標高 191.7m の山頂からは美しい久美浜湾を一望できる。
	甲山の「ヒシ（おーくのフシ）」	久美浜町宇甲山にあり、町内最大の沼に 5ha に及んで広がるヒシの群生。沼は地域の憩いの場で、コイやフナ、ナマズを釣る人や船を浮かべてヒシを採取する姿が見られる。春にはヒシが美しい花を咲かせ、近年観光に訪れる人も数多い。地域の人々に「おーくのフシ」として親しまれているヒシは、背景の兜山とともに、久美浜町のシンボルとして今に引き継がれている。

出典) 特集京都の自然 200 選/京都府



図2-26 内山のブナ林



図2-27 生王部神社の「スダジイ」

写真引用) 特集京都の自然 200 選/京都府

## (5) 観光・レクレーション

本市には温泉や、キャンプ場、古墳、公園など多くの観光資源があり、以下にその概要をまとめる。

表 2-27 京丹後市の観光資源(1/2)

名 称	概 要
森林公園 スイス村	森林公園スイス村は、標高 683m の太鼓山を中心とした広大な敷地に、キャンプ場・テニスコート・高原広場などを備えた、四季を通じて自然を満喫できる高原リゾート。
風のがっこう 京都	環境教育を受けるための施設。伊根湾や網野町、丹後町などの丹後半島を一望することはもちろん、空気の澄んだ日には、能登半島の先端や福井県などを見渡すことができる。
平海水浴場	美しい景色が広がり、水質もよく、安全で家族に人気の海水浴場として京都府の中でも有名なビーチ。
古代の里資料館	縄文・弥生・古墳時代に分けて、石器・土器・勾玉や鏡類を常設展示。また丹後の民族、鬼退治伝説なども紹介している。周辺には竪穴式住居や高床式倉庫も復元され、土器・陶器づくり体験なども実施。美しい展示空間の中で古代世界が体感できる。
細川ガラシャ夫人の碑	細川忠興の妻、ガラシャが本能寺の戦禍から逃れ、この山深い味土野に隠棲した。数奇な運命に彩られ、夫忠興のために殉じて果てた夫人の生涯は、戦国の世に咲いた一輪の花として現在に語り継がれている。
碇高原	標高 400m の高原一帯が牧場とレジャー施設になっている。展望台・キャンプ場・コテージ村・ステーキハウス・牛の資料館など施設が盛りだくさん。ステーキハウスでは、厳選された京都牛、京都ワインが人気。
山村交流体験センター せせらぎ	標高 170m、杉林を背景に建てられた山村体験交流センターは、ロッジ風の木造三階建て。

資料：海・山・憩 京丹後市観光パンフレット 旅の達人

表 2-28 京丹後市の観光資源(2/2)

名 称	概 要
琴引鳴き砂文化館	「琴引浜の自然」や「鳴き砂の歴史」、「世界・日本の鳴き砂」を紹介。自然がつくりだした鳴き砂という偉大な財産を実感できる。
豪商稻葉本家	明治 18 (1885) 年から 5 年の歳月をかけて建てられた屋敷を改修し、現代によみがえらせたもの。米蔵を改修した体験工房では陶芸やお香を楽しめる。
静神社	源義経の愛妾・静御前の木像を祀っている。磯の集落の西はずれにある静神社は、リアス式の切り立った崖に建ち、小さな社が哀れさを誘う。社の前方にきらめく青い海と、よせては返す波しぶきが岩礁に砕け散る様は、静御前の悲しみを洗い流すかのよう。
大宮ふれあい工房	陶芸と染色が初心者でも気軽に体験できるアーツスポット。陶芸実習室では、土練りから手回しろくろを使った成型、絵付けまでを体験することができる。また、染色実習室では、伝統的な染色が気軽に体験できる。
平地地蔵	上常吉の平地峠に鎮座する府下最大の石地蔵。高さは 5.3m。また、右の頬にあざのような黒点があることから「あざあり地蔵」とも呼ばれ、信仰を集めている。
金刀比羅神社	文化 8 (1811) 年、時の峰山藩主・京極高備が讃岐の金毘羅権現の分霊をお迎えしたことに始まる。商いの町・峰山を反映して商売繁盛や縁結び、受験の神様としても親しまれている。
大宮壳神社	町名の由来となっている古社。「丹後二の宮」として厚い信仰を集めている。境内には国の重要文化財に指定された 2 基の石灯籠がある。
縁城寺・橋木觀音	養老元 (717) 年の創建と伝えられる縁城寺は、丹後でも有数の古刹である。国の需要文化財の「宝きょう印塔」「千手觀音像」などが安置されている。

資料：海・山・憩 京丹後市観光パンフレット 旅の達人

表 2-29 京丹後市の祭り

名 称	概 要
百度打ち	2月の第1日曜日 10月10日 江戸時代から伝わる伝統行事。冬の寒いなか、褲姿の若者が、間人港で身を清めた後、威勢のよい掛け声とともに3社を巡り、無病息災、家内安全を祈願する。また、10月10日には、1年間のお礼参りを行う。丹後町。
間人みなと祭り	7月25日 元来は、漁師の大漁と海上安全を祈願するための祭りであったが、昭和25年、間人町制30周年を記念して、地域の夏祭りとなった。現在では間人地区内の宝船が菓子や餅を撒きながらパレードを行いにぎわう。
水無月祭	7月30日 河川の下流にある社をまつる行事で、別名「かわすそ祭」とも呼ばれる。浅茂川地区内から海岸まで御輿が巡行。その後、八丁浜にて海上渡御を行い、イベントとして、浦島太郎と乙姫の亀御輿も登場する。網野町。
ちりめん祭り	4月上旬 地場産品「丹後ちりめん」のより一層の振興と発展を願い開催。丹後ちりめんの新作発表会や展示即売、パレードなどの様々な催しが行われている。
竹野川水系万灯	8月14日 大宮の夏の風物詩。久住川や竹野川に沿って置かれた無数の火が、暗闇の中に炎の帯を描き出す。もともと、作物などの害虫を除くための「虫送り」や、先祖の精霊を送るための「送り火」の行事として伝えられてきた。
大宮壳神社例祭	10月上旬 氏子により、神輿、雅楽、笛ばやし、神樂、三番叟、太刀振りの順に奉納される。なかでも三番叟は最も古式を伝える伝統芸能で、7歳から12歳までの少年3人が翁の役まわりを演じる、狂言風の格調高い演舞。大宮町。
千日会観光祭	8月9日 この日に参詣すると、千日分の御利益があるといわれる如意寺の本尊をお祀りする祭り。かぶと山の大文字の火入れ、打ち上げ花火、灯籠流しが華やかに繰り広げられる。久美浜町。
金刀比羅神社秋祭り	10月上旬 金刀比羅神社に山車・芸屋台が集結し、1台ずつ社前で囃子を1曲奉納して出発し、本ばやしを奏でながら町内を1日中巡回する。
深田部神社例祭	10月上旬 猿彦田を始め、少年18人の踊り子たち、計25名余りの行列が、昼前から舞曲奉納巡回に出発する。そして午後より、御旅の行列が出発する。行列は神輿3基の担ぎ手30名と御幣を持つ氏子190名が参加し、太鼓輿も馬場を駆けめぐる。弥栄町。
五箇の三番叟	10月上旬 江戸時代の文化・文政期にさかのぼる古い芸能。若連中によって演じられ、氏子の平穏無事、天下泰平、五穀の豊かな稔りを祈るために行われる。峰山町。

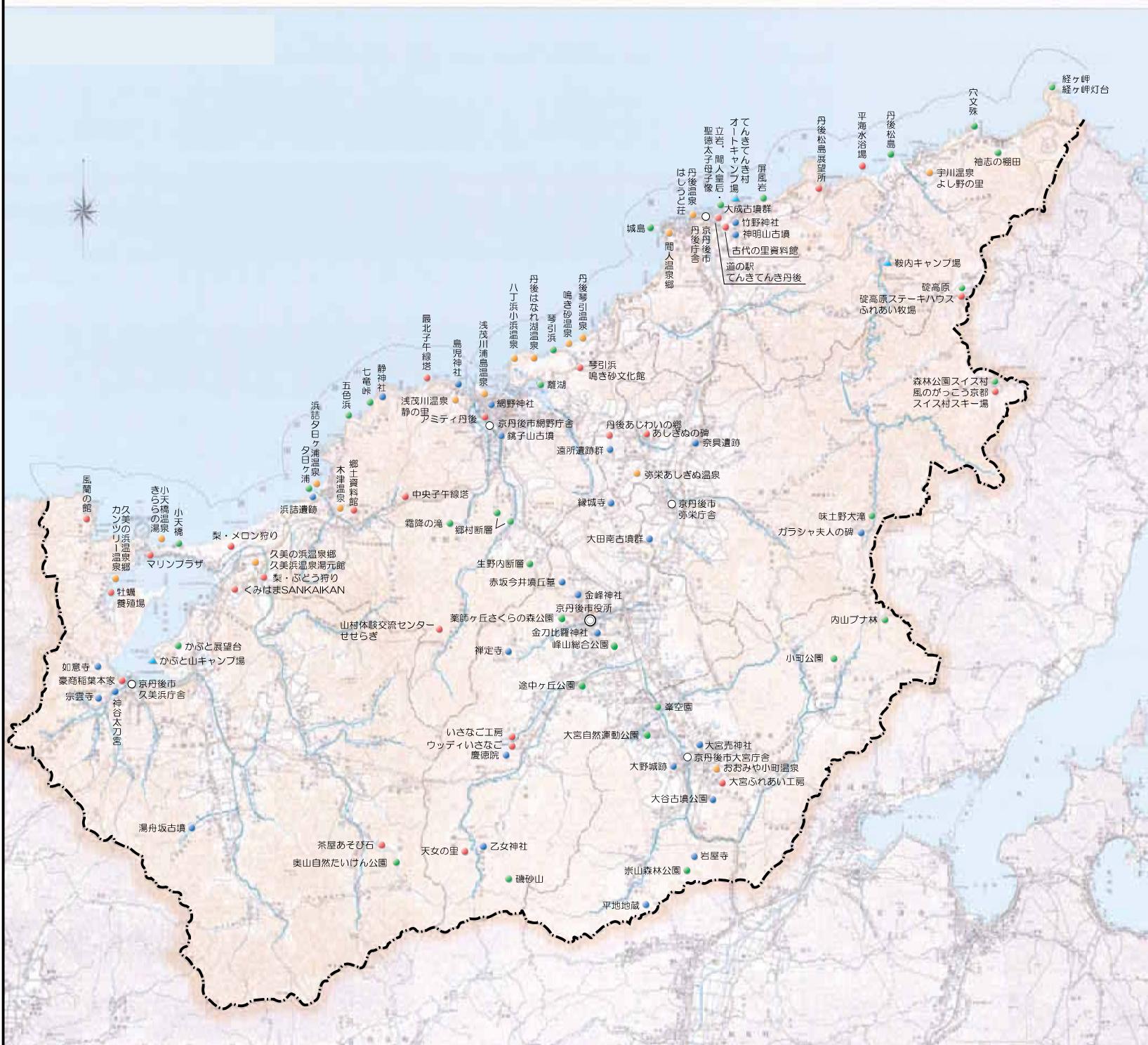
資料：京丹後市パンフレット、創刊号三たん事典「人と祭り」編

表 2-30 京丹後市の食

名 称	概 要
うるち餅 (大宮町)	コシヒカリ 100%のもちの中に、小豆で作ったあんをたくさん詰めたうるち餅。 コシヒカリと小豆は地元産を使用し、添加物は一切使用していない。土産から贈り物、冠婚葬祭等に数多くの注文が殺到している。
ぐら (ノロゲンゲ) 汁 (丹後町)	カニ漁がはじまると、底引き網漁と一緒に水揚げされるぐら。ぐらをすまし汁の具として使う料理法と、酒としょう油で炊きあげる方法と地元では2種類の料理法がある。
ポテトシナモン (弥栄町)	平成 9 年度に鹿児島県主催で行われた食品コンクールにおいて理事長賞を受賞した商品。弥栄町で収穫された風味豊かなサツマイモを使用した甘さ控え目の和菓子。
天然醸造しょう油 (峰山町)	緑豊かな山々からわき出る清れつな水と選び抜かれた原料でこうじを作り、蔵の中で急がずじっくりと 1 年間寝かせるという昔からの製法で熟成発酵させた天然醸造しょう油。
ばらずし (網野町)	当地に伝わる独特のすしで、祭りや祝い事など、人の集まる時には欠かすことのできない各家庭で作られるもてなし料理。新鮮なさばから作られるばらずしは、今や全国的に有名になり、網野を代表する名物料理となつた。
このしろ寿司 (久美浜町)	久美浜湾で獲れた新鮮なこのしろを使った姿すし。秋から冬にかけて脂がのったこのしろを背割りして酢漬けし、すしご飯の代わりに魚の腹に調味したおからを入れる。

資料：第 2 卷三たん事典「地域の食」編

## 地域資源位置図



附录

- 市町村界
  - 市役所
  - 庁舎
  - 観光資源等
  - 神社・寺院・文化財・古墳等
  - 公園・名所・自然景観
  - 温泉
  - キャンプ場

## (6) 歴史・文化

本市には数多くの指定文化財や天然記念物があり、その概要を以下にまとめる。

表 2-31 京丹後市指定文化財

指定年月日 (上段：府登 録年月日)	区分	所有者	名 称	員数	所 在 地	指定年月日 (上段：府登 録年月日)	区分	所有者	名 称	員数	所 在 地
昭60. 7. 1 建造物 大宮賣神社 旧本殿			1棟	大宮町周枳		昭61. 5. 19 彫刻 上山寺 十一面觀音菩薩立像		1躯	丹後町上山		
平5. 4. 9 建造物 宗教法人日吉神社 本殿			1棟	網野町浅茂川		昭61. 5. 19 彫刻 德運寺 觀音菩薩立像		1躯	丹後町徳光		
平16. 2. 13 建造物 吉神社 元尾坂寺宝篋印塔			1基	網野町島津		昭58. 4. 1 彫刻 如意寺 木造阿弥陀如來坐像		1躯	久美浜町西本町		
昭51. 3. 1 建造物 蓮華寺 勅使門			1棟	久美浜町十楽		平13. 3. 30 彫刻 如意寺 木造剛力士像		2躯	久美浜町西本町		
昭58. 4. 1 建造物 本願寺 本堂			1棟	久美浜町大向		昭58. 4. 1 彫刻 開照寺 木造阿彌陀如來坐像		1躯	久美浜町大向		
平3. 7. 15 建造物 円頓寺 仁王門			1棟	久美浜町円頓寺		昭60. 3. 28 工芸品 綠城寺 手錫杖		1柄	峰山町橋木		
平3. 7. 15 建造物 宗雲寺 宝篋印塔			1基	久美浜町新町		昭60. 3. 28 工芸品 綠城寺 銅鏡五具足		1具	峰山町橋木		
平3. 7. 15 建造物 八幡神社 本殿			1棟	久美浜町鹿野		昭60. 7. 1 工芸品 高森神社 狛犬		1对	大宮町延利		
平3. 7. 15 建造物 裸布神社 本殿			1棟	久美浜町女布		昭60. 7. 1 工芸品 万休院 茶壺		1口	大宮町河辺		
平3. 7. 15 建造物 三島田神社 本殿			1棟	久美浜町金谷		昭49. 7. 17 工芸品 野中区 宝篋印塔		1基	弥栄町野中		
平3. 7. 15 建造物 法華経大石塔			1基	久美浜町丸山		平9. 3. 19 工芸品 木橋区 織錦薬師如來像御正体		1面	弥栄町木橋		
昭51. 3. 1 建造物 丸山区						昭51. 3. 1 工芸品 加茂神社 鰐口		1口	網野町木津		
方丈障壁画(長沢芦州筆) 紙本墨画虎図8 紙本墨画鶴図4 紙本淡梅桜図8 紙本淡彩竹林高士図10 紙本淡彩山水図6 紙本淡彩山水人物図8 附 紙本著色雜魔像(長沢芦州筆)	4 4 面				峰山町五箇	昭54. 1. 23 工芸品 仲禪寺区 仁王尊像		2躯	網野町仲禪寺		
昭58. 4. 15 絵画 慶徳院						昭61. 5. 19 工芸品 上山寺 石造宝篋印塔		2基	丹後町上山		
昭60. 3. 28 絵画						昭61. 5. 19 工芸品 上山寺 石造五輪塔		1基	丹後町上山		
紙本著色十王図	2幅					昭58. 4. 1 工芸品 八幡神社 石燈籠		1基	久美浜町鹿野		
紙本著色俱生神像	1幅					平2. 9. 17 書跡 常徳寺 紙本墨書日興筆本尊曼陀羅		1幅	大宮町口大野		
紙本著色如意輪觀音像	1幅					平2. 9. 17 書跡 常徳寺 紙本墨書日親筆本尊曼陀羅		1幅	大宮町口大野		
紙本著色常立寺	1幅					昭51. 3. 1 書跡 網野町 丹哥府志の原本		1冊	峰山町橋木		
紙本著色加耶十六善神像	1幅					昭60. 3. 28 古文書 綠城寺 緑城寺跡起		2巻	峰山町橋木		
紙本著色不動明王像	1幅					昭49. 7. 4 考古資料 福昌寺 十三仏石塔(逆修塔)		1基	弥栄町黒部		
紙本著色京極家歴代藩主肖像画	12幅					昭9. 3. 19 考古資料 溝谷神社 オテジ谷古墳出土品		1括			
紙本著色十王図	2幅					昭49. 7. 4 考古資料 木橋区 鰐口(木橋公民館管理)		1口	弥栄町木橋		
紙本著色俱生神像	1幅					昭51. 3. 1 考古資料 本覚寺 寛平法皇塚出土の石枕		1個	網野町網野		
紙本著色如意輪觀音像	1幅					昭61. 5. 19 考古資料 竹野神社 神明山経塚出土 銅鏡		2面	丹後町宮		
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 5. 19 考古資料 竹野神社 神明山経塚出土 経筒		4口	丹後町宮		
紙本著色加耶十六善神像	1幅					平15. 3. 6 考古資料 京丹後市 高山1号墳出土品		一括			
紙本著色常立寺	1幅					昭60. 5. 15 無形民芸 芝むくり保存会			峰山町丹波		
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 4. 15 無形民芸 丹波の芝むくり					
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 3. 29 俗 五箇芸能保存会			峰山町五箇		
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 4. 15 無形民芸 五箇の三番叟					
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 3. 29 俗 周枳の三番叟・笛ばやし・神楽					
紙本著色常立寺	1幅					平9. 3. 19 有形民芸 溝谷神社 奉納和船		1艘	弥栄町溝谷		
紙本著色常立寺	1幅					昭60. 3. 28 史跡 常立寺 京極家墓所			峰山町吉原		
紙本著色常立寺	1幅					平4. 7. 20 遺跡 峰山町他 扇谷遺跡			峰山町丹波、杉谷、荒		
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 7. 21 史跡 延利区 聽返しの滝地蔵		1躯	大宮町延利		
紙本著色常立寺	1幅					昭61. 7. 21 史跡 京丹後市 新戸古墳			大宮町奥大野		
紙本著色常立寺	1幅					昭60. 7. 1 史跡 森本区 立石大逆修塔		1基	大宮町森本		
紙本著色常立寺	1幅					平11. 3. 10 史跡 細川ガラシャ夫人隠棲地			弥栄町味土野		
紙本著色常立寺	1幅					昭51. 3. 1 史跡 山口儀三郎 下岡城跡			網野町下岡		
紙本著色常立寺	1幅					昭51. 3. 1 史跡 京丹後市 復元岡第一号墳			網野町小浜		
紙本著色常立寺	1幅					昭51. 3. 1 史跡 京丹後市 浜詰遺跡			網野町浜詰		
石造地蔵菩薩立像(平地地 藏)	1体										

指定年月日 (上段：府登 録年月日)	区分	所有者	名 称	員数	所 在 地
平14. 12. 11 史跡 小浜区 離湖古墳				1,480m <sup>2</sup>	網野町小浜
平14. 12. 11 史跡 小浜区 離山古墳				180m <sup>2</sup>	網野町小浜
昭61. 6. 18 史跡 上山寺 上山寺歴史環境保全地区 境内地及坊跡等				*****	丹後町上山
昭61. 6. 18 史跡 片山古墳					丹後町竹野
昭61. 6. 18 史跡 大成古墳群					丹後町竹野
平3. 7. 15 史跡 宝泉寺 松井与八郎の墓			1基		久美浜町湊宮
平3. 7. 15 史跡 宗雲寺 肥後の墓			1基		久美浜町新町
昭58. 4. 1 史跡 甲山区 岩ヶ鼻古墳					久美浜町甲山
昭51. 3. 1 名勝 塙江区 五色浜周辺					網野町塙江
昭51. 3. 1 名勝 琴引浜					網野町掛津・蓮
平13. 3. 27 天然記念物 若宮神社 若宮神社のスダジイ			一本		大宮町奥大野
平13. 3. 27 天然記念物 五十河区 内山の大ブナ			一本		大宮町五十河
昭59. 4. 14 天然記念物			アベサンショウウオ		地域を定めず
平13. 3. 27 天然記念物					
昭52. 12. 11 天然記念物			鳴き砂		網野町掛津・遊
昭61. 6. 18 天然記念物			平海岸海浜植物群自生地 海浜の一部		丹後町平
昭61. 6. 18 天然記念物			宇川流域天然鮎生息地		丹後町小脇~平
平3. 7. 15 文化財 環境保全地区 三崎田神社			三崎田神社環境保全地区		久美浜町金谷
平3. 7. 15 文化財 環境保全地区 甲坂区			甲坂不動尊環境保全地区		久美浜町柄谷

資料：京丹後市資料

表 2-32 国指定・登録文化財

指定登録年月日	区分	所有者	名 称	員 数	所 在 地
昭30. 2. 2	建造物	縁城寺	縁城寺宝篋印塔	1基	峰山町橋木
明37. 2. 18	建造物	本願寺	本願寺本堂	1棟	久美浜町十楽
昭16. 11. 6	彫刻	縁城寺	木造千手觀音立像	1軸	峰山町橋木
昭16. 11. 6	彫刻	円頓寺	木造薬師如來及び 両脇立日光・月光菩薩像	3軸	久美浜町円頓寺
昭37. 2. 2	工芸品	大宮賣神社	石燈籠	2基	大宮町周枳
平8. 6. 27	考古資料	京丹後市	方格規矩四神鏡	一面	(丹後郷土資料館寄託)
平16. 6. 8	考古資料	京都府	奈具岡遺跡出土品	一括	(京都府埋蔵文化財調査研究センター保管)
昭58. 6. 6	考古資料	京丹後市	丹後湯舟坂二号墳出土品 1. 金銅装環頭大刀 1. 銀装圭頭大刀 1. 玉類(碧玉管玉1、漆塗土玉10) 1. 金環 1. 銀環 1. 刀身 1. 鉄石突 1. 銅金具残欠 1. 鉄鏃 残欠共 1. 馬具類残欠 1. 刀子 1. 銅椀 1. 須恵器 残欠共 1. 土師器	1口 1口 1個 6個 3個 5口 1口 1個 1括 2口 1個 210個 4個	(丹後郷土資料館寄託)
大11. 3. 8	史跡	網野連合区他	銚子山古墳 第一、二古墳	11,090m <sup>2</sup>	網野町網野
昭32. 7. 1 平10. 12. 8 (地域一部追加、一部解除)	史跡		産土山古墳	17,890m <sup>2</sup>	丹後町竹野
大12. 3. 7	史跡		神明山古墳	11,110m <sup>2</sup>	丹後町宮
大10. 3. 3	史跡	京丹後市	函石浜遺物包含地	10,224m <sup>2</sup>	久美浜町湊宮
昭4. 12. 17	天然記念物	京丹後市	郷村断層(ごうむらだんそう)	257m <sup>2</sup>	網野町郷・生野内
平11. 7. 8	建造物 (登録)	京丹後市	旧口大野村役場庁舎	1棟	大宮町口大野
平15. 1. 31	建造物 (登録)	京丹後市	稻葉家住宅主屋	1棟	久美浜町土居
平15. 1. 31	建造物 (登録)	京丹後市	稻葉家住宅長屋門	1棟	久美浜町土居
平15. 1. 31	建造物 (登録)	京丹後市	稻葉家住宅南宝蔵	1棟	久美浜町土居
平15. 1. 31	建造物 (登録)	京丹後市	稻葉家住宅北宝蔵	1棟	久美浜町土居

資料：京丹後市資料

表 2-33 京都府指定・登録文化財

指定登録年月日	区分	所有者	名 称	員 数	所 在 地	指定登録年月日	区分	所有者	名 称	員 数	所 在 地
平15. 3. 14	建造物	宗教法人光明神社	壳布神社本殿	1 棟	網野町木津	平16. 3. 19	建造物(登録)	多久神社	本殿	1 棟	峰山町丹波
昭60. 5. 15	建造物	神谷神社	本殿	1 棟	久美浜町新町	平12. 3. 7	建造物(登録)	興法寺	興法寺本堂	1 棟	弥栄町小原
昭60. 5. 15	建造物	神谷神社	参考館(旧久美浜県庁舎玄関棟)	1 棟	久美浜町新町	昭60. 5. 15	建造物(登録)	竹野神社	本殿	1 棟	丹後町宮
平17. 3. 18	建造物	京丹後市	丹後震災記念館	1 棟	峰山町室	昭60. 5. 15	建造物(登録)	竹野神社	末社斎宮神社本殿	1 棟	丹後町宮
昭63. 4. 15	絵画	宗雲寺	絹本着色松井康之像	1 幅	久美浜町新町	昭60. 5. 15	建造物(登録)	竹野神社	中門	1 棟	丹後町宮
昭63. 4. 15	絵画	宝泉寺	絹本着色松井八郎像	1 幅	久美浜町湊宮	昭60. 5. 15	建造物(登録)	神谷神社	神門	1 棟	久美浜町新町
昭58. 4. 15	絵画	本願寺	絹本着色当麻曼荼羅図	1 幅	久美浜町十楽	昭60. 5. 15	建造物(登録)	神谷神社	境内社八幡神社本殿	1 棟	久美浜町新町
平6. 2. 18	彫刻	本願寺	木造阿弥陀如来立像	1 塔	久美浜町十楽	昭60. 5. 15	建造物(登録)	神谷神社	鳥居	1 基	久美浜町新町
昭59. 4. 14	彫刻	成願寺	木造薬師如来及び両脇侍像	3 塔	丹後町成願寺	平5. 4. 9	古文書(登録)	本願寺	本願寺文書	14 部	久美浜町十楽
昭59. 4. 14	工芸品	縁城寺	金銅裝篋(附 金銅裝笈残	1 面	峰山町橋木	昭62. 4. 15	考古資料(登録)	京丹後市	カジヤ古墳出土品		峰山町杉谷
	工芸品	溝谷神社	石燈籠	1 基	弥栄町溝谷	平4. 4. 14	無形民俗(登録)	竹野区	竹野のテンキテンキ		丹後町竹野
昭58. 4. 15	工芸品	円頓寺	熊野十二社権現懸仏	2 面	久美浜町円頓寺	平6. 2. 18	無形民俗(登録)	遠下区	遠下のちいらい踊		丹後町遠下
平4. 4. 14	工芸品	如意寺	木造扁額	1 面	久美浜町西本町	平7. 3. 14	無形民俗(登録)	大山区	大山の刀踊		丹後町大山
平3. 4. 19	古文書	円頓寺	円頓寺懸門再興勧進状	1 卷	久美浜町円頓寺	昭58. 4. 1	無形民俗(登録)	市野々じょうぶ田植保存会			久美浜町市野々
平11. 3. 19	歴史資料	宗雲寺	玄圃畫三関係資料	2 卷 9 幅 6 冊 1 9	久美浜町新町	昭61. 4. 15	無形民俗(登録)	甲坂三番叟保存会			久美浜町甲坂
平12. 3. 17	考古資料	京丹後市	三坂神社墳墓群出土品	一括		昭61. 4. 15	無形民俗(登録)	柄谷三番叟保存会			久美浜町板谷
平13. 3. 23	考古資料	京都府	奈具岡北1号墳出土品	1 括		平元. 4. 14	無形民俗(登録)	河梨区	河梨の十二灯		久美浜町河梨
平8. 3. 15	考古資料	京丹後市	大田南二号墳出土品	1 括		平12. 3. 17	無形民俗(登録)	布袋野区	布袋野の三番叟		久美浜町布袋野
昭63. 4. 15	考古資料	円頓寺	銅經筒	1 口	久美浜町円頓寺						
昭59. 4. 14	無形民俗	黒部踊子保存会	黒部の踊子		弥栄町黒部						
昭58. 4. 15	無形民俗	野中文化財保存会	野中の田楽		弥栄町野中						
昭59. 4. 14	無形民俗	舟木文化財保存会	舟木の踊子		弥栄町舟木						
昭63. 4. 15	史跡		湧田山古墳群	約 9375 m <sup>2</sup>	峰山町丹波・矢田						
昭61. 4. 15	史跡	大宮賣神社	大宮賣神社境内		大宮町周枳						
昭58. 4. 15	史跡	京丹後市	黒部跳子山古墳		弥栄町黒部						
	史跡	京丹後市	遠處遺跡製鉄工房跡		弥栄町木橋						
平15. 3. 14	史跡		嵩山1・2号墳		丹後町徳光						
昭58. 4. 15	史跡	京丹後市	湯舟坂二号墳		久美浜町須田						
昭59. 4. 14	名勝	宗雲寺	庭園	3.83 m <sup>2</sup>	久美浜町新町						
平5. 4. 9	天然記念物		アベサンショウウオ基準産地		大宮町善王寺						
平16. 3. 19	文化財環境保全地区		多久神社文化財環境保全地区		峰山町丹波・矢田						
昭60. 5. 15	文化財環境保全地区		竹野神社文化財環境保全地区		丹後町宮						
昭60. 5. 15	文化財環境保全地区	神谷神社	神谷神社文化財環境保全地区		久美浜町新町						
平3. 4. 19	文化財環境保全地区										

資料：京丹後市資料

表 2-34 天然記念物の概要

名称	概要	備考
若宮神社の スダジイ	<p>胸高幹周 6.32m・樹高 16m・推定樹齢約 400 年を測る古木である。幹周では町内第 2 位、樹高・推定樹齢では町内第 1 位である。主幹の根元が空洞化しているという特徴が見られる。</p> <p>スダジイが立地する若宮神社境内は、シイ・カシを中心としてスギ・ヒノキ・サカキを含む常緑樹を主体とする社叢を構成している。その中には、アベマキやスギの巨樹を含んでいる。</p> <p>このスダジイは、町内随一のシイの木であり、主幹の根元が空洞化している様子などに特徴が見られ貴重なものといえる。</p>	市指定天然記念物 (大宮町)
内山の大ブナ	<p>高山（標高 702m）山頂から少し下った標高 680m 地点に立地している。周辺のブナ林は、宮津市にまたがる 30ha 以上の面積があり、近畿地方有数の規模を誇るものである。ブナ林では、100 種を超す樹木や山野草、そして 89 種の野鳥も確認されている。</p> <p>内山の大ブナは、胸高幹周 3.65m・樹高 32m・推定樹齢約 350 を測る京都府下で一番のブナの巨木である。地上 1.5m のところで主幹が 3 本に分かれ、そこから枝が多数伸びている。</p> <p>近畿地方有数のブナ林の中において、単木として京都府下で最も大きなブナであり、内山のブナ林を象徴するものといえる。</p>	市指定天然記念物 (大宮町)
アベサンショウ ウオ	種の保存法による保護種。環境庁レッドリスト 2000 年版に掲載。府指定の天然記念物。全国的、府内ともに発見例が少ない。本府に基準産地がある。限定された環境を生息場所としているため、環境変化に弱く減少傾向にある。環境指標性が高い。	府指定天然記念物 (丹後地方全域)
鳴き砂	琴引浜は、全長が約 1,800m あり、そのすべてが鳴き砂の浜となっている。鳴き砂は鳴り砂ともいうが、ちょっと動かせば音が出る砂のことと、その昔、日本列島には至るところに真っ白な砂浜があり、足跡一つない砂の上を歩けば「クックッ」と鳴いていたが、現在では限られた浜しか鳴くことはない。	市指定天然記念物 (網野町)
郷村断層	昭和 2 (1927) 年 3 月 7 日に発生した北丹後地震 (M=7.3) で出現した 2 本の地震断層のうちの一つ (他は山田断層)。網野町浅茂川西方から下岡、高橋、郷、生野内を経て峰山町、大宮町口大野へ至る全長 18km の地震断層が出現した。明治以後、日本の地震断層は約 20 例しかないこと、昭和 2 (1927) 年の地震時に山田断層とともに共役系地震断層が生じたこと、初めて科学的な地震及び断層調査が行われたこと、「活断層」という用語が日本で最初に用いられた点などで重要である。なお、国の天然記念物として高橋、郷、生野内の三地点において断層が保存されており貴重である。	国指定天然記念物 (網野町)

## 文化財位置図



凡例

- 市町村界
  - 国指定
  - 府指定
  - 市指定
  - 名勝
  - 天然記念物
  - 史跡・遺跡
  - 環境保全地区

## 2.1.4 生産環境

### (1) 産業・経済条件の概要

産業別の就業者数については、平成 12 年に第 3 次産業が第 2 次産業を上回り、48.7%で最も多くなっている。

農業については、年々農家数の減少が続いているが、農業粗生産額も平成 7 年以降に大きな減少がみられた。しかし一方、農業就業人口 1 人当りの農業粗生産額は 172 万円で京都府内市平均（京都市を除く）を上回っている。主な生産品目は米で、粗生産額全体の 49.1%を占めている。

漁業については、海洋資源の減少などにより、生産量が減少傾向にある。漁獲量の内訳では、魚類が最も多く 76.1%を占めているが、近年はカニなどの水産動物類の割合も高くなっている。

工業については、繊維工業を中心で、これまで全国的な不況とともにちりめん業の構造的不況などから、従業者数や製造品出荷額等の減少傾向が続いていたが、平成 14 年には機械金属工業が好調で、出荷額等が増加に転じている。工業従業者 1 人当りの出荷額等は、京都府内市平均（京都市を除く）と比較して低い水準に留まっている。

商業については、従業者数は横ばいであるが、販売額は近年減少傾向にある。小売業の購買力流出率※を近隣市町と比較すると、京丹後市は 0.84 となり、やや低い水準となっている。

※購買力の流入出率とは、一定地域の商業規模を表す指標で、実際の人口に府平均の 1 人あたり年間小売販売額を乗じた潜在購買力に対する実際の年間販売額の比率。

表 2-35 産業別就業人口

(単位：人)

	平成12年			
	第一次 産業	第二次 産業	第三次 産業	計
峰 山 町	527	2,608	3,910	7,045
大 宮 町	503	2,690	2,691	5,884
網 野 町	563	4,051	4,141	8,755
丹 後 町	466	1,485	1,731	3,682
弥 栄 町	398	1,239	1,447	3,084
久 美 浜 町	1,272	2,062	3,042	6,376
京 丹 後 市				0
計	3,729 (10.7%)	14,135 (40.6%)	16,962 (48.7%)	34,826 (100%)

資料：国勢調査（平成 17 年度確定値は未発表）

## (2) 農業・農村の構造と動向

### ① 農家戸数

本市の農家戸数は年々減少しており、平成2年から平成12年の10年間で1,000戸以上も減少している。旧6町すべてにおいて、減少傾向にある。

表 2-36 農家戸数

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
峰山町	913	852	771	537
大宮町	825	763	664	422
網野町	607	546	516	258
丹後町	680	600	539	260
弥栄町	775	665	567	362
久美浜町	1,788	1,623	1,469	997
京丹後市 計	5,588 (100.0%)	5,049 (90.4%)	4,526 (81.0%)	2,836 (50.8%)

※平成2・7・12年は総農家、平成17年は農業経営体（総数）の数値

資料：農業センサス（確定値）

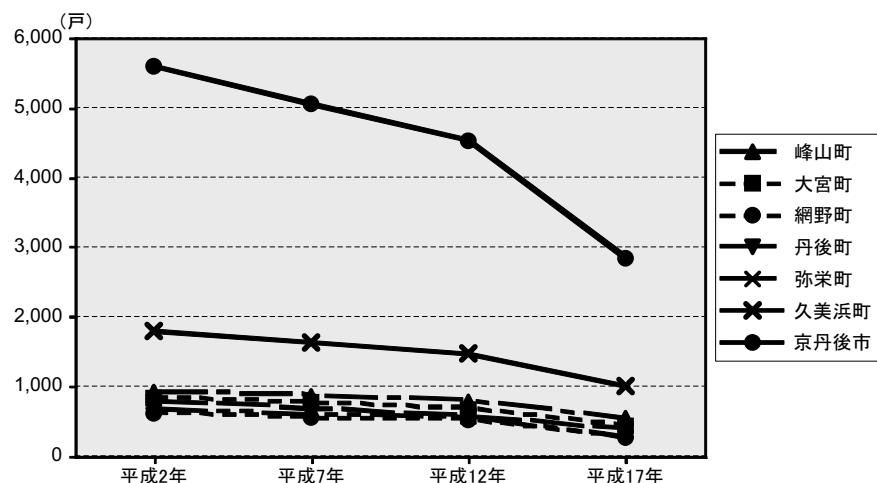


図2-28 農家数の推移（確定値）

## ② 専兼別農家戸数

専業・兼業別農家戸数を見ると、第2種兼業農家が大部分を占め、平成17年の販売農家2,788戸のうち専業農家が501戸で18.0%、第1種兼業農家が374戸で13.4%、第2種兼業農家が1,913戸で68.6%となっている。

表 2-37 専兼別農家戸数

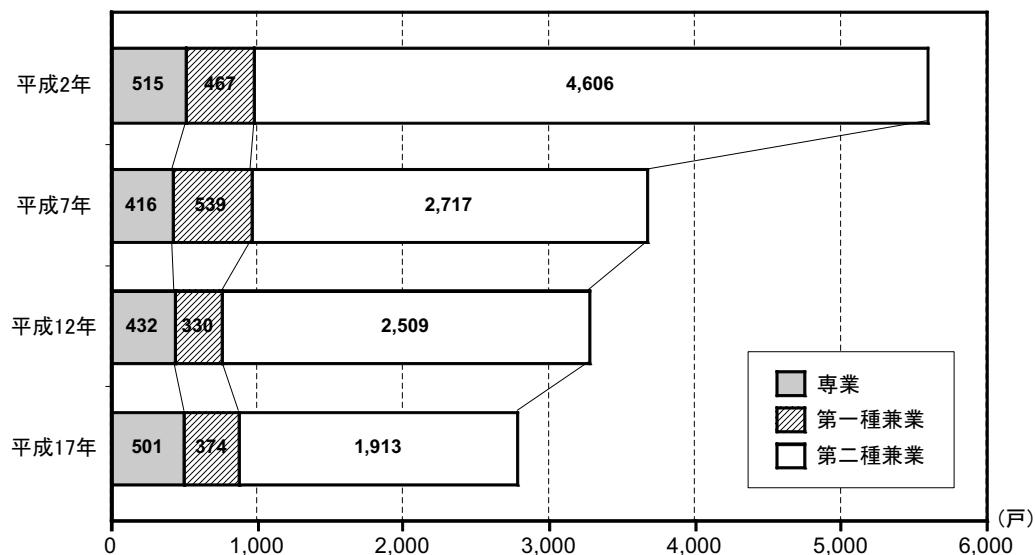
	平成7年				平成12年				平成17年			
	専業	第一種 兼業	第二種 兼業	計	専業	第一種 兼業	第二種 兼業	計	専業	第一種 兼業	第二種 兼業	計
峰山町	49	80	542	671	63	44	509	616	87	66	378	531
大宮町	59	97	401	557	70	64	356	490	71	73	271	415
網野町	60	71	230	361	58	40	230	328	51	58	145	254
丹後町	35	55	287	377	41	38	256	335	59	30	168	257
弥栄町	59	65	352	476	62	48	309	419	62	51	242	355
久美浜町	154	171	905	1,230	138	96	849	1,083	171	96	709	976
京丹後市 計	416 (11.3%)	539 (14.7%)	2,717 (74.0%)	3,672 (100%)	432 (13.2%)	330 (10.1%)	2,509 (76.7%)	3,271 (100%)	501 (18.0%)	374 (13.4%)	1,913 (68.6%)	2,788 (100%)

※平成7・12年は販売農家、平成17年は農業経営体 販売農家（総数）の数値

資料：農業センサス（確定値）

専業農家は世帯員の中に兼業従事者（調査期日前1年間に30日以上雇用。兼業に従事した者または調査期前1年間に販売金額が15万円以上ある自営兼業に従事した者）が一人もいない農家をいう。

兼業農家は、世帯員の中に兼業従事者が1人以上いる農家をいう。第1種兼業農家は、農業所得を主とする兼業農家をいう。第2種兼業農家は農業所得を従とする兼業農家をいう。



※平成7・12年は販売農家、平成17年は農業経営体 販売農家（総数）の数値

### ③ 主副業別農家数

主副業別農家数を見ると、65歳未満の農業従事者がいる主業農家は308戸であり、全体の1割程度となっており、65歳未満の農業専従者のいる農家が少ない。

また、集落別では、65歳未満の農業専従者がいる農家戸数は、平成12年で0戸から3戸の集落が多くなっている。10戸以上の集落が市内でわずか4集落のみである。集落別の65歳未満の農業専従者の図面を次ページに添付する。

表 2-38 主副業別農家数

(単位:戸)

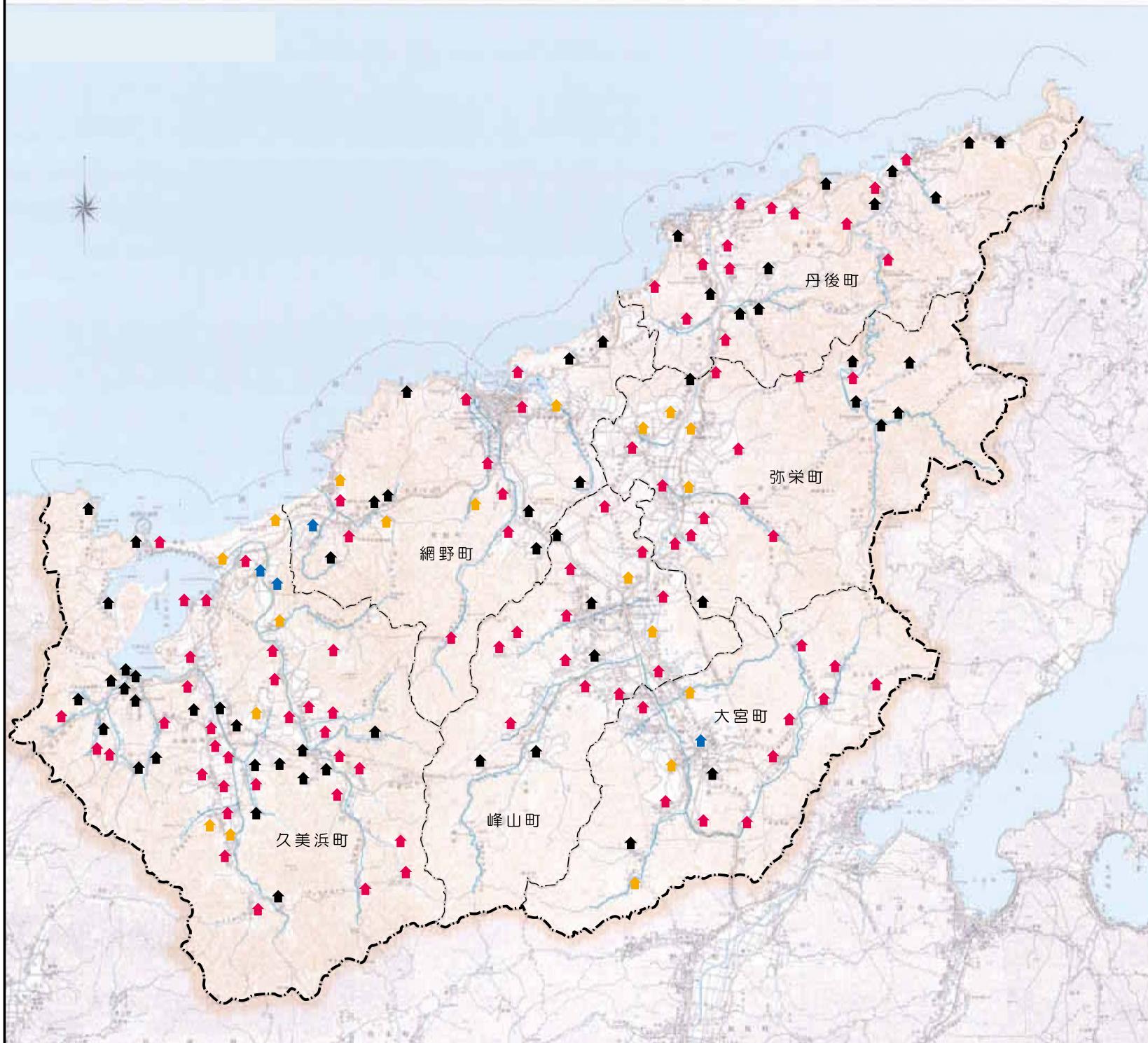
	平成12年					平成17年						
	計	主業農家		副業的農家	計	主業農家		副業的農家		副業的農家		
		65歳未満の農業専従者がいる	65歳未満の農業専従者がいる			65歳未満の農業専従者がいる	65歳未満の農業専従者がいる	65歳未満の農業専従者がいる				
峰山町	616	45	32	160	39	411	531	59	39	117	31	355
大宮町	490	52	45	111	42	327	415	48	41	78	27	289
網野町	328	60	55	76	26	192	254	62	56	46	14	146
丹後町	335	34	24	92	28	209	257	37	30	51	10	169
弥栄町	419	45	38	75	15	299	355	51	41	67	21	237
久美浜町	1,083	126	108	251	73	706	976	116	101	177	46	683
京丹後市 計	3,271 (100.0%)	362 (11.1%)	302 (9.2%)	765 (23.4%)	223 (6.8%)	2,144 (65.5%)	2,788 (100.0%)	373 (13.4%)	308 (11.0%)	536 (19.2%)	149 (5.3%)	1,879 (67.4%)

※平成7・12年は販売農家、平成17年は農業経営体 販売農家（総数）の数値

資料：農業センサス（確定値）

主業農家は農業所得が主で65歳未満の自営農業従事60日以上の者がいる農家。準主業農家は農外所得が主で65歳未満の自営農業従事60日以上の者がいる農家。副業的農家とは65歳未満の自営農業従事60日以上の者がいない農家（販売を行わなかった農家含む）。農業専従者とは、自営農業従事日数が150日以上の人。

集落別主業農家のうち65歳未満の農業専従者のいる農家戸数(2000年)



主業農家：農業所得が主で65歳未満の自営農業従事60日以上の者がいる農家。

農業専従者：自営農業従事日数が150日以上の人。

#### 凡例

- ▲ 0戸
- ▲ 1~3戸
- ▲ 4~9戸
- ▲ 10戸以上

#### ④ 農業労働力保有状態別農家数

販売農家のうち、専従者のいる農家の割合は、市全体で 43.7%であるが、このうち 65 歳未満の専従者のいる割合は 17.1%、60 歳未満の男子専従者がいる割合は 10.0%となっており、全体に占める割合は少ない。

表 2-39 農業労働力保有状態別農家数（平成 17 年）

(単位:戸)

	計	専従者あり				専従者なし	準専従者も いない
			65歳未満の専 従者がいる	60歳未満の男子 専従者がいる	60歳未満の女子 専従者がいる		
峰 山 町	531	204	74	39	10	327	139
大 宮 町	415	198	71	35	18	217	96
網 野 町	254	139	73	58	33	115	57
丹 後 町	257	132	43	19	12	125	57
弥 栄 町	355	149	64	38	18	206	86
久 美 浜 町	976	396	153	91	59	580	272
京 丹 後 市 計	2,788 (100.0%)	1,218 (43.7%)	478 (17.1%)	280 (10.0%)	150 (5.4%)	1,570 (56.3%)	707 (25.4%)

※農業経営体 販売農家（総数）の数値  
資料：平成 17 年農業センサス（確定値）

### ⑤ 農家人口

農家人口についても旧 6 町全てにおいて減少傾向にあり、昭和 55 年で 31,005 人であった農家人口は平成 12 年では 19,245 人となっており、昭和 55 年当時の約 6 割程度となっている。旧町では、特に網野町、丹後町での減少が大きい。

集落別では、平成 12 年の農家人口は、平成 2 年と比較すると全集落で減少し、増加している集落はない。丹後町や網野町で減少率の高い集落が多く、一方、久美浜町では減少率の低い集落が多い。集落別農家人口の推移状況を次ページに添付する。

表 2-40 農家人口

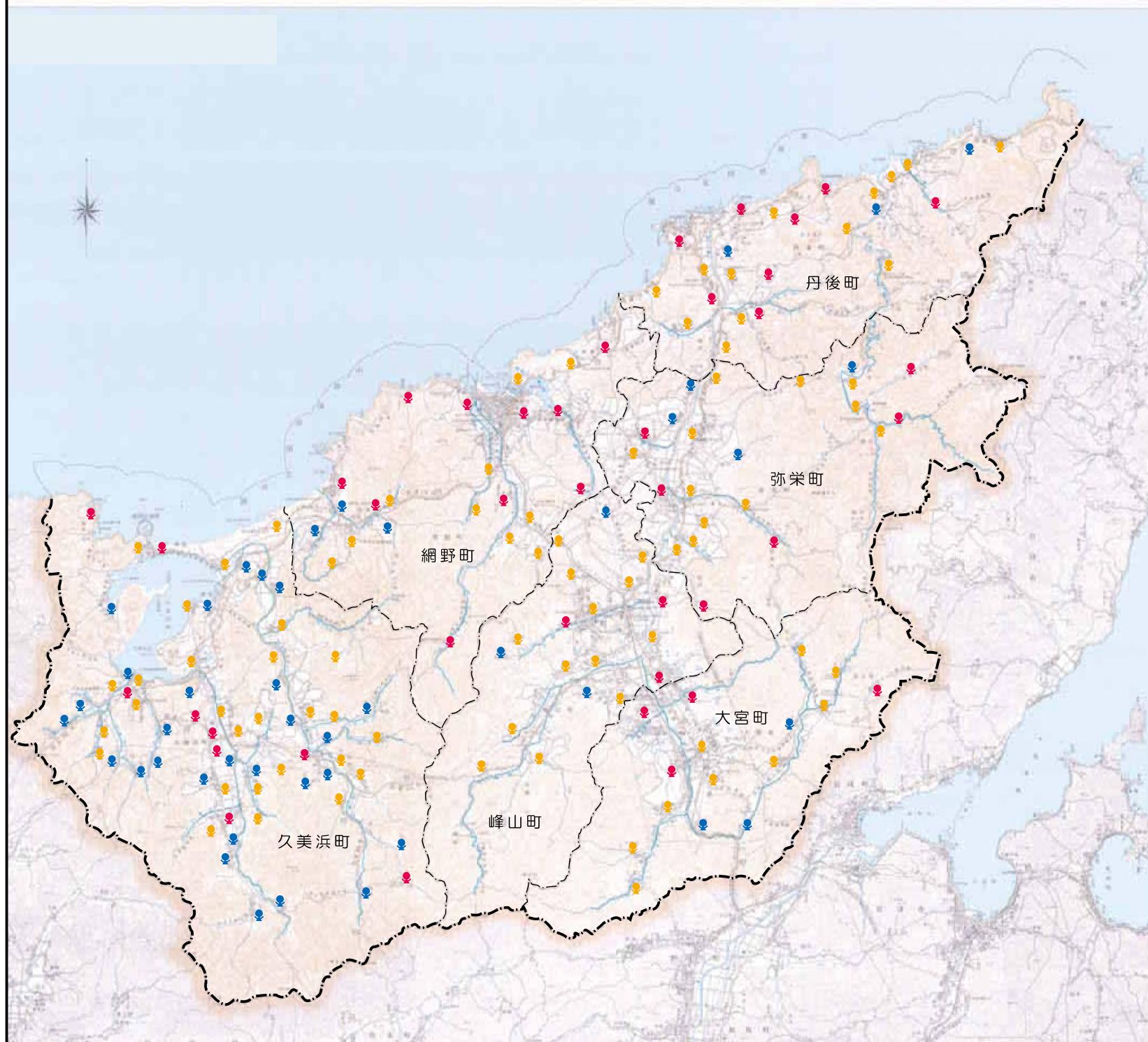
(単位：人)

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	※平成17年
峰山町	5,369 100.0%	4,783 89.1%	4,061 75.6%	3,735 69.6%	3,401 63.3%	2,272 42.3%
大宮町	4,810 100.0%	4,370 90.9%	3,592 74.7%	3,204 66.6%	2,838 59.0%	1,695 35.2%
網野町	4,334 100.0%	3,642 84.0%	2,865 66.1%	2,504 57.8%	2,301 53.1%	1,133 26.1%
丹後町	3,642 100.0%	3,232 88.7%	2,697 74.1%	2,287 62.8%	2,036 55.9%	1,001 27.5%
弥栄町	4,192 100.0%	3,885 92.7%	3,325 79.3%	2,817 67.2%	2,390 57.0%	1,499 35.8%
久美浜町	8,658 100.0%	8,451 97.6%	7,702 89.0%	6,915 79.9%	6,279 72.5%	4,113 47.5%
京丹後市 計	31,005 100.0%	28,363 91.5%	24,242 78.2%	21,462 69.2%	19,245 62.1%	11,713 37.8%

資料：農業集落カード、平成 17 年農業センサス（確定値）

※平成 17 年は、農業経営体 販売農家（家族経営）の数値

※比率は、昭和 55 年を 100%とした増減率



### 集落別農家人口(2000年)の増減



凡 例

※1980年を100%とした場合の  
2000年の増減率

-  25% 以上 50 %未満  
(75%~50%減)
  -  50% 以上 75 %未満  
(50%~25%減)
  -  75 % 以上  
(25%減)

※100%以上の集落はなし

65 歳以上の農家人口は、旧 6 町のなかでは、久美浜町で特に増加が目立つ。昭和 55 年と比較すると約 2 割近く増加している。その他の町で、増加しているのは大宮町である。

一方減少しているのは、峰山町、網野町、丹後町、弥栄町で、中でも網野町の減少率が大きく、昭和 55 年と比較すると 8 割程度となっている。

集落別では、平成 12 年の農家人口に占める 65 歳以上の割合は 29.5% で、町別では久美浜町と丹後町で 30% を超えており、他町と比較するとやや高い傾向にある。集落別の状況では、久美浜町、弥栄町、丹後町で 50% を超える集落が見られる。集落別の 65 歳以上の農家人口の状況を次ページに添付する。

表 2-41 農家人口（65 歳以上）

(単位：人)

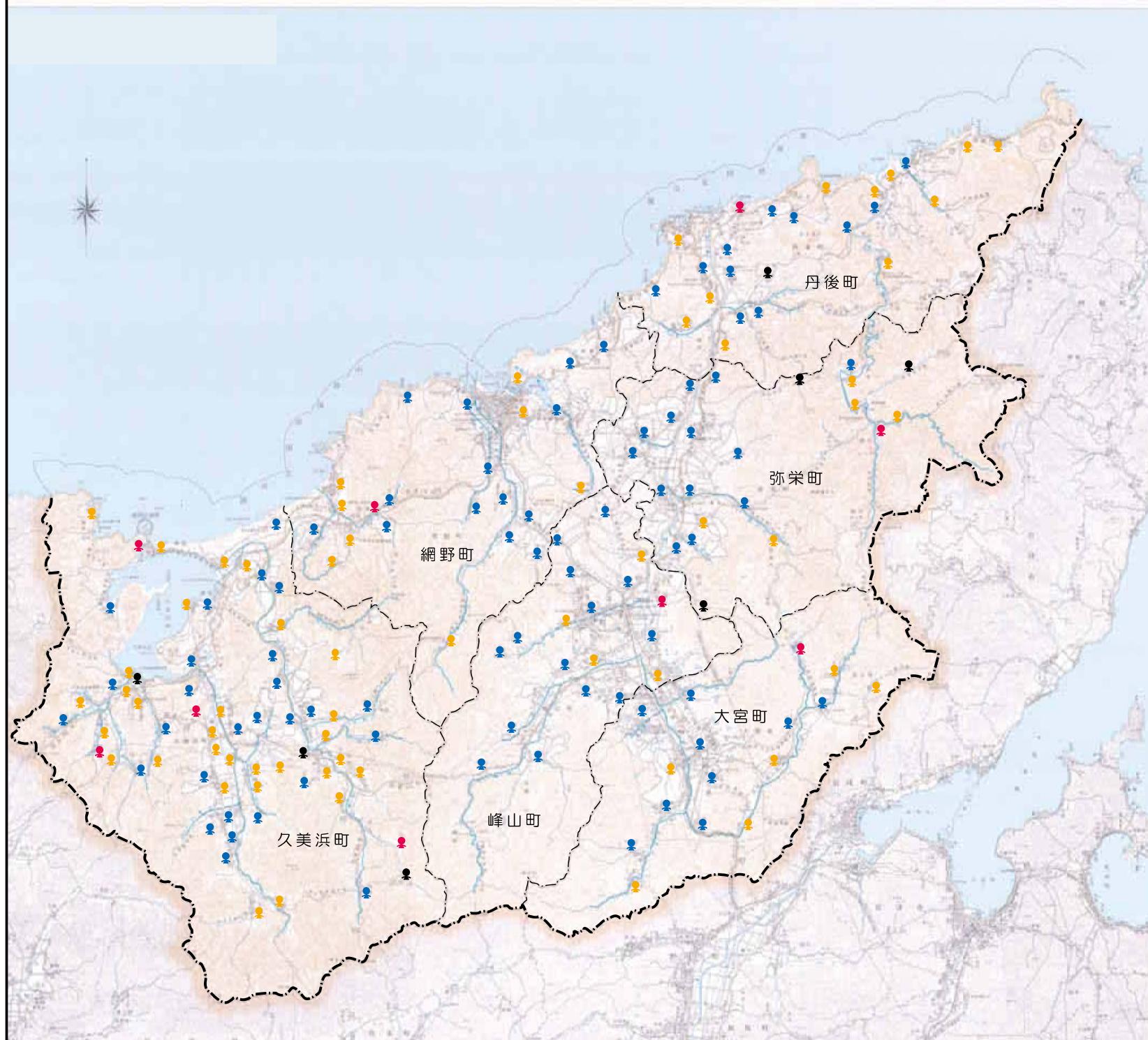
	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	*平成17年
峰 山 町	949 100.0%	928 97.8%	863 90.9%	918 96.7%	938 98.8%	699 73.7%
大 宮 町	794 100.0%	824 103.8%	757 95.3%	869 109.4%	841 105.9%	568 71.5%
網 野 町	772 100.0%	705 91.3%	583 75.5%	626 81.1%	658 85.2%	355 46.0%
丹 後 町	710 100.0%	658 92.7%	597 84.1%	628 88.5%	641 90.3%	356 50.1%
弥 栄 町	759 100.0%	816 107.5%	751 98.9%	739 97.4%	702 92.5%	478 63.0%
久 美 浜 町	1,604 100.0%	1,720 107.2%	1,717 107.0%	1,875 116.9%	1,889 117.8%	1,381 86.1%
京丹後市 計	5,588 100.0%	5,651 101.1%	5,268 94.3%	5,655 101.2%	5,669 101.4%	3,837 68.7%

資料：農業集落カード、平成 17 年農業センサス（確定値）

\*平成 17 年は、農業経営体 販売農家（家族経営）の数値

\*比率は、昭和 55 年を 100% とした増減率

集落別農家人口に占める  
65歳以上の割合(2000年)



#### 凡例

※市全体では29.5%

- 0%以上 30%未満
- 30%以上 40%未満
- 40%以上 50%未満
- 50%以上

## ⑥ 農業就業人口

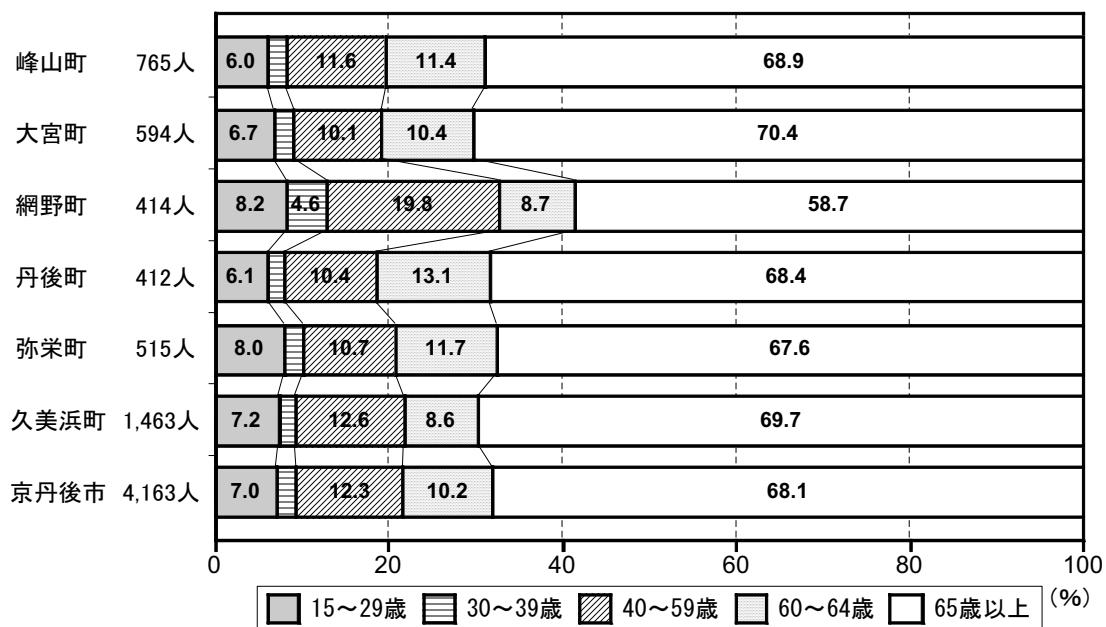
平成 17 年の農業就業人口（農業従事者のうち主に自営農業に従事した世帯員数）は、市全体で 4,163 人いるが、65 歳以上の高齢者が全体の 7 割近くを占めており、農業従事者の高齢化が進んでいる。

表 2-42 農業就業人口（平成 17 年）

	15～29歳	30～39歳	40～59歳	60～64歳	65歳以上	合計
峰山町	46	16	89	87	527	765
大宮町	40	14	60	62	418	594
網野町	34	19	82	36	243	414
丹後町	25	8	43	54	282	412
弥栄町	41	11	55	60	348	515
久美浜町	106	28	184	126	1,019	1,463
京丹後市 計	292 (7.0%)	96 (2.3%)	513 (12.3%)	425 (10.2%)	2,837 (68.1%)	4,163 (100.0%)

※農業経営体（家族経営）の数値

資料：平成 17 年農業センサス（確定値）



※3%未満の表示は割愛

図2-30 農業就業人口（平成 17 年）（確定値）

### ⑦ 経営耕地面積

経営耕地面積は平成17年で3,593haであり、平成7年の4,059haから466ha減少している。全耕地面積3,593haの内訳は田が2,896haで全体の80.6%、畑は585haで全体の16.3%、樹園地が111haで3.1%となっている。

表 2-43 経営耕地面積

(単位 : ha)

	平成7年				平成12年				平成17年			
	田	畑	樹園地	計	田	畑	樹園地	計	田	畑	樹園地	計
峰山町	637	57	1	695	318	177	23	518	532	34	1	567
大宮町	584	65	1	650	557	73	1	631	498	69	0	567
網野町	326	178	23	527	318	177	23	518	268	164	20	452
丹後町	365	55	6	426	356	44	6	406	292	73	5	371
弥栄町	463	69	1	533	445	105	0	550	420	126	9	554
久美浜町	1,002	144	82	1,228	982	142	74	1,198	886	119	76	1,081
京丹後市 計	3,377 (83.2%)	568 (14.0%)	114 (2.8%)	4,059 (100%)	2,976 (77.9%)	718 (18.8%)	127 (3.3%)	3,821 (100%)	2,896 (80.6%)	585 (16.3%)	111 (3.1%)	3,593 (100%)

※平成7・12年は総農家、平成17年は農業経営体（総数）の数値

資料：農業センサス（確定値）

### ⑧ 作付面積

平成 15 年に作付けされた作物は、作付け延べ面積のうち稲が 61.1%、野菜が 14.1%、豆類が 6.6%となっており、作付け延べ面積は耕地面積（京丹後市合計 5,160ha）を下回り、耕地利用率は 80%程度となっている。

表2-44 作付面積

※上段:作付面積、下段:面積割合 (単位:ha, %)

	稲	麦類	かんしょ	雑穀	豆類	野菜	果樹	工芸農作物	飼肥料作物	その他	作付延べ面積	耕地利用率
峰山町	525 (74.6%)	0 (0.0%)	9 (1.3%)	1 (0.1%)	39 (5.5%)	84 (11.9%)	9 (1.3%)	3 (0.4%)	2 (0.3%)	32 (4.5%)	704 (100.0%)	81.6
大宮町	463 (71.0%)	- -	6 (0.9%)	3 (0.5%)	35 (5.4%)	99 (15.2%)	9 (1.4%)	19 (2.9%)	6 (0.9%)	12 (1.8%)	652 (100.0%)	83.4
網野町	307 (52.2%)	0 (0.0%)	8 (1.4%)	1 (0.2%)	11 (1.9%)	91 (15.5%)	46 (7.8%)	16 (2.7%)	81 (13.8%)	27 (4.6%)	588 (100.0%)	87.5
丹後町	292 (61.3%)	0 (0.0%)	6 (1.3%)	6 (1.3%)	23 (4.8%)	62 (13.0%)	11 (2.3%)	2 (0.4%)	65 (13.7%)	9 (1.9%)	476 (100.0%)	80.7
弥栄町	369 (60.7%)	- -	19 (3.1%)	13 (2.1%)	22 (3.6%)	87 (14.3%)	17 (2.8%)	31 (5.1%)	23 (3.8%)	27 (4.4%)	608 (100.0%)	81.1
久美浜町	708 (53.2%)	4 (0.3%)	13 (1.0%)	37 (2.8%)	157 (11.8%)	191 (14.4%)	142 (10.7%)	20 (1.5%)	28 (2.1%)	26 (2.0%)	1,330 (100.0%)	88.1
京丹後市 計	2,668 (61.1%)	4 (0.1%)	61 (1.4%)	61 (1.4%)	287 (6.6%)	615 (14.1%)	234 (5.4%)	91 (2.1%)	205 (4.7%)	133 (3.1%)	4,364 (100.0%)	

資料：平成 15 年作付面積調査（京都農林水産統計年報 平成 15～16 年）

### ⑨ 経営耕地面積規模別農家数

経営耕地面積規模別農家数は平成 17 年現在で 0.5～1.0ha の農家が最も多く、全体の 39.4% を占めている。次に多いのは 0.3～0.5ha で全体の 23.6% を占めている。

表2-45 経営耕地面積規模別農家数（平成 17 年）

(単位:戸)

	0.3ha 未満	0.3～ 0.5ha	0.5～ 1.0ha	1.0～ 1.5ha	1.5～ 2.0ha	2.0～ 3.0ha	3.0～ 5.0ha	5.0ha 以上	計
峰山町	5	130	226	75	37	38	20	6	537
大宮町	7	96	155	66	39	23	19	17	422
網野町	5	54	86	38	15	26	20	14	258
丹後町	3	85	99	30	11	9	11	12	260
弥栄町	6	69	146	63	20	12	18	28	362
久美浜町	17	235	406	171	62	59	28	19	997
京丹後市 計	43 (1.5%)	669 (23.6%)	1,118 (39.4%)	443 (15.6%)	184 (6.5%)	167 (5.9%)	116 (4.1%)	96 (3.4%)	2,836 (100%)

※農業経営体（総数）の数値

資料：平成 17 年農業センサス（確定値）

## (10) 農業経営組織別農家数

経営組織別農家数では、複合経営農家は少なく稻作単一経営農家が多い。

久美浜町では果樹の経営が多く、網野町では露地野菜の経営が多い。また、複合経営は久美浜町で多く見られる。

表 2-46 農業経営組織別農家数（平成 17 年）

		峰山町	大宮町	網野町	丹後町	弥栄町	久美浜町	(単位:戸) 京丹後市 計
単一 経 営 農 家	農産物を販売した農家数	451	358	221	228	312	866	2,436
	稻作	402	302	122	154	241	559	1,780
	雑穀・いも類・豆類	2	-	2	-	5	6	15
	工芸農作物	-	-	3	-	2	2	7
	露地野菜	2	2	13	-	-	3	20
	施設野菜	4	2	3	10	1	11	31
	果樹類	-	-	10	3	1	37	51
	花き・花木	1	-	-	-	2	-	3
	その他の作物	-	-	2	-	1	2	5
	酪農	-	-	6	-	1	1	8
準 單 一 複 合 經 営 農 家	肉用牛	-	-	1	3	3	1	8
	養鶏	1	-	1	-	1	1	4
	稻作が主位で2位が 雑穀・いも類・豆類	8	5	3	2	10	70	98
	露地野菜が主位	-	2	11	-	1	8	22
	施設野菜が主位	5	3	5	15	5	21	54
	果樹類が主位	-	-	4	3	-	18	25
	花き・花木が主位	1	-	1	1	-	-	3
	酪農が主位	-	-	1	-	-	-	1
複合経営農家		1	-	-	2	2	3	8
		-	6	6	4	13	22	51
		8	17	19	17	12	73	146

※農業経営体（総数）の数値

資料：平成 17 年農業センサス（確定値）

「単一経営農家」、「準单一複合経営農家」、「複合経営農家」とは、農産物販売金額 1 位部門の販売金額が、総販売金額のそれぞれ 8 割以上、6 割以上 8 割未満、6 割未満を占める農家。

## (11) 販売金額規模別農家数

販売農家の販売金額規模を見ると、販売なしから 50 万円未満の農家が全体の約 52%を占める。100 万円未満では約 70%となり、500 万円以上は全体の約 7%に過ぎない。

表 2-47 販売金額別農家数（平成 17 年）

	販売農家	販売なし	50万円未満	50～100万円	100～200万円	200～300万円	300～500万円	500～1000万円	1000～2000万円	2000万円以上
峰山町	531 (100.0%)	81 (15.3%)	222 (41.8%)	100 (18.8%)	65 (12.2%)	35 (6.6%)	19 (3.6%)	7 (1.3%)	1 (0.2%)	1 (0.2%)
大宮町	415 (100.0%)	58 (14.0%)	145 (34.9%)	78 (18.8%)	76 (18.3%)	23 (5.5%)	19 (4.6%)	8 (1.9%)	5 (1.2%)	3 (0.7%)
網野町	254 (100.0%)	34 (13.4%)	66 (26.0%)	48 (18.9%)	33 (13.0%)	8 (3.1%)	16 (6.3%)	16 (6.3%)	20 (7.9%)	13 (5.1%)
丹後町	257 (100.0%)	31 (12.1%)	111 (43.2%)	40 (15.6%)	30 (11.7%)	19 (7.4%)	13 (5.1%)	4 (1.6%)	8 (3.1%)	1 (0.4%)
弥栄町	355 (100.0%)	47 (13.2%)	146 (41.1%)	66 (18.6%)	34 (9.6%)	17 (4.8%)	13 (3.7%)	19 (5.4%)	9 (2.5%)	4 (1.1%)
久美浜町	976 (100.0%)	114 (11.7%)	400 (41.0%)	189 (19.4%)	120 (12.3%)	52 (5.3%)	36 (3.7%)	32 (3.3%)	27 (2.8%)	6 (0.6%)
京丹後市 計	2,788 (100.0%)	365 (13.1%)	1,090 (39.1%)	521 (18.7%)	358 (12.8%)	154 (5.5%)	116 (4.2%)	86 (3.1%)	70 (2.5%)	28 (1.0%)

※農業経営体 販売農家（総数）の数値

資料：平成 17 年農業センサス（確定値）

## ⑫ 農産物

京丹後市の農産物で水稻以外に作付け面積が大きいものとしては、大豆、小豆、日本なしとなっている。

京都府全体の作付け面積、収穫量と本市を比較すると、果実において府の全体収穫量に占める本市の割合が高い。特に日本なしの占める割合が高く、収穫量は府全体の 85.8%となっている。ついで、メロンが 72.3%、ももが 65.3%となっており、果実の生産貢献が高いことが分かる。

表 2-48 農産物の作付面積と収穫量

	峰山町		大宮町		網野町		丹後町		弥栄町		久美浜町		合計		市/府(%)	
	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量	面積	収穫量
水稻	525	487	463	482	307	477	292	473	369	496	708	475	2,664	2,890	16.2	3.6
小麦	0	0	-	-	-	-	0	0	-	-	0	0	0	0	0.0	0.0
六条大麦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	4	3	8.7	4.1
かんしょ	9	140	6	91	8	132	6	87	19	313	13	212	61	975	22.3	22.9
大豆	11	13	18	22	4	4	10	10	8	9	92	119	143	177	19.8	20.4
小豆	27	17	16	10	6	3	12	6	13	8	63	35	137	79	19.9	17.6
ソルゴー	-	-	-	-	14	482	10	338	15	532	6	203	45	1,555	36.9	29.7
青刈りとうもろこし	0	0	1	44	6	272	6	279	1	46	2	91	16	732	25.4	28.6
牧草計	-	-	0	0	60	2,460	48	1,970	5	219	1	43	114	4,692	44.9	43.9
だいこん	9	251	10	315	20	632	6	189	22	626	20	567	87	2,580	30.7	27.7
かぶ	1	38	4	104	0	9	0	9	17	467	7	121	29	748	16.3	11.8
にんじん	1	24	1	24	1	24	1	12	1	19	2	44	7	147	10.6	10.0
ごぼう	1	12	1	12	1	8	1	9	2	23	2	20	8	84	20.5	21.2
ばれいしょ	4	52	4	50	7	87	4	50	3	39	7	98	29	376	9.3	10.4
さといも	7	92	8	93	3	45	3	38	3	42	12	171	36	481	29.3	35.4
はくさい	4	167	6	215	3	142	2	86	2	102	5	223	22	935	12.9	14.9
キャベツ	5	137	13	463	4	102	2	57	3	79	9	280	36	1,118	12.1	11.1
ほうれんそう	2	24	1	17	1	14	0	6	0	5	4	49	8	115	2.4	2.1
ブロッコリー	1	11	2	11	2	15	4	29	1	6	1	10	11	82	39.3	29.9
レタス	0	1	2	18	0	1	0	1	0	1	1	6	3	28	7.3	5.5
ねぎ	2	48	2	43	2	47	1	29	1	29	6	120	14	316	5.7	4.9
たまねぎ	5	103	10	410	7	219	2	45	3	58	4	93	31	928	26.1	26.4
きゅうり	2	50	4	126	2	38	1	21	1	25	5	118	15	378	8.9	6.2
かぼちゃ	5	80	4	56	3	48	3	38	4	44	10	164	29	430	29.6	30.9
なす	4	120	3	97	1	29	1	27	2	55	4	136	15	464	7.2	3.5
トマト	4	88	3	71	2	70	2	38	2	32	10	395	23	694	13.7	10.7
ピーマン	1	17	1	23	1	9	1	16	1	13	2	44	7	122	9.5	6.5
スイートコーン	0	1	2	7	0	1	1	4	1	2	2	8	6	23	10.0	7.2
さやいんげん	1	8	2	14	0	3	2	10	1	7	3	23	9	65	9.8	12.4
さやえんどう	1	6	1	5	2	7	1	3	1	3	3	15	9	39	8.7	7.1
えだまめ	3	15	2	7	0	1	0	1	4	21	16	75	25	120	13.4	10.3
いちご	1	7	1	7	0	2	0	2	1	6	1	6	4	30	8.3	5.6
すいか	4	76	4	75	12	286	3	63	3	60	9	220	35	780	42.2	44.3
メロン	2	17	2	16	12	209	1	11	1	12	15	226	33	491	68.8	72.3
京菜 (水菜、壬生菜)	9	81	1	10	0	1	16	141	3	22	19	158	48	413	27.7	11.1
りんご	0	0	-	-	0	0	0	0	1	7	2	4	3	11	33.3	23.9
ぶどう	1	5	3	1	6	29	1	1	4	15	18	122	33	173	37.5	27.0
日本なし	0	3	-	-	26	530	0	0	3	17	72	1,330	101	1,880	84.9	85.8
もも	0	1	-	-	6	34	4	21	2	11	23	123	35	190	76.1	65.3
うめ	1	2	2	3	1	3	1	3	2	4	4	10	11	25	12.6	9.9
かき	7	30	3	13	6	28	5	15	5	20	19	102	45	208	19.2	13.7
ぐり	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	3	1	0.5	0.2

資料：平成 15 年作付面積調査及び収穫量調査（京都農林水産統計年報 平成 14～15 年）

### ⑬ 耕作放棄地

耕作放棄地については、平成 2 年から平成 7 年にかけては農家数、面積ともに減少しているが、平成 12 年では増加している。平成 12 年の耕作放棄地の面積は 208ha で、耕作放棄率は 5.2% である。地域別では網野町や丹後町で耕作放棄をした農家数の割合、耕作放棄地の割合が高くなっている。

表 2-49 耕作放棄地

	平成7年				平成12年				平成17年			
	耕作放棄した農家		耕作放棄地		耕作放棄した農家		耕作放棄地		耕作放棄した農家		耕作放棄地	
	農家数 (戸)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	農家数 (戸)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	農家数 (戸)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
峰 山 町	190	22.3	21	2.9	238	30.9	29	5.3	197	36.7	25	4.2
大 宮 町	180	23.6	22	3.2	190	28.6	23	3.5	140	33.2	19	3.3
網 野 町	158	28.9	32	5.7	218	42.2	42	7.5	103	39.9	22	4.7
丹 後 町	257	42.8	34	7.3	257	47.7	33	7.5	108	41.5	16	4.1
弥 栄 町	127	19.1	16	2.9	160	28.2	18	3.2	91	25.1	10	1.8
久 美 浜 町	396	24.4	55	4.3	500	34.0	63	5.0	316	31.7	48	4.3
京丹後市 計	1,308	25.9	178	4.2	1,563	34.5	208	5.2	955	33.7	140	3.8

※平成 7・12 年は総農家、平成 17 年は農業経営体（総数）の数値

資料：農業センサス（確定値）

耕作放棄地とは、所有している耕地のうち、過去 1 年以上作付けせず、しかもこの数年の間に再び作付けする考えのない耕地をいう。転作のため休耕している耕地で、今後作付けする考えのある耕地は含まない。

耕作放棄地率： 耕作放棄地面積 ÷ (耕作放棄地面積 + 経営耕地面積) × 100

### (3) 観光農園・農産物直販所等

本市の主な観光農園や農産物直販所などについて、以下に概要をまとめた。なお、以下については有人の直売所のみであり、市内にはこれ以外に無人直売所も多数存在する。

表 2-50 京丹後市の観光農園・農産物直販所等

名 称	概 要
天女の里 (峰山町)	宿泊交流施設として農家を模した純和風のコテージには囲炉裏があり、懐かしい故郷に帰ったような本物のくつろぎが実感できる。また、オートキャンプサイトやネイチャーゾーンのフリーサイトも完備され、アウトドアと山里情緒が堪能できる。 ◆主な販売品目 野菜、加工品、ハーブ、工芸品等
ウッディいさなご (峰山町)	林業振興と農村の地域活性化を図ることを目的に建設され、講演会や木工教室の会場等として利用されている。 ◆主な販売品目 工芸品等
丹後温泉はしうど 荘 (丹後町)	丹後の名勝立岩のそばにたつ温泉宿。立岩を眺めながらの入浴や地引網体験なども楽しめる。また、近隣のキャンプ場でアウトドアも楽しめる。 ◆主な販売品目 海産物等
宇川温泉よし野の 里 (丹後町)	森林の香りと海の爽やかな風が混在する宇川温泉よし野の里は、自然の恵みに囲まれた宇川の魅力を満喫する施設となっている。 ◆主な販売品目 野菜、果樹、工芸品、海産物等
丹後あじわいの里 (弥栄町)	手作りパンやソーセージ、ピザ工房、売店、バーベキューhausなど味覚にまつわる楽しみが詰まったテーマパーク。 ◆主な販売品目 野菜、果樹、加工品、工芸品、海産物等
くみはま SANKAIKAN (久美浜町)	町内各地の特産物などを一堂に集めて販売したり、地域の情報を紹介したりする交流施設となっている。 ◆主な販売品目 野菜、果樹、加工品、工芸品、海産物等
奥山自然体験公園 (久美浜町)	自然に囲まれ、日常から開放された時間を満喫できるキャンプ場。バンガロー・テントサイト・炊事棟・ラウンジ等の設備が充実している。 ◆主な販売品目 野菜、加工品、海産物等



図2-31 丹後あじわいの里



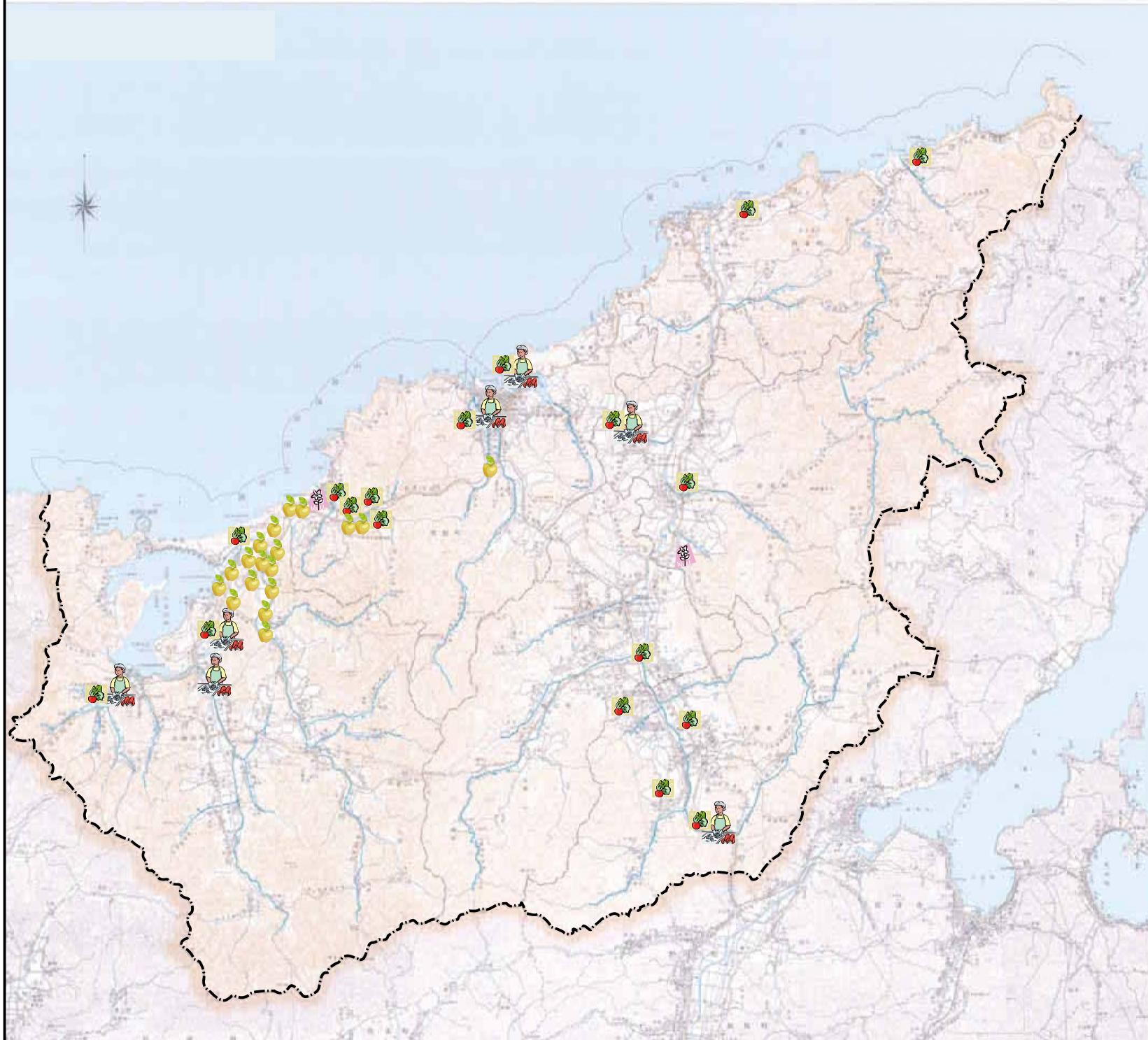
図2-32 天女の里で販売されている商品

表 2-51 京丹後市の直販所

	農産物直売所名	形態	所在地	市町	都市農村交流の実施	開設期間	開設時間	頻度	曜日	販売内容
1	峰山の朝市	直売所(有人)	峰山町荒山	峰山	×	4月～12月	AM7：00～AM8：30	週1回	土曜日	果実, 加工食品, 野菜, 潰物, 花き類
2	ふれあいサロン朝市	直売所(有人)	大宮町河辺公民館前	大宮	×	3月～12月	AM8：00～AM11：00 (6～8月～AM10：00)	月1回	日曜日(第4)	果実, 加工食品, 山菜, 野菜, 潰物, 花き類
3	ひまわり会	直売所(有人)	大宮町谷内畔蔵前	大宮	×	4月～12月	AM7：00～AM10：00	週1回	土曜日	ワイン漬茄子, ふき煮, 低塩梅干, うるち餅, 紅生姜, 果実, 筍, しいたけ, 山菜, 野菜, 花き類
4	奏農くらがき朝市	直売所(有人)	大宮町奥大野地内	大宮	×	4月～12月(月2回, 第2・4日曜日) 7月中旬～8月中旬 (は毎週)	AM8：00～AM9：00	4月～12月 (月2回, 第2・4日曜日) 6～12月毎週	日曜日(第2, 4又は毎週)	果実, 加工食品, 筍, しいたけ, 山菜, 茶, 野菜, 卵, 潰物, 花き類
5	とれとれ100円市場	直売所(無人)	中郡大宮町明田	大宮	×	7月～11月	AM7：00～PM5：00	毎日	—	野菜, 花き類
6	朝市グループ	直売所(有人)	大宮町善王字公民館前	大宮	×	4月～12月	—	4・5月第2土曜日 6～12月毎週	土曜日	果実, 加工食品, 筍, しいたけ, 山菜, 野菜, 卵, 潰物, 花き類
7	井幸農園	直売所(有人)	網野町木津	網野	×	7月～3月	AM8：00～PM8：00	毎日	—	果実, 野菜
8	高谷農園	直売所(有人)	網野町菜古	網野	×	年中	AM8：00～PM6：00	毎日	—	野菜, 潰物, 花き類
9	辻農園	直売所(有人)	網野町木津816-1	網野	どちらでもない	7月～9月	AM10：00～PM4：00	毎日	—	果実
10	小松農園	直売所(有人)	網野町浜詰	網野	×	6月～3月	AM9：00～PM5：00	毎日	—	果実, 野菜, 花き類
11	松本好弘農園	直売所(有人)	網野町木津	網野	×	7月～12月	AM8：00～PM6：00	毎日	—	果実, 野菜
12	奥村農園	直売所(有人)	網野町木津1145	網野	どちらでもない	7月～8月	AM9：00～PM4：00	毎日	—	果実, 野菜
13	谷芳農園	直売所(有人)	網野町小浜545	網野	どちらでもない	3月中旬～2月中旬	AM9：30～PM5：00	毎日	—	果実, 野菜, 米, 花き類
14	たんご朝市	直売所(有人)	網野町網野367	網野	×	年中	AM8：00～AM10：00	毎週	日曜日	果実, 加工食品, 筍, 水産物, しいたけ, 山菜, 野菜, 卵, 潰物, 花き類
15	愛菜館	直売所(有人)	弥栄町鳥取123 丹後あじわいの郷ゲート前	弥栄	×	年中	AM9：00～PM5：00 12月～2月 ～PM4：00	毎日	—	果実(桃, 梨, ブドウなど), 加工食品, 筍, しいたけ, 山菜, 茶, 野菜(大根, キャベツ, トマトなど), サツマイモ, 米, 卵, 潰物, 炭, 花き類
16	朝市の会	直売所(有人)	丹後町竹野313-1	丹後	×	年中	AM8：00～正午	週2回	土, 日曜日	春: タケノコ, キャベツ 夏: モモ, トマト, ナス 秋: コシヒカリ 冬: ミズナ, ブロッコリー
17	やさか花の郷	直売所(有人)	弥栄町吉沢国営開発農地 上野団地内	弥栄	×	3月～7月 10月～12月	AM9：00～PM5：00	週6回	月曜日を除く	花き類
18	やさかの朝市	直売所(有人)	弥栄町溝谷5446	弥栄	×	—	AM9：00～AM11：00	週1回	日曜日	スイカ, 枝豆, 甘藷, ゴボウ, 生姜, 芋づる, 南瓜, 大根, 白菜, 卷き寿司, ばら寿司, よもぎ餅, 花, 花苗, 花台等
19	山下農園	直売所(有人)	久美浜町平田870	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM6：00	毎日	—	果実, 野菜
20	白岩栄一農園	直売所(有人)	久美浜町平田1361	久美浜	×	7月～11月	AM8：30～PM8：00	毎日	—	果実
21	米田農園	直売所(有人)	久美浜町箱石	久美浜	どちらでもない	6月～12月 11月～PM5：00	AM8：00～PM6：00 AM8：00～PM5：00	毎日	—	果実, 野菜
22	家城農園	直売所(有人)	久美浜町箱石	久美浜	×	7月～12月	AM9：00～PM6：00	毎日	—	果実, 野菜
23	いえき農園	直売所(有人)	久美浜町三分	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM6：00	毎日	—	果実
24	白一農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM7：00	毎日	—	果実, 野菜, 米
25	フルーツ大道	直売所(有人)	久美浜町大井	久美浜	×	8月～10月	AM8：00～PM8：00	週7回	土, 日曜日	果実
26	イエキ農園	直売所(有人)	久美浜町三分	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM6：00	毎日	—	果実
27	果実の家	直売所(有人)	久美浜町箱石	久美浜	×	7月～11月	AM8：00～PM5：00	毎日	—	果実, 加工食品, 野菜
28	高田靖夫農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM6：00 7～9月のみ～PM7：00	毎日	—	果実, 野菜,
29	西垣農園	直売所(有人)	久美浜町三分	久美浜	×	7月～11月	AM8：00～PM5：00	毎日	—	果実, 野菜,
30	久美浜町観光振興会	直売所(有人)	K T R 久美浜駅舎 多目的ホール	久美浜	×	—	AM9：00～正午	週1回	日曜日	果実, 加工食品, 野菜, 米, 潰物
31	牧野農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	7月～12月	AM8：00～PM8：00	週7回	—	果実, 野菜
32	白岩弘農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	8月～12月	AM8：00～PM7：00	週7回	—	果実
33	能勢肇農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	8月～12月	AM10：00～PM6：00	週7回	—	果実
34	O(えん)の会	直売所(有人)	丹後町久僧1562	丹後	○	年中	AM10：00～PM9：00	週6回	日, 月, 火, 水, 金, 土曜日	夏: トマト, きゅうり, ナス, サザエ, てんぐさ, スルメ 秋: ぶどう, いも, 米, もち, 魚の干物, 菊 通常: ちりめん小物, こんにゃく, 手作りせんべい, 竹炭, 木酢液
35	白岩孝之助農園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	8月～12月	AM8：00～PM7：00	週7回	—	果実
36	白岩功果園	直売所(有人)	久美浜町平田	久美浜	×	7月～3月	AM7：00～PM8：00	週7回	—	果実, 野菜
37	莫○野果市(さわやかいち)	直売所(有人)	久美浜町浦明1709	久美浜	×	—	AM9：30～PM6：00	毎日	第2木曜定休	季節ごとの一般野菜, 中国野菜, 農産加工品(もち, こんにゃく, うこん), 有精卵, 葉ボタン, しいたけ, 農産手芸品, 洋なし, ウリ

資料: 農業改良普及センター, 京丹後市ホームページ

## 直販所位置図



N  
0 1 2 3 4km  
1:120,000

### 凡例

- 農産物の加工販売
- 野菜等
- 果物(梨・桃・ブドウ・メロン等)
- 花卉

## (4) 組織等

### ① ふるさと加工品組織

現在、市で把握しているふるさと加工品組織は、全部で14グループあり、うち1つが有限会社、うち9つがグループ、うち3つが個人となっている。販売方法は直売所や卸売販売となっており、ほとんどが地域内もしくは府内を販売先としている。

表 2-52 ふるさと加工品組織

名 前	販売方法	開設主体の形態	構成員(人)	所在地	開設主体の持つ事業	販売先割合(%)		
						地域内	府内	府外
(有) 酪ママ工房	・有人直売所 ・卸売販売 ・委託販売 ・宅配便販売	有限会社	3	網野町小浜	・食品加工	60	20	20
ひふみやグループ	・特約店販売 ・その他(エーコープあみの)	グループ	4	網野町俵野	・食品加工	100	0	0
スイス村せんべい 製造吉野基地	・無人 ・卸売販売	その他	10	弥栄町吉野	・食品以外の加工	90	10	0
弥栄町のま山菜の会	・JA	グループ	6	弥栄町野中	—	—	—	—
五箇田庭みどり会	・地域のイベントでの販売	グループ	13	—	・農業生産 ・食品加工	100	0	0
越江雅夫	・有人直売所	個人	4	久美浜町女布	・食品加工	100	0	0
ファームガーデン空詩土	・青空市場 ・卸売販売	グループ	3	網野町島津	・農業生産 ・食品加工 ・流通と販売 ・都市との交通	90	10	0
とま工房	・卸売販売	個人	4	久美浜町小桑	・農業生産 ・食品加工	—	—	—
天女の里協力会 (旧峰山町ふるさと 产品研究会)	・委託販売 ・イベント販売	グループ	9	峰山町鰐留	・食品加工	100	0	0
やまゆりグループ	・卸売販売	グループ	4	久美浜町尉ヶ畑	・農業生産 ・食品加工	100	0	0
三重生産グループ	・特約店販売	グループ	6	大宮町三重	・食品加工	0	100	0
手造りあしぎぬこんにゃく	・直売所	グループ	8	弥栄町木橋	・食品加工	100	0	0
T.Aすいせんグループ	・青空市場 ・卸売販売 ・委託販売	グループ	10	丹後町徳光	・食品加工 ・流通と販売	99	0	1
タケチャンファーム	・直売所 ・宅配便販売(インターネット 以外の販売法)	個人	4	丹後町大山	—	30	0	70

出典：市資料

## ② 認定農業者

平成 17 年 11 月現在の市内の認定農業者数は 10 であり、経営内容は水稻が多い。

**表 2-53 認定農業者**

認定農業者名	所在	認定年月日	経 営 概 要(単位:a・頭・羽, 作業受託:主要3 作業延べ面積÷3)
(有) 常吉村営百貨店	大宮町常吉	H14. 9. 2	水稻123, 露地野菜6, えごま他49, 作業受託205
(有) 丹後路たにうちファーム	大宮町谷内	H14. 9. 2	水稻123, 露地野菜6, えごま他49, 作業受託205
(農) 日本海牧場	網野町生野内	H12. 9. 1	田101, 畑1388, 繁殖和牛59, 肉用牛80
(有) フルーツ王国やさか	弥栄町木橋	H17. 3. 4	畑760, 桃130, 武道170, 梨220, りんご80
(有) くらぶ・ふあーまー	弥栄町溝谷	H16. 3. 10	田550, 水稻400, みず菜29, そば100, 作業受託170
(有) 久美浜観光園	久美浜町丸山	H15. 8. 6	田1200, 畑130, 水稻1200, 露地野菜100, 豆類400, 作業受託833
(有) 久美浜商事	久美浜町佐野	H15. 3. 5	(田2040, 畑200, 水稻1500, 黒大豆500, 露地野菜, 施設野菜, 作業受託, 廉産) 計画
(農) 百姓王国	(和束町字袖田小字袖ノ谷)	H16. 10. 25	田30, 畑1700, 茶1730, 作業受託:茶貿加工4000kg
(有) 楽農らくがき	大宮町奥大野		
(農) 田吾作			

平成 17 年 11 月 14 日現在

### ③ 農作業受託組織

市内の農作業受託組織は全部で 35 あり、内容は米や大豆、黒大豆、小豆となっている。

大宮町や丹後町、久美浜町で農作業受託組織の数が多い。

表 2-54 農作業受託組織

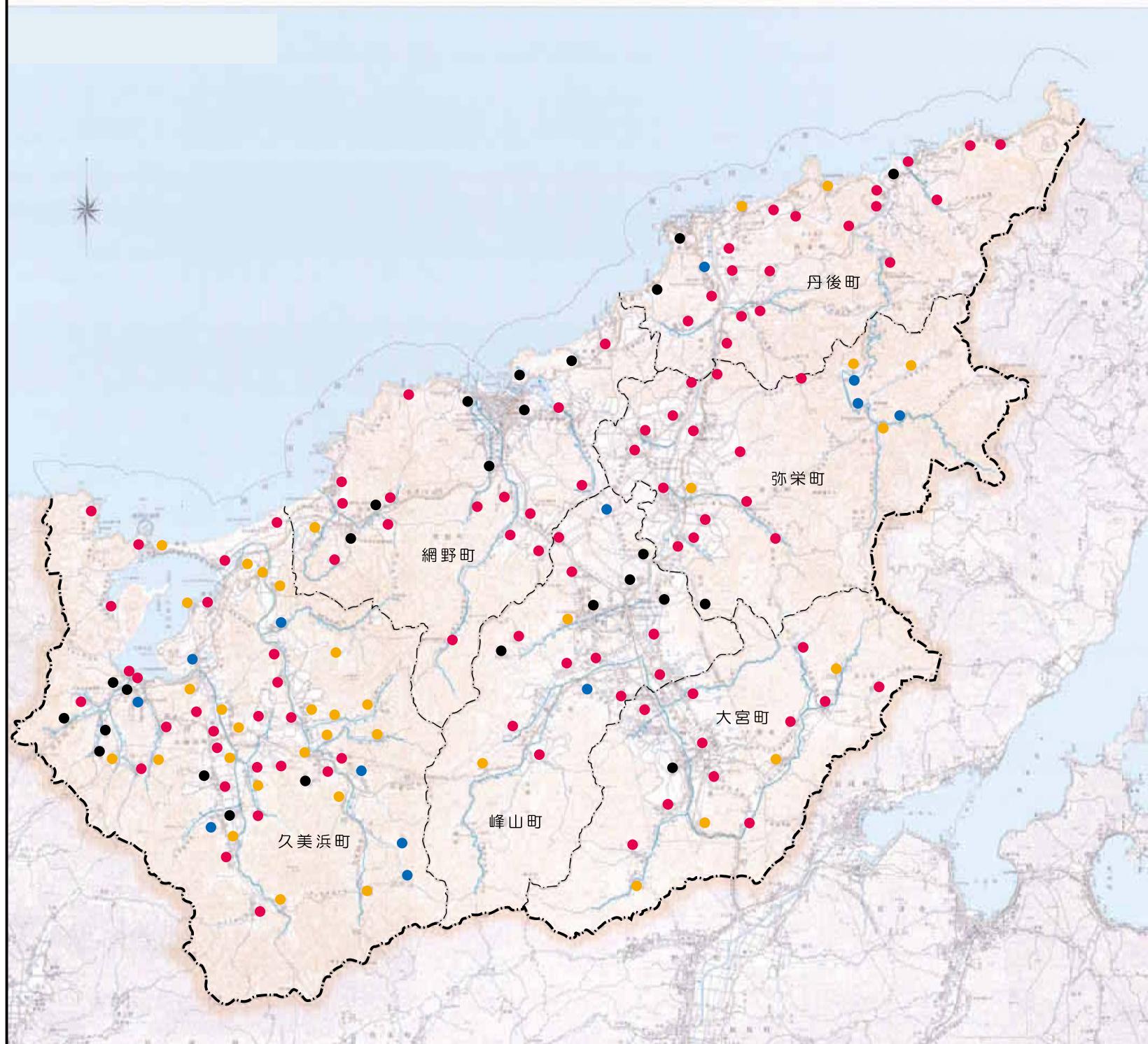
農作業受託組織等名	市町村名	地域名	作物名
五十川小町ファーム	大宮町	五十河	—
谷ヶ奥農事組合	大宮町	周枳	—
久住農事組合	大宮町	久住	—
新宮コンバイン受託組合	大宮町	新宮	—
(有) 常吉村営百貨店 (H9. 8)	大宮町	常吉	米
小町の里地域農場づくり協議会受託部会	大宮町	小町の里	米
(農) 楽農くらがき (H14. 7)	大宮町	奥大野	米
(有) 丹後路谷内ファーム (H9. 4)	大宮町	谷内	米
岩木営農組合	丹後町	岩木	ソバ
是安農事組合	丹後町	是安	—
矢畠栄営農組合	丹後町	矢畠	—
豊栄担い手組合 (H11. 10)	丹後町	竹野川	米, 大豆, 小豆
竹野担い手組合 (H12. 3)	丹後町	竹野間人	米, 大豆
丹後えーのお組合 (H16)	丹後町	竹野	米
竹野農事組合	丹後町	竹野	飼料
菅受託組合	峰山町	菅	—
新山地域農作業受託組合 (H6. 9)	峰山町	新山	米
五箇営農組合作業受託部	峰山町	五箇	米, 大豆, 小豆, 黒大豆
有志による共同体	弥栄町	船木	—
くらぶふあーまあー (有)	弥栄町	外村	—
吉野農家組合	弥栄町	吉野	—
川上地域農場づくり協議会 (H7. 3)	久美浜町	川上	米
川上南部営農組合 田吾作 黒豆部会	久美浜町	布袋野	黒大豆
海部南部地域農場づくり協議会 (H13. 8)	久美浜町	海部南部	米
市場営農組合 (H12)	久美浜町	市場	麦, 黒大豆
金谷農家組合	久美浜町	金谷	黒大豆
新庄営農転作組合	久美浜町	新庄	—
橋爪農会	久美浜町	橋爪	黒大豆
品田営農組合	久美浜町	品田	黒大豆
丸山農会	久美浜町	丸山	麦
平田営農組合	久美浜町	平田	—
三分営農組合	久美浜町	三分	黒大豆
甲山営農委員会	久美浜町	甲山	麦
浦明機械利用部	久美浜町	浦明	—
鹿野機械組合	久美浜町	鹿野	—

出典：市資料

### ④ 地域の組織数

農産物の販売やボランティア活動、自然動植物の保護などの集落別の組織数は、中山間地の集落で組織数 7 以上の集落が見られ、一方、市街地に近い集落では、組織数が 0 の集落が多くみられ、中山間地では集落の組織活動が盛んに行われ、都市的な地域ほど集落活動があまり行われていない状況が伺える。次ページに状況図を添付する。

### 集落別地域の組織数（2000年）



凡 例

-  0
  -  1~3
  -  4~6
  -  7以上

## (5) 京丹後市の鳥獣被害状況

平成 10 年から平成 14 年の農作物被害面積は増加傾向にあり、特に平成 13 年、14 年で急増している。平成 10 年では 102ha であった被害面積が平成 14 年では 476ha と約 4 倍に増えている。動物別では、イノシシによる被害が最も多く、次にシカ、カラス、タヌキ、ヌートリアとなっている。作物別では、水稻の被害が最も多く、次に豆類の被害が多い。また、有害鳥獣の捕獲実績も年々増加している。

表 2-55 鳥獣による農作物の被害状況

鳥獣類名	農作物名	被害面積（単位：a）				
		H10	H11	H12	H13	H14
サル	豆類	250	230	250	250	210
	いも類	250	230	250	230	210
	野菜類	700	640	500	600	550
イノシシ	水稻	1,093	1,320	1,459	2,570	6,941
	豆類	162	202	355	459	5,018
	野菜類	183	232	195	12	2,065
	いも類	392	473	534	1,621	811
	飼料作物	108				
シカ	水稻	990	1,379	1,389	2,545	6,740
	豆類	318	444	522	350	3,195
	野菜類	351	493	560	4,035	2,115
	檜苗木	250	250	300	200	50
	飼料作物	72				
	いも類	17	24	21	2,360	780
	葉たばこ				720	
タヌキ	水稻					2,625
	豆類			10	220	2,625
	いも類	101	119	146		760
	野菜類	330	344	669	1,080	1,580
	果樹類	41	51	58		
クマ	果樹類	103	198	170		358
ヌートリア	水稻			760	600	1,877
	野菜類			179	300	600
	豆類					600
ヒヨドリ	野菜類	104	100			
カラス	水稻	200	213	190		
	豆類	20	24	27	27	27
	野菜類	576	623	851	296	860
	果樹類	3,440	3,645	3,113	836	6,988
ハト	豆類	115	118		504	4
	野菜類	13	15		2	
合計		10,179	11,367	12,508	19,817	47,589

資料：振興局集計

表 2-56 有害鳥獣捕獲処理を目的とした捕獲実績

	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	合 計	H11	H12	H13	H14	H15	H16
カラス	139	44	76		102	18	379	285	249	292	305	281	414
ドバト	2	4					6	23	11	3	16	12	12
コサギ	5						5		17	30	39	14	11
アオサギ	12						12		21	29	42	39	18
鳥類小計	158	48	76	0	102	18	402	308	298	354	402	346	455
イノシシ	31	36	176	21	10	187	461	118	204	209	243	333	419
オスジカ	21	12	33			106	172	75	100	103	118	144	133
メスジカ	11	4	25			66	106	46	69	59	91	109	81
タヌキ		4	34	2		31	71	13	14	27	71	54	55
サル				9			9		1	6	16	5	7
ヌートリア	8		29	6	4	43	90		31	63	29	62	28
クマ						4	4	3	4		1	8	6
テン						0		7					1
獣類小計	71	56	297	38	14	437	913	262	423	467	569	716	729
合 計	229	104	373	38	116	455	1,315	570	721	821	971	1,062	1,184

注：クマ4匹は放獣

平成 17 年 11 月 25 日現在

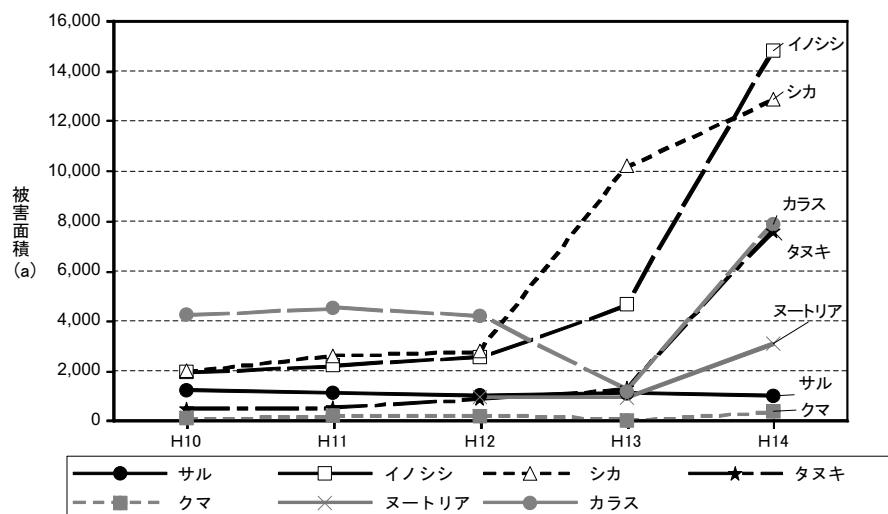


図2-33 動物別農作物被害状況

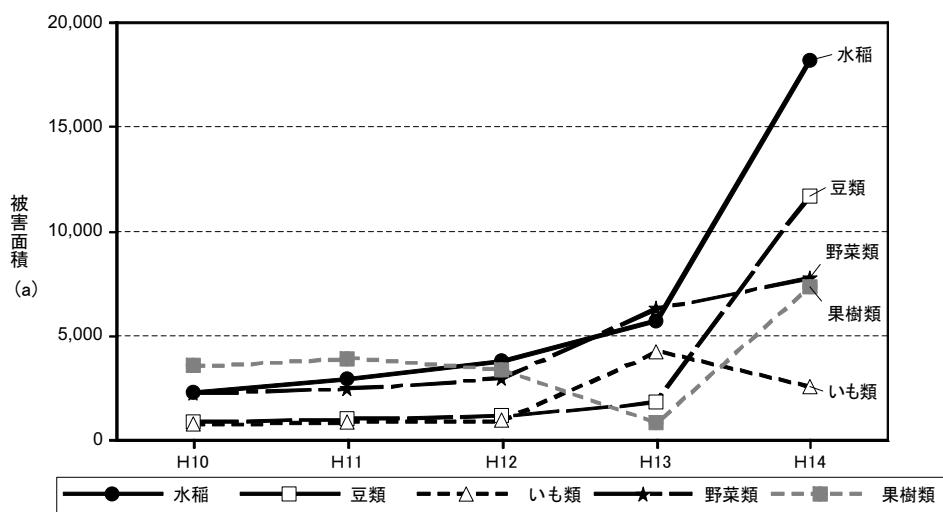


図2-34 作物別農作物被害状況

### (6) 京丹後市の自給率

平成 14 年の京丹後市の食料自給率は 79%となつており、日本全体の 40%、京都府全体の 13%と比較して高い水準を維持している。平成 7 年では 93%であり、7 年間で 14%減少している。町別でみると、久美浜町と弥栄町では 100%を超えているものの、その他の町では 100%を切っている。6 町では網野町の食料自給率が低く、平成 14 年で 44%となっている。

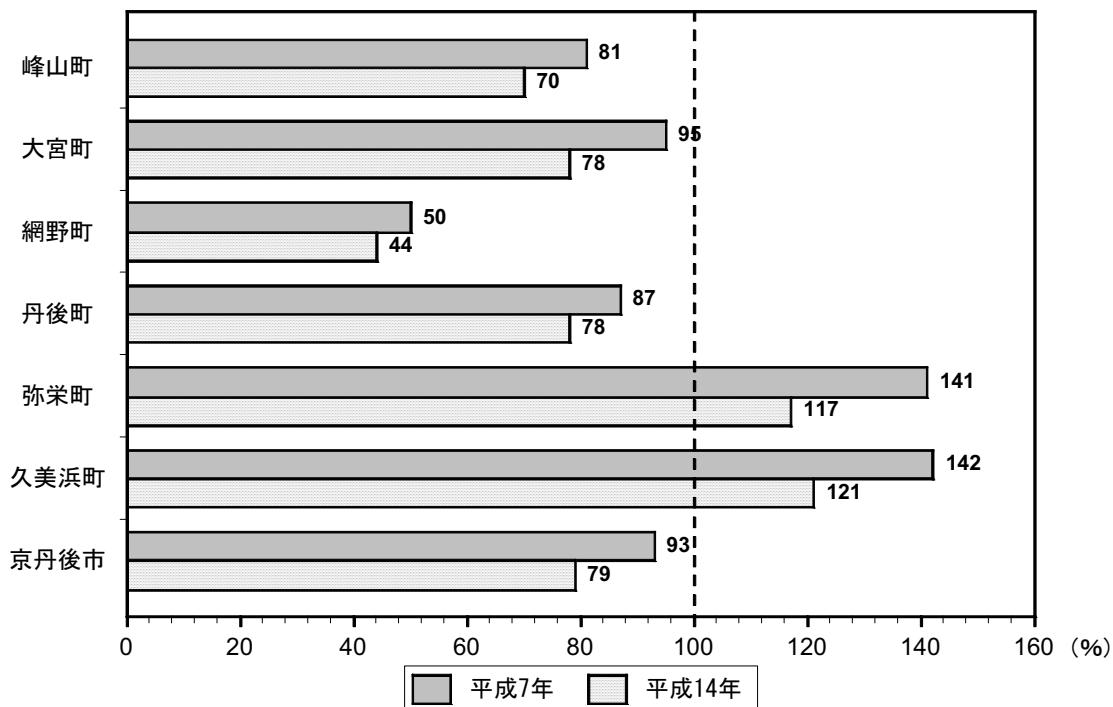


図2-35 地域自給率

農林水産省 地域食料自給率試算ソフト

(<http://www.kanbou.maff.go.jp/www/jikyu/jikyu041.htm>) より計算

## (7) 丹後国営農地開発事業の概要

丹後は、稲作農業を中心に丹後ちりめんを主とする織物産業を生活の基盤として発展してきた地域である。

しかし、経済発展の中で農業所得の相対的な低下が大きく、過疎化に加えて織物業の不振に悩んでおり、地域の活性化が課題となっている。

そこで、21世紀に向けて豊かな丹後地域の開発をすすめ、新しい農業を拓こうと国営農地開発事業が推進され、低未利用の山林・原野を水田の区画整理と一体となって開発し、畠地を造成して経営規模の拡大と農地の集団化を図り、併せて道路網の整備や水源の確保を実施して、生産性の高い農業経営の実現を目指している。

この農地開発は、事業着手以来、20年間の歳月と562億円を投じた事業が平成14年度に完工し、新規開発畠690ha 区画整理134ha が新たに造成され、丹後地方の畠作農業の展開が見込まれている。

表 2-57 事業の概要

工種	事業概要			
	全体	東部地区	西部地区	
農地造成	690.0ha	517.6ha	172.4ha	
区画整理	133.9ha	106.2ha	27.7ha	
道路	幹線道路	18.4km	17.4km	1.0km
	支線道路	46.4km	30.7km	15.7km
防災施設	沈砂地	160箇所	119箇所	41箇所
水源施設	貯水池	24箇所	17箇所	7箇所
	井戸	17箇所	10箇所	7箇所
	溪流取水工	20箇所	17箇所	3箇所
	送水路	49.6km	37.5km	12.1km
	揚水機	54箇所	36箇所	18箇所
畠地かんがい施設	ファームポンド	46箇所	33箇所	13箇所
	ほ場配管	512.3ha	382.4ha	129.9ha
工種	丹後東部地区 昭和58年度～平成14年度			
	丹後西部地区 昭和59年度～平成12年度			

資料：丹後国営農地開発事業の概要パンフレット

### (8) 基盤整備状況

平成 17 年現在の本市の基盤整備状況は、水田が 51.3%、畑が 47.4% となっている。

なお、旧町別の平成 16 年現在の基盤整備状況を以下にまとめる。

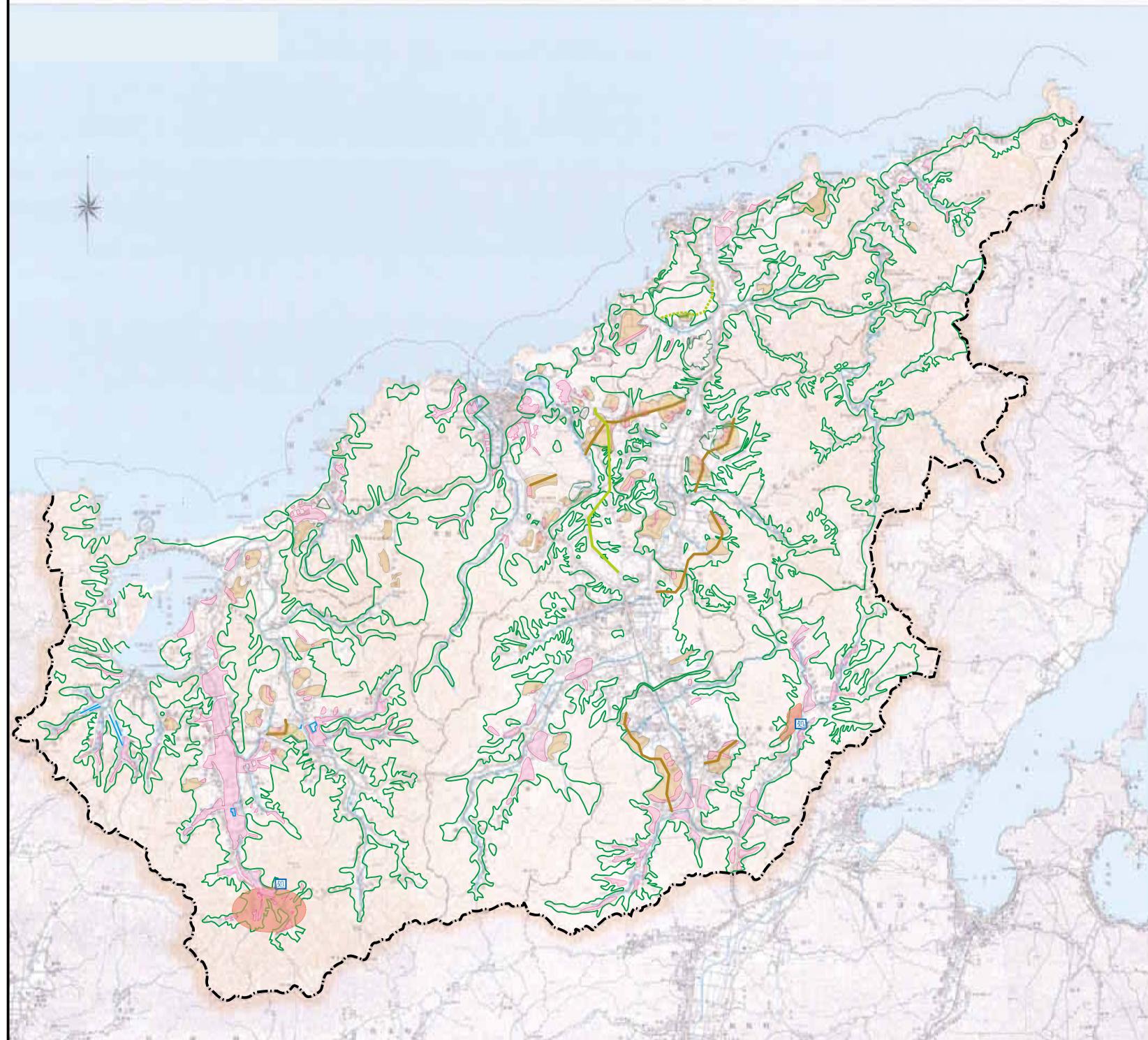
また、次ページに基盤整備状況図を添付する。

表 2-58 旧町基盤整備状況一覧（平成 16 年現在）

旧町名	水田	畑
大宮町	81.0%	49.1%
峰山町	45.2%	45.9%
弥栄町	32.3%	72.1%
丹後町	39.2%	—
網野町	91.3%	95.1%
久美浜町	79.7%	0%

資料：農業農村整備事業管理計画書

## 基盤整備状況図



凡例

- 市町村界
  - 農業振興地域界
  - 区画整理
  - 農地造成
  - 農業用排水路
  - 広域農道
  - 幹線道路
  -  集落排水処理施設
  -  集落排水処理範囲

### (9) 農業に関する市内での活動等

丹後町袖志の棚田では、田の一角を利用し、有機無農薬と手作業による赤米とコシヒカリの米づくりを平成12年から行っており、平成17年度は町内の宇川小学校5年生の児童による田植えや稲刈りなどが行われ、児童への食農教育に貢献している。

その他にも川上小学校で児童の稲作り体験などが行われており、これから京丹後市を担う子供達への食や農業に関する教育の積極的な取り組みが望まれる。



図2-36 小学生作成の看板



図2-37 栽培されている赤米

## (10) 農業の多面的機能

農業は洪水防止機能、水源涵養機能、自然環境保全機能など様々な多面的機能を有しており、我々の暮らしにとって欠かせないものとなっている。また、自然体験の豊富な子供ほど道德観や正義感が身に付いているアンケート結果も出ており、農業や自然が子供達に何らかの影響を与えていていると考えられる。

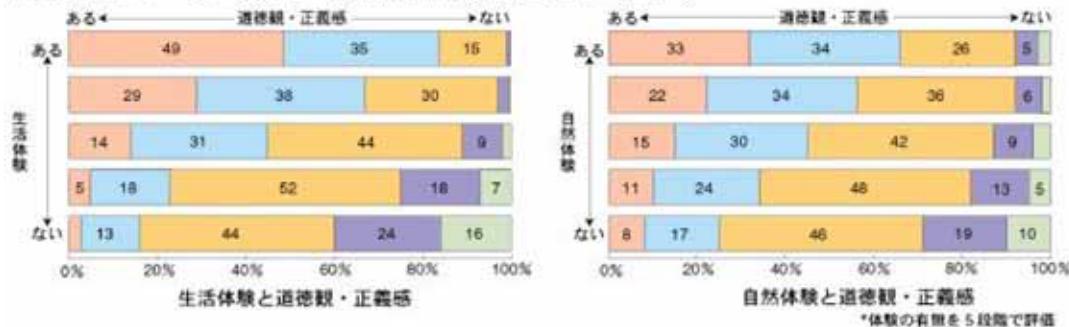
表 2-59 農業の多面的機能

洪水防止機能	水田は、あぜにより雨水を一時的に貯えることができ、雨水の急激な流出が防止され、下流での洪水や周辺での浸水が防止・軽減されるという機能がある。その他にも、地すべり、土砂崩れなどの発生を抑える機能もある。
水源涵養機能	水田に貯えられた水は徐々に浸透して地下水となり、人間の生活に必要な水源を豊かにする機能や川の流れを安定させる機能もある。また、収穫後の水田や畠も雨水の地下への浸透によって、地下水のかん養に役立っている。
自然環境保全機能	生ゴミや家畜の排せつ物などの有機性廃棄物は、たい肥化されて田畠に還元され、資源として有効に利用される。水田や畠のバクテリアなどの微生物は農地の耕作を通じて、有機物を分解して植物が吸収できるようにしている。この他、田畠やため池が多様な生物の生息の場所になるなど、自然環境の保全に大きく貢献している。
良好な景観の形成機能	農村で農業が営まれることで、田んぼなどの景観が維持・保全されているが、これらの景観は、その地域の住民や訪れる訪問者の美的感覚や心に訴えかけ、人の心をなごませる働きをしている。
文化の伝承機能	農村では、長い歴史を通じて農業が営まれることによって伝えられてきた、自然の恵みに感謝し、あるいは災害を避ける願いを込めて行われる芸能・祭り、様々な農業上の技術、地域独自の様々な知恵などの文化が守り伝えられている。
保健休養機能	きれいな水、澄んだ空気、美しい緑、都市では見られない景観や自然、環境、そして潤いや安らぎを求めて、農村に多くの人々が訪れている。 都市に住む人が農家民宿に泊まって農業を体験したり、農村の文化・自然にふれたりと、農村での人と人とのふれあい人ととの交流が今人気になっている。
地域社会の維持活性化	お米や野菜などの農作物を中心に、市場への運搬、漬物や缶詰への加工、お店での販売などたくさんの仕事が営まれ、活き活きした地域社会が育まれている。
食料安全保障	農産物は冷害や干ばつなどの気象条件に左右されやすくとても不安定なものである。そして今でも世界では10人に1人が明日食べるものにも困っているという現状がある。このような中、この限りある地球の資源を有効に活用しながら世界の人たちと共に生きていくためには、「大地の恵みを大切にし、自分の国で作れる食べ物はできる限り自分で作る」という考えを共有することが必要である。

出典：農林水産省ホームページより

## 豊かな体験は子どもたちにとって大切です

生活体験や自然体験の豊富な子どもほど、「友達が悪いことをしていたら、やめさせる」「バスや電車で席をゆずる」などといった道徳観や正義感が身についているという調査結果が出ています。



**【生活体験】**… 「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」ほか

**【自然体験】**… 「チョウやトンボ・バッタなどの昆虫をつかまえたこと」「海や川で貝を取ったり、魚を釣ったりしたこと」ほか

文部省「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」(平成10年12月)より

図2-38 子供の体験活動等に関するアンケート調査

出典：文部科学省ホームページ報道発表資料より

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/11/04/990406i.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/11/04/990406i.htm)

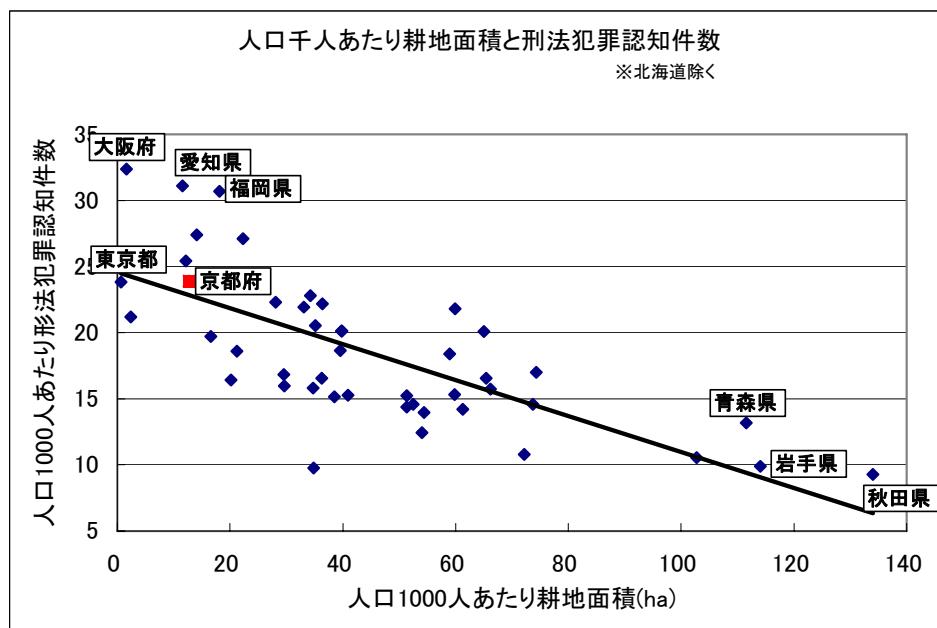


図2-39 人口千人あたり耕地面積と刑法犯罪認知件数

データ) 形法犯罪認知件数：警察庁刑事局刑事企画課 H15

耕地面積：農林水産省大臣官房統計部生産流通消費統計課「耕地及び作付面積統計」H15

人口：平成17年国勢調査

## 2.1.5 既存アンケート結果（20歳以上）の整理・分析

### （1）調査概要

本市合併前の第3回合併協議会（平成14年7月24日）配付資料に含まれていた「新しいまちの建設計画策定のための住民意識調査結果報告」より、地域の現状及び将来に関する住民の意向を把握する。同意向調査の調査概要は以下のとおりである。

#### ● 調査目的

6町の将来の方向性や地域の現状、合併に対する意識等について、住民の方々の意向を把握し、合併の協議・検討や建設計画策定のための基礎的資料を得ることを目的として、一般意識調査を実施した。

#### ● 実施概要

実施にあたっては、6町全体、各町別、年代別の傾向等を把握するため、次とおり人口比や年齢構成比等を勘案し、各町の住民基本台帳をもとに無作為に抽出、郵送により配布、回収を行った。

	峰山町	大宮町	網野町	丹後町	弥栄町	久美浜町	備考
人口	13,564	10,805	16,056	7,164	6,132	11,857	65,578 H12国調人口
配布数	1,450	1,140	1,710	780	640	1,280	7,000

調査日：平成14年5月（5月15日発送、5月27日締め切り）

配布回収状況

配布数：7,000票

有効回収数：3,251票

回収率：46.4%

## (2) まちの現状評価

【設問】現在のあなたのまちの現状について、どのように感じていますか。下記の各項目についてその満足度を1~5のうちから1つだけ○を付けて下さい。

現状の評価の分析にあたっては、評価を平均得点化して、順位付けを行っている。平均得点化はそれぞれの回答割合について、「大変満足× (+1.0)」「やや満足× (+0.5)」「どちらともいえない× (±0.0)」「やや不満× (-0.5)」「大変不満× (-1.0)」の合計値として算出している。

全体では、「公民館、集会場等の身近なコミュニティ施設の充実」、「安全対策・体制の推進・強化」を除くすべての項目が、マイナスポイントとなっている。

特に、以下の項目で評価が低くなっている。

- ・工業の振興や地域内での雇用の場の確保 (- 0.52)
- ・地域外との行き来が便利になるような幹線道路網の整備 (- 0.32)
- ・公共交通の充実 (- 0.32)
- ・農林漁業の振興 (- 0.29)

雇用に関してはアンケートの他の設問でも注目が高く、雇用状況の厳しさがうかがえる。農林漁業についても産業振興の一つの課題と考えられていると思われる。

また、「リサイクルの推進など、環境活動の強化」(- 0.02)に関しては、中間的な数値を示しており、「満足も不満もない」か「無関心」のいずれかの状況を示していると考えられる。

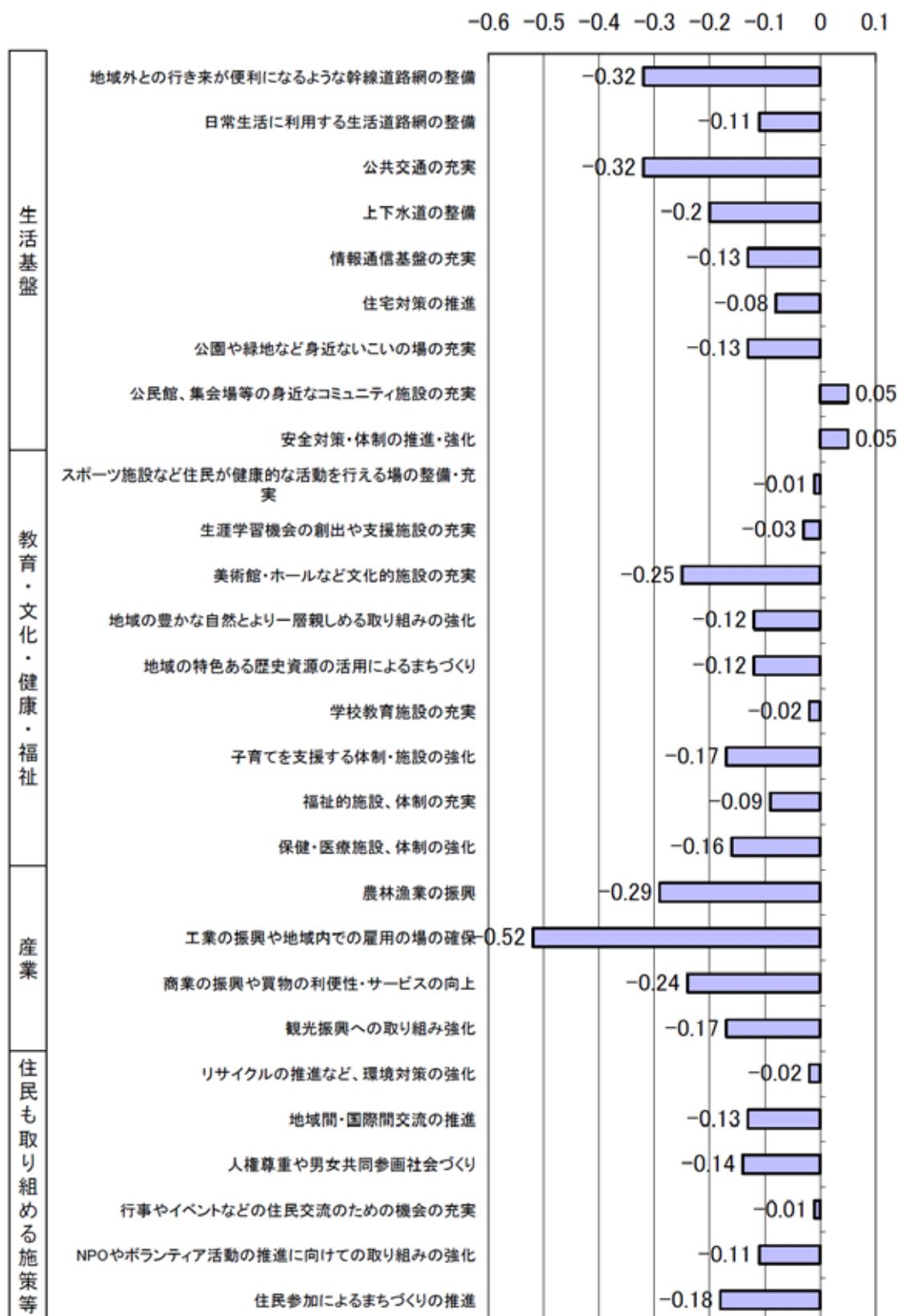


図2-40 既存アンケート結果（20歳以上）：まちの現状評価

### (3) 地域の将来像

【設問】丹後6町は将来的にどのようなまちになっていけばよいと思われますか。以下のなかから4つ以内で○を付けてください。

「工業・商業・サービス業などが活発で、働く場に恵まれた産業のまち」(選択率 55.1%)、「海岸や海浜などの美しい景観や水・緑を生かした自然豊かなまち」(52.5%)への意向が高く、50%以上の割合を示している。

これに対して、「自然と調和した農林漁業が活発なまち」(18.8%)、「ゴミ減量やリサイクル活動など、環境問題に積極的に取り組むまち」(16.3%)への回答率は低く、市民の環境への意識としては、人の手の余り入っていない天然の自然環境をより重視していることが推察される。

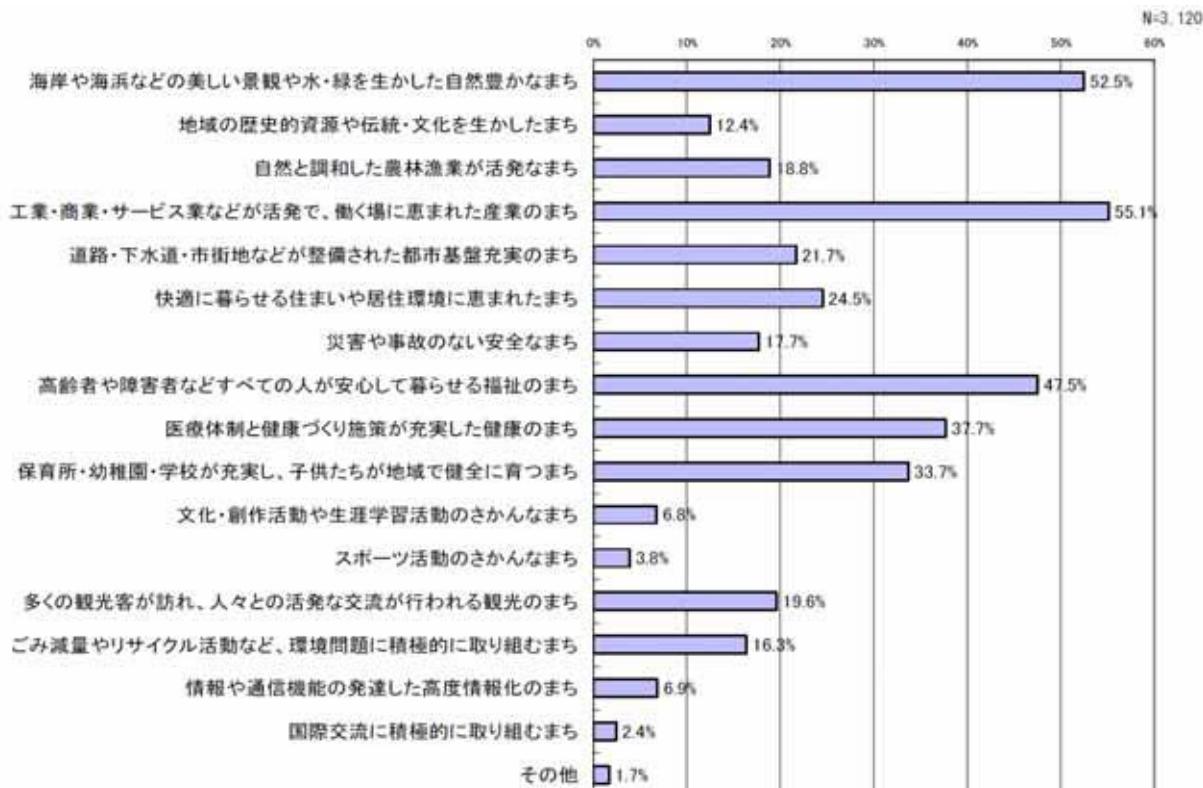


図2-41 既存アンケート結果（20歳以上）：地域の将来像

町別では、「工業・商業・サービス業が活発で働く場に恵まれた産業のまち」が峰山町(62.6%)及び大宮町(54.1%)で最も高くなっている。網野町でも60%以上を占め、各町で高い割合を示している。

網野町、丹後町、久美浜町では「海岸や海浜などの美しい景観や水・緑を生かした自然豊かなまち」が最も高く、海浜を擁し自然に恵まれた地域の特性を反映している。

#### (4) 将来望まれる施策

【設問】また、丹後6町の将来のまちづくりをすすめるにあたって、どのような施策が重要だと思われますか。重要とお考えになる項目について5つ以内で○を付けてください。

「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」(49.2%)が最も高く、続いて「地域外との行き来が便利になるような幹線道路網の整備」(42.1%)、「福祉的施設、体制の充実」(34.5%)、「保健・医療施設、体制の強化」(34.5%)といった項目が高い割合を示している。

「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」が高い回答率を得ていることに関連して、各産業の振興に対する回答率を以下に比較する。

- ① 工業の振興や地域内での雇用の場の確保 (49.2%)
- ② 農林漁業の振興 (18.1%)
- ③ 商業の振興や買い物の利便性、サービスの向上 (13.6%)
- ④ 観光振興への取り組みの強化 (13.2%)

上記の①に関しては「雇用の場の確保」という文言で多くの回答を集めていると考えられるが、②～④を比較すると「農林漁業の振興」が若干を多く、農林漁業への期待も少なぬないが、反面、大きな差がないということは、際だって期待される産業がないということも示していることも想定される。

「地域の豊かな自然とより一層親しめる取り組みの強化」(12.2%)については、比較的低い回答率に留まっており、現状でも豊かな自然に身近にふれあえている環境を反映していると思われる。

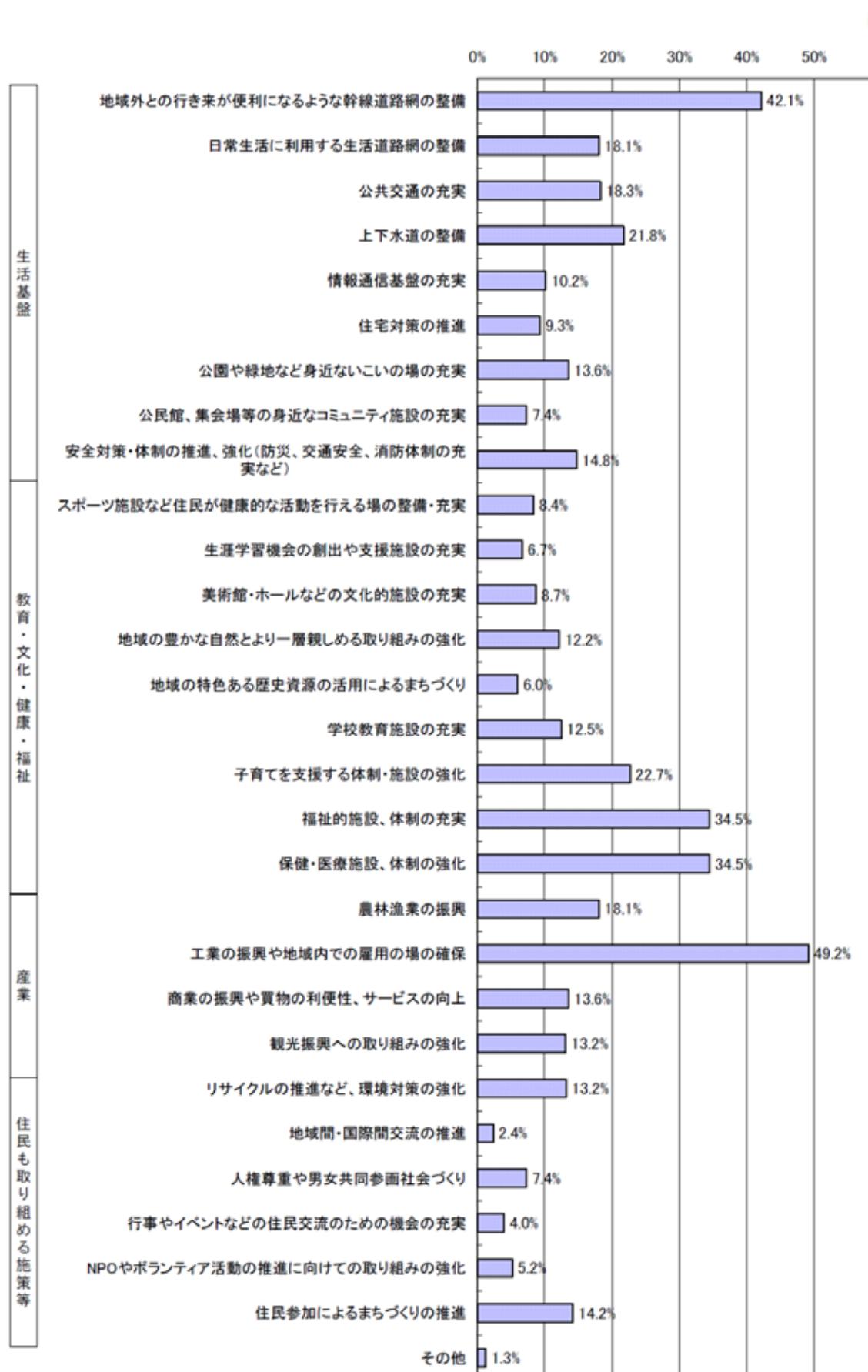


図2-42 既存アンケート結果（20歳以上）：将来望まれる施策

## 2.1.6 既存アンケート結果（高校生）の整理・分析

### （1）調査概要

先の項目で「新しいまちの建設計画策定のための住民意識調査結果報告」より、地域の現状及び将来に関する住民の意向を把握したが、本項目では、一般意識調査を補足し若い世代の意向の把握とアイデアを募る目的で実施された、同調査の高校生調査部分を分析する。

調査概要は以下のとおりである。

#### ● 調査目的

一般意識調査を補足し、若い世代の意向の把握とアイデアを募る目的で、高校生調査を実施した。

#### ● 実施概要

調査にあたっては、丹後地域内、府立峰山高等学校、府立網野高等学校、府立久美浜高等学校の協力を得て、6町内にお住まいの高校最終学年の方々を対象とした。

#### ● 回答結果概要

・調査時期：平成14年5月

・配布、回収状況

配布数：685票

回収数：659票（峰山高校：299票、網野高校：235票、久美浜高校：125票）

回収率：96.2%

## (2) 定住意向

【設問】将来、社会人になったり、結婚したりした時に、6町内に住みたいと考えていますか。

全体では、「わからない」が54.7%で最も多くなっている。「丹後6町内に住みたい」は18.3%、「丹後6町内に住みたくない」が27.0%と、6町外での生活を希望する人が多くなっている。

町別では、「わからない」が全ての町で50%を超えており、久美浜町では「6町内に住みたい」が25.5%と他町に比べ高く、「6町内に住みたいと思わない」22.7%を上回っている。これに対して丹後町では、「住みたい」が11.1%、「住みたいと思わない」が36.5%で、定住意向が低い。

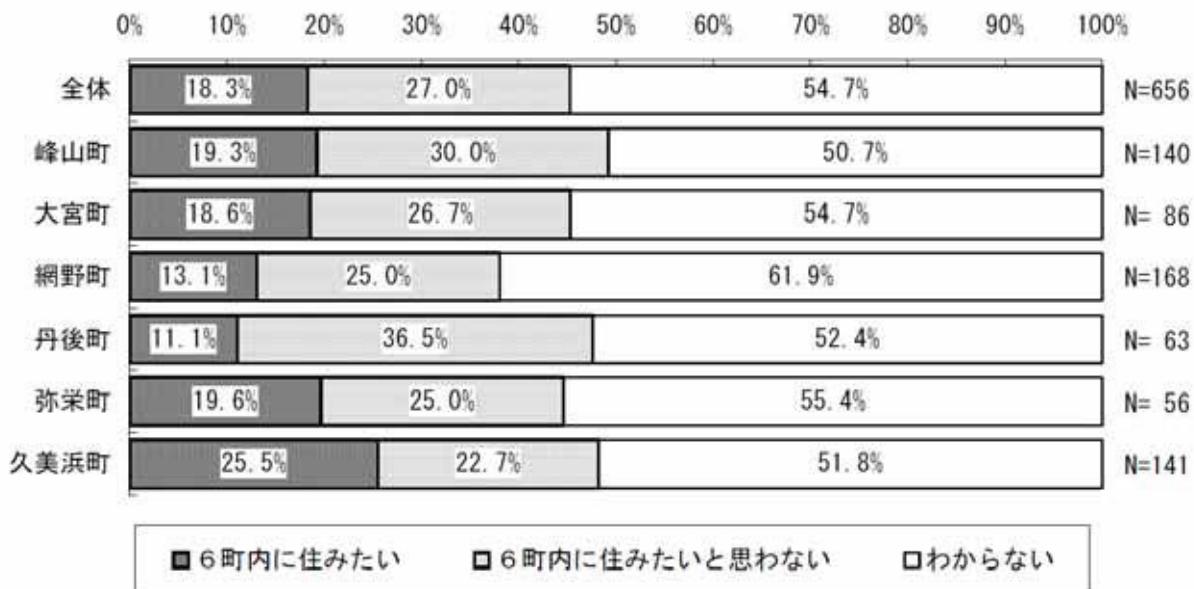


図2-43 既存アンケート結果（高校生）：定住意向

### (3) 地域の将来像

【設問】丹後の6町は将来的に、どのようなまちになっていけばよいと思いますか。あてはまるものを4つ以内で○を付けてください。

全体では、「海岸や海浜など美しい景観や水や緑を生かしたまち」(64.8%)が特に高くなっている。

続いて、「住まいや身の回りの環境が充実した快適に暮らせるまち」(31.6%)、「高齢者や障害のある人などすべての人が安心して暮らせるまち」(28.2%)、「工業・商業・サービス業などが活発で、働く場に恵まれたまち」(27.3%)が約3割の選択率となっている。

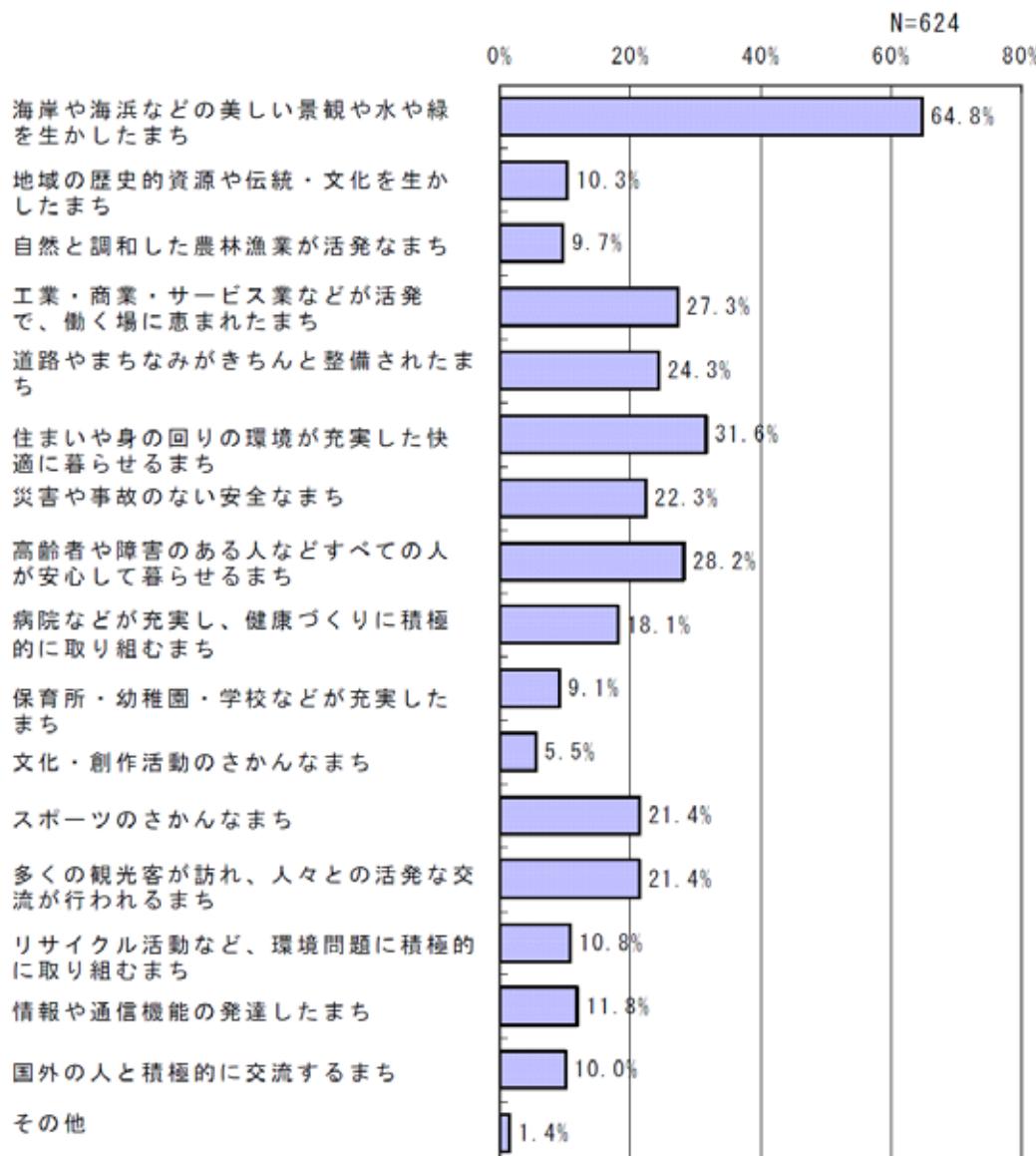


図2-44 既存アンケート結果（高校生）：まちの将来像

一般意識調査と高校生意識調査の双方の結果を比較してみると、高校生の方が特に高い割合を示した項目として、「海岸や海浜などの美しい景観や水や緑を生かしたまち」「住まいや身の回りの環境が充実した快適に暮らせるまち」「スポーツ活動の盛んなまち」があげられる。

その中で、「海岸や海浜などの美しい景観や水や緑を生かしたまち」「スポーツ活動の盛んなまち」については、一般意識調査において、最も若い世代である20歳代の選択率が高い項目もあり、今後地域を担う若い世代が特に重視する項目として位置づけられる。

「自然と調和した農林漁業が活発なまち」への回答は、高校生で9.7%、一般で18.8%となっている。また、「ごみ減量やリサイクル活動など、環境問題に積極的に取り組むまち」では高校生10.8%、一般16.3%となっており、産業や生活に関連した環境への意識は一般の方が高い。

#### (4) 将来望まれる施策

【設問】丹後の6町において、将来的にどのような施策や取り組みを行って欲しいですか。あてはまるものについて5つ以内で○を付けてください。

全体では「買い物や食事が楽しめる商業施設の充実」(64.5%)と「鉄道やバスなどの利便性の向上」(59.7%)が突出して高い割合を示している。次いで「スポーツ施設などみんなが健康的な活動を行える場の充実」(38.8%)となっている。

「リサイクルの推進など環境対策の強化」(13.3%)は一般の回答率13.2%とほぼ同じ割合で、「地域の豊かな自然と、より一層親しめる取り組みの強化」(15.8%)は一般の回答率12.2%よりも若干高い。

一般で最も回答が多かった「工業の振興や地域内での雇用の場の確保」(49.2%)に対して、高校生対象の「働く場の創出」(28.3%)では20%程度低い値を示している。

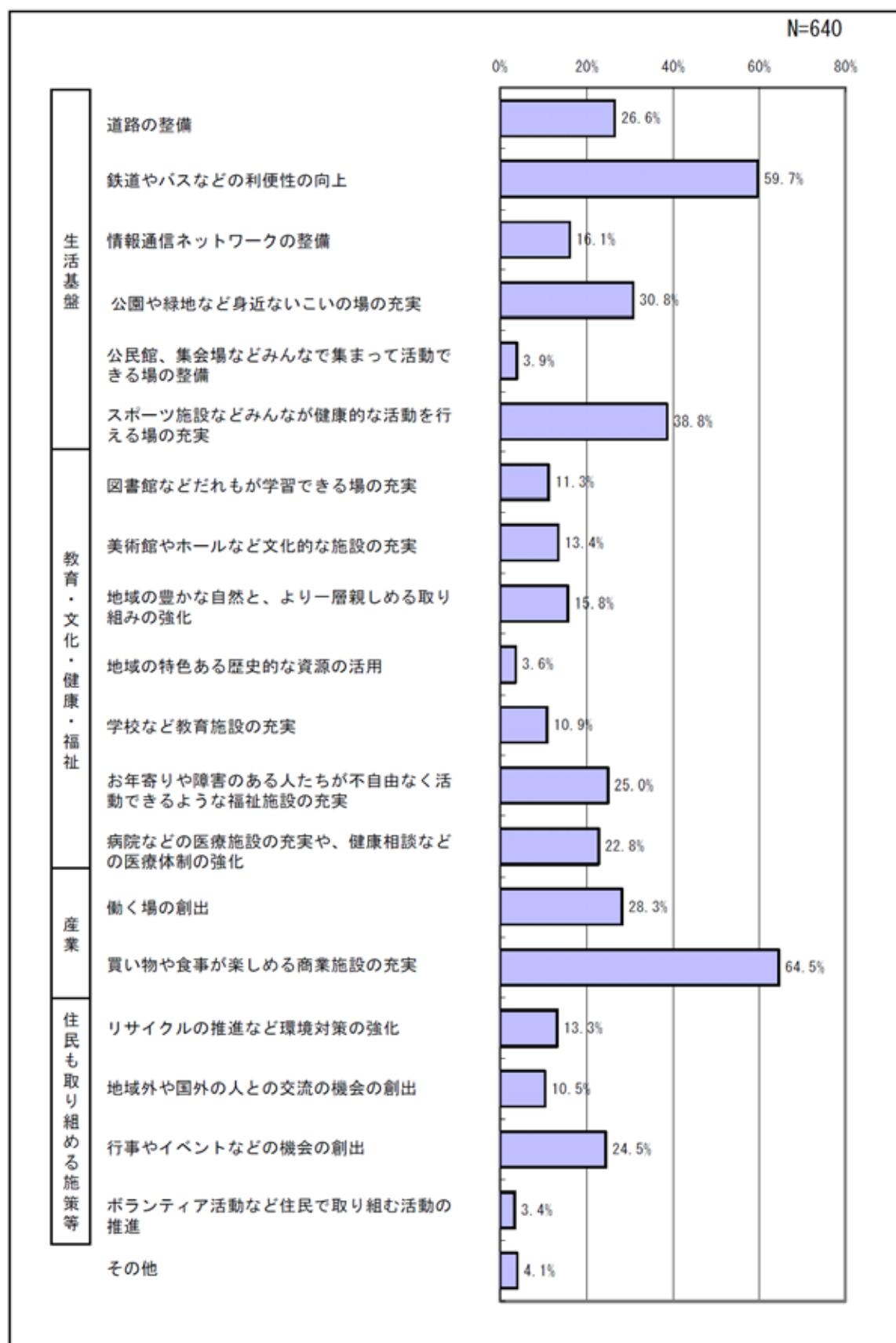


図2-45 既存アンケート結果（高校生）：将来望まれる施策

## (5) 地域の自慢と誇り

【設問】あなたの住む町で、自慢できるものや好きな場所、他にはない特色などがあれば、具体的に書いて下さい。

自慢できるものや好きな場所、他にはない特色として、337人から意見が出された。その傾向は以下のとおりである。

表2-60 既存アンケート結果（高校生）：地域の自慢と誇り

分類	票数	割合
自然全般	49	14.5%
海	127	37.7%
山・緑・川等	40	11.9%
特定地名	74	22.0%
特定施設名・施設等	40	11.9%
食物・特産物・行事等	35	10.4%
その他 (人柄・人情・雰囲気等)	68	20.2%
記入者合計	337	100.0%

### ■ 自然環境

「海」、「山・緑・川等」を含め、意見の6割以上が自然環境に係る意見をあげており、まちの将来像に関する設問とあわせ自然環境への関心の高さは注目される。

具体的には天然記念物である「琴引浜の鳴き砂」が特に多く、また、「琴引浜」に加え、「久美浜湾」等の海岸部の意見が多くなっている。また、山・緑・川等に関しては大宮町の「ブナ林」や「新庄の滝（霧降の滝）」などの回答が複数得られた。この他には、夕日や雪景色といった四季折々の景色のほか、「星」、「夜空」といった回答もみられた。

- ・ 鳴き砂（19人）
- ・ 琴引浜（7人）
- ・ 久美浜湾（4人）
- ・ ブナ林（4人）
- ・ 夕日（2人）
- ・ 星・夜空（3人）等

### ■ 特定地名・特定施設名・施設等

特定地名や施設名、施設等としては、観光的施設が特に多くあげられた。

個別の施設では、「丹後あじわいの郷（弥栄町）」や「森林公园スイス村（弥栄町）」といっ

た地元の自然や一次産品を活用した施設があげられた。また、「天女の里（峰山町）」や「小野小町（墓・公園）（大宮町）」など地域の歴史にちなんだ施設もあげられた。

このほか、地域内に多く分布する温泉に多くの回答が得られた。

- ・ 丹後あじわいの郷（5人）
- ・ 森林公園スイス村（4人）
- ・ 天女の里（2人）
- ・ ブナ林（4人）
- ・ 小野小町（墓・公園）（5人）
- ・ 温泉（9人）等

また、地名そのものを自慢、誇りとする意見もみられ、その中でも「甲山（久美浜町）」が最も多く述べられた。

- ・ 甲山（8人）
- ・ 丹後大宮という駅名（1人）
- ・ 峰山という町名（1人）等

このほか、地元の住民が利用する施設、特に「峰山球場」、「峰山途中ヶ丘公園」の回答が多く得られた。また、「図書館」や「文化施設」にも複数の回答が得られている。

#### ■ 食物・特産物・行事等

食物としては、「カニ」の意見が特に多く、また、カキにも複数の意見があげられるなど、地域の海産物にちなんだ意見が多くあげられた。

また、地域の主要産業である「丹後ちりめん」が複数あげられている。

行事については、「ドラゴンカヌー選手権」が最も多かったが、「秋祭り」も複数あげられるなど、新旧の行事にわたっている。

- ・ カニ（11人）
- ・ カキ（4人）
- ・ 丹後ちりめん（3人）
- ・ ドラゴンカヌー選手権（6人）
- ・ 秋祭り（3人）

#### ■ その他

その他として、「近所付き合い」や「まちの人の人柄」、「人情」、「知らない人に挨拶できる気質」といった意見や、「落ち着く」、「のんびりゆったり」、「静か」といった地域の風土ともいべき意見が多くあげられている。

## 2.2 環境評価

### 2.3 自然環境の特徴と問題点

自然環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

#### ◇生物

##### 1 ホタルの復活と高いシンボル性

ホタルの分布は、昔と今の分布状況の聞き取りでは際だった変化は見られないが、河川改修、水路改修、生活排水、農薬などにより一旦減少したものが、近年、河川・水路内への堆砂、下水処理の普及、農薬規制の強化などにより増加してきていると考えられる。なお、地域資源アンケートでは、ホタルを自慢できる資源としてあげる意見が多く見られた。

##### 2 魚類の日本海とのつながり

既存の河川の生物調査では、アユ、ウナギ、カマキリ等のカジカ類、ゴクラクハゼ等のハゼ類など、海や汽水域を利用する多くの回遊型の淡水魚が確認されており、魚類に河川と海とのつながりが見られる。

##### 3 環境の多様性—ブナ林、トウテイランなど植物の多様性—

丹後地方には海岸、内陸、平地、丘陵、山地など、多様な環境を反映して多くの植物が見られる。海辺の砂浜には日本でも珍しいトウテイランを始めとした海浜植物が自生し、内山山系の約40haのブナ林には、300種以上の植物が自生している。

##### 4 メダカの減少—緩やかな流れの喪失—

アンケートによる住民への聞き取りによると、過去には市全域でメダカが見られていたが、現在は大幅に減少している。これは、ほ場整備や水路・河川改修が進むことにより、淀みや流入する細流との連続性が失われ、メダカの生息できる緩流域が消失したことが主要原因と考えられる。

##### 5 フクロウの減少—里山の変質—

過去には平地から山地にかけてフクロウが見られていたが、過去に平地部で見られていたものが現在では減少している。これは、フクロウの巣となる屋敷林や社寺林、里山の洞のある大径木が失われたこと、餌となるネズミなどの狩り場となる里山（林内が広く下草が少ない）の変質を示していると考えられる。

## 6 イノシシやシカの増加—獣害の増加と里山の暮らしの変質—

イノシシやシカは過去には山地部の一部などで見られていたが、現在では山地から人里に近い平地部にかけての広範囲に渡って見られ、その増加は顕著である。原因としては、植林等による実のなる樹の減少、里山や谷地田に人が入らないことによる人と獣の境界線の低下などが考えられる。

### ◇水環境

#### 1 多くのため池—山際の水環境の豊かさ—

本市には約 200 箇所のため池が存在し、これらの多くが平地から山地への移行部に位置している。山林との連続性が保たれ流入水質が良好であると考えられることから、魚類はもちろんのこと、カエル類、サンショウウオ類、鳥類、水生植物等の貴重な生息空間となっていることが予想される。

#### 2 良好的な水質—宇川、福田川などの河川—

府の環境基準の類型指定では、竹野川が B に、宇川、福田川、佐濃谷川が A に指定されており、いずれも平成 15 年度の BOD の値は基準を満たしており、市内の河川の水質は概ね良好である。

### ◇山林

#### 1 身近な山林—里山と田園の生き物の生息環境—

本市では、主要河川沿いに平地が形成されているが、三角州性低地の発達は小さく、谷が狭い。また、多くの谷筋が山地の中に入り組んでいるため、山林と平地（農地）の接する延長が長いという特徴がある。このため、里山と田園を行き来する生物に有利な環境がある。

#### 2 豊かな山林—自然林やブナ林—

総土地面積に占める林野面積は 75.2% (37,715ha / 50,183ha) で、山林の構成についても人工林率は 26.9% で自然林（二次林含む）が多く、ブナ林も見られるなど、豊かな山林に恵まれている。また、そこから流れでる清らかな水を背景においしい米が生産できるといった意見もある。

#### 3 山の荒廃

広大な山林を抱え、ブナ林など原生的な植生が残されている一方で、エネルギー源の転換や生活スタイルの変貌、林業の停滞などにより、里山の利用、山の手入れが滞っており、山が荒れている。このことは山に人の手が入ることによって保たれてきた里山の生態系の変質、イノシシやシカなどによる獣害の増加やアカマツ群落の衰退にも結びついていると考えられる。

## ◇景観

### 1 海岸部の豊かな景観ー丹後松島、立岩、屏風岩などー

本市の海岸沿いには丹後松島、立岩、屏風岩などの名勝地が多く存在し、また海と里山と集落が調和した袖志の棚田も有名である。また、アンケートでは、海岸沿いの景観を取り上げる意見が多かった。

### 2 広いスケールでの景観ー山からの日本海の眺めー

アンケート調査では、景観資源として、農地・農村に対する意見は少なく、兜山、権現山、愛宕山など山の上からの眺望、特に日本海を含めた眺望が素晴らしいという意見が多く、広がりのあるスケールの大きな景観が評価されていた。

## 2.4 社会環境の特徴と問題点

社会環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

### 1 京阪神からの観光スポット－海浜、温泉、カニ－

京阪神からの旅行・観光先となっているが、その目的は、海浜、温泉、カニ等海産物、史跡、社寺、森林公园、牧場、農業公園など、「自然」や「歴史」に基づくものが多い。また、アクセスに時間がかかるが、観光客にとっては「適度に遠い」ことも旅の条件となる、という意見もある。

### 2 歴史・文化資源が多い

古墳、神社・仏閣及びその所蔵品など、多くの歴史的な資源が存在する。また、アンケート調査でも多くの史跡、神社仏閣、祭りなど歴史的・文化的な資源に関する回答が多く見られた。地域ごとの祭りが多いことから、地域ごとの文化が守られ、コミュニティのつながりが保たれていると考えられる。

### 3 人口の減少

京丹後市の総人口は減少傾向にあり、平成2年を100%とすると平成17年で90.8%まで減少し、将来人口推計で当初予想されていた63,639人をすでに下回り、62,724人（国勢調査速報値）となっている。また、平成32年には79.8%の55,103人となることが予想され、今後はマンパワーの減少による地域の活力の低下が懸念される。

### 4 大都市圏からの遠さ

市中心部の峰山町から首都圏まで電車・新幹線を利用して5時間以上、京都市内までは車でも2時間半以上かかり、大都市から遠く離れているという特徴がある。市町村合併前の住民意向調査では交通の便に対する不満が強かった。

### 5 産業の低迷・雇用条件の厳しさ

平成2年から平成15年の市内の総生産額の推移は、増減を繰り返しており、平成8年と平成15年の総生産額がほぼ同じになっている。町別では、大宮町が若干増加傾向にあるが、峰山町は減少傾向にある。その他4町については、ほぼ横ばいであるが、6町のなかでは丹後町と弥栄町の総生産額は低くなっている。

産業別の就業者数については、第3次産業が第2次産業を上回り48.7%で、第1次産業は10.7%となっている。住民意向調査では、雇用状況の厳しさ、農林漁業の振興が課題として強く認識されている。また、若者の定住意向が低い。

## **6 ゴミ問題**

市内の海岸部には投棄や漂流によるゴミが多く、市民や観光客によるゴミ投棄も多い。また、不法投棄や上流で捨てられたゴミを下流の住民が清掃しているという実態もある。定期的な管理をせずに放置しておくと、一層ゴミを投棄されてしまうという悪循環が生じている。

## 2.5 生産環境の特徴と問題点

生産環境の特徴と問題点を以下にまとめる。

### 1 新しい農業の動き—国営開発農地での新規参入—

国営農地開発地においては、平成 17 年には農業生産法人ワタミファームが農場開設をしており、また、地元建設企業による農業参入も行われている。さらに、農事組合法人百姓王国による大規模茶園の開設など、新規参入の動きもみられる。

### 2 市内の直売所—梨を中心とした果物など—

市内には約 40 の直売所があり、その数は全市的に増えている。直売所には、果樹に特化したもの、道の駅、地域を拠点としたものの 3 つのタイプがあり、その内容は農産物の加工販売や野菜、果物、花卉と多岐にわたる。最近は、丹後農業改良普及センターの呼びかけにより、市内の 10 の直売グループが共同マーケットを開催するなど、直売所のネットワークづくりが進められている。

### 3 各集落での活動

各集落における農産物の販売やボランティア活動、自然動植物の保護などの組織数は、市街地に近い地域では、全く活動を行っていない集落が目立ち、山間地に近い集落ほど、組織数の多い集落が目立ち、地域の活動が盛んであることがうかがえる。

### 4 農家戸数、農家人口の減少

本市の農家戸数（販売農家）は減少傾向にあり、平成 7 年から平成 17 年の 10 年間で 900 戸近く減少している。内訳は、専業農家は増加傾向にあるものの、第 2 種兼業農家の減少は著しい。

1980 年から 2000 年の農家人口の変動については、すべての集落で減少しており、久美浜町での減少率が他町と比べて小さく押さえられているものの、多くの集落が 50% 以下に減少している。

### 5 高齢化の進行

平成 12 年の農業就業人口は、市全体で 4,759 人いるが、65 歳以上の高齢者が全体の 6 割以上を占めており、農業従事者の高齢化が進んでいる。

2000 年の農家人口における 65 歳以上の高齢者の割合は、市で 29.5% となっている。また、久美浜町と丹後町では 30% を超えており、他町と比較するとやや高い傾向にある。集落別の状況では、久美浜町、弥栄町、丹後町で 50% を超える集落が見られる。

## **6 耕地面積の減少と遊休農地の増加**

経営耕地面積は平成 17 年で 3,593ha であり、平成 2 年の 4,072ha から 479ha（約 12%）減少している。

平成 17 年の耕作放棄地※農業センサス用語は 140ha（3.9%）で、耕作放棄をした農家は 955 戸（33.7%）となっている。特に丹後町、網野町の耕作放棄率、農家の割合が高くなっている。丹後町の耕作放棄した農家の割合は 41.5%、耕作放棄地は 4.1%、網野町では農家 39.9%、耕作放棄地 4.7% となっている。

国営農地開発事業で 690ha が新たに造成されたものの、遊休農地が生じるなど、経営耕地面積は減少傾向にある。

※耕作放棄地：所有している耕地のうち、過去 1 年以上作付けせず、しかもこの数年間に再び作付けする考えのない耕地をいう。転作のため休耕している耕地で、今後作付けする考えのある耕地は含まない。

## **7 鳥獣被害の増加**

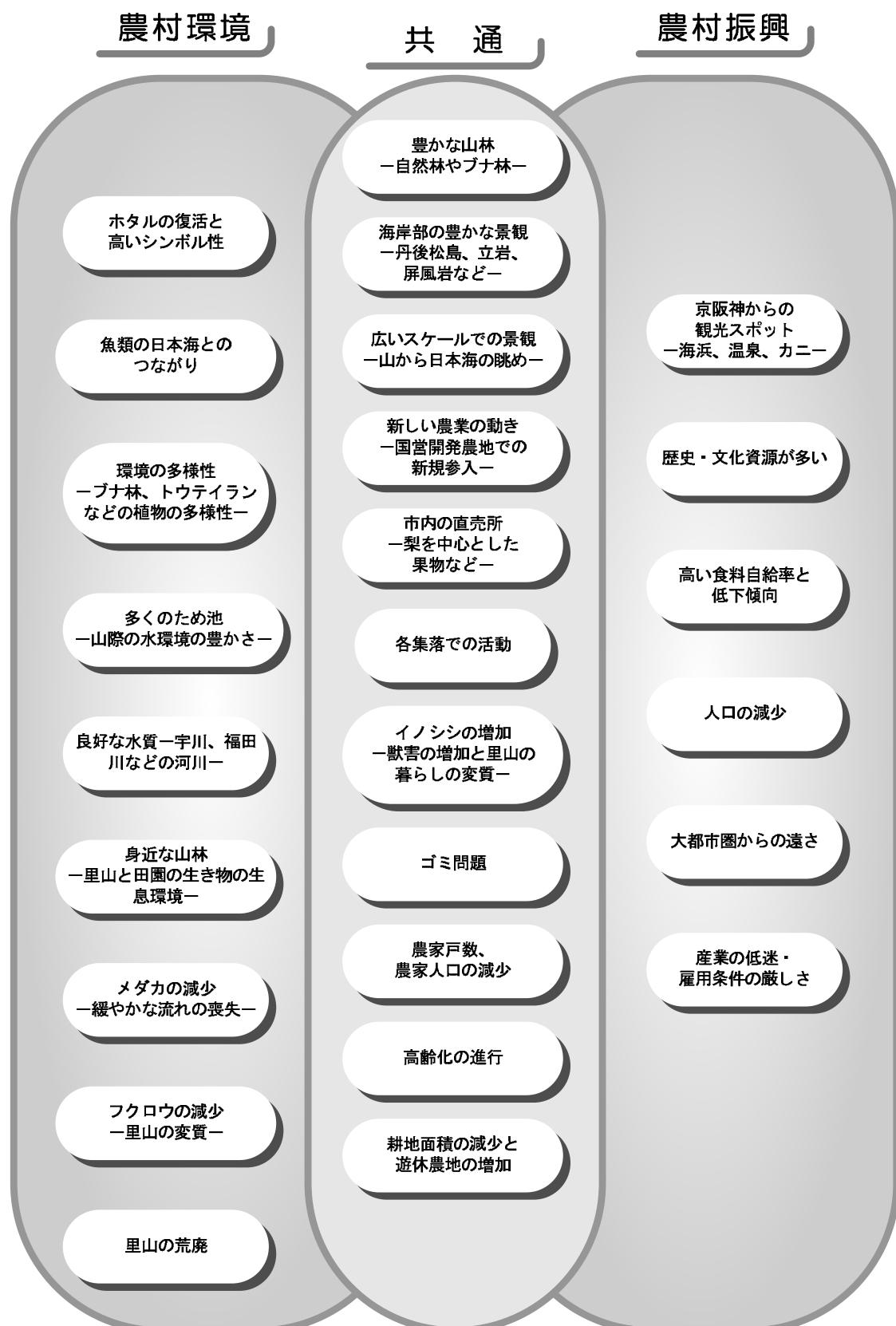
鳥獣による農作物の被害は、年々増加する傾向にある。平成 10 年では 102ha であった被害面積が平成 14 年では 476ha と約 4 倍になっている。特にイノシシやシカによる水稻、豆類への被害、カラスによる果樹類への被害が目立つ。

## **8 高い食料自給率**

本市の地域食料自給率（カロリーベース）は、平成 7 年で 93%、平成 14 年で 79% となっており 7 年間で 14% 減少している。しかし、日本全体の 40%、京都府の 13% と比較すると高い自給率を維持している。旧 6 町の地域食料自給率では、久美浜町、弥栄町では 121%、117% と 100% を超えており、それ以外の町では 100% に達していない。平成 7 年から平成 14 年の 7 年間で旧 6 町全てが減少しており、6%～24% 下がっている。

## 2.6 特徴と問題点の整理

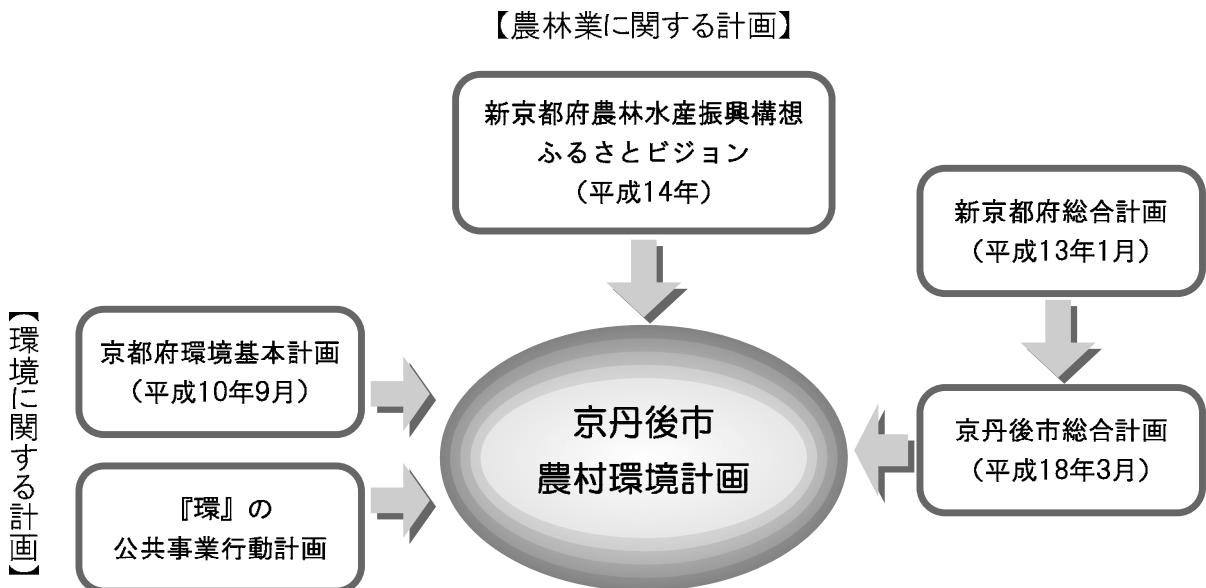
本市の特徴と問題点を整理すると以下の通りである。



### 3. 上位・関連計画における位置付け

#### 3.1 上位計画における位置付け

府の計画、市の総合計画等における、本農村環境計画の位置付けは以下の通りである。



### 3.1.1 新京都府総合計画（平成13年1月）



### 3.1.2 京都府環境基本計画（平成 10 年 9 月）

#### 目指すべき環境像

人と自然が共生することのできる歴史と文化の薫り高い  
健全で恵み豊かな環境、安らぎとうるおいの  
ある快適で住みよい環境

#### 基本理念

##### 地球環境保全

地球の温暖化、オゾン層の破壊等の人類共通の課題である地球環境問題の解決に向け、事業活動や日常生活上の活動全般を環境への負荷の少ないものに改め、地球環境の保全を推進すること

##### 参加・協議

すべての主体が人と環境との関わりについて理解し、自主的かつ積極的に環境保全活動に参加・協議する京都府社会を構築すること

##### 自然との共生

人も生態系の一部であることを認識し、貴重な自然の保全・保護やさまざまな自然とのふれあいを保ちながら、自然への適切な働きかけやその賢明な利用を図り、健全な生態系を維持し、自然と人が共生すること

##### 循環

物質循環の確保やエネルギー・資源の効率的利用を進めることにより、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な、循環を基調とした社会を構築すること

#### 長期的目標

環境の世紀を拓く環境  
先進地・京都の創造

すべての日常生活・  
事業活動における  
地球環境の保全

自然と人間との  
共生の確保

歴史的・文化的  
環境の保全

快適な環境の創造

環境負荷の少ない  
循環型社会の構築

### 3.1.3 新京都府農林水産振興構想ふるさとビジョン（平成14年）

## 新京都府農林水産振興構想 ふるさとビジョン

### 将来像

#### 農林水産業・農産漁村の担う役割

##### 1. 中山間地域における地域経済の維持

- 中山間地域等の重要な産業として、地域経済の維持・安定に寄与

##### 2. 地域資源をいかした豊かな生活・交流空間の提供

- ゆとりある生活空間や多様な交流空間、心身のリフレッシュの場の提供
- 府民のライフステージに応じた生活の充実に寄与
- 農林水産業は地球環境の保全に大きく寄与

##### 3. 安全・良質で安価な食品等の安定的供給による健康的で充実した府民生活の実現

- 健康的で安心・安全な生活の実現に寄与
- 安全で豊かな府民生活の実現に貢献

### 基本目標

- 豊かな府民生活をひらく農林水産業
- いのちを育み環境を守る農産漁村

キャッチフレーズ

「農林水産業は生涯産業」

## 地域別の振興方針

### — 北部地域 —

この地域は、歴史文化遺産や美しい景観、温泉などの観光資源に恵まれており、また京都縦貫自動車道など高速交通網の整備も進んでいる。

さらに、平成12年10月に開催された「全国豊かな海づくり大会」を契機として、海・里・山が連携した自然豊かな地域づくりへの気運が盛り上がっていることから、これら地域の資源を最大限活用し、都市と農山漁村の交流促進を通じて地域の活性化が進むことが期待されている。

#### ■ 京阪神の食料供給地としての地位の確立

- ・ おいしい米づくりの推進
- ・ 国営開発農地等における畑作の振興
- ・ 香り高いお茶づくりの推進
- ・ 地域の特色をいかした生産の推進
- ・ 資源の循環利用等を重視した畜産の振興
- ・ 特色ある林産物の生産振興
- ・ 環境保全を重視した漁業の推進
- ・ 食料生産を支える生産基盤の整備
- ・ ITを活用した産直等の推進

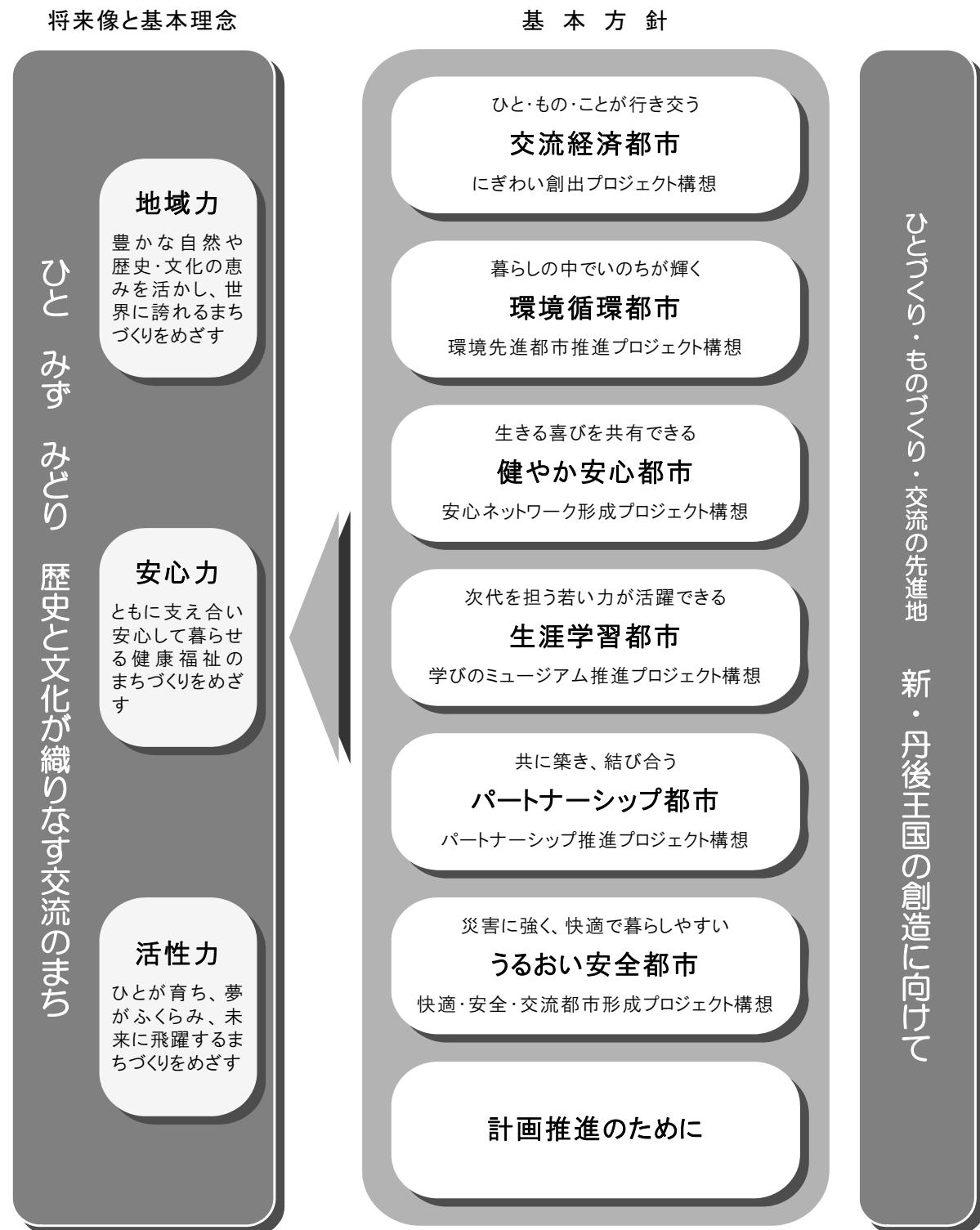
#### ■ U・J・ターン者等も含めた意欲ある担い手の確保・育成

- ・ 意欲ある農家を軸とする「地域農場づくり」の推進
- ・ 農業法人の育成
- ・ 起業支援等による女性・高齢者の活躍の場の拡大
- ・ U・J・ターンの支援
- ・ 漁協等の機能強化

#### ■ 魅力ある地域資源を活用した都市との交流等を通じた地域づくりの推進

- ・ 生活環境整備や都市と農山漁村交流施設のネットワーク化等による地域の魅力向上
- ・ 地域の観光施設と結びついた特色ある産業おこしの推進
- ・ 白砂青松の復活など地域資源の整備・保全
- ・ 地域活性化を支える農林道の整備促進
- ・ 有害鳥獣対策の推進

### 3.1.4 京丹後市総合計画（平成 18 年 3 月）



## 3.2 関連計画

### 3.2.1 『環（わ）』の公共事業行動計画～自然と環境に優しい公共事業の推進方策～

本計画は、人と自然が共生する環境共生型の地域社会を築いていくうえで、公共事業がどのような役割を果たし得るかという観点から、府の公共事業の推進方策を明らかにするものである。

この計画は、府の公共事業を、人と自然が共生する環境共生型の地域社会づくりのための公共事業へと導いてゆく指針であり、組織の縦割を越えて関係部局が連携する。次の「四つの視点」と「三つの方策」により、人と自然が共生する環境共生型の地域社会を目指す『環』の公共事業を進める。

#### 『環』の公共事業行動計画

～自然と環境に優しい公共事業の推進方策～



#### 3つの方策

##### (1) 環境にやさしい公共事業

—水、大気、土壤、生態系への影響をできるだけ低減するための環境配慮を徹底—

- ・道路整備ローカルルールの導入
- ・府内産木材・間伐材の利用拡大(林道木橋/間伐杉材コンクリート型枠など)

##### (2) 環境をつくる公共事業

—野生動植物の生息・生育環境の再生・復元、地域固有の美しい景観や快適空間の創出—

- ・雲原(福知山)の歴史的砂防施設と周辺景観の保全・活用
- ・自然公園区域の拡大
- ・施設管理における住民参加のしくみづくり

##### (3) 循環をささえる公共事業

—循環型社会をささえる基盤整備—

- ・生活廃水処理汚泥の複合的な有効活用
- ・雨水の貯留浸透設備の整備による都市水害対策と健全な水循環の再生

## 4. 環境特性の把握

### 4.1 環境特性の把握

環境質毎に作成した図面を重ね合わせ（マップオーバーレイ）、等質的環境条件を備えている地域を抽出し、それぞれの地域別の特性から地域区分を行った。

市全域を地域特性から「平地ゾーン」、「里山ゾーン」、「山地ゾーン」の3区分に分け、さらに「平地ゾーン」を5区分に、「里山ゾーン」を2区分に、「山地ゾーン」を3区分に分類した。

**平地ゾーン**・・・河川沿いに広がる低平地部。表層地質は礫・砂・泥が主で、灰色低地土壤やグライ土壤が分布し、水田が広がる。主に、宇川、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川流域の5つの平地に分類した。

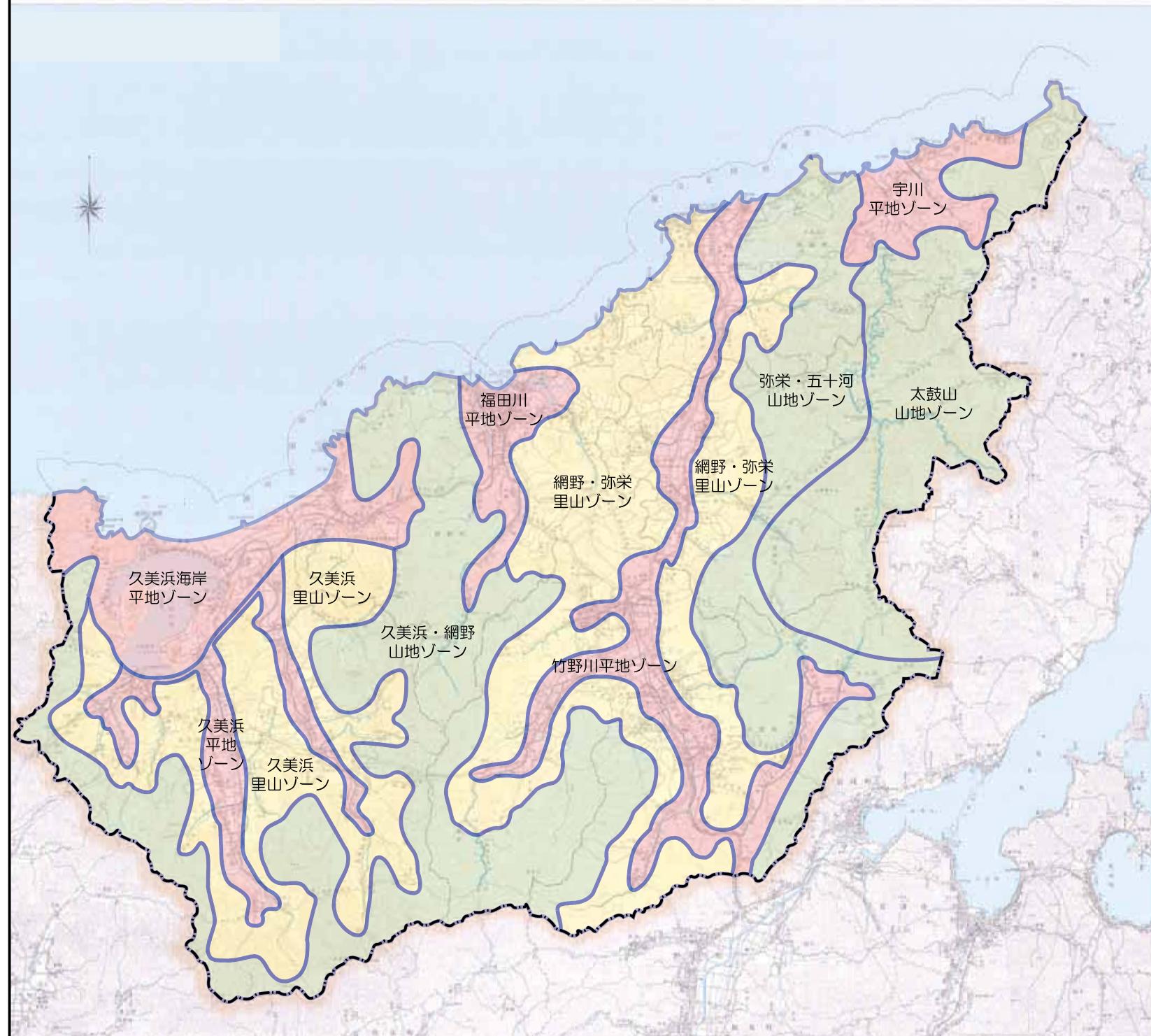
**里山ゾーン**・・・平地から山地への移行部。低地、丘陵地、山地より構成される。表層地質は花崗岩質岩石が主で、森林性の土壤が分布している。山裾の小区画水田があり、ため池が多く分布しているのが特徴である。竹野川平地と久美浜平地周辺の里山を2つに分類した。

**山地ゾーン**・・・小起伏から中起伏の山地。アカシデ・ミズナラ群落が主に分布している太鼓山山地、アカマツ群落とコナラ群落が主に分布している弥栄・五十河山地、コナラ群落とスギ・ヒノキ・サワラ植林の分布する久美浜・網野山地の3つに分類した。

表 4-1 地域別環境特性一覧表

対図番号	自然環境						社会環境		生産環境	
	地形	表層地質	土壤	植生	流域・河川	生物 (第2回自然環境保全基礎調査より)	自然保護規制	地域資源		
宇川平地ゾーン	○扇状地性低地 ○砂礫台地 ○小起伏丘陵地	○礫岩・砂岩・泥岩互層 ○安山岩質岩石 ○礫・砂・泥	○灰色低地土壤 ○黄色土壤	○水田 ○アカマツ群落	・吉野川 ・宇川	・イトヨ ・カマキリ ・サケ	・若狭湾国定公園 (海岸部) ・鳥獣保護区 (碇高原)	・袖志の棚田 ・丹後松島	・一部農業振興地域 ・一部区画整理済 ・農地造成区域あり	
竹野川平地ゾーン	○扇状地性低地 ○三角州性低地	○礫・砂・泥 ○花崗岩質岩石	○灰色低地土壤 ○粗粒グライ土壤 ○グライ土壤	○水田 ○市街地 ○住宅地	・竹野川	・モリアオガエル	・若狭湾国定公園 (海岸部)	・てんきてんき村 ・大宮壳神社 ・途中ヶ丘公園	・ほぼ全域農業振興地域 ・一部区画整理済	
福田川平地ゾーン	○扇状地性低地 ○三角州性低地	○礫・砂・泥 ○砂 ○礫岩・砂岩・泥岩互層	○灰色低地土壤 ○グライ土壤	○水田 ○市街地 ○コナラ群落 ○アカマツ群落	・福田川 ・新庄川	・モリアオガエル	・若狭湾国定公園 (海岸部) ・山陰海岸国立公園 (海岸部) ・鳥獣保護区(離湖)	・網野神社 ・郷村断層 ・銚子山古墳	・市街地を除いて ・ほぼ農業振興地域 ・一部区画整理済	
久美浜海岸平地ゾーン	○扇状地性低地 ○三角州性低地 ○砂礫台地 ○小起伏丘陵地	○礫岩・砂岩・泥岩互層 ○砂 ○礫・砂・泥	○砂丘未熟土壤 ○乾性褐色森林土壤 ○細粒灰色低地土壤 ○残積性未熟土壤	○アカマツ群落 ○畑地 ○クロマツ植林 ○果樹園 ○水田	・木津川 ・俵野川	・砂丘植生 ・クロマツ	・山陰海岸国立公園 (海岸部) ・鳥獣保護区 (久美浜湾、兜山)	・浜詰遺跡 ・小天橋 ・かぶと展望台	・ほぼ全域農業振興地域 ・一部区画整理済 ・農地造成区域あり	
久美浜平地ゾーン	○扇状地性低地 ○三角州性低地	○礫・砂・泥	○灰色低地土壤 ○細粒グライ土壤 ○グライ土壤	○水田 ○市街地 ○住宅地	・佐濃谷川 ・川上谷川 ・久美谷川 ・柄谷川	・モリアオガエル	—	・豪商稻葉本家 ・宗雲寺	・ほぼ全域農業振興地域 ・大半が区画整理済	
網野・弥栄里山ゾーン	○扇状地性低地 ○小起伏丘陵地 ○大起伏丘陵地 ○小起伏山地	○花崗岩質岩石 ○礫・砂・泥 ○礫岩・砂岩・泥岩互層	○乾性褐色森林土壤 ○グライ土壤 ○細粒グライ土壤	○アカマツ群落 ○水田 ○コナラ群落	・吉永川 ・溝谷川 ・徳良川 ・大橋川	・力石川 ・大谷川 ・小西川	・モリアオガエル ・ヒダサンショウウオ ・コサエ	・若狭湾国定公園 (海岸部) ・鳥獣保護区 (丹後あじわいの里、權現山)	・丹後あじわいの郷 ・大田南古墳群 ・琴引浜	・ほぼ全域農業振興地域 ・農地造成区域多い ・ため池が多い
久美浜里山ゾーン	○扇状地性低地 ○小起伏丘陵地 ○大起伏丘陵地 ○小起伏山地	○礫岩・砂岩・泥岩互層 ○花崗岩質岩石 ○流紋岩質岩石 ○安山岩質岩石	○灰色低地土壤 ○乾性褐色森林土壤	○アカマツ群落 ○水田 ○コナラ群落	・三原川 ・円頓寺川 ・永留川 ・伯耆川 ・河梨川	・長野川 ・芦原川 ・柄谷川	・モリアオガエル ・タイリクアキアカネ ・オナガアカネ	—	・湯舟坂古墳	・ほぼ全域農業振興地域 ・農地造成区域多い
太鼓山山地ゾーン	○小起伏山地 ○中起伏山地	○安山岩質岩石 ○花崗岩質岩石 ○礫岩・砂岩・泥岩互層	○乾性褐色森林土壤 ○褐色森林土壤 ○岩石地	○アカシデーミズナラ群落 ○コナラ群落 ○クロマツ群落 ○アカマツ群落	・須川 ・宇川	・シデ林 ・タガメ ・ハルゼミ ・オオムラサキ	・若狭湾国定公園 (海岸部) ・鳥獣保護区 (碇高原、スイス村)	・スイス村 ・碇高原	・一部農業振興地域	
弥栄・五十河山地ゾーン	○小起伏山地 ○中起伏山地	○花崗岩質岩石 ○礫岩・砂岩・泥岩互層 ○安山岩質岩石	○乾性褐色森林土壤 ○粗粒灰色低地土壤 ○褐色森林土壤	○アカマツ群落 ○コナラ群落 ○ススキ群落	・宇川 ・大谷川	・モリアオガエル ・ヒダサンショウウオ	・若狭湾国定公園 (海岸部)	・丹後松島展望所 ・小町公園	・一部農業振興地域	
久美浜・網野山地ゾーン	○小起伏山地 ○中起伏山地	○礫岩・砂岩・泥岩互層 ○花崗岩質岩石 ○安山岩質岩石 ○流紋岩質岩石	○乾性褐色森林土壤 ○褐色森林土壤 ○灰色低地土壤	○コナラ群落 ○スギ・ヒノキ・サワラ植林 ○アカマツ群落	・福田川 ・鰐留川	・モリアオガエル	・山陰海岸国立公園 (海岸部)	・山村交流センターせせらぎ ・静神社 ・七竜峠	・一部農業振興地域	

## 環境特性区分図



0 1 2 3 4km  
1:120,000

## 凡 例

- 平地ゾーン
  - 里山ゾーン
  - 山地ゾーン

## 4.2 環境に関する専門家への聞き取り

京丹後市内で見られる生物の状況について、市内の専門家から聞き取りを行った。

### ■専門家聞き取り調査

聞き取り調査日：平成 18 年 3 月 17 日

専門家：富川 悠志 氏（久美浜町在住 植物専門家）

### ■聞き取り内容

1. 市内の農地まわり、集落まわりでみられる今では珍しくなった植物や動物について。
2. 市でしか見られない動物や植物で、今後特に留意すべきものについて。
3. 今後市内で整備などが行われる場合に配慮すべき事項について。生物の生息環境、景観の面から。

### ■聞き取り結果

#### ◇市内の植物について

今では珍しくなった 市内の植物	本市特有の植物	田んぼまわりで みられる植物	今はみられなくなった 植物
コナラ	トウテイラン（海岸部）	ヒガンバナ	ハマナス
ミズナラ	タジマタムラソウ（日陰・里山のふもと）	ハハコグサ	クロマツ
モウセンゴケ	タロバナノヒキオコシ	カワラナデシコ	アカマツ
イシモチソウ	サンインシロガネソウ（山間湿地）	ウツボグサ	オキナグサ
カタクリ	タンゴイワガサ（海岸の岩場）	チカラシバ	オミナエシ
オケラ	アラゲナツハゼ（海岸部）	ナズナ	キキョウ
ウラシマソウ	エゾミソハギ（五色浜）	ハハコグサ	
オウレン	ハマナデシコ（海岸部）	オオキツネノカミソリ	
ヒガンバナ	ノハナショウブ（海岸部）	チガヤ	
イワナン			
ヤマエンゴグサ			
カワラナデシコ			
トリカブト			
ウツボグサ			
ハハコグサ			
チカラシバ			
トチバニンジン			
ハシリドコロ			
ナズナ			
イチリンソウ			
タラ			
オトコダラ			
チガヤ			
ノハナショウブ			

◇その他について

- ・昔はアカマツやヤシャブシ、タムシバなどが薪炭林として多く生育していた。
- ・アベサンショウウオや宇川のウナギ、アユ、モリアオガエルが減ってきてている。
- ・イナゴやドジョウ、食用ガエルも減ってきてている。
- ・白鳥の飛来がたまに見られる。
- ・福田川や佐濃谷川ではサケが遡上している。
- ・今後市内で整備を行う場合は、田の表土を整備後元に戻すことが大切である。  
マンジュシャゲなどは球根をとって再び戻すようする。
- ・里山のシンボル的なものとして、オキナグサやカタクリが挙げられる。
- ・赤米酒は地域振興として使えるのではないだろうか。

## 5. 環境保全の基本方針

### 5.1 環境保全の基本的考え方

本市の特徴と問題点を踏まえ、農村環境保全の基本的な考え方を以下に整理する。

#### I 海・里・山の豊かさと連続性の確保

本市は、数多くの名勝地が存在する海岸線、良好な水質の河川、ブナ林など原生的な植生も残されている豊かな山林、それらに依存する多種多様な生物など、多様で良質な自然に恵まれている。このような環境の豊かさは、地域住民の暮らしを彩るだけでなく、農業、林業、水産業などの一次産業を直接的に支え、さらに観光業などのサービス業の基盤ともなっており、京丹後らしさと産業振興、そして地域イメージの向上に大きく貢献している。また農業（農地）は、洪水防止、地下水涵養、土砂流出防止、景観形成等の様々な多面的機能を有しており、地域住民の暮らしにとって最も欠かせないものである。しかし、これらの機能は農業が健全に営まれて初めて発揮される機能である。

このため、本市の振興においては良好な自然環境や農地の保全が極めて重要であり、個別の農業農村整備事業において環境配慮を実施することはもちろんのこと、京丹後の海・里（川－水路－農地）・山（里山－奥山）を豊かにするという広域的・総合的な観点から、農業農村整備事業を関連づけて実施する。

また、市域全体の自然環境の豊かさへの貢献という観点から、農業農村整備事業の事業区域外との連続性の確保、山と農地・ため池・水路の連続性、河川と水路の連続性、水路と農地の連続性の確保など、複数のビオトープと農地及び農業用水利施設が連結し、生物の生息域が連続した、より豊かなビオトープの構築を図る。

#### II 環境と調和した農村の持続と環境保全型農業の展開

京丹後の身近な自然環境の豊かさについては、絶滅危惧種であるメダカや身近な種であるトノサマガエルやホタルが広い範囲で見られることが示しているように、農村地域－里地里山の存在に拠るもののが大きい。

環境省の調査によると、絶滅危惧種が集中して生息する地域の多くは、原生的な自然地域よりもむしろ里地里山地域であり、身近な種の生息地域の5割以上が里地里山にある場合が多いことが判明し、里地里山が、生物多様性保全上（絶滅危惧種をはじめとする野生生物の保護上）重要な地域であることが明らかになっている。

里地里山地域が存在するためには、まず第1に農業・農村が存続していることが必要である。里地里山の農地を含めた自然は、人々の自然への働きかけによって成り立っている遷移途上の二次的な自然であり、農業が持続されない場合は遷移が進行し、その機能は失われる。

また、京丹後市の食料自給率（カロリーベース）は、平成14年で79%に達しており、日本全体の40%、京都府全体の13%と比較して高い水準を維持している。地域内の高い食料自給率は、流通エネルギーの抑制や効率的な資源循環の可能性を示唆しており、京丹後市がより環境への負荷を抑制したエコロジカルなまちに発展する可能性がある。ただし、経年変化を見ると自給率は減少傾向にある。

このような状況を踏まえて、農業と農村の存続を通じて、生きものにぎわいに満ち、高い食料自給率を達成し環境への負荷を抑制した地域を維持する。

さらに、環境保全型農業の推進を図り、化学合成肥料・農薬の削減を通じて農地内及び農業用排水路の生物生息空間としての機能を向上させ、有機物や有機肥料を重点的に施用するなど、河川及び日本海の水質への汚濁負荷の削減を図る。これらの環境保全型農業の推進により、京丹後市の自然環境のさらなる質の向上を図る。

なお、環境保全型農業の推進については、本市の地域イメージと適合した農産物のブランド化などにも直結する取り組みであり、環境の側面から経済振興にもつながっていき、農村の存続に結びつく。

### III 京丹後市の環境を支える交流と協働

京丹後市では農業集落を中心に人口の減少と高齢化が進行しているため、本市の身近な自然を支えている農業・農村は中山間地を中心弱体化が進んでおり、この対応を図る。

農村地域の環境保全に関しては、通常の維持管理に加えて環境に配慮した取り組みに、行政的な援助や、非農家・NPO・地元企業等の参画により、地域で支えていく。そこで、農業・農村を存続させるために、集落営農の実施や、地域農業の担い手の確立、常吉村営百貨店に見られるような住民の共同出資による地元密着型の地域づくりなどを推進する。さらには地域住民で一体となった獣害対策の確立など、農村地域の環境保全に際して地域ぐるみの取り組みを推進する。

本市の豊かな歴史・文化資源及び農村景観についても、健全な集落機能を維持しながら地域ぐるみで保全することが不可欠である。また、地域ぐるみの保全を通じて地域コミュニティのつながりを強化し、都市住民等外部との交流や協働の契機と位置づける。

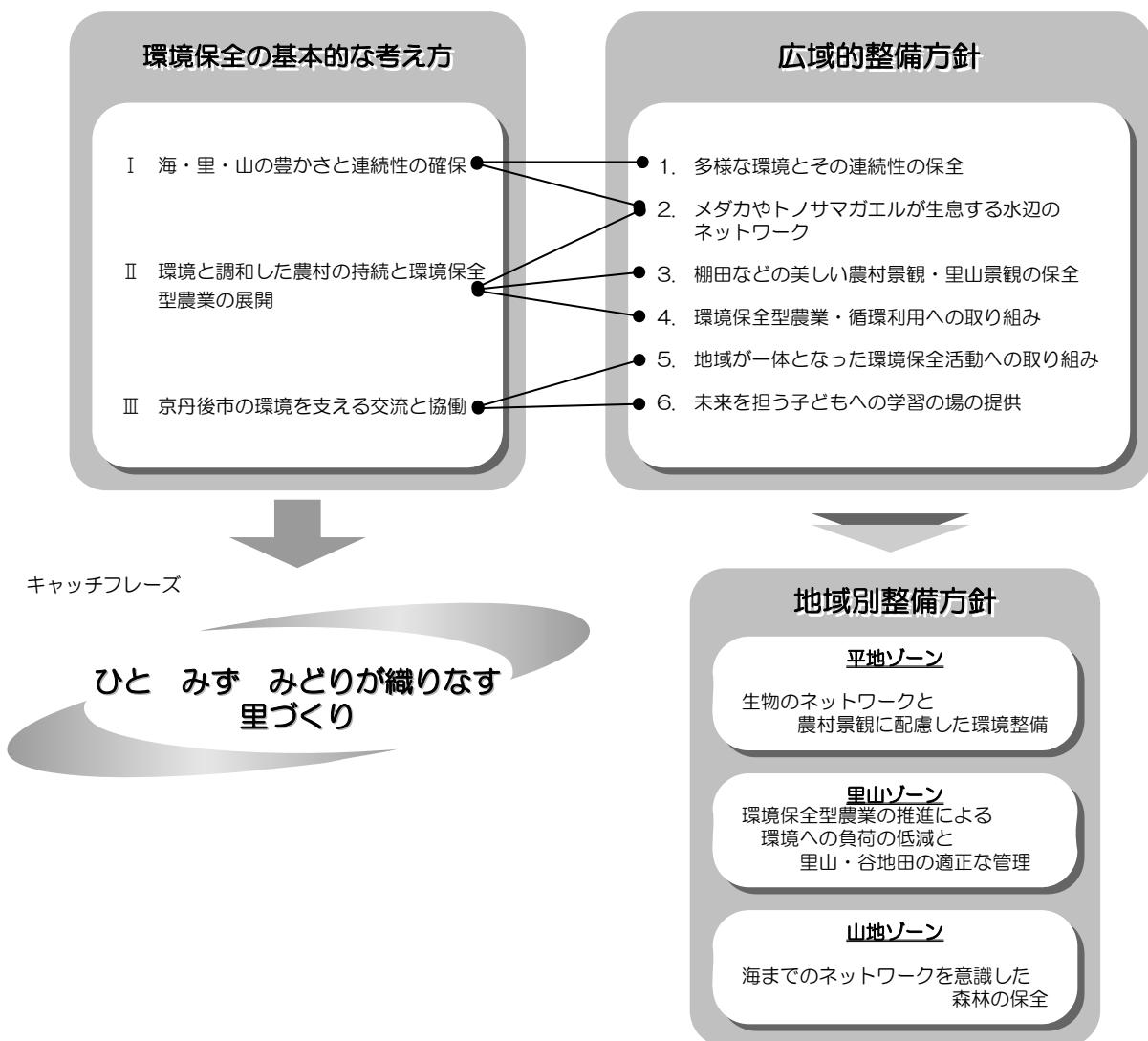
このような地域ぐるみの協働の取り組みに加えて、すでに国営造成農地への企業の新規参入

の動きに見られるような、他業種からの参入、新規就農者の支援、転入者の誘致を行うなど、積極的に市の外部からの新たな活力を受け入れ、京丹後市の農業振興に結びつける。

また、里山ボランティアや水田オーナー制の導入などにより、都市と農村との交流を推進していくことで、農業・農村存続の後押しと活性化を図る。

本市における農村環境の保全のキャッチフレーズを、以下に定める。

### ひと みず みどりが織りなす里づくり



## 6. 広域的整備方針

### 1. 多様な環境とその連続性の保全

丹後地方には海岸、内陸、平地、丘陵、山地など、多様な環境を反映して多くの植物が見られ、海辺の砂浜には日本でも珍しいトウテイランを初めとした多くの海浜植物が自生している。また、内山山系のブナ林には300種以上の植物が自生し、多様な環境に恵まれている。さらに、本市の200ものため池が存在する平地から山地への移行部は、魚類やカエル類のみならず、絶滅危惧種のアベサンショウウオが生息し、平地から山地への移行部の豊かさとの連続性が確保されており、このような多様な環境は本市の特徴であるといえる。

このような豊かで多様な環境は、開発や整備等により悪化し、消失の危機にさらされているため、農業農村整備事業の展開にあたっては、整備対象地区周辺の自然環境の特性を把握し、その影響を低減しつつ、連続性の維持に配慮した整備を行う。

また、広大な山林やブナ林など原生的な植生が残されている一方で、里山の利用、山の手入れが滞っており、山が荒れているという現状がある。このことは山に人の手が入ることによって保たれてきた里山や谷地田の生態系の変質、イノシシやシカなどによる獣害の増加やアカマツ群落の衰退にも結びついていると考えられる。このため、地域の現状をふまえ地域ぐるみでの適切な里山の利用・管理を積極的に行う。

以下に本市に生息するアベサンショウウオの特徴と生息地の現状、保全対策についてまとめます。なお、大宮町善王寺及び峰山町長岡の一部が「善王寺長岡アベサンショウウオ生息地保護区」に指定されており、アベサンショウウオの保護が行われている。

#### アベサンショウウオ

##### ●生活のようす

繁殖は11~12月の降雪期に、二次林の内部または、林縁の水溜りや溝中で、湧水があり、泥底で落葉、枯木などの堆積のある箇所でなされる。産卵数は26~109卵である。繁殖に不可欠な渇水しない湧水と、それに沿った、変態後の生息場所となる林が生息に必要な条件である。



アベサンショウウオ  
写真：京都府レッドデータブック  
<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/bio/db/amp0002.html>

##### ●生息地の現状

大宮町、峰山町、網野町では人里近くの低地二次林に、弥栄町では山地の混交樹林に生息する。両者とも、生息環境は悪化しているが、特に前者でその程度は高い。現存個体数は極めてわずかと考えられる。

生息および繁殖には林内または林縁にあたる水たまりや水路が必要であり、成体の生息地としては、湿潤な林床を持つ落葉広葉樹林が必要である。

##### ●保全対策

低地では道路建設、宅地や農地の開発、ゴミの不法投棄によって環境は悪化しており、道路建設による生息地破壊によって絶滅した例がある。山地ではスキー場の建設が環境を劣化させてきた疑いがある。

希少種として著名になって、ペットマニアによる不法な採集が脅威になり得るので、こうした問題に対処した保全策が必要である。

##### ●レッドデータカテゴリー

京都府カテゴリー：絶滅寸前種  
環境省カテゴリー：絶滅危惧IA類（CR）

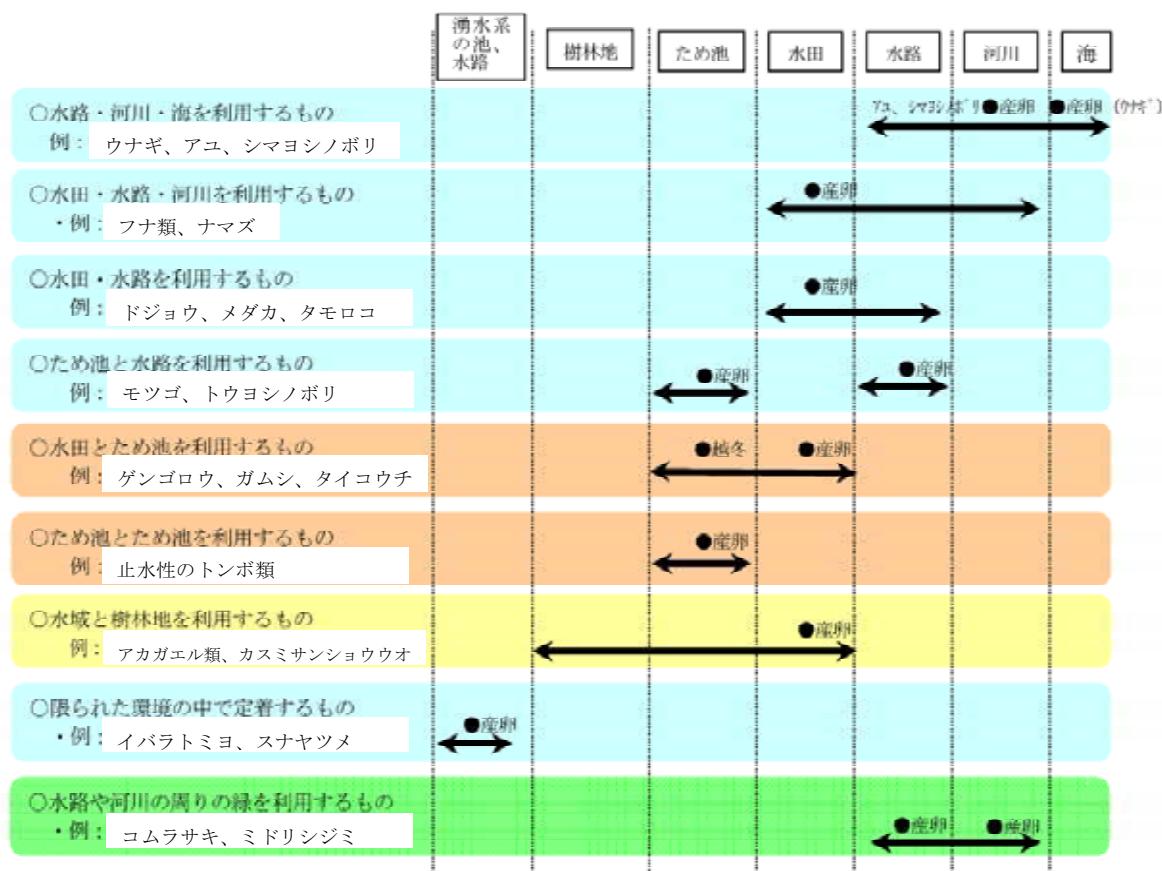
資料) 京都府レッドデータブック

## 2. メダカやトノサマガエルが生息する水辺のネットワークの保全

アンケート調査結果から、本市には絶滅危惧種であるメダカやトノサマガエル、ホタルが広い範囲で見られることが明らかとなり、これらの身近な生物は水路や田など農村地域の存在に拠るところが大きい。農村地域に生息する生物は、繁殖、成長といった生活史を通じて様々な環境を利用しておらず、必要な生息環境を求めて、ある生息環境と他の生息環境との間を適当な時期に移動している。

そのため、農村地域における生物を保全するためには、生物が生活史を全うするとともに、種が継続的に存続できるよう、生息・生育環境と移動経路から構成される生物のネットワークが確保されていることが重要である。このようなことから、今後市内で予定されているほ場整備事業の際には生息・生育環境と移動経路等のネットワークが分断されることがないよう配慮する。

以下に生物の生活史に注目した生息環境の例を示す。



注1) 生活史に注目し、移動範囲を矢印で表記

図6-1 生物が利用する生息環境（例）

資料) 環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 平成18年3月  
食料・農業・農村政策審議会 農業農村整備部会

### 3. 棚田などの美しい農村景観・里山景観の保全

アンケート調査では、兜山、権現山、愛宕山など山の上からの眺望、特に日本海を含めた眺望が素晴らしいという意見が多く、広がりのあるスケールの大きな景観が評価されていた。その他にも丹後町には海と里山と集落が調和した袖志の棚田などの美しい農村景観がある。

近年の都市化や混住化の進行にともない、土地利用の秩序が乱れ、特に峰山町や大宮町を中心とした国道312号・482号、また、国道178号沿線をはじめ人口の集中している地域周辺において、土地開発等により農村の景観は変貌してきている。また、農業集落において伝統的な家屋と、地域性のない様式の住宅が混在することによって、農村景観の統一感が失われたり、農業と農村の活力の低下によって耕作放棄地の増加を引き起こすなど、農村景観の悪化の一因となっている。

美しい農村景観を保全、形成するためには、地域住民を主体とした保全活動や土地改良事業等の公共事業の実施における景観との調和への配慮などの取り組みを総合的に展開し、条例や集落協定等による農村景観の保全の枠組みを構築する。



図6-2 袖志の棚田



図6-3 森本地区付近の農村風景



図6-4 平野部に広がる田（弥栄町）



図6-5 砂丘で栽培されているメロン  
(久美浜町湊秦宮付近)

#### 4.環境保全型農業・循環利用への取り組み

環境保全型農業の推進を図り、化学合成肥料・農薬の削減を通じて農地内及び農業用排水路の生物生息空間としての機能を向上させ、有機物や有機肥料を重点的に施用するなど、河川及び日本海の水質への汚濁負荷の削減を図る。また、紙マルチなど環境への影響が低く、ビニールマルチのようにゴミになりにくい製品を使用するなど農業だけではなく地域にも貢献できるような取り組みを行う。

弥栄町では、京漬け物工場から排出される野菜くずを堆肥化し、その堆肥を京漬け物工場で利用される野菜（ダイコン、カブ等）の他、地域の農産物の生産に利用し、地域内において循環型農業が展開されている。さらに、食品廃棄物を利用した発電なども試みられている（京都エコエネルギープロジェクト）。

また、本市の農家や旅館経営者らでつくる「カニ殻活用研究会」（蛭子正之代表、会員12人）では、2002年2月の発足以来、旅館から廃棄される松葉ガニのカニ殻を肥料として活用する地域循環システムの構築を目指して活動している。このような現在実施されている様々な取り組みと合わせて、今後市内での循環利用に積極的に取り組む。

なお、環境保全型農業の推進については、本市の自然的な地域イメージと適合した農産物の高付加価値化、ブランド化などにも直結する取り組みであり、環境の側面からの農業振興として、農村の存続に結びつく。

京丹後の食料自給率（カロリーベース）は、平成14年で79%に達しており、日本全体の40%、京都府全体の13%と比較して高い水準を維持している。地域内の高い食料自給率は、流通エネルギーの抑制や効率的な資源循環の可能性を示唆しており、京丹後市がより環境への負荷を抑制したエコロジカルなまちに発展する可能性がある。

このような状況を踏まえて、京のブランド产品である梨やメロンなどの果物、国営造成農地における野菜、日本穀物検定協会による食味ランキングにおいて高い評価を得ている丹後のコシヒカリや水菜などの京野菜等、京丹後の豊かな農産物の生産において、環境への負荷を抑制した農業を推進する。



図6-6 京都エコエネルギー研究センター（バイオガス発電） 図6-7 市内でのカニ殻の販売

## 5. 地域が一体となった環境保全活動への取り組み

環境保全の取り組みが将来にわたり持続的に確保されるためには、住民が地域の環境を自らのものとして認識し、行動することが重要である。

このため、行政的な援助だけではなく、非農家・NPO・地元企業等など地域が一体となった環境保全活動を行う。

事業実施時の環境配慮対策の検討の際には、事業主体が関係機関や地元との調整を図り、検討会の場などを通じ、有識者等の助言を得て、様々な意見の調整を行うことが重要である。

また、ワークショップや生きもの調査、事業実施の際の動植物の引っ越しなど、様々な機会を通して、地域環境についての認識や環境保全に対する意識の向上を図り、事業完了後も継続的に地域が主体となった環境保全の取り組みが展開されるよう取り組む。

さらに、美しい景観を損なう要因となっているゴミ投棄については、地域住民のみならず観光客のマナー向上のための啓発活動やクリーン活動等を地域で一体となって取り組むよう対策を講じる。



図6-8 久美浜町海部地区での魚の引っ越し作業



図6-9 久美浜町中井根井堰での環境学習

## 6. 未来を担う子どもへの学習の場の提供

水田や水路、ため池、里山などを子どもの遊びの場、学習の場として利用し、農業農村整備事業で整備した農地や土地改良施設への理解を深めると共に、農村の持つ多面的な機能を通して、環境に対する豊かな感性と知識を育てる取り組みが各地で行われている。

丹後町袖志の棚田では、田の一角を利用し、有機無農薬と手作業による赤米とコシヒカリの米づくりを平成12年から行っており、平成17年度は町内の宇川小学校5年生の児童による田植えや稻刈りなどが行われ、児童への食農教育に貢献している。その他にも市内にある環境教育研修センターの「風のがっこう京都」では、風力発電やバイオマス、バイオガス等の研修や、子どもへの環境教育、体験教育等が実施されており、このような取り組みと合わせて、これから京丹後市を担う子どもへの食や農業、環境に関する教育の積極的な取り組みを推進する。



図6-10 小学生作成の看板



図6-11 栽培されている赤米



図6-12 スイス村の風力発電

## 7. 地域別整備方針

環境特性区分で分類した平地ゾーン、里山ゾーン、山地ゾーンの特徴と整備方針についてまとめる。

### 7.1 平地ゾーン

#### 7.1.1 特徴

平地ゾーンは、河川沿いに広がる低平な地形で、平地と川、海が連続している地域である。表層地質は礫・砂・泥が主で、灰色低地土壌やグライ土壌が分布し、水田が広がっている。平地ゾーンは、宇川、竹野川、福田川、佐濃谷川、川上谷川の5つの河川の流域で構成される。

生物は、モリアオガエル、アベサンショウウオ等の貴重種が生息している。

海岸部は国立公園等に指定されており、袖志の棚田や神社、古墳等地域資源が豊富である。

平地ゾーンのほぼ全域が農業振興地域となっているが、市街地・住宅地も本ゾーンに多い。



図7-1 宇川平地ゾーン



図7-2 久美浜平地ゾーン

平地ゾーンに広がるまとまった農地やその周辺は、二次的自然として鳥類、昆虫類等の採餌、休息等や移動経路に利用されている。また、本ゾーンの農地の多くを占める水田は、浅い水深や緩やかな流速、温かい水温、大型魚が進入しにくい形態などの特徴があることから、小動物にとって安全で好ましい環境となっている。

農業用水路は、魚類やカエル類の繁殖・成長等の生息環境として利用されている。魚類等の河川や水田等への移動経路としても利用されている。

里山ゾーンとの境界部に見られるため池は、流れの速い場所に生息できないトンボ類、魚類、両生類等の繁殖・成長等のための環境となっている。

### 7.1.2 課題

- ・河川と海との連続性の確保
- ・身近な生物の減少の抑制および保全
- ・河川水質の保全
- ・海岸部の豊かな景観の保全
- ・ゴミ投棄の防止
- ・耕作放棄地の抑制
- ・鳥獣害防止対策
- ・フクロウの減少にみられる里山の変化の抑制

### 7.1.3 今後の主要事業（予定）

- 森本地区 ほ場整備
- 環竹野川 ほ場整備
- 河辺西部 ほ場整備
- 甲山地区 ため池整備
- 佐濃南地区 集落排水整備
- 川上西部地区 集落排水整備
- 大山地区 頭首工整備
- 栄町 農業用排水路

なお、事業予定位置図については P.156 に添付する。

#### 7.1.4 事業実施により想定される生物への一般的な影響例

工種	整備内容	影響の内容	影響を受ける生物
水路整備	堰、落差工の設置	段差の発生による水路の移動経路の分断	ナマズ、フナ、ドジョウ、メダカ等の魚類
	護岸の改修	護岸の垂直化による水路と陸域の移動経路の分断	両生類（カエル類等）、は虫類（カメ類等）
		コンクリート化による巣穴、隠れ家、産卵場、生育場の消失	魚類、ホタル、抽水植物等
	水路底の改修	コンクリート化による底質の変化	鳥類、底生動物、水生植物等
		餌生物の減少	鳥類（サギ類等）
		水路内の湧水などの消失	冷水域を生息地とするイバラトミヨ等
ほ場整備	断面形状の一様化	水路における流速の増加	遊泳力の弱い魚類（メダカ等）
	区画整理	表土はぎによる直接的影響、畦畔の減少	水田を越冬場としているカエル類、畦畔で蛹期を過ごす水生昆虫等
	用排水路の分離	排水路と水田の段差による移動経路の分断	水田に遡上して産卵するフナ、ドジョウ等の魚類
ため池整備	暗きよ排水の整備	乾田化による水たまりの消失	早春に産卵するアカガエル類、サンショウウオ類
	ため池の埋め立て	生息・生育環境の縮小・消失	ため池に生息・生育する動植物全般
	護岸改修	護岸の垂直化による水域と陸域の移動経路の分断	両生類（カエル類等）、は虫類（カメ類等）
		護岸のコンクリート化によるため池内の産卵場、生育場の消失	水鳥、魚類、水生昆虫類、トンボ類、抽水植物等
		池を覆う樹林の伐採による産卵場の消失、生息環境の悪化	モリアオガエル、魚類等
	浚渫	底質除去による直接的影響	魚類、水生昆虫類、底生動物、水生植物等

#### 7.1.5 整備方針

##### 生物のネットワークと農村景観に配慮した環境整備

平地ゾーンは、河川沿いに広がる低平地部で、平地と川、海が連続している地域であることから、水域の生物のネットワークと平坦地の広さや見晴らしの良さなど広がりのあるスケールの大きな農村景観に配慮した環境整備を行う。

生息・生育環境と移動経路から構成される生物のネットワークを確保することにより、生物が生活史を全うするとともに、種が継続的に存続できるようにし、農村地域における生物を保全する。

農村景観においては、平地や海などの広がりのあるスケールの大きな景観についてもアンケート調査で高い評価を得ており、丹後町には海と里山と集落が調和した袖志の棚田などの美しい農村景観もある。その一方で、近年の都市化や混住化の進行にともなう土地利用等により、特に峰山町や大宮町を中心とした国道沿線をはじめ人口の集中している地域周辺において、農村の景観が変貌してきている。

以上のことから、事業実施により、生物の移動経路の分断や、生息・生育環境が縮小・消失しないように、また、広がりのある大きな農村景観が損なわれないように配慮する。

## ● 環境に配慮した整備事例（参考）

### 【参考事例】

#### [地域が一体となった取組例（その2）]

～魚のゆりかご水田プロジェクト～

(滋賀県)

#### プロジェクトの背景（湖辺の田園環境の変遷）

- ・湖辺、特に水田はフナ、コイ、ナマズ等の魚類の重要な産卵繁殖場所であったが、低温で浸水被害など農作業などにとり不利な地域でもあった。
- ・昭和20～40年代の内湖干拓、また、琵琶湖総合開発や整備事業などにより農業生産性の向上や食料増産が達成された。
- ・一方で乾田化による水路と水田の落差のため水田の産卵繁殖機能が喪失した。



(出典：滋賀県 2000年 マザーレイク21計画)

#### 「魚のゆりかご水田プロジェクト」の目的

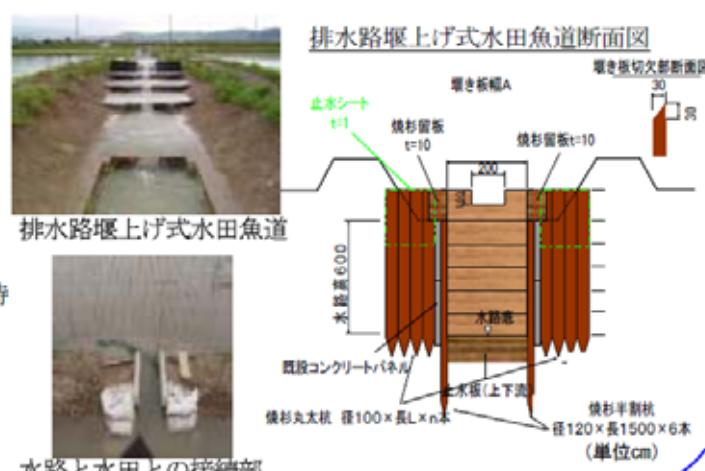
- ①琵琶湖から水田まで魚類が遡上し産卵繁殖していた、かつての湖辺域の生態系機能の回復
- ②住民参加により地域ぐるみの湖辺農村地域の環境保全を推進し農村地域を活性化

#### 地域が一体となった取組（実証試験の実施） ～事業主体が積極的に関与する段階～

地域の環境に対する認識を醸成するため、「排水路堰上げ式水田魚道」の実証試験の実施

##### 〔特徴〕

- ①通常の営農に支障なく、堰板で簡単かつ安全に水位をコントロール
- ②田植え後～中干し期間、排水路と水田との水面差を10cm以内に維持
- ③間伐材を利用し、資源循環が図れ住民参加で施工可能



### 実証試験の結果

「排水路堰上げ式水田魚道」により水路と水田を連続させたことから、中干し時には、

- ・フナ類（ニゴロブナ、ギンブナ）、コイ、タモロコ、ナマズ、ドジョウの各種魚が水田から流下。
- ・フナ類は、水田5枚から約75,000尾が流下。



ナマズの遡上



ニゴロブナの稚魚

施設の機能の確認とともに驚異的な水田の  
魚類繁殖能力の高さを確認

### 地域が一体となった取組の展開[今後] ～地域が主体的に活動を行う段階～

地域が一体となって排水路堰上げ式水田魚道の整備や維持管理、環境学習、都市農村交流等の取組、減農薬・減化学肥料等の環境に配慮した営農の取組を併せて実施



#### 魚のゆりかご水田により今後期待される効果 [直接効果]

- ・魚類の繁殖の場としての水田の復活
- ・排水路自体の魚類育成機能の向上
- ・水田からの濁水流出抑制と用水の節減効果

#### [間接効果]

- ・農家や地域住民の環境意識の向上
- ・環境こだわり農産物の作付け意欲の向上
- ・魚のゆりかご水田米による付加価値の向上
- ・田んぼの学校による教育の場の提供



魚のゆりかご水田米によるブランド化



小学生による稚魚の引越し

自然とともに輝く湖辺の農村地域モデルの創造

## 7.2 里山ゾーン

### 7.2.1 特徴

里山ゾーンは、主に小起伏丘陵地、大起伏丘陵地からなる平地と山地への移行部である。

本ゾーンの水環境は、他のゾーンと比較してため池の多いことが特徴となっている。

竹野川平地ゾーンから山地へ移行する網野・弥栄里山ゾーン、久美浜平地ゾーンから山地へ移行する久美浜山地ゾーンの2つのゾーンに分かれる。

ほぼ全域が農業振興地域であるが、谷筋の水田や国営農地開発造成地が多いことが特徴である。



図7-3 網野・弥栄里山ゾーン（立白池）



図7-4 網野・弥栄里山ゾーン（周枳地区）

本ゾーンに多いため池は、止水域であることと人為的に水が張られていること、また、周辺の山林と連続していることから、多様な生物のネットワークの拠点として機能している。止水域を有するため池は、流れの速い場所に生息できないトンボ類や魚類、両生類等の産卵や幼生の生育環境、水草の生育環境として利用される。

水深の深いため池では、水際の状態と緩やかな水位変動により抽水植物帶、沈水植物帶、浮葉植物帶等、水辺移行帶が形成され、生物の生息環境として利用されるとともに、農業用水の利用による水位変動、定期的な堆積物の除去等人為的な攪乱により、富栄養化が抑えられ、生物の多様性が確保される。

また、本ゾーンのため池は山林に囲まれた谷地が多いが、水田やため池といった水域と里山の両方を利用するトンボ類は、水田やため池から羽化した後に里山の林内に入り込んで過ごし、タガメなどの水生昆虫類は越冬場所に、カエル類はため池で幼生が育ち成体は里山で生活する。

本地区に多く存在する国営農地開発造成地で行われている「田んぼの生きもの調査」では、整備後10年から20年程度経過した水路でトノサマガエルやモリアオガエルなどのカエル類、

メダカ、ヨシノボリ、ドジョウなどの魚類が確認されている。これらの生き物が今後減少しないよう、農薬の使用を制限したり、土づくりを行うなど配慮が必要である。

本ゾーンは、人間の生活生産環境が山林と接していることが特徴であり、獣害の影響を受けやすい地域である。

近年の獣害の増加には、人が里山に近づかないため、獣が山奥から下りてきやすくなつたことが原因の1つと考えられている。例えば、ニホンザルは、山と里の境界部で人間の取り残したクリ、カキ、ビワ、タケノコや、アケビ、ノイチゴなどを食べるほか、手入れされていない林縁のクズ、フジなども食べている。

本ゾーンは谷地田が多く、マンパワーの低下も小さくないため、耕作放棄が発生しやすいゾーンと言える。

京丹後市の耕作放棄面積の平成2年から平成17年の推移は、平成2年から平成7年にかけて減少しているものの平成12年で増え、平成17年では再び減少しており、平成17年現在では耕作放棄面積は140ha、耕作放棄率は3.8%となっている。

耕作放棄によって、水稻栽培のための農作業や水田機能の維持管理が行われなくなる結果、農地の多面的機能の低下や植生の変化などが生じ、周辺環境にも影響を及ぼす。特に中山間地域の水田が耕作放棄された場合、人間生活への影響に加えて、以下のような影響を周辺環境に及ぼすことが考えられる。

- ・ 洪水ピーク流量が増加し、魚類の遊泳能力以上の河川流速が発生することによる生息環境の変化など生物への影響
- ・ 地下水かん養機能の低下による下流での湧水量の変化、そこを生息の場とする生物への影響
- ・ 河川への土砂流出量の増加により、下流河川の環境が変化することによる生物の影響
- ・ 雑草などから農作物への病害虫の発生源となったり、イノシシなどの生息地となり、鳥獣害発生の原因となる場合がある。

### 7.2.2 課題

- ・復活してきたホタルやカエル類、メダカなどの魚類の保全
- ・イノシシやシカなどの獣害対策
- ・多くのため池など水環境の豊かさの保全
- ・里山や田園の身近な山林と生物の生息環境の保全
- ・国営農地開発造成地での環境保全への積極的な取り組み
- ・耕作放棄地の抑制
- ・里山と谷地田の荒廃

### 7.2.3 今後の主要事業（予定）

- 丹後地区 農道整備  
周枳地区 ため池整備  
金比羅池 ため池整備

なお、事業予定位置図については P.156 に添付する。

### 7.2.4 事業実施により想定される生物への一般的な影響例

工種	整備内容	影響の内容	影響を受ける生物
ため池整備	ため池の埋め立て	生息・生育環境の縮小・消失	ため池に生息・生育する動植物全般
	護岸改修	護岸の垂直化による水域と陸域の移動経路の分断	両生類（カエル類等）、は虫類（カメ類等）
		護岸のコンクリート化によるため池内の産卵場、生育場の消失	水鳥、魚類、水生昆虫類、トンボ類、抽水植物等
		池を覆う樹林の伐採による産卵場の消失、生息環境の悪化	モリアオガエル、魚類等
	浚渫	底質除去による直接的影響	魚類、水生昆虫類、底生動物、水生植物等
農道整備	農道の整備	車両通行によるロードキル	ほ乳類、は虫類、両生類
	側溝の設置	水田と樹林地間の移動経路の分断	は虫類、両生類等

### 7.2.5 整備方針

#### 環境保全型農業の推進による環境への負荷の低減と

#### 里山・谷地田の適正な管理

里山ゾーンは、主に丘陵地からなり、ため池の多い地域である。このような地域は、ため池とその周辺の水田や樹林地を生息・生育の場としている生物にとって、ネットワーク拠点としてのため池に加えて、農地や山林を一体的に保全することが重要であり、これらの豊かな水環境とその周辺とのネットワークの保全を行う。

また、本ゾーンに多い畑地や谷地田において、環境保全型農業の推進を図り、化学合成肥料・農薬の削減を通じて農地内及び農業用排水路の生物生息空間としての機能を向上させ、有機物や有機肥料を重点的に施用するなど、平地ゾーンや河川及び日本海の水質への汚濁負荷の削減を図る。

また、耕作放棄地が発生し、山が荒れているという現状があり、このことは山に人の手が入ることによって保たれてきた里山や谷地田の生態系の変質、イノシシやシカなどによる獣害の増加に結びついていると考えられる。このため、農地の利用集積などの耕作放棄地対策、地域ぐるみでの獣害対策及び地域の現状をふまえ定期的な除・間伐や下草刈りを行うなど適切な里山の利用・管理を行う。

## ● 環境に配慮した整備事例（参考）

### 【参考事例】

### 【環境配慮対策の検討例】

～鳥類を始めとした生物を保全する緑のネットワークの形成～

(西鬼怒川地区(栃木県河内町))

#### 地区概要と地域環境の概況

##### 地区概要

この地区では、1996年に農業生産性の向上等を目指した大規模なほ場整備事業が進行中であり、事業が進むと、地域の自然の消失による生物多様性の低下が予想された。

こうした中、1997年に栃木県と河内町は水田地帯における生態系の保全・復元を目標とした農村自然環境整備事業を導入し、ほ場整備事業の換地によって生み出した用地を使って緑地環境や水辺環境の保全を行った。

##### 環境保全目標と保全対象生物

西側斜面林と東側河畔林は、ある程度の規模はあるが、その間の点在する平地林は規模が小さく、回廊となる緑もなかった。

結果、平地林を生息環境とする野鳥等が少ないため、これらの生物を保全対象生物として平地林の規模拡大と回廊の整備（緑のネットワークの形成）を行い、自然環境を保全する。

##### 【概要図】



地域環境の概況（現況）



### 環境配慮対策の検討[第1段階]

地域環境の概況を踏まえ、地域一体を緑のネットワーク検討する範囲として、生物生息空間の形態・配置の6原則や、1996年までのほ場整備事業の計画、営農面、経済性を考慮して緑のネットワークの考え方を整理。

##### 検討の主な視点

- ① 緑のネットワークにおける拠点の候補は、当時、場所が確定していた農村公園や公民館があり、まず、これらの拠点において緑地の保全・規模拡大（『広大化』）
- ② 次に、拠点間の連絡経路となる回廊は、農道や畦畔、水路沿い等の複数案が考えられるが、経済性や生物にとっての完全性、営農面での支障等を考慮し、整備を行う水路沿いに設置（『連結化』）

##### 生物生息空間の形態・配置の6原則

『広大化』『团地化』『集合化』

『等間隔化』『連結化』『円形化』

（出典：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き 2002）

##### 生物生息空間の 望ましい形態・配慮



道路沿いに延びる帶状の緑地（ドイツの事例）

（出典：ビオトープネットワークⅡ、（財）日本生態系協会1999）

## 環境配慮対策の検討[第2段階]

緑のネットワークの考え方を基に、地域住民等との議論により詳細を検討

検討の視点・地域の議論

- ・ 緑の拠点や回廊のために必要な用地は、許容できる減歩の範囲内で実施。
  - ・ 緑の拠点における樹種は、豊かな自然環境の象徴であるオオムラサキや子供たちが好むカブトムシ等への配慮からコナラなどの落葉広葉樹を中心に選定。管理は、住民組織等で形成する「NPO法人グラウンドワーク西鬼怒」が実施。
  - ・ 緑の回廊となる水路沿いの緑地は、生物の生息空間や生物多様性の面からは、高木や低木等で複層を形成することが望ましいが、低木等による景観の悪化や害虫の発生、維持管理費の増嵩から高木の植栽とし、樹種は美しい花により農作業の疲れをいややすヤマボウシを選定。

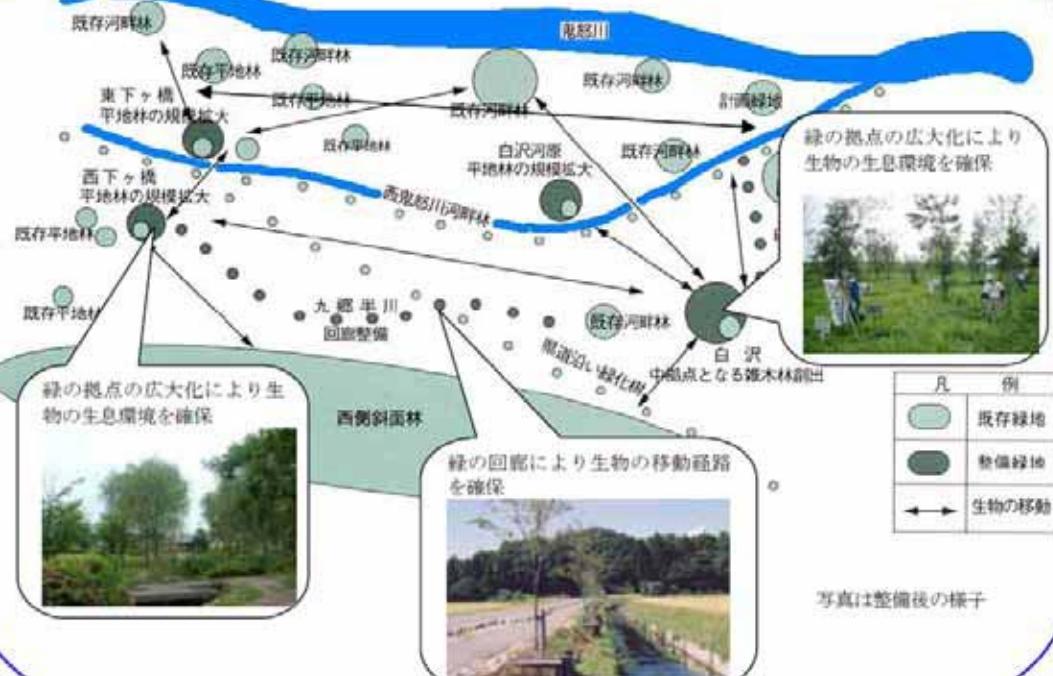


小川・河畔林と採草地の間に設けられた

#### 帶状の野草地(幅約5m) (ドイツの事例)

(出典: ビオトープネットワークⅡ、(財)日本生態系協会1999)

### 決定された環境配慮対策



## 丹後のレンタカウ制度

丹後町の府碇高原総合牧場が、草刈りの手間を省くことで中山間地の景観保全や遊休農地の管理をしようと、牛を貸し出す制度「レンタカウ」を開始している。

また、牛の放牧は、特定の面積を囲い込んで野獣が恐れる家畜を放牧し、その一帯から野獣を撃退し、鳥獣害を抑制する効果もある。



## 7.3 山地ゾーン

### 7.3.1 特徴

本市は、総土地面積に占める林野面積は75.2%で、山林の構成についても人工林率は26.9%で自然林（二次林含む）が多く、ブナ林も見られるなど、豊かな山林に恵まれている。そこから流れれる清らかな水は「ブナ林の清流」とも言われており、おいしく安全な米が生産できる背景になっている。

山地ゾーンは小起伏、中起伏の山地を中心とした地域で、表層地質は、安山岩、花崗岩などの岩石よりなり、主に森林性の土壌が分布する。

植生はクロマツ、アカマツ、コナラ群落等が分布している。

文献調査によるとモリアオガエル、ヒダサンショウウオなどの貴重種が生息する。

ほとんどが農業振興地域外となっている。



図7-5 山地ゾーン

### 7.3.2 弥栄・五十河山地ゾーン課題

- ・自然林やブナ林などの植物の多様性の保全
- ・フクロウの減少にみられる里山の変化の抑制
- ・山の荒廃の防止
- ・森林の適正な管理による鳥獣害の防止

### 7.3.3 今後の主要事業（予定）

森林整備事業

### 7.3.4 整備方針

#### 海までのネットワークを意識した森林の保全

広大な山林やブナ林など原生的な植生が残されている一方で、山の手入れが滞っており、山が荒れているという現状がある。これは、近年の台風や集中豪雨などの災害や土砂くずれの影響や、松枯れやブナ枯れなどが要因のひとつであると考えられる。このことがさらにイノシシやシカなどの獣害の発生、また、アカマツ群落の衰退に結びついている。このため、定期的な除・間伐や下草刈りを行うなど適切な里山・森林の管理、計画的な造林、広葉樹の植林、里山整備などを行う。

また、本市は、山（奥山ー里山）～里（川ー水路ー農地）～海が1つの市の中で連続しているという特徴がある。森で育まれた栄養分が川へ、そして海へと流れる。さらに、この栄養分が海の植物性プランクトンを育て、海の貝や魚などの生き物を育てる。このように、山が里へ、里から海へつながっていると意識し、山の適切な管理、保全を行うことが必要である。

林野庁では、地球温暖化防止に向け、国産材を国民により広く利用してもらうための「木づかい運動」に取り組んでいる。京都府木材組合連合会でも、京都議定書の温室効果ガス排出量の削減目標達成にむけて「木材を利用することが森林の保全につながる」を合言葉に、「木づかい推進運動」を行っており、木工教室やフェスティバルなどのイベントが催されている。

このような背景をうけて、豊かな森林やブナ林の清流を保全や人工林の適切な管理を行い、事業実施の際には、濁水の発生防止や水質保全に努めるなど山林から里山、平地、海までの連続性を考慮した整備を行う。さらに、整備の際に発生した木材資源、定期的な管理による間伐材等を市内の他の工事で再利用するなど、地域内循環も図っていく。

### 7.3.5 地域での取り組み

#### ○里山環境整備事業

過疎化、高齢化や人の生活空間の縮小等により、人手の入らない里山の放置竹林化が進んでおり、こうした放置竹林が鳥獣の絶好の温床となり、手近な農産物を常食化する有害鳥獣被害が増加している。また、森林に侵入した竹林は、その旺盛な繁殖力で森林を衰退させ、水源涵養や土砂の流出防止等森林の有する公益的機能の低下を招くこととなるため、竹林の整理伐、刈払い、資材として活用する竹林搬出について補助金を交付し、地域で整備が行われている。



図7-6 竹林の伐採前（大宮町下常吉地区）



図7-7 竹林の伐採後（大宮町下常吉地区）

● 環境に配慮した整備事例（参考）

**土留工**

工種名 木製ブロック積工

**〔特長〕**

現地で組み立てられるため資材搬入・施工が容易にであり、周囲の景観との調和が図れる。



出典：岡山県の公共土木事業等における間伐材等利用事例集

<http://www.pref.okayama.jp/norin/rinsei/gyoumu/zyuyoukakudai/jireishu/kanbatu.htm>

## 水路工

工種名 木製水路工

【特長】

・杭木と横木のみで構成する簡易な側溝である。



出典：岡山県の公共土木事業等における間伐材等利用事例集

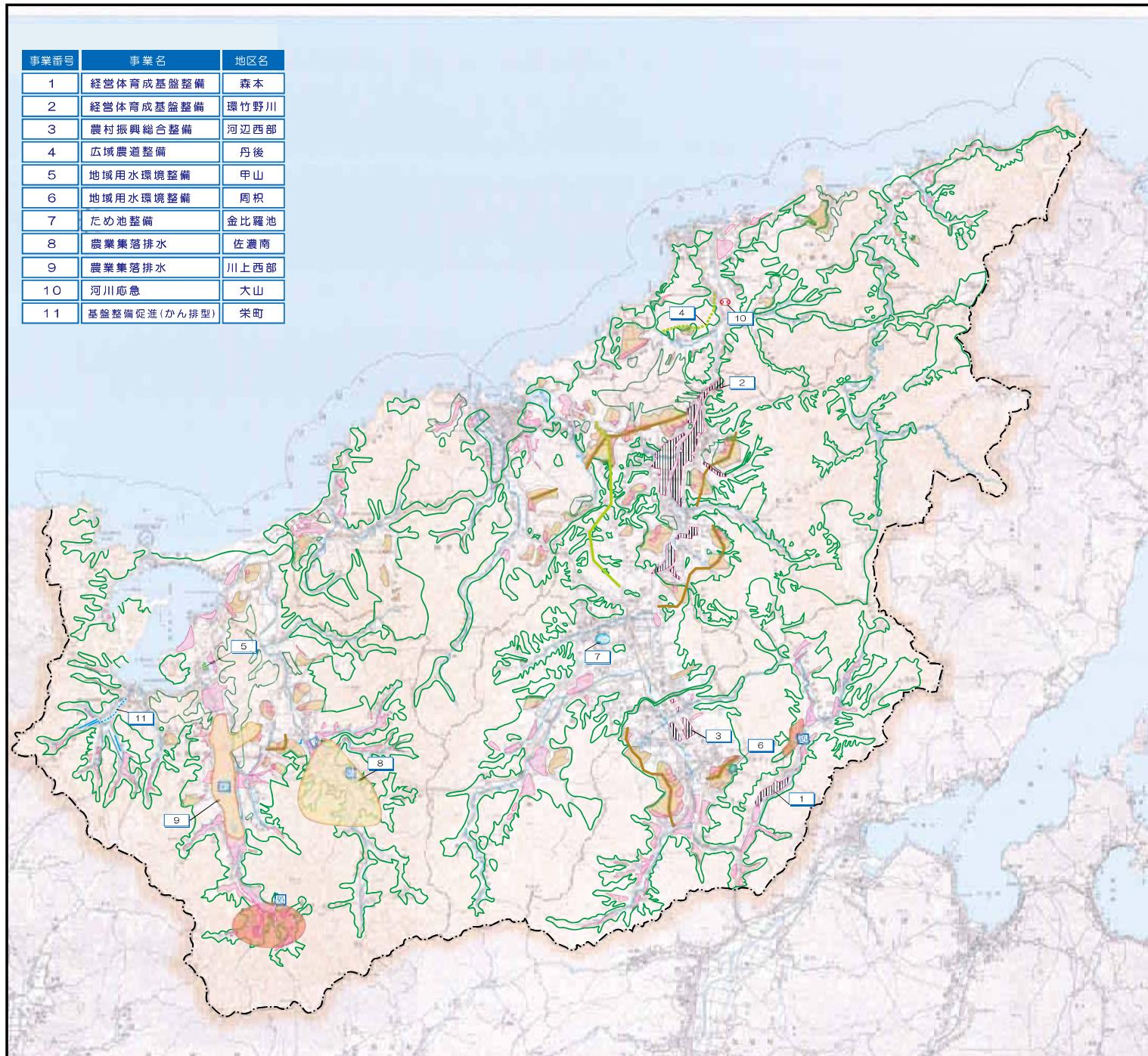
<http://www.pref.okayama.jp/norin/rinsei/gyoumu/zyuyoukakudai/jireishu/kanbatu.htm>

## 環境配慮事例 ネットワークの種類と環境配慮工法の体型の例

ネットワークの種類	ネットワークにおける役割	環境配慮工法の目的	環境配慮工法の種類	
水路における生物のネットワーク（主に魚類）	移動経路の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな段差による「落差の解消」</li> <li>・勾配の緩和による「流速の低減」</li> </ul>	魚道	踏段式 壁面型（千鳥X型） 壁面型（ハーフコーン型） 粗石付片斜面式 その他 潟・瀬（水制工） ワンド 亂礁工、置石工等 敷土、砂、砂利、玉石、植生 渚・瀬（水制工） ワンド 土水路 かご系（蛇かご工、布団かご工等） 木系（粗立構等） 自然石系（石積等） 損合系（井桁沈床工） 二次製品系（魚礁ブロック等） 壁面型（千鳥X型） 壁面型（ハーフコーン型） 排水路埋上げ式 波付管（コルゲート、電線管等） その他
	生息・生育環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造物の設置等による「多様な流速・水深の創出」</li> <li>・隠れ場となるような「空隙の確保」</li> <li>・産卵等、生息・生育環境となるとなるような「多様な底質や植生の確保」等</li> </ul>	護岸	池・水路等 湿地・農地 表土 施掛け 迂回路 防護柵 緩傾斜護岸 壁面
水路と水田における生物のネットワーク（主に魚類）	移動経路の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな段差による「落差の解消」</li> <li>・勾配の緩和による「流速の低減」</li> </ul>	水田魚道	保全池、承水路 その他 耕作放棄地や道休農地等のビオトープ化 表土 施掛け トンネル、橋梁 ネット等 自然石系（石積等） かご系（蛇かご工、布団かご工等） 木系（粗立構等） 二次製品系（ポーラス等） スロープ、ワンド
	生息・生育環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産卵等、生息・生育環境となるような「浅い水深の確保」、「止水域又は緩やかな流れの確保」</li> </ul>	護岸	自然石系 かご系（蛇かご工、布団かご工等） 植生 二次製品系 自然石系（自然石周養金網工） 損合系（捨石等による緩傾斜護岸工） かご系（蛇かご工、布団かご工等） 木系（木柵護岸工） 二次製品系（多自然型ブロック等）
水田、水路等と樹林地における生物のネットワーク（主に両生類）	移動経路の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断できるような「障害の修正」</li> <li>・落下しないような「侵入の防止」</li> <li>・登坂できるような「勾配の緩和」、「滑りにくい壁面の確保」</li> </ul>	護岸	自然石系 かご系（蛇かご工、布団かご工等） 植生 二次製品系 自然石系（自然石周養金網工） 損合系（捨石等による緩傾斜護岸工） かご系（蛇かご工、布団かご工等） 木系（木柵護岸工） 二次製品系（多自然型ブロック等）
	生息・生育環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隠れ場となるような「空隙の確保」</li> <li>・産卵等、生息環境となるような「多様な底質や植生の確保」</li> </ul>	補生工	補栽
ため池周辺における生物のネットワーク（主に魚類、両生類、昆虫類）	移動経路の確保 生息・生育環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息・生育環境となるような「多様な水深の確保」</li> <li>・産卵等、生息環境となるような「多様な植生の確保」</li> <li>・隠れ場となるような「空隙の確保」</li> </ul>	護岸	
水路、農道等の緑地における生物のネットワーク（主に鳥類、昆虫類）	移動経路の確保 生息・生育環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隠れ場、産卵場等となるような「多様な植生の確保」</li> </ul>	補生工	

出典：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 H18.3  
 /食料・農業・農村政策審議会 農村振興分科会 農業農村整備部会 技術小委員会

予定事業位置図



凡 例	
市町村界	---
農業振興地域界	緑線
区画整理	ピンク色
農地造成	オレンジ色
農業用排水路	青い点線
広域農道	緑色点線
幹線道路	茶色
集落排水処理施設	四角
集落排水処理範囲	オレンジ色
水辺環境整備	緑色
頭首工整備	赤色
ため池整備	青色

## 8. 農業農村整備事業における環境への対応方策

### 8.1 環境に配慮した調査・計画の留意点

#### 8.1.1 農業農村整備事業における環境配慮の基本的な考え方

本農村環境計画における環境保全の基本的な考え方である「I 海・里・山の豊かさと連続性の確保」、「II 環境と調和した農村の持続と環境保全型農業の展開」、「III 京丹後市の環境を支える交流と協働」に基づくとともに、農業農村整備事業における環境配慮の基本的な考え方は以下の 5 項目とする。

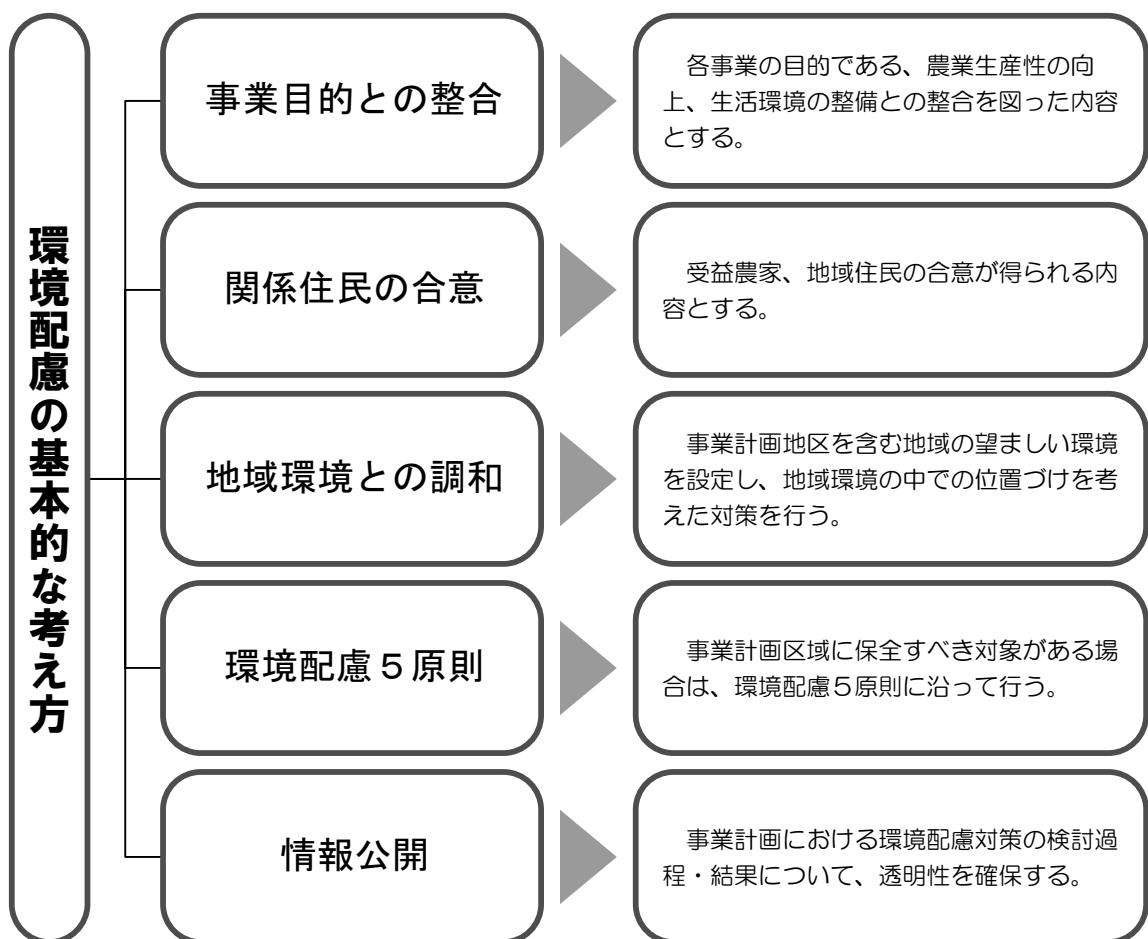


図 8-1 環境配慮の考え方

### 8.1.2 環境配慮事項の反映手順

本計画の趣旨を反映させるために、ここでは事業計画段階での環境への配慮事項の手順を定める。今後、これを有効に活用していくことにより、事業担当者が環境への意識を高めるとともに、農業農村整備事業における環境配慮を円滑に進めていくことを目的とする。

農業農村整備事業の調査・計画における環境配慮の具体的な進め方のフローは下図のとおりである。

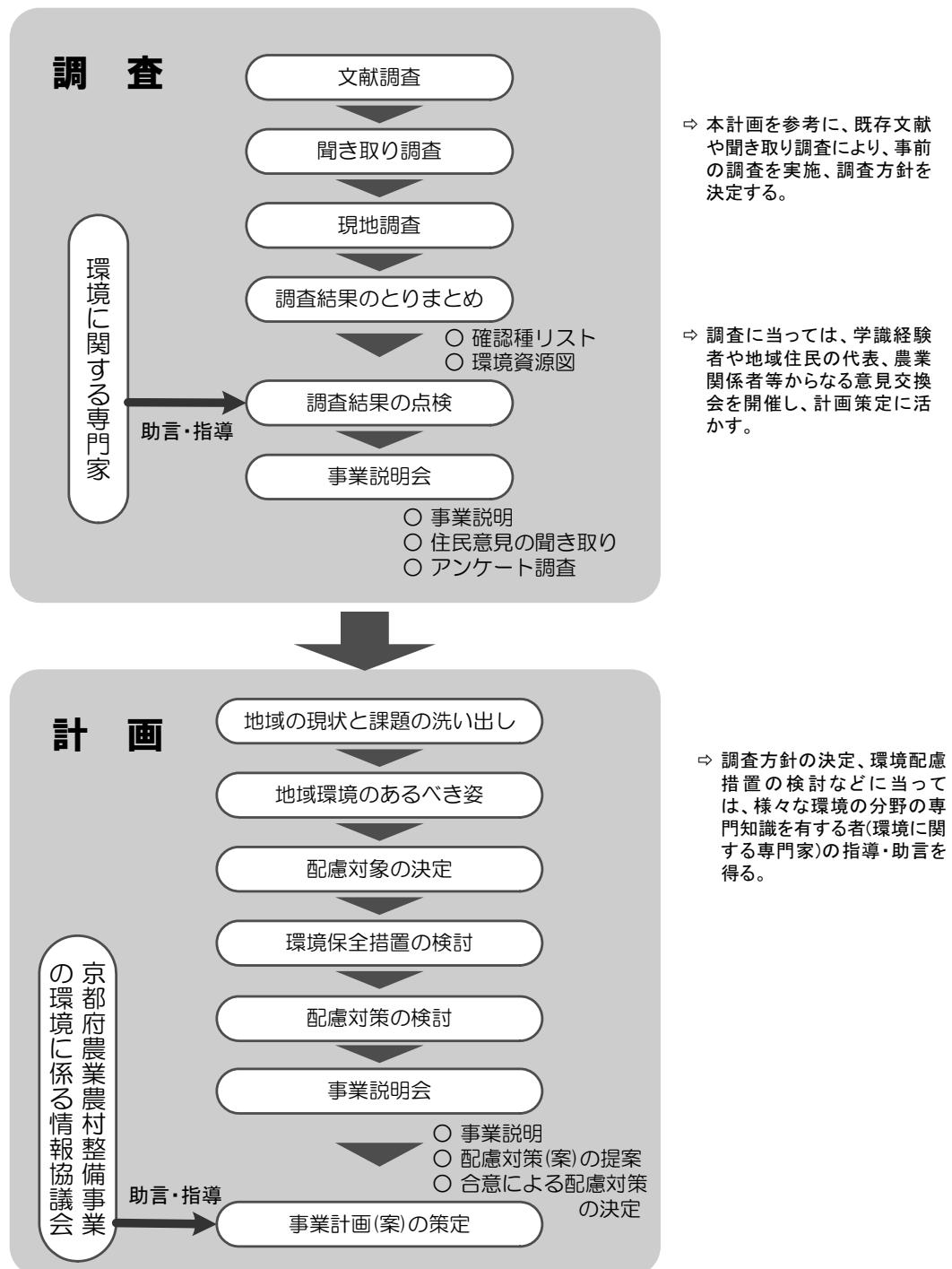


図 8-2 環境配慮の進め方

### 8.1.3 環境配慮対策の考え方

「ミティゲーションの5原則」を基本とし、事業の目的や将来の維持管理を考慮し、適切な環境配慮対策を選定する。環境との調和に配慮する対策を選定する場合は、農業農村整備事業の目的への影響や費用、維持管理等の観点から、「回避」→「最小化、修正、影響の軽減／除去」→「代償」の順番に実施の可能性を検討し、実施する。

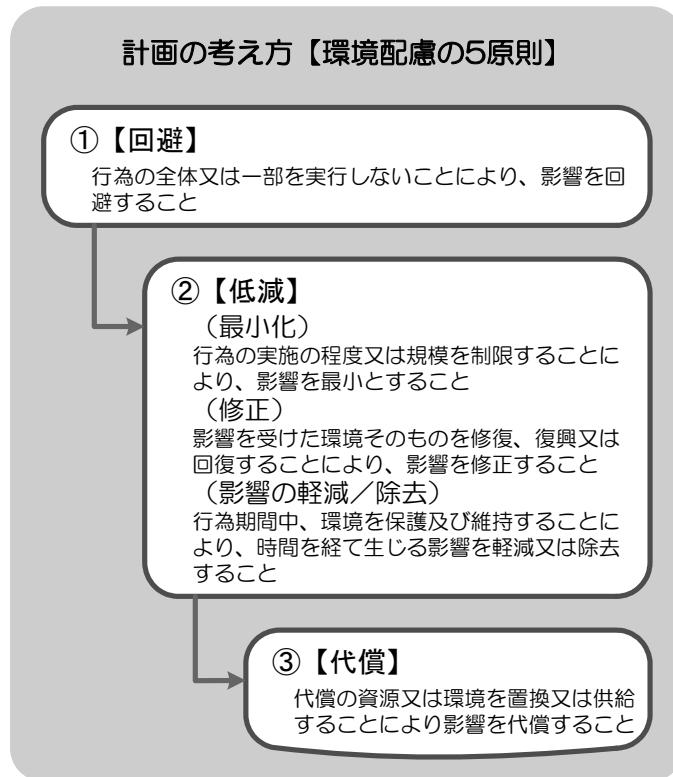
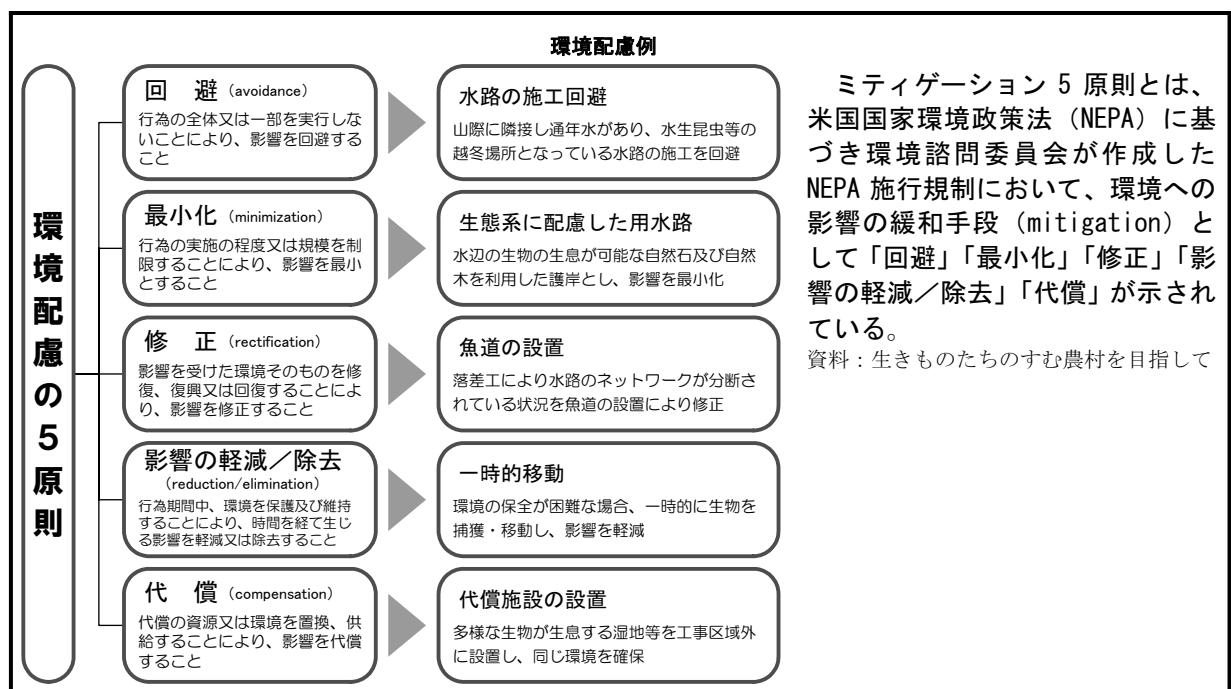


図 8-3 環境配慮対策の考え方

資料：生きものたちのすむ農村を目指して



## 8.2 住民参加による事業推進

### 8.2.1 構想段階からの住民参加

農業農村整備事業による環境配慮対策の効果を、事業後も永続的に発揮するためには、地域住民の維持管理が不可欠である。このため、事業の構想段階から維持管理まで、積極的な地域住民の参画を実施する。

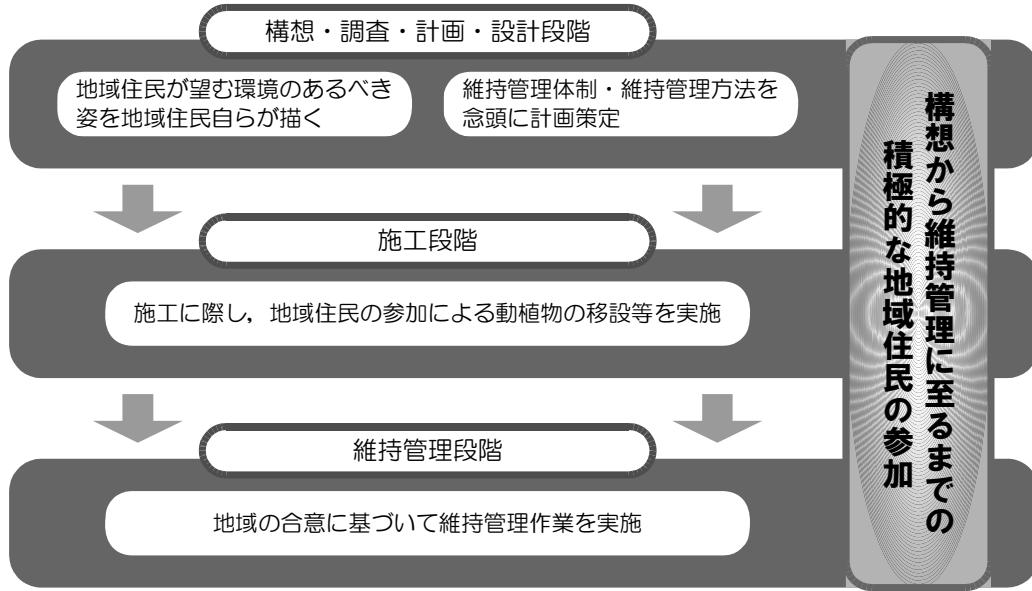


図 8-4 事業の各段階における住民参加

資料：生きものたちのすむ農村を目指して

#### ◇構想・調査・計画・設計段階での住民参加例

- シンポジウム、セミナー、勉強会、観察会
- アンケート調査
- 意見交換会
- 地域住民や有識者などによる生きもの調査
- 計画づくりのワークショップ
- 農家を含む地域住民等への説明・意向確認 など

#### ◇施工段階・維持管理の住民参加例

- 住民参加による動物の引越作戦
- 簡易整備における住民による直営施工
- 清掃活動
- 環境学習 など

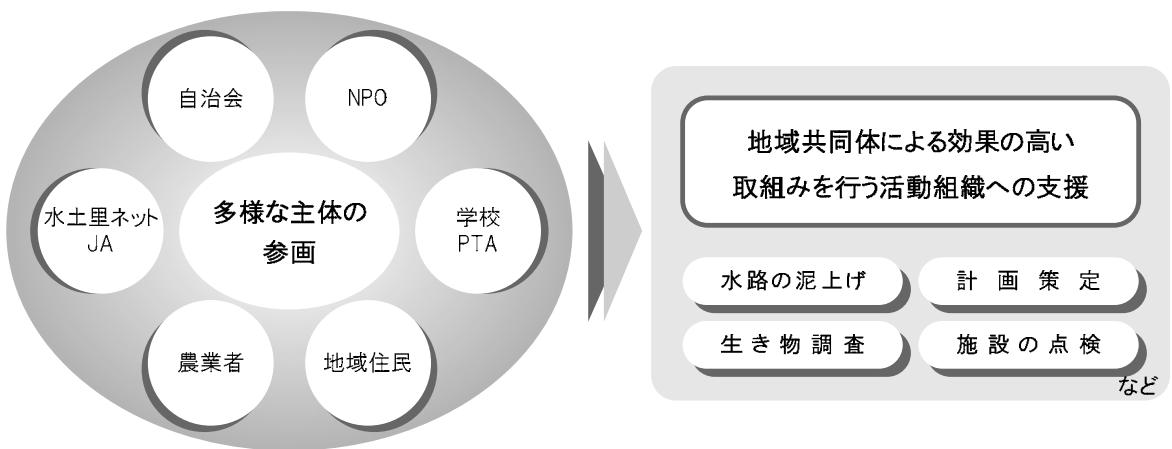
### 8.2.2 住民参加のための協力体制

環境配慮の恩恵を受ける一般住民、農業農村整備事業の受益者である農家、合意形成の調整役や計画策定・事業実施に携わる市・府など、それぞれの立場で役割を果たす必要がある。

平成19年度からは農地や水、環境の良好な保全と質的向上を図るために、「農地・水・環境保全向上対策事業」が本格導入される。この対策では、農業者だけでなく、自治会など広く地域住民を含めた活動組織を設立し、農地や水路、農道など農業用施設の維持管理や施設の長寿命化を図るために活動、自然や景観を守る活動など、資源の保全向上に関する質の高い共同活動を、市と協定を結び計画的に実施する場合に、農地面積に応じた支援を受けることができる。また、地域ぐるみで共同活動を実施している地域において、化学肥料や農薬の使用を大幅に減らす取組みを、一定のまとまりを持って実施する場合に、取組み面積に応じて支援を受けることができる。

このような事業を利用し、今後は形式だけの住民参加ではなく、地域住民が主体となって取り組む気運を創出していくことが重要であり、それが調整役としての市の役割である。このように、今後は計画の作成や事業の実施は、市・府と地域住民が一体となって推進する。

### 共同活動への支援



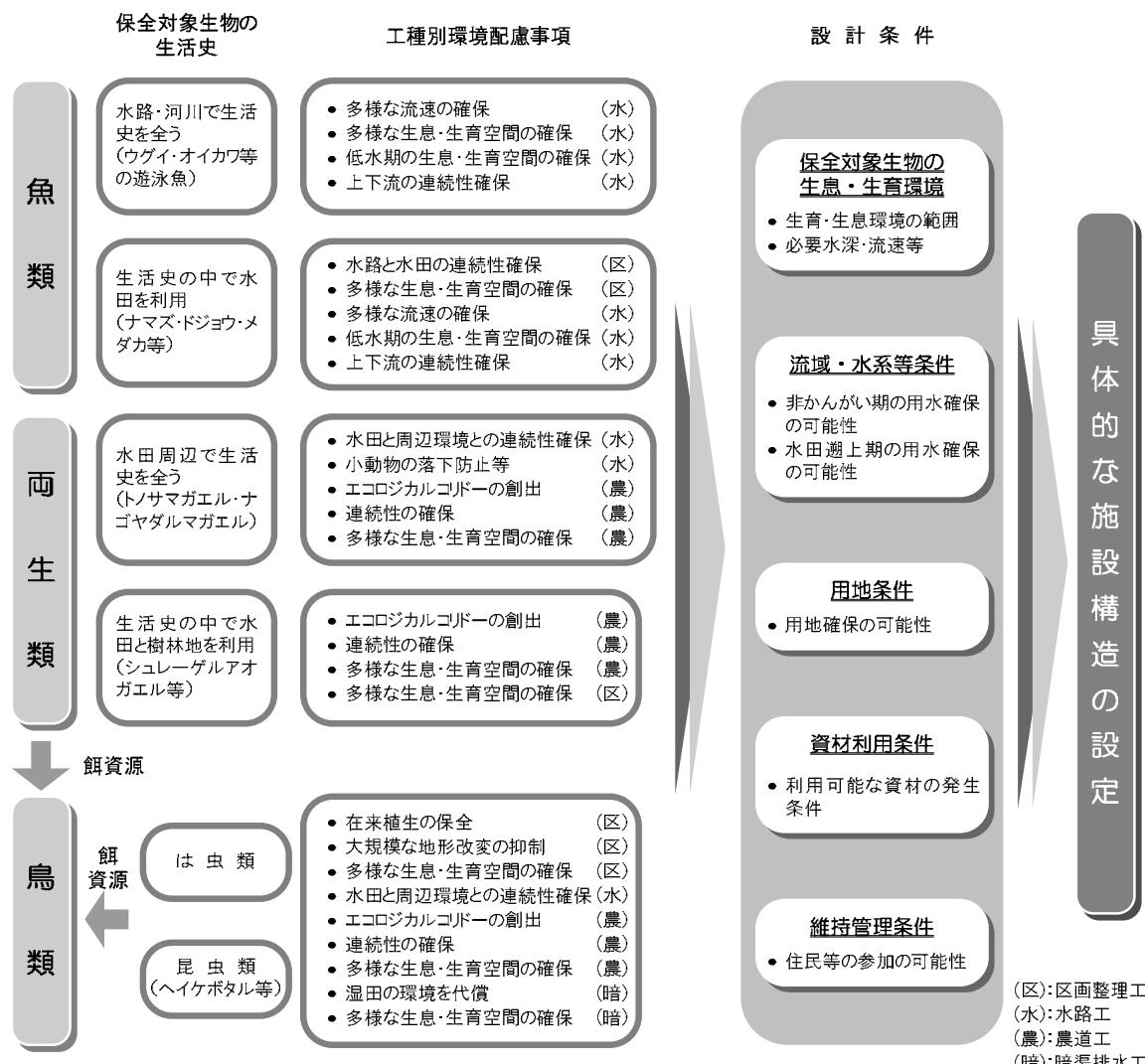
### 8.3 農業農村整備事業の工種別対策

今後京丹後市では、ほ場整備、ため池整備、農道整備、農業用排水路整備が予定されている。これらの整備について、環境配慮事項を検討する際の工種別対策についてまとめる。

なお、ここでは主に動植物についての配慮対策について詳述するが、農家の高齢化進行を踏まえると、農業の存続、農業施設の維持管理のためにも整備の際は高齢者への配慮の視点にたって検討する必要がある。例えば、路面と田面の高低差を少なくするなど、高齢者の作業環境改善に配慮するよう努める。

#### 8.3.1 保全対象生物の生活史・設計条件を踏まえた設計の流れのイメージ

環境に配慮した設計の流れ（イメージ）は以下の通りであり、保全対象種の生物の生活史をふまえて、工種別に配慮事項を検討し、設計条件を設定し、具体的な施設構造を決定していく。



参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

### 8.3.2 ほ場整備

ほ場整備の各工種における具体的配慮対策のポイントは以下の通りである。

表 8-1 ほ場整備における具体的配慮対策のポイント(1/2)

配慮事項	内 容
<b>多様な生息・生育空間の確保</b>	<p>生物の多様な生息・生育空間を確保するために、河川と水路の連続性、隣接する樹林地との連続性の確保等が必要である。</p> <p>本市のアベサンショウウオもこのような林縁と水路が連続しているところに生息しており、連続性への配慮を行う。</p> 
<b>水路と水田の連続性確保</b>	<p>ほ場整備が予定されている森本地区の生物調査結果によると、水路にドジョウなどの魚類が生息している。</p> <p>このような魚は産卵などの生活史の中で水田を生息場所として利用している。このような種の生息場所を確保するためには、水田魚道を設けるなど水路と水田を行き来できるような対策を行う。</p>  <p style="text-align: center;"><b>水田魚道</b></p> <p>写真出典：コウノトリ野生復帰推進事業（農業農村整備部門）概要書、兵庫県但馬県民局豊岡土地改良事務所</p>
<b>在来植生の保全</b>	<p>施工後の法面などの裸地には、外来種が侵入しやすい。外来種が侵入した法面では、在来種の復活が困難になり、整備前と植生が変化する。植生の変化は、そこに生息している昆虫などにも影響を与える。このため、在来の植物を保全することが必要となり、工事前の表土を仮置きしておき、工事後に再び戻すなど、在来植物の保全を行う。</p>

表 8-2 ほ場整備における具体的配慮対策のポイント(2/2)

配慮事項	内 容
小動物の落下防止	<p>生物の生息場所に水路を整備する時は、物理的な障害等により生物の移動経路が分断されてしまう恐れがある。このため、小動物の落下防止などの対策、または、落下した場合の這い上がり用スロープ等の設置を行う。</p>  <p style="text-align: right;"><b>小動物用スロープ</b></p>

参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

### 8.3.3 ため池整備

ため池整備の各工種における具体的配慮対策のポイントは以下の通りである。

表 8-3 ため池整備における具体的配慮対策のポイント(1/2)

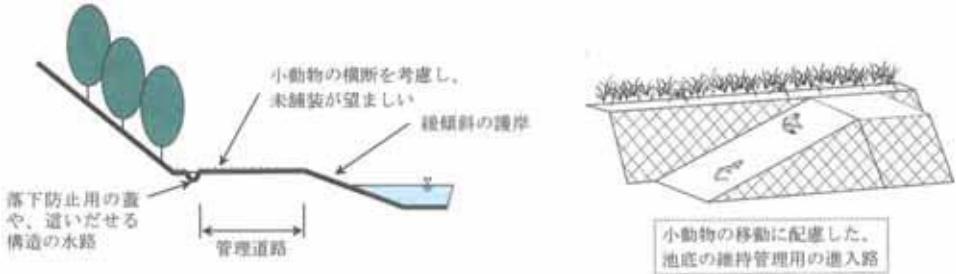
配慮事項	内 容
構造物としての基本条件の確保	環境との調和に配慮したため池も、構造物としての基本的な要件である、①安全性、②経済性、③維持管理作業性が満足される必要があるので、比較設計のうえ、十分な検討・確認を行う。
後背地との連続性確保	<p>ため池と後背地を移動する小動物への配慮として、水際は緩傾斜とすることが望ましい。緩傾斜に出来ない場合は、護岸の一部をカメなどが移動できるスロープを設ける。また、側溝等では、小動物が這い上がるよう配慮を実施する。</p>  <p>参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き</p>

表 8-4 ため池整備における具体的配慮対策のポイント(2/2)

配慮事項	内 容
水際の植生の保全	<p>ため池の水際の植生は、生物の生息・生育環境や景観の形成等に重要な役割を果たしており、現況の多様な植生を保全することが重要である。水際・水中の植生を復元・創出するエリアについては、治水・利水上の安全性を確保したうえで、保全・移植を行う。また、植栽の場合は在来種とする。</p>  <p>(出典：『農』及び『『水辺』環境づくり技術マニュアル』、大阪府農林水産部耕地課、1994年)</p> <p style="text-align: center;"><b>水際の植生 (久美浜町ハス池)</b></p>
環境に配慮した資材の活用	<p>地域で採取できる自然材料は周辺環境と調和しやすく、工事費が安くなる場合もあることから、その活用について工夫することが必要である。発生した石礫や浚渫土等を再利用することは、廃棄物の発生抑制による環境への配慮、社会的コストの縮減及び工事費の縮減にも効果的であることから、積極的な検討を行う。</p> <p>ため池の水際の植生は、生物の生息・生育環境を保全する役割をもつが、緑化植物に移入種を用いると現況の生態系に影響を及ぼす場合があるため、生物多様性の保全の観点から緑化植物の取り扱いについては十分に配慮する。工事中は近隣のため池に仮置きしておき、工事完了後に再び戻すなどの配慮を行う。</p>
水質保全の考え方	<p>ため池では農業用水に適した水質の保全が必要であり、基本的には流入負荷の軽減を図ることにより水質保全を行う。</p> <p>計画段階で農業用水として利用可能な水質確保のための保全対策が必要と判断された場合、清水の導水や水生植物利用等によるため池内水質保全対策を行う。また、水質保全のため、定期的な水抜きや泥上げの実施を行う。</p>

参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

### 8.3.4 農道整備

農道整備の各工種における具体的配慮対策のポイントは以下の通りである。

表 8-5 農道整備における具体的配慮対策のポイント

配慮事項	内 容
生物の移動経路の確保	<p>道路沿いの緑化は、緑の景観をつくるだけではなく、動物の生息環境を保全する役割をもつ。また、道路沿いは帯状に連続しているので、道路の路傍や法面等に緑化を行うことは、生物の移動経路の確保や分断された動物の生息地を連結させる生態学的回廊（コリドー）として有効である。</p> <p>ただし、植栽のため農地の日当たりが悪くなったり、維持管理や用地の問題が生じる場合があるので、十分な検討・調整を行う。</p>
鳥類の道路横断用誘導植栽	<p>地上採餌性の鳥類や草地環境を好む鳥類は、法面植生を好むため、衝突事故を起こしやすい。また、樹林地帯を伐採した道路の見通しの悪い場所では、ハト類やキジ等の低空を移動する鳥類が事故にあいやすい。このため飛翔高度が低い種による衝突事故を回避するため、車より高いところで安全に横断飛行できるような誘導植栽を設ける。</p>
樹林地と水田との連続性の確保	<p>道路側溝の構造や舗装を工夫し、樹林地と水田の間の両生類等の移動を阻害しないように配慮する。</p>
残地を活用した緑地の確保	<p>交差点の隅切り部など、農道整備の中で発生する残地を有効に活用して緑地を創出するなど、小規模な緑地が数多く点在することが、生物相の多様化に有効である。</p>
環境に配慮した資材の活用	<p>地域で採取できる自然材料は周辺環境と調和しやすく、工事費が安くなる場合もあることから、その利用について工夫する。</p> <p style="text-align: center;">間伐材等の木製ブロックとしての利用例</p> <p style="text-align: center;">(出典：「平成14年度版森林土木木製構造物施工マニュアル」、日本治山治水協会・日本林道協会 編、2002年)</p>

参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

### 8.3.5 水路整備

水路整備の各工種における具体的配慮対策のポイントは以下の通りである。

表 8-6 水路整備における具体的配慮対策のポイント

配慮事項	内 容
多様な流速の確保	<p>魚類等が水路の中で繁殖、生育、採餌、避難等の活動を可能とするために、水路の直線化を避け、瀬や淵を設け、多様な水深や流速を創出する。</p>
多様な生息・生育空間の確保	<p>水路は、魚類等の生息場所であり、水路の護岸や護床を土や石積みや多孔質の材料にするなど、植生や底質及び護岸の形状等により多様な生息・生育空間の確保を行う。</p>
上下流の連続性の確保	<p>魚類等の中には、生活史の中で、河川と水路を行き来するものがある。このような生息場所を確保するために、魚類等の遡上を妨げる段差の大きな落差工を避け、河川と水路の連続性を確保する。</p>
周辺環境との連続性確保	<p>サンショウウオ類やカエル類の中には、水路と林地を生息場所として、利用する種がある。このような種の生息場所を確保するために、水路と林地の自由な行き来を確保する。</p>
小動物の落下防止	<p>生物の生息場所に水路を整備する時は、物理的な障害（登れない等）によって生物の移動経路を分断してしまう場合がある。このため、小動物の落下防止や落下した場合の対策（スロープ設置）を実施する。</p>
低水期の生息・生育空間の確保	<p>用水路や排水路では、営農や維持管理（非かんがい期や中干し期等）により水量が減少する場合もあることから、このような状況でも魚類等が生息できるように、年間を通じて水が確保されている場所とのネットワーク化を行い、また、常時水深が確保出来る避難場所の設置を実施する。</p>

参考：環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の手引き

- 水路沿いの休息場所の確保（久美浜海部地区の例）

水路側のL型水路の側壁高を下げて通水断面を拡大し、L型擁壁を裏に追加した。さらに現状の水路沿いの土を表土扱いして埋め戻すことにより、水草等が生えやすい浅い水深の箇所を作った。また、水路底にも土を入れ、水草が生えるようにした。これにより、メダカ等の休息場所の確保を行った。

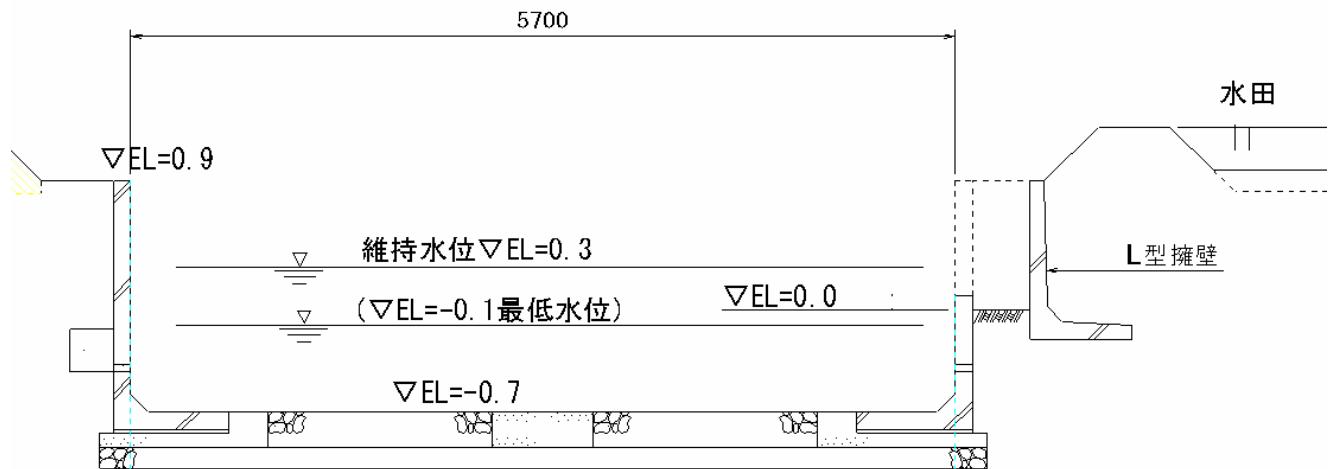
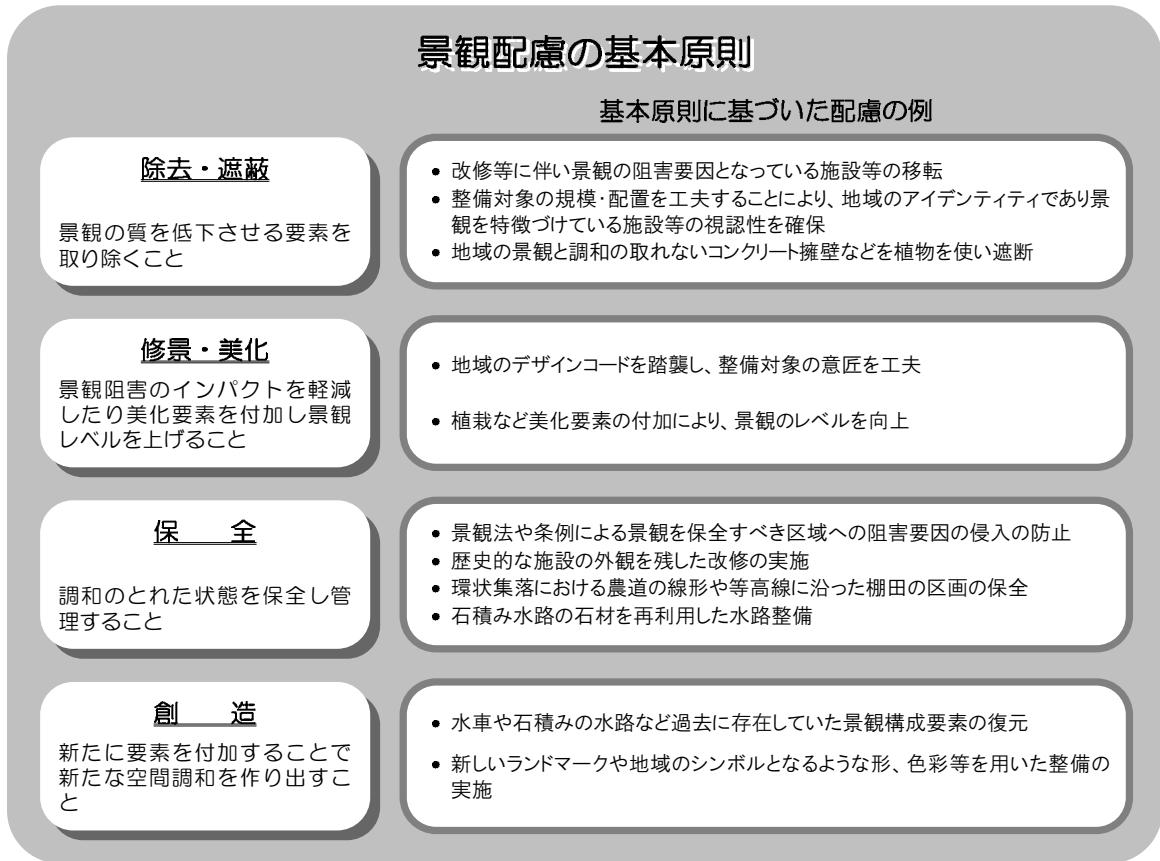


図8-5 久美浜海部地区での環境配慮事例

### 8.3.6 歴史・文化・景観への配慮

農業農村整備事業の際に、周辺景観と整備対象との景観的な調和を図るため、景観配慮の基本原則である「除去・遮蔽」、「修景・美化」、「保全」、「創造」の4つの考え方に基づいて基本的な方向を明らかにし、景観配慮区域の方向性を検討する。



出典：農業農村整備事業における景観配慮の手引き（案）

表 8-7 景観における具体的配慮対策のポイント

配慮項目	内 容
除去・遮蔽	雑草やゴミ、野積みの廃車、野立ての看板といった景観を悪化させる要素、耕作放棄地や廃屋といった負の要素などは、良好な景観を維持する場合、取り除く、遮蔽（マスキング）、規制することが必要となる。 住民の意向や経済性、施工性などから景観に配慮した施設をつくる事が困難な場合がある。そこで、水路整備の際に、コンクリート側壁の人工的な素材感や色などが表出する場合、施設周辺を植栽するなどして遮蔽（マスキング）することで、周辺景観に与える影響を和らげることができる。
修景・美化	景観阻害の影響を軽減し、植栽などの美化要素を追加し、景観に影響を与える施設に対しては、周辺景観と馴染むよう配慮を行う。 袖志の棚田周辺の集落は、壁が地域特有の建築様式となっている。このように地域特有の共通様式を持った場所で整備を行う際は、良好な景観となるように形、色彩、素材などのデザイン要素や周辺整備を行う。
保全	保全とは、今ある空間調和を保つために、調和を乱す要素や要因の侵入、介入を防ぎ、現状を維持していくための考え方である。 袖志の棚田周辺の集落のように、地域特有の共通様式をもった地域では、伝統的景観を壊すことのないように、新設する施設に同様の様式を継承させ、集落景観にとけ込むような整備を行う。
創造	創造とは、新たに要素を付加することで新たな空間調和を創り出す考え方である。空間調和を実現していく上では高度な考え方となる。除去・遮蔽、保全のプロセスを踏まえた上で、より高い空間の質を目指す場合に用いる。

参考：農業農村整備事業における景観配慮の手引き（案）

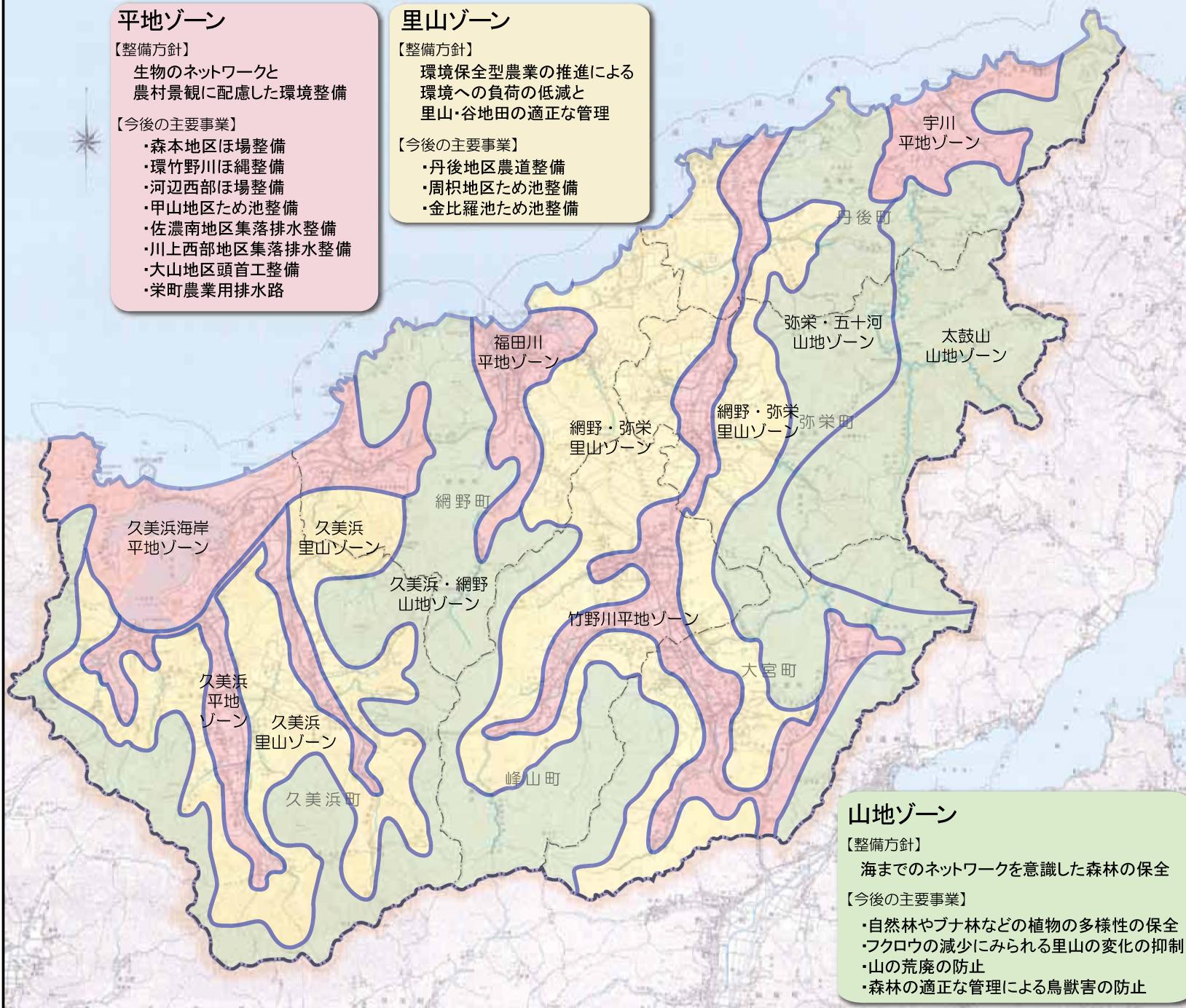


図8-6 田の近くに放置された自転車や廃材

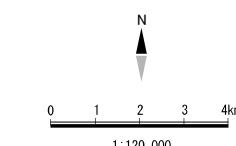


図8-7 耕作放棄地

# ひとみずみどりが織りなす里づくり



農村環境計画総括図



凡例

- 平地ゾーン
- 里山ゾーン
- 山地ゾーン